

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

大正三年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

大正三年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

「実践倫理講話筆記」の発行について

1. 表題は「実践倫理講話筆記」であるが、内容は本学創立者成瀬仁蔵が全学生あるいは卒業生に向けておこなった講話を収載したものである。当館所蔵のこの筆記録は、概ね年度ごとにまとめて綴じられている。

所蔵年度

明治 38 年度から大正 6 年度までのものがある。但し、明治 38 年度の綴りの初めには、明治 37 年度 3 月の三講話と一緒に綴じられている。

原稿

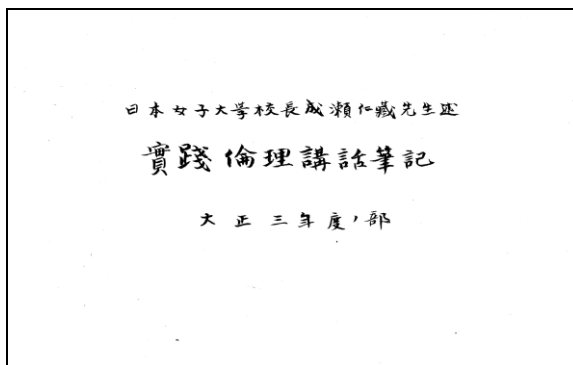
筆記録は横書きで、特定の和紙にカーボン紙を使用して複写されている。

年度によっては複数部残されているが、それらを照合すると一部分欠けて綴じられているものも見られる。

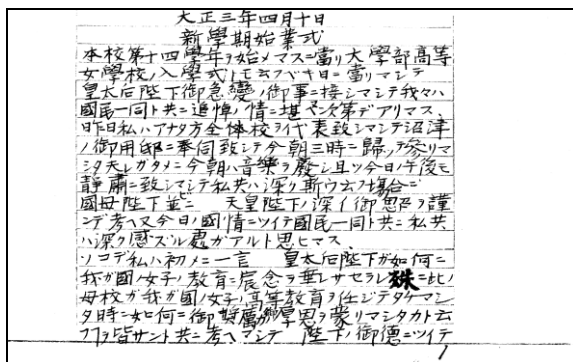
筆記状態

片仮名書き(一部平仮名書き)、句読点がない。

2. 今回の印刷は大正三年度のものである。
3. 初期のものはすでに「成瀬記念館」に発表してきている。



中表紙



本文

目 次

大正三年四月十日 新学期始業式……………	5	大正三年十月二十八日 大学部第二、三年討論会にて…………	49
大正三年四月十三日 皇太后陛下奉悼式……………	6	大正三年十一月十一日 青嶋陥落祝捷記念式……………	50
大正三年四月二十日 本校記念式にて……………	8	大正三年十一月十八日 大学部二、三年にて……………	52
大正三年四月二十六日 大学部第一年及び予科にて……………	9	大正三年十一月十八日 大学部第二、三年にて……………	53
大正三年四月三十日 大学部第二、三年にて……………	10	大正三年十一月二十五日 大学部二、三年にて……………	54
大正三年五月四日 第一学年及び予科の為に……………	10	大正三年十一月三十日 第一学年及び予科にて……………	56
大正三年五月七日 第二、三学年にて……………	12	大正三年十二月五日 寮生のために……………	58
大正三年五月十一日 大学部予科、一年にて……………	14	大正三年十二月七日 一年及び予科にて……………	59
大正三年五月十四日 第二、三学年の為に……………	16	大正三年十二月十四日 第一学年及び予科にて……………	61
大正三年五月十八日 予科及び一年にて……………	18	大正三年十二月十六日 大学部第二、三年にて……………	64
大正三年五月二十一日 大学部第二、三年にて……………	19	大正三年十二月二十一日 第一学年及び予科にて……………	67
大正三年五月二十八日 第二、三学年にて……………	22	大正三年十二月二十三日 大学部第二、三年生の為に…………	69
大正三年六月一日 予科及び一年にて……………	24	大正三年十二月二十四日 第二学期終業式にて……………	71
大正三年六月十五日 大学部一年、予科にて……………	25	大正三年十二月二十五日 桜楓会例会にて……………	72
大正三年六月十八日 大学部第二、三年にて……………	26	大正四年一月一日 新年の御話……………	74
大正三年六月二十八日 桜楓会例会にて……………	28	大正四年一月八日 大学部第三学期始業式……………	76
大正三年七月六日 予科、一年にて……………	29	大正四年一月十一日 第三学期 計画発表会にて……………	78
大正三年七月八日 第二、三学年にて……………	29	大正四年一月十三日 大学部第二、三年にて……………	80
大正三年七月十日 第一学期終業式にて……………	30	大正四年二月一日 大学部一年及び予科……………	82
大正三年七月十一日 大学部第二、三年のために……………	31	大正四年二月八日 大学部第一年生及び予科生の為に…………	84
大正三年九月十一日 第二学期始業式にて……………	34	大正四年二月十五日 大学部一年及予科にて……………	86
大正三年九月十六日 大学部計画発表会にて……………	35	大正四年二月二十四日 第二、三学年にて……………	88
大正三年九月二十一日 大学部一年及び予科にて……………	37	大正四年三月三日 第二、三学年にて……………	89
大正三年九月二十三日 大学部第二、三学年にて……………	37	大正四年三月八日 大学部第一学年及び予科にて……………	90
大正三年九月三十日 大学部全体のために……………	39	大正四年三月十日 第二、三学年にて……………	92
大正三年十月五日 大学部一年及び予科にて……………	42	大正四年三月十五日 大学部第一年級及び予科にて……………	93
大正三年十月十二日 大学部一年及び予科にて……………	42	大正四年三月十七日 第二、三学年にて……………	95
大正三年十月十四日 大学部二、三年にて……………	43	大正四年三月二十四日 大学部第二、三学年にて……………	96
大正三年十月十九日 大学部一年及び予科にて……………	44	大正四年三月二十五日 終業式にて……………	97
大正三年十月二十一日 大学部第二、三年にて……………	45	大正四年三月二十七日 宣誓式に於て……………	98
大正三年十月二十五日 高女生徒の父母招待会にて……………	47	大正四年三月二十九日 卒業式告辞……………	99
大正三年十月二十六日 一年及び予科にて……………	48		

凡 例

1. 印刷に際し、筆記原稿の体裁を保持しつつ、以下の点に留意して一部手を加え統一を図った。
2. 表記に関しては、片仮名書きの原文筆記を平仮名表記とし、明らかな誤字・脱字を改めると共に、文字を統一した。
3. 漢字は原則として常用漢字を用いた。
4. あて字については原文通りとした。
5. 文意を明確にするため、句読点を付した。
6. 欄外に書かれた註を一部見出しとした。
7. 筆記原稿の不明確な部分は原稿通りとした。
但し英文については、前後の文脈に基づき加筆訂正した箇所がある。

[中表紙]
大正三年四月十日
新学期始業式にて

大正三年四月十日 新学期始業式

本校第十四学年を始めますに当り、大学部、高等女学校の入学式とも言ふべき日に当りまして 皇太后陛下御急変の御事に接しまして、我々は国民一同と共に追悼の情に堪へぬ次第であります。

昨日私は、あなた方全校を代表致しまして沼津の御用邸に奉伺致して、今朝三時に帰って参りました。夫れがために今朝は音楽を廃し、且つ今日の午後静肅に致しまして、私共は深く斯う云ふ場合に 国母陛下並びに 天皇陛下の深い御思召を謹んで考へ、又今日の国情について国民一同と共に私共は深く感ずる処があると思ひます。

[母校の恩恵について]

そこで私は初めに一言 皇太后陛下が如何に我が国の女子の教育に宸念を垂れさせられ、殊に此の母校が我が国の女子の高等教育を任じてたちました時に、如何に御奨励の御厚恩を蒙りましたかと云ふことを皆さんと共に考へまして 陛下の御徳について考へなければならぬことと思ひます。其の後段々回生が変わつたから歴史のつづきのよくわかりにならぬお方が大部分であらうと思ひますが、一昨年丁度今頃におきまして、多分其の時の 皇后陛下、只今の 皇太后陛下が一度此の学校に行啓の御思召があるやに洩れ承りました。其の前に、即ち春に於きまして今の 国母陛下、当時の 皇太子妃殿下が其の前に行啓のあることの御許しがあり、殿下にも其の御思召があらせらるゝと云ふ訳で急に用意を致しまして、此の講堂で数年前に、即ち此の学校が創立された時、今から満十三年程前に先代岩倉公爵より此の校の創立のことを聞こし召され、今迄例のない私立学校に御下賜金を賜はると云ふ御沙汰のあったことは、皆さんの度々お聞きになった処であります。其の前に 内親王殿下、皇族妃殿下の御成りがあり、夫れから 皇太后陛下が行啓の御思召があらせらるゝと云ふことで、其の折にも急に宮室に御不幸なことがあらせられて御中止になりました。併し、此の学校のことを御忘れなく何時も此の学校の報告を御覧下さって、総ての場合に於て御奨励になる御思召であつたと云ふことは、私共が深く信じて居たのであります。度々そ一云ふ場合に御妨げになるやうな国家に重大なことが起りまして遷延して居たことは常に遺憾に存じて居りました。

此の学校に深い関係のある人々は、今年御即位の御大典もすまされましたならば、其の後或は明年行啓遊ばさるゝやうにならぬであらうかと話の出で居りました際に、昨日御急変と云ふ悲しき報に接したのであります。併し私共は、御肉体は此の堂に御迎へすることは出来ませんでしたけれ共、其の御思召、国家の前途につきましては、恐れ多くはありますけれ共 其の御遺志をついで、益々我が国の教育を起し、

我が国の娘の価値を高め、我が国民の母を立派に育てゝ行くと云ふことは、陛下の娘たり孫たるあなた方がおつぎにならんければならぬことであります。悲しき報に接すると云ふことは、非常に恐れ多いことですが又同時に此の学年に於て最も印象の深い日に、其の御思召、又深い御高恩に對し奉つて深く感謝の意を表し、又我々の努力によりまして我々の蒙りました深い御恩に對して報い奉らんければならぬと云ふことを深く感じ奉るのであります。

私は始めに、深く 皇室に對し、陛下に對し奉つて敬意を表しまして今学期の業を始むべきであります。大学部は勿論、高等女学校も我が国民は挙つて 天皇陛下並びに 国母陛下と共に憂ひを深くして居る時でありますから、静肅に今日の業を始むるやうに致したいのであります。

[本学年の方針について]

今学年の方針を申しておきます。今日は大学部及び高等女学校へ新しくお入りになったのでありますが、各組を御紹介致しませう。(各組の紹介あり)

それから今年の方針に就いて少し申し上げたいと思ひます。新入生の方及び父兄、保証人の方々へは又くはしく申し上げることと思ひますが、本年は大学部及び女学校に少し改善を致したのであります。

[改善せしことについて]

この改善致しました事に就いて、今迄用ひなかつた語を用ひて居る。例へば、共同研究、個別研究の如きものがこれである。今申したやうな言葉は皆、あなた方の研究なさる方法に使用したに過ぎないのでありますが、根本なる精神は自動自学とか自奮自修と云ふやうなものであつて、つまりあなた方の修養も學問も先生より教はるのではなくして、自分でするのである。昔私の子供時代には、之れを独学と言うたのである。Self-study、即ち自分で自分を高める。自分で働き自分で勉強して、人格を作つて行くやうにするのである。一つの業をなすにも自分でかせぐのである。

昔は男は勢ひがあつたが、女は種々なる弱みをつけられたりなどして女自身も益々弱くなり、何でも人にたよるやうになつたのである。女と云ふものは、人よりしてもらふより何も出来なかつた。即ち依頼心が強くあつたのである。之れが我が国の女子の欠点とも言ふべきものであつて、自ら力を發揮せねばならぬのである。

學問の価値は自らすると云ふことである。今迄のやうに何でも唯だ覚えて居ればよいと云ふやうではいけないのである。只今では大分自動の価値が一般に認められて来たやうであるが、今日迄、此の学校の方針として始めから此の主義をとつて居たのであつて、殊に今年は益々努力して行きたいと思ふのであります。或る教育のある一人の人から此の方針について、大学部か又は高等女学校でも上級生は行はれるであらうが、下級生は実行が出来ないでせうと云ふ問ひが出たのでありますが、多分此の疑問は皆様にも又父兄、保証人の方々にも起るだらうと思ひますが、私共は之れに答へて、自動研究と云ふことは子供、幼稚園時代から最早出来るのであると云ふことが言へるのであります。之れ等の誤つた疑問は、

教育と云ふものは人より教ふるのであると云ふ考へから出たものであらうと考へられます。あなた方は、この学校は幾坪あって、人数は幾人あって、如何なる木が植わつて居るかとか云ふことなどを只覚えて居るだけで、之れで学問をしたと言はれるであらうか。眞の教育の意義は決してこのやうなるものではないのである。

幼稚園をKindergartenと言ふが、之れは庭と云ふことであつて、之れに種をまいて水をやり、日光にあつれば成長して行くのである。風雨に際して百姓は種々なる手当をすることである。之れは自然であつて、百姓は此の發育に就いて如何ともすることは出来ぬのである。教育も全く之れと同様で、生徒の成長、発達を教師は助け障害を防ぐのである。従つて先生は生徒を善良となし、知識をさづけ、人格を高めると云ふやうなことは出来ぬのである。生徒自分の力で成長、発達して行かねばならぬ。我々の如何なる行ひをなし、如何なる心の経験をつみ、如何なる働きが出来、如何に感じるかと云ふことなどは必要なことからである。我々が只知識を他よりもらつて居るのでは、上皮ばかりが発達して内容が少しもなくなり、自分の中に価値を得ることが出来なくなる。

[機械的觀察]

人間は意志の力を以て、自ら自分の力によって自分からするより他に何もしかたがないのである。本を記憶し、講義を筆記して居るだけでは何のやくにもたゝぬ。此の道は皆さんでもよく解することが出来るであらうと思ふのである。この以上にも一つ深く解き明かしたいと思ふ。只本をよむ他に觀察をする、又感情を働かせて生活をして行くと云ふことも大切であるが、まだ之れでは根本でないのである。之を少し深い意味で言ふと知力と言ふ。而るに根本の力は知識でなく、最後の目的的教育でないのである。之れは只方法の道具に使用するに過ぎないのである。觀察が只機械に過ぎない。近頃人格と云ふ言葉が大分一般の人に知られて来たやうである。又人格的の神と云ふことが言はれて居るが、我々の只今もつて居る目、耳、鼻、口、手足等に神と云ふものがあるかと云ふことがあるが、このやうなものを研究することは皆機械である。宇宙の現象を見る道具である。故に肉体の眼を以て宇宙の万象を見るのは、只種々なる関係を知るために他ならないのである。肉体上の眼は見え、耳は聞えても、心は盲であり聾である。

そこで自動自学と云ふことの根本の意義は、表面の種々なる関係、経験よりして開かるゝ眼の發育を指して言ふのである。我々の只今使つて居る語は只記号に過ぎぬのであつて、あなた方自身が眞の生活をするとか云ふのが主眼である。眞の生活をする、あなた方の眞の価値を認めることが出来る。このやうなる自動的教育は幼稚園時代より出来るのであつて、働きこそ違つて居るけれど、其の根本は皆同じなのである。猶も一つ付け加へておきたいことは、自動自学と云ふことは口に言へば容易であるけれど、實際はなかなか困難なものであると云ふことである。併し私共は、困難であるからとておちけずに進み、国家のためにつくさねばなりません。

[中表紙]

大正三年四月十三日
皇太后陛下奉悼式にて

大正三年四月十三日 皇太后陛下奉悼式

始めに此の諒闇中は如何なる態度を以て居らねばならぬか、又、この出来事に於て如何なる印象を各自の心に深く及ぼしたかと云ふことに付き注意を話し、又私の感じを加へ述べて奉悼の意を表したいと思ひます。

[諒闇中の心得]

文部省から一般の人に出された諒闇中の心得を読みませう。

第一ヶ条 謹慎、静肅を旨とし哀悼の誠意を表すこと。

第二ヶ条 服装、リボン其他裝飾はめだつべきものを避くべきこと。

第三ヶ条 娯樂のためになす催しは御遠慮申すこと。

第四ヶ条 天皇には三日の廃朝の礼を致さること。

竊にもれ承はるところによれば、皇太后陛下の日頃民に對せらるることの御仁慈なる御氣質を汲ませられて、なるべく其の諒闇のために人々の迷惑になるやうなことはお避けになる様な御思召でありませうか、学生は業を休むには及ばぬと云ふことになり、他の学校に於ては唯だ一日を休業せるのみで、又博覽會に於ても唯だ一日の休業に止めさせ給うたのである。お上からかく民情をお察しになつて此のやうなことを承ては、我々は其の御思召に對し、又皇太后陛下の御氣質、又御高德に對して深く考へ、十分静肅に哀悼の誠意を表しねばならぬと思ふのであります。

[第一期の喪について]

この諒闇の第一期喪は、即ち一昨日から五月三十日迄の五十日間、我々臣民は喪章を付けることになつて居る。併し陛下の御思召も国民の主意も、此の諒闇の哀悼の意を表すことが唯だ形式に流れ、儀式に拘泥して其の真意を失ふやうになつてはいけないのである。此の諒闇中に我々の受ける感化は誠に大なるものであるべきであつて、此の五十日間及び此の來らんとする一年間の諒闇に、私共は如何なる態度、如何なる心持ちを以て此の期を過し、各自の修養に勉めねばならぬかと云ふことを考へることは最も大切なことである。

[無声の声をきけ]

私共は只今より最も深く注意して各々の考へを集注致さねばならぬ点は、此の前の始業式の時にも一寸申し上げました。即ち今日は目に見えぬ、又此の身体に耳にも聞えない、肉体の手を以ては触るゝことも出来ぬと云ふもの、言を換へて言へば、無声の声を聞け。黙して静まつて、おちついて其の時に聞えて居る其の深い奥底に振動して居るその声をきかねばならないのである。

[Inspiration, Aspiration]

眼に見えぬ、実体の手に触るることの出来ぬ本質をつかまへて見なければならぬのである。之れを英語で言ふと Vision、天より響くものがある、之れが Vision である。精神的の空氣

を霊の生活の内に呼吸する。之れを時代の精神と言ふ時の休徴と云ふ字があるが、この様な力を自分の内に受け入るゝ、此の霊の力を自分に感得するのが、Inspiration。Aspiration と云ふ語がある。之れは我れ等の心の内に自立しやうと云ふ力がある。Inspiration と Aspiration とは二つの語にして又根底は一つなのであって、一つは外より言ひしもの、一つは内から言ったもので、感応し交通して一つの力となるのである。この経験を味はふのが無声の声を聞くと云ふことなのである。

[Great drama]

今日は如何なる活動が眼に見え、又世界に働いて居るか。如何なる美が発揮して居るか。如何なる意志が動いて居るか。之れ等を指して私は Great drama と言ふのである。此の命の真相、物の根源、出来ことの意義と云ふもの、之れを指して真善美と人間が言葉を作って言って居る。其の実体、其の真相は人の詞を以て言ひ表はすことは出来ないのである。又学問を以て説き明すことも出来ぬ。之れは Art に於てのみ表現することが出来、見ることも感ずることも出来るのである。之れ等の経験によって、私共の心の作用が美妙なること迄はたらき、其の真意を感ずることが出来るのである。何もかも入って居る Art を Drama 又は活劇と言ふ。我々の霊の力を見、無声の声に注意を払うて見て居る。其の Drama と云ふものは如何なるものかと云ふと、悲劇である。

明治と云ふ幕の高潮に達したる即ち諒闇である。乃木大将及び御夫人の自刃されたことによって次の幕が開かれるかと思つて居た処が、はからずも又もやこの諒闇が来て、幕は未だ開かれないことになった。我々女子大学の学生は内親王殿下を此の講堂に迎へ奉り、スフィンクスの幕を御見せしたが、我々は之れを批評し之れを観賞して居た此の感覚のあるのみならず、次の舞台にのぼる準備がなくてはならぬのである。此の悲劇の主人公の御婦人は、内外共に欠点を見出すことの出来ぬ、時間と空間とを超越して只今でもこの堂に御迎へすることの出来る祖母陛下と申す貴い御身である。

我々は心の眼を開いて其の御人格に接し、今日に於て如何なる言を以ても言ひ表はすことが出来ぬ。止むを得ず陛下の Prestige と言ひたい。之れが時間と空間とを超越したる霊界の御方となられました。宇宙に満ち居る其の感化力、偉風の凜としたる御姿。私は九日の夜、沼津の御用邸に参りたる時、見上ぐる山々には皓々たる月かゝり、真白き富士の嶺は其の高潔なる姿を以て立って居りました。自分は深く心に印象されたのであります。之れ等を何と言ひませうか。人民の上に輝いて居る処の、目に見えぬ強い動力は、言葉を以て言ひ表はすことは出来ない。併し私は確に沼津の朝の時間に於て一つの印象、前に言つた Inspiration をうけたのである。私はこの式に於て、此の諒闇中に目に見えぬ、又御声の耳に聞えぬ御霊旨、この身体の機関では受け入るゝことの出来ぬ天来の使命の声を聞くことが出来、感ずることが出来るやうにと云ふのが私の希望であります。之れ等は如何なることを意味するか。我々の心底に響いた経験をお話して、皆さんの御参考までに供したいと思ひます。其の経験を話す前に、

皇太后陛下の御人格につき、御主意について少しお話し申し上げたいと思ひます。

[陛下の御徳について]

東久世伯が陛下の御事績について編纂されたものの中の一節をよみませう。

陛下は御学識、又は御熱心を表面に御表はしになることなく、日頃最も慎み深くいらせられ、謙譲の御志高くいらせられたことは私共の知り奉る処である。巧言令色鮮矣仁と云ふ言があるが、表面にのみよくなす人の心は浅薄であつて、深い処を味はふことは出来ないのである。このやうな人の多くなつたこの社会に、御自ら活きた御手本を御見せになつたのである。

[清潔、沈黙、確志、謙遜、公義]

御歌をあけて見ると、

やすくして なしえ難きは 世の中の
人の人たる 行ひにして
しろたへの 衣の塵は 払へども
うきは心の 曇りなりけり
過ぎたるは 及ばざりけり かりそめの
言葉もあだに 散らさざらん
人心 かゝらましかば 白玉の
真玉は火にも 焼かれざりけり
高山の かげをうつして 行く水の
低きにつくを 心とものがな
国民を 救はむ道も 近きより
おし及ばさん 遠き境に

かやうに陛下の御修養上に於ての御歌が沢山あるが、只今奉読しました御事績並びに御歌より推しまいらせて、如何に御母陛下としての御責任が十分につくされて居るかと思ふばかりでなく、我が帝国の婦人の代表者として、日本の国の御模範として仰ぎ奉るのである。私共は他に陛下の如き御人格を見ることは出来ない。私は女子教育に身を委ねてより五十年程になるが、子供の時から考へ又感じて居たことは、「誰れか賢婦に会ひしや」と云ふことである。陛下は我が帝国のみならず世界の標準から見ても賢婦人であらせられると言ふことが出来る。陛下は非常に御聡明であり御賢徳があらせられ、時代の精神を御覧になる御眼、即ち Insight がおり遊ばした。御着眼点が根本の処におありになつた。第一、女子高等教育の必要を御認めになり、女子師範学校、他の学校に御心をもちひになつた。又、世の識者も見ぬ事が出来なかつた時に、早くも御着眼遊ばされたのである。又、も一つ深く感ずる処は陛下の感情的でいらつしやらぬこと。又主観的でなく公平に御考へになり、私共が凡ての利害関係を超越して考へて見て、之れが深い意味あることであると思ふ。それは明治の幕の終りに女子大学が生れ出たが、之れと皇太后陛下の御意志と云ふものが一つになつたことである。私は之れを種々神秘的の意味、即ち形而上の関係から深く感ずる処がある。私はこの無声の声を聞くやうな自分に眼に見えぬ活動があつて、此の本体に帰すると云ふことを確信して居るのである。此の経験を話すことによって幾らか此の休徴を指し示し、あなた方の使命を感ずる参考に

なるかと思うて、之れを少しお話し致します。

私は何かに感じ、何かに開かるゝやうな感じがするのである。この感じは確に私一個の感じでなく、全校を代表して居ると思ふのである。凡ての教員、桜楓会員、生徒等、全体が何かの動きを感じて居る。この Inspiration を受ける力はたゞ口で言ふものでなくして、実在して居るのである。実生活である、その真の生活が出来、眼が開けるやうに、私は深く希望して居るのである。今より二年前の正月頃より、何かの Inspiration を受けた経験をしたのである。幻を見たのである。其の幕は見えただけである。之れは悲劇である。この悲劇の幕は今日迄つゞいて居る。併しその幕は閉されて大正の幕が開いたかと思うたが、まだ続いて居ることを知った。

[森村翁の御熱心について]

卒業式の前の日、私共はおぼろに国家の前途を見たのである。憂ひに包まれて一晩眠ることが出来なかった。ちよど森村翁も後で話をして見た時に、同じ晩眠れなかったと言うて居られた。その夜私は森村翁をたづねたが、話の国家のことに及んだ時、翁は熱涙を流して沈んでしまはれた。偶然に、二人の感じの同時であり又同じ事柄であつたことは、何かの Inspiration を翁は受けられたに違ひないのである。其の翌日、澁澤さんと三人で会したが、その時澁澤さんは森村翁の熱心なる決心をきいて、あなたの至誠は確に天をつらぬくと言はれた。それから又桜楓会の十周年の記念日の日、晩香寮に於て実業界の老人連が集まつたが、其の時森村さんは翁の言はれたのではなくして、神が翁に言はしめたのである、と坂谷市長が言はれた程である。

只今、自分の一番大切な一つとして自分の生活をさゝげたいと思ひ、女子大学を自分のやうに思つて下さる教務員は三人、財務員は二人である。此の方々は学校に於て最も主となる方々であつて、又実際に社会に立たれたときも第一流の方々である。只今の日本の国家を救ふことの出来る人は大隈伯と西園寺侯とを除いて他はないであらうと思ふ。かくの如く我が女子大学の主なる方々が又国家として主に立たれるとすれば、我々はこの偉大なる使命を受けたこと故、今一層奮起して立たねばならぬのである。皇太后陛下の玉体は当校に迄御はこび遊ばされなかつたとしても、其の御旨を奉戴して御霊を安んじ奉らねばなりません。

[中表紙]

大正三年四月二十日

開校記念式にて

大正三年四月二十日

本校記念式にて

今日は第十三回記念式に当りまして、過去十数年此の日本女子大学校が生れる迄、及び生れてからは是だけの人間に、又は此頃の詞で申しますれば人格になるまでに育て上げるこ

とに日夜御苦労になり、又人のわからぬ処に於て深い心配、同情を以て十年一日の如くつくされました人々の御厚意に對しまして、即ち其の一番の中心点となり又多くの人の同情者となりました処の皇太后陛下の御思召に對しまして、感謝の意を表すると云ふことが今日の式の真髓であるべきであらうと思ひます。

夫れで、今日の式の修養の題目と致しました処の十数年の歴史、其の多数の同情者のつくさるゝ真意と云ふ如き真相を見る、真相を感じずと云ふことが最も大切なことであらうと云ふ。夫れで多くの、始めて此の式に連なつた方も多い訳である。如何に此の女子大学が創立されましたか。又、如何に今日迄此の女子大学が成長、発達致したかと云ふことを御話して、あなた方が其の意味を御察しになるやうに致したい。

[伊藤博文公]

此の女子大学が我が日本帝國の内に凡そ三ヶ所の中心に設立されなければならぬと云ふ考への起りましたのは、殆んど今から十九年前、二十年の昔でありました。当時、我が國に総理として政治上から國家の使命を考へられて居りました伊藤博文公爵、丁度私が外國から歸りました翌年、永田町の総理大臣官舎に於て此の女子大学創立の御相談を致しました。其の時公爵は、地の利と、天の時と、人の和と云ふことを考へなければならぬ。其の中で最も地の利と云ふことを考へなければならぬが、凡ての中心点が東京に集まると云ふことと、お前の経歴とから考へても大坂の地に建てるが宜しからうとの御説でありました。

[清水谷高等女学校]

それで私も其の時は大坂に設立するがよいと考へて、大坂へ参り廣岡淺子夫人、大和の土倉君、及び時の大坂府知事内海男爵にはかりました。其の土地は即ち今の清水谷高等女学校のある処であります。あの土地は当時我々が買ひましたが、其の後大隈伯、澁澤男爵、森村翁たちの御考へが加はりまして、ど一しても此の第一日本女子大学校は東京におくがよいと云ふことになって、当時の大坂府知事菊地侃二君に御相談をして、其の土地を清水谷高等女学校にお譲り致したのであります。

[女子大学の創立]

その時は松方、大隈連合の松隈内閣でありましたが、丁度明治三十年の此の頃、大隈伯の外務大臣官舎で会を開きました。真つ先きにおいでになったのが岩崎男爵で、総理大臣松方侯、貴族院議長近衛公爵も御出席になりました。其の發起人会で一番先きに五百円出すとおかきになったのは近衛公爵でありました。其の後だんだんお出し下さつた金は、土地となり学校となり基金となつて、六十七万余円であります。今此に森村さんは此の記念日に於て二万五千元、澁澤男爵から二万五千元、大倉孫兵衛君が一万円寄附せられました。故に之れを加へますと七十三万円となります。併しピアノとか其の外、本などを加へると夫れ以上になります。

文部省、東西の両帝國大学、其の他の私立学校も賛成でありますけれども、その当初に於てはあらゆる新聞、雑誌が批難攻撃で、積極的に之れを設立しやうとしたのは大坂の廣岡淺

子夫人と大和の土倉さんとの御二人でありました。廣岡さんは熱烈なる議論をせられて、殆んど議が破裂しやうかと云ふ有様でありました。故に第一の発起人会では此の女子大学が成り立つものであらうかと云ふ有様でありました。けれども衷心お助け下さるお方があったので、兎も角も設立するに至ったのである。

それで今日は、其の十七年ぶりに再び大隈伯が内閣を組織せらるゝと云ふことになったのであるが、其の間の変遷と云ふものは実に種々様々でありました。今日は此の女子大学を創立すると云ふことは左程むつかしくはなかったやうに見えるけれど、此の帝國に一つの女子大学の必要であると云ふことが認めらるゝやうになるまでは大事業であつたのである。はじめ大坂に地面を求め、次に東京にかはりまして第一の発起人会が開かれたと云ふことは、此の女子大学にとっては著しき事業でありました。第三に記憶すべきことは、理科室の前に天幕をはって開校式をあげましたのは今から十三年前の四月二十日で、式をして居るうちに天がくもって雨が降り出したのであります。併し之れが健全に発達し得るか、又は社会の圧迫によってつぶされて了うかわからなかつたのでありますが、夫れを倒れないやうに保つて下さつたのは澁澤男、森村翁の御同情によってであります。

そして国家の必要上、第二発展とも言ふべき時期が到達したのであります。其の動機が実現して此の教育館、講堂、それに附属した色々の建物がたつやうな盛況になりました。けれど、それ迄になるには幾多の犠牲が払はれて居る。幾多の忍耐、同情、奮闘が払はれて居る。当時、学監 麻生君は猶前途のために欧米を巡遊して居られ、其の留守を守つて第二の発展を致しました動機の中には、非常に美はしきものが現はれて居りました。其の委しいことを申す時間はありませんが、私は其の空気について一言皆さんに紹介しておきたいと思ひます。私の手箱の中から其の時の同情ある手紙を見出だしまして、あなた方によんでおきかせするとよくわかつて思ひます。

以下手紙の処を略す

[発展の動機について]

かくの如くに此の学校の生れて参り、其の後段々と健全に発達して参ります根底の、我々の肉体に見ることの出来ない原動力は、決して一時的の外部的の刺激にあらずして、最も深い且つ永久的なる精神生活の大激流によって動いて居る処の力であると云ふことを感ぜざるを得ない。否、我々は其の確信を以てお互が微力を致し、勇気を鼓して今日に至つたものと思ひます。

其の動機はかくの如く複雑なるものでありますけれども、其の動機の動機となり、土台の土台ともなりましたのは、一つに 皇太后陛下の御奨励によることと深く我々は信じて、殊に此の際におきまして深く其の感謝の念を禁ずることが出来ませぬ。今日は諒闇中にも拘らず此の堂に会しまして、深き感謝の念を表はし、多くの犠牲となり且つ多くは故人となつて居らるゝ同情者を思ひ、其の中心点として我々は益々

内に力を養ひ、外に発展する処がなくではならぬと感ずるのであります。今日斯うなりましたことは、眼に見えない処の広い関係があるのであります。其の眼に見えず耳に聞えない処の音楽に耳を傾けて、夫れに我々が調和一致することが必要であると思ひます。即ち今日は To be reasoning と云ふことに勉めねばならぬと思ひます。

[中表紙]

大正三年四月二十六日
大学部第一年及び予科の為に

大正三年四月二十六日
大学部第一年及び予科にて

今日はあなた方からお出しになった問題についてお答へをしておく方が適當であると思ひます。三時から今学年の計画発表会がありますので、も一あと三十分しかありませんから、皆が聞きたいと思ふ問題について簡短に申しませう。

[女子大学についての世評]

地方で此の学校の事を聞くと、華美な学校であると云ふやうな評判があつた。又、女子大学の学生は生意氣であると聞いて居たが、校門を入つて見ると皆質素であつて、生意氣と云ふやうな事は少しもないと云ふ所感をお書きになつてある。然るに何故、地方では此学校の実際と違つた事を噂するであらうか。今日も、つひ先達まで文部大臣もなさつたやうな方の御話にも、最初は此の学校の評判を聞いて人にもとめた位であつたと云ふ話を沢山聞きました。そ一云ふやうな人でもそ一感じなさつた位であるから、世間の人がいろいろの噂をするのは尤もな事である。

此の学校は西洋でも大変名高いものになつて居る。例へて見れば最近の事実でも、女子大学は丸焼けになつたと伝へられ、或地方では号外を出して女子大学は今盛んに焼えつゝあると言はれた位で、女子大学の事と云へば何でも仰山に伝へらるゝのである。又、女の事で何か書く時には、例へば此の学校に一ヶ月でも居つた人が何かすると、女子大学卒業生何某と特筆大書する。

も一一つ、此学校は始めから競争がひどかつた。そ一して随分敵に向つて戦つたのであると云ふものもある。そして私は長州の生れである。長州から出た人は官界に立つて役人風を吹かせて居るものが多いけれども、独立自治の精神を以て自分の事は自分ですると云ふ人が少ない。夫れで私の敵も多いし、女子大学を攻撃する為の新聞も出来たと云ふ有様である。けれども此校では、世評はど一でも宜しい。自分達の確信を以て信ずる処を行つてゆく。夫れで古風な形式的な人はわるく言ふと云ふ事もある。

も一一つ我が国のわるい風は破壊的である。人が何か仕事を始めると、直ぐけちをつけて破さうとする。元來我が国では教育事業、殊に私立学校に沢山の金を出すと云ふ事はない。

然るに此学校へはどんどん出される。そこで、あれは校長が頭を下げるから人が出すであらうと言ひふらすけれども、頭を下げたからとて、人が金を出すものではない。そすれば却って人は出さないのである。此学校へは七十万近い金によつたのであるけれども、其の中から私が一文でも取ったかどうか。私の財産がどれだけ出来たかをお調べになれば直ぐわかるが、之れは調べないでもわかる事であります。私は十七、八の時から郷里の人にも大層攻撃せられたのであるけれども、今日では主義は違ふにしても私の身上についてはよくわかつてくれたのであります。

斯う云ふ訳で、いろいろの事から此の学校の事をわくる言ふ人があるのでありますが、此の学校へおいでになって共に事をして行くあなた方皆さんには、よくおわかり下さる事が必要であると思ひます。

[中表紙]

大正三年四月三十日
大学部二、三年にて

大正三年四月三十日
大学部第二、三年にて

今年は人格的生活と云ふのである。人格的生活とは自分と云ふ人格もありますけれ共、殊に大切なのは人格と人格との交通、精神生活の交換、若くは融合である。人の人格の中へ入って人の真相が見える、之れを Insight と言ふ。故に見えない処が見えねばならぬ。故に今年は、人がほんとに見えねばならぬ。互に感応する、Appreciate する、互に尊重すると云ふ目的に向つて進んで行くと言ふことが大切である。

教育とは人格で、人格を教育する、感化と云ふことが一番の真髓であります。故に自分の人格を磨いて人の人格を磨き、お互に発展すると云ふことが大切である。そこで先づ、相識らねばならぬ。相識するには会ふと云ふことが必要である。仮令面会しなくても、書くと云ふこともある。故にあの Card にあるあなたの格言一つを見ても、人柄はわかるのであります。ノーベル賞金を贈られた男爵夫人が私に書いてくれた Sentiment は、人道は統一であると云ふ意味の詞でありました。

時を省くために、水曜日と金曜日と正午十二時から午後一時の間に共に食事をする事として、麻生学監、松浦主事も其処に列席して下さるやうにする。是れは甚だ便利なことである。

[中表紙]

大正三年五月四日
第一学年及び予科の為に

大正三年五月四日
第一学年及び予科の為に

[時を守る事につき]

此の間、あなた方の疑問について御答へした事のほかに未だ残つて居りますが、其の中で時を守ると云ふ事に就いて疑問が出て居りました。時を守る事は非常にやかましく申して居ります。今度 Card を用うる事にしたのも其の一つであります。約束を守る事も其の一つであります。時を違へないと云ふ事も我が国では出来ない。宴会などでは、一時間位待たねばならぬと云ふ事が一般の風のやうになって居る。併し学校に出て居ると生徒も先生も時がきまつて居るから違へ方がないけれども、規則に因つて機械的に守つて居つても学校を出ると直ぐ守らなくなるやうではだめである。夫れならば此校でもきちんと出来さうなものであるが、何故守れないかと不審に思ふ人があるかも知れぬ。けれども此校は一つの社会のやうになって居るから、いろいろの事があつてきちんと守られないのは已むを得ぬ事であります。そこで今日遅れた者は先づ此の Card へおつけになる様に。そして出席と欠席と少しばかり出たのと、皆つけてお置き下さい。さうして裏の処へ其の理由を記して、整理係は夫れを統計にとつて調べて見るとよいのである。

[人格的生活につきて]

さて今年度の計画に、学問修養の目的は人格的生活であると云ふ。此の人格的生活と云ふ事は其訳を研究したと云ふだけでは出来ぬ。其の生活をせなければならぬ。之れ迄人格の接触と云ふ事を申しましたが、接触だけではいかぬ。人格の交感、融合と云ふ事に迄達しなければならぬ。

人と云へば之れ迄は形のものと思はれて居つたのであるけれども、其の以上に目に見えない処の不思議なものがある。故に人格の中に入つて行くと云ふ事が大切である。水は水素と酸素とで出来て居ると云ふけれども、其の水の中には水素も酸素もちやんと存在して居るのであります。故に人格的生活と云つても其の経験をしなければわかるものではない。そこで其の方法として面会と云ふ事が必要である。私の実践倫理は唯だ学理を申すのではない。目に見えぬ所の人格と人格との働きで、其の間に生れて成るものを校風と言ふ。其の校風とか人格とか云ふものを始終創設して行く。夫れには人格と人格との交感と云ふ事をしなければ出来ないのである。故に其の方法の一つとして、面会をするのに各級から人を選んで金曜日の昼十二時から一時迄の間にお弁当を持って来て、食事をする間に面会をする事に致したい。場所は食堂を用いませう。其の時に Card を持つておいでになるやうに。

次に出席の Card と修養の Card。修養の Card にはいろいろありますが、初めに Name と書いてあるのを持つて居る人は……

[言語につきて]

学問をする上に一日も一刻も欠くべからざるものは、語であります。考へると云ふ事は、詞と云ふ機械を使用せずには出来ないのである。故に精神生活に最も必要なものは詞である。其の詞の便、不便と云ふ事は、学問をする上に非常なる影響があります。然るに我が国では詞が非常に不便であつて、其の詞を覚える為に終生時を使はねばならぬ。我が国民の生活に之れ程無益な事はない。今後世界列強と競争して行く上に、之れ程不利益な事はありません。故に此の不利益なものをかへるに一番便利なものを使用しなければならぬ。夫れで将来ではど一してもローマ字を用いねばならぬ。も一つ詞の上に非常に變つて来る事は外国語の入つて来る事で、之れは多分英語でありませう。今日でも、一国家の牛耳をとつて居るやうな主要な地位にある人は、皆外国の本を読んで居る人である。夫れを読まない者は人に支配せらるゝ者で、人を支配し世を導いて居る人は悉く外国語に通じた人である。世界と共に進む世であるから、只だ日本と云ふ小さい島の空氣ばかりを吸うて居ては間に合はぬのであります。

我が国の書物と文字とは非常に不便利なものであると云ふが、之れは何処から来たかと云ふと支那から入つて来たのである。我が国に昔からあつたものよりもむづかしいものでも必要があれば入つたのであるから、夫れ以上に必要となれば今日でも入らざるを得ないのであります。あなた方が四十にもなる頃には非常に必要になるのであるから、今日から勉強しておかねばなりません。そこで夫れを此に学ぶと云ふ事は又非常にむづかしい事である。日本のかな、国語、漢字、ローマ字、英語と覚えねばならぬ。夫れをするに無益な労力を費さぬやうにする為に、此のCardを造つたのも一つの方法であります。

夫れで其方法の一つは境遇であるから、英語の世界を作つて不知不識の間に英語の生活をするると云ふ事が必要であるから、今度英文科の為には曙寮に境遇を作つたのであります。英語の境遇と云つても唯だ話すばかりでなく、見る事、聞く事、感ずる事が大切である。夫れで注意をしておいでになるなら、三年後には傍らでしておいでになつた事でも非常に役に立つ。さうして十年後には著しい進歩をなすに至るでありませう。

[意志を養ふ]

我々は毎日、自分を發展しなければならぬ。夫れには、考へる事、感ずる事が大切であるが、唯だ夫ればかりでなく、ど一しても実行しなければならぬ。何かを経験する、味はう、実行すると云ふ時には、必ず一つの發展をするのであります。故に五月からどう云ふ事をするかと云ふと、堅忍、奮闘と云ふやうな事から始めるのである。夫れは強健なる意志の力、即ち人格の力の一番の骨子となつて居る処の意志の力を養ふと云ふ事になつて居ります。

前の学期に研究致しましたのは、宿命論と自由意志論とでありました。先づ第一、私共には遺伝と云ふものがある。第二には、其の遺伝が育つて行くには境遇と云ふものを要する。そこで我々の人格にはそ一云ふ物質的境遇もあるけれども、

も一つ其の以上に宗教とか教育とか云ふところの精神的境遇、即ち人格と人格との関係から刺激を与へるところのものがあつて天性を育てゝ行く。さうして自分の内から出て行くものを意志と言ふ。其意志の力が私共の価値を創造し、發展して行くのである。故に此の意志の力を徹底する様にして行く事が大切であります。

そこで此の堅忍とか奮闘とか云ふ事の要素は何かと云ふとベルグソンの所謂 Duration で、ずっと持続して行く、少しも消滅しないで其の上に加はつて行くのである。浅い人もあり、深い人もある。其の深いと云ふのはDurationで、人格はどうしても深くならねばならぬ。屈しない、曲らない、Unbendingで不屈不撓の精神を養はねばなりません。夫れで如何なる困難があつても如何なる誘惑があつても、又如何なる批難攻撃があつても自分の目的を放擲しないと云ふ事である。故に如何なる困難があつても、益目的に向つて進んで行かねばならぬ。夫れを強いと言ふ。其の強いと云ふ事が活動に現はれたものを奮闘と言ふのであります。Unchangeableで変らない、移り気でないと言ふ事が大切である。其の修養が必要であると云ふ事はおわかりでありませう。併し此に問題がある。

堅忍不拔と云ふ事は男には必要であらうけれども、女にはど一であらうか。優しくて人にたよつて可愛がられて行く。之れが理想ではあるまいかと云ふ説もあらう。あなた方の説はど一でありますか。

男でも忠臣二君に仕へずと云つて、変節するものはいけな。男心と秋の空と云つて、頼むにたらない人はいけな。斯う云ふ風で、男に対する批評、要求は皆さうである。然るに女ばかり人に欺かれ、誘惑せられ、つまらない事をするると云ふ様な弱い者でよからうか。何、女でもしっかりしてくれ。家を残して逝くからは親を養ひ子どもを育ててくれと言ひながら、女の教育はよい加減でよい。そんなに強い意志を養はないでも弱い者でよいと云ふのは、世間の要求と實際とが間違つて居るのであります。故に私は女と云へどもしっかりした考へを持つ事の出来るやうに教育する事が当り前であると考へます。然るに少し自分の考へを持って、自分の意志で物をきめやうとすると生意気である、強情であると言はれる。実は夫れもあるのである。之れは世間で理想が高いなど言ひますが、頑固と云ふ事は宜しくない。身体の弱い事に勝つ、境遇即ち学資の足りないのに稼いで勝つと云ふやうな事も意志の力ではありますが、一番むづかしいのは人と人との関係である。此の頃は社会が非常に動揺して居りますが、動揺と云つても人を容れない、相反発すると云ふ有様である。夫れで言うて見れば、皆自分の意志の力を以て人を支配しやう、社会を支配しやう、世界でも支配しやうと云ふ態度を以て戦つて居ると云ふ有様である。さう云ふ事を態度と言ふ。故に態度の力が意志の力であります。

[如何なる態度にて進むべきか]

我々是如何なる態度を持つべきか、如何なる態度の力によりて進むべきかと云ふ事が一番むづかしいのであり、又一番大切な事でありませう。然らば此の堅忍と云ひ、奮闘と云ふ事については如何なる事を守るべきであらうか。私共は人格の

一番大切なる此の意志の力を養ふには、如何なる方面から進むべきであらうか。此の Card にある事が段々進むに従つて終には私共は神の如くなり、王様の如くなり、国をも世界をも支配する事が出来るやうになる。夫れはど一云ふ訳かと云ふと、私は之れを靈性と言ふ。当時の詞で言へば Emanation of God で、内在的の神とも言ふべきものがある。つまり其の潜在して居る処の力、靈性の解放である。我々が勝つと云ふのは、其の靈性を圧迫して妨げて居る力があるから其の力を制する。之れが私共の一番大切な意志の力であります。

Solomon と云ふ人は偉い人であつたが、其の人の詞に、怒りを制する者は城を取るに勝ると言つて居ります。夫れで私共の最も強者たる人格になるには、自分に克つ、即ち Self-control 或は Self-conquer で、自分の靈性を解放する、自我発展の根底をなす処の本を妨ぐるものを制する事から始めねばならぬ。

Muster over self、Self-control、Self-command、Self-possession (従容)、Self-devotion と云ふ事は人を支配し、其の境遇に勝つと云ふ事と同じである。故に我々が強者となるには自分の目に見えない処に潜んで居る処の自分を圧迫するものに克たねばならぬ。其の次に Self-devotion で渾身物をする と云ふ事にならねばなりません。

Rome was not built in a day.

There is nothing difficult in the world, the only fear is that men will be raking in persevering.

Courage leads to heaven fear to death.

Courage ought to have eyes as well as arms.

[中表紙]

大正三年五月七日

大学部二、三年にて

大正三年五月七日

第二、三学年にて

今日は、桜楓会の十年期に女子と云ふ題で演べる筈でありましたが夫れが延びましたから、今日申します。先づ第三段に分けて、

第一、婦人に宗教心ありや。

第二、ありと仮定すれば、如何なる程度迄発達して居り、又今後の発展は如何なるか。

第三、然らば婦人は宗教界に対し如何なる意義、如何なる使命を有するか。

[婦人と宗教]

此の問題に入る前に一言、宗教とは何であるか、殊に宗教の本質は何であるかと云ふ説明が必要であると思ふ。大体宗教を二つの方面から見て、第一を本質、第二を形式とする。今此に私が宗教と言ふのは、主に其の本質、即ち生命及び其の生活の価値を言ふのであります。故に極簡単に生とは何と

云ふに、Formulate したものではなく今此にあるものでなくてはならぬ。遠方にあつたもの、昔あつたものではない。そ一して Your life is divine で、divine とは Essential life of value である。故に生活の価値の中には必ず divine と云ふものがあり、God と云ふ觀念がある。其の神は今此にあるもので、我れと共に働いて居るものであり、我れ自身に見て居るものである。

[ホイットマン]

ホイットマンの詩に、

I see something of God each hour of twenty-four in faces of men and women, and in my own face on the glass.

我々の生きて居る毎日は、二十四時間の其の時間に我々は神のあるものを必ず観て居る。鏡に映じて居る人の顔に、自分の顔に、又皆の顔に神が現れて居るから、我々は何時でも神を見ることが出来る。神の天啓、神の黙示は何処にでも見ることが出来る。何処にでも落ちて居る神様の御手紙のどれにもこれにも神の署名がしてある。我々の神から受くる天啓は時間正しく刻々に其の手紙が来るのであるから、若し自分が夫れを歓迎する態度であるならば何時でも神に会ふことが出来る。神と我れとは何時も直接に交通することの出来るものである。其の神の divineness と云ふものに幾つもの要素があるが、其の一つは美である。自分は高尚な美を要求する。其の美は深いものでなくてはならぬ。之れは悲劇的のもので、衝突、困難、及び夫れに戦つて居り、勝つ処の美が顔に表はれて居る処の悲劇的の美を要求して居る。之れが我々の向上心である。此の価値を求めて居ると云ふ心情が宗教である。

[Life is love]

又 Life is love で、愛は即ち生活である。も一一つ深い処の Life に徹底すると云ふ処の要求が真理を追求することとなり、其の Life を創造することとなる。之れを初めによく説き明しておく必要のあるのは、宗教は宗派である、又書いた書物である、儀式であると云ふこともあるが、之れは宗教の体現である処の形式に過ぎない。故に其の形式が宗教の本質ではない。併し、其の時に宗教が体現するに必要であつた其の宗教の出来た時には、生命があつた。けれ共今日となつては、みいらとなつて固定して伝はつたのである。

聖書の中には尊いものがあるから今日の徹底した考へでとればよいが、其の中にある奇跡は悉く神様の書かせたものがあるから一字一句尊いものであると云ふやうに考へる Infallibility と云ふ、そ一云ふ信仰又は排外的狹隘なる信条は、今日生命を失つて居るのである。夫れを何故言つておかねばならぬかと云ふと、十九世紀に起つた処の アグノスチック、不可思議論はかくの如き教権から起つて居るのである。さう云ふ信条、經典と云ふものが絶対の真理であつて、其の中には少しの間違ひもない、其の教権をもつて居るものは少しの間違ひもないと云ふ考へは、今日の活社会からは葬られたのである。

[創設的進化論]

宗教の Center となり Essential となるものは神であり、神は何時も活動して居るものであるから進化して居るもので

ある。故に神は活きたものであり、今あるものであり、此に居るものであると云ふことを見出だしたものは進化論である。そ—して之れを創設的進化論と言ふのである。昔は神が六日の中に此の世界を完成したと云ったけれ共、今日の考へでは今の瞬間瞬間に創造しつゝあるのであります。夫れで之れを殆んど今日の定義と云ふに近い程、徹底することが必要であると思ひます。故に其の説を徹底し、内容を深めるために大家の説を参照して、自分達の考へを進めたいと思ひます。

[シュライエルマツヘル]

先づ第一に獨乙の哲学者シュライエルマツヘルは、宗教の本質は直感と感情（或は心情）である。宗教は宇宙を直感せんとし、宇宙に特有なる表現と行為とに由り之れを理想的に窺ひ知らんとして居るものである。故に極無邪気なる小児の如き受動性を以て宇宙直接の影響により捕へられ、又充塞せられんとする。又養ふべきものである故に、此の宗教は其の実在を直感せんとするものである。実在は我々に直感することの出来るやうに働きかくるものであり、又人格は直感することの出来る力を与へられて居るのである。ショーペンハウエル、ゼームス、ベルグソンなどは、之れを意志の働きとして居る。

[ベルグソン、オイッケン]

其の意志をさしてベルグソンは流動と言ひ、精神力の活動と言ひ、オイッケンは精神的生活と言うて居る。

Hoffding は、宗教の本質は価値の保存を確信することである。故に宗教と云へば何か人生の価値を己の経験に由つて発見するものである。故に未来の価値の保存を信ずるならば先づ今日の生活に於て経験せねばならぬ。故に宗教の内容は各々自分が価値を味はうた経験に本づかねばならぬ。そこで自分の価値を今経験しなければ、宗教と云ふものは其の人にとっては誠に程度の幼稚なるものである。併し宗教は最初から凡ての価値を創造するのではないと云ふことは誰れも承認するのである。唯だ永久限りなく価値を創造してやまぬ処の向上心、之れが宗教心である。そ—して此に言ふ永久とは此の価値ある現在に存するので、即時に永久的生活を此で只今営むのが真の永久不滅の生命であると云ふのが、ホフデングの定義のやうなものであります。

ビショップ・クライトンは、宗教的生活の全体は関係である。即ち神秘的、家庭的、社会的、国家的天国の如き理想的関係である。即ち人格と人格とで出来た処の家庭、社会、国家である。

[仏教の涅槃について]

東洋の仏教の考へによれば、宗教は涅槃に入る経験である。現在の罪惡と煩悶とを排除し、真に涅槃に入つて全く佛陀と融合することである。

以上述べた諸大家の説を分類致しますと、三方面或は三階段にして考へると云ふことが適当な道であらうと思ひます。

第一の方面を、自我に徹底する生活。即ち自覚と云ふこと。

第二、自我を社会的に拡大する生活。即ち人格と人格との融合、人格をげん成すること。

第三、自我を宇宙的に向上し、歴史的に發展する生活。

第一の問題に対してシュライエルマツヘルは、宗教は一層鋭くされし感情と一層精練されたる判断とを以て、人格の全範囲を通して此の漂浪の境界より根本我に帰り来り、凡ての価値を自身の内に見出ださんとすることにて、之れを靈感或は天啓と言ふのである。先づ其の自我に徹底すると云ふ経験を Ascetic mysticism 神秘主義と言ふ。神秘とは形而上と言つてもよい。

[Absolute perfection, Inmost self]

只肉眼で見えぬ処のものを宗教の最初の階段は、肉体の欲望を抑へて最も Divine なる部分だけを生活しやうとする。其の最初の例とも言ふべきは婆羅門教で、之れは自我を Absolute perfection にしやうとする。凡ての目的は自我を完成し、自我を徹底しやうと云ふことにある。そこで此の理想的生活と云ふものは、Inmost self と云ふ至善至極と云ふことは何処にあるかと云ふと、Inmost self にある。そこで此の主義は隱遁主義であります。一番徹底するには隱遁しなければならぬ。自分を晦まし自分を惑はしすることの多い社会から隱遁しなければならぬと云ふ考へであるから、釋尊の隱遁せられたのも其の考へからであるのである。故に仏教が我が国体に合はぬと云ふ批難のあるのは其の点にあります。

併し宗教には凡てさう云ふ考へがある。クリスト教にも、天国に入るは針の穴を通るよりもむづかしい。故に親兄弟、妻子、財産凡てをうち棄てねば天国に入られぬと云ふ。さう云ふ経験は我々にもあるのであります。故に此の主義は第二には禁欲主義となるのであります。そこで昔から宗教には断食と云ふことがあり、行と云ふことがある。つまり之れは自我を絶対的完全なものにしやう、凡ての宇宙の価値を自我に表現しやうと云ふ考へから隱遁、禁欲となるのである。

[多元論]

けれ共今日は、隱遁しなくても禁欲しなくても意志を以て自制自定することが出来るのであります。宿命論ではいけない。自分の意志で自分の境遇及び欲に勝つて行かぬばならぬ。故に此の主義では自己は一種の靈性であると云ふことを自覚するので、之れは宗教的生活の第一歩である。故にど—しても宗教的生活をするには自我に徹底しなければならぬ。Divine nature が人格の先天的核心であつて永遠不朽の生命であるのみならず、独自に發展し、自由に各自に人格を完成する生活を営むのである。此の力をベルグソン其他、今日の進んだ思想家は之れを自由意志と言ひ、其の活動を改善主義と言ふ。此れは他力に支配せらるゝ境遇、遺伝或は運命と云ふやうなものに支配せられず、自動的に自分の運命を開拓するものである。他の人格の中に吸ひ取られない、又他と融合しても其の本質を失はない処の自我、即ち Divine nature と云ふもののあることを信ずる。之れを多元論と言ふのであります。

[婦人の人格について]

そこで第一の宗教の根底は自覚と云ふことで、人生の第一誕生を味はうて、之れが宗教の第一階段であります。此に女性と云ふ人間は此の宗教心、即ち自覚と云ふ経験を有するかと云ふことを考へねばならぬ。此の問題について三つ程の

学説がある。夫れは生物学、心理学、社会学等から出る学説、も一つは形而上学、宗教、歴史学等から出る学説であります。

第一は、婦人には斯くの如き自覚はない。即ち、独立した信仰は有しないと云ふ考へで、婦人の人格、婦人の信仰は男子によって出来るもので、つまり婦人は男子に附属したもので、男より出て男にかへるものである。故に婦人は自覚することは出来ないものと云ふ形而上学の説には、人格は Monad で Monad は男性的のものである。婦人はそこから分れ出たものであるから、婦人には独立した人格はない。故に婦人には愛とか価値とか徹底力とか精神生活とか云ふものは、婦人の心理状態にはないと云ふ。

男は完全に発達しやうとする、永遠に生きんとする、無限に発展しやうとする徹底的意志がある。けれ共婦人には、斯う云ふものはない。婦人は最高の価値とか、或は絶対的理想とか、完全の自由とか、さう云ふことに行かうとする向上心がない。婦人は絶対に男子に服従し、全く男子の附属物として没我しやうとする。又発達が出来ない婦人は、只男のために生存する。此の婦人の状態は男の Monad から出て、男の Monad に帰するものである。故に永久の独立の価値、生命はないものである。故に婦人には宗教的生活の価値と云ふものはなく、男の附属物となると云ふ説。

第二は正反対で、男は女から出たもので、遂に女に帰ると云ふ。今は此の説は立たないけれ共、昔は生物学からも動物学からも立ったのである。慈悲とか平和とか云ふものは女から出たもので、男は Brutal なものとせられてある。夫れで西洋でも道德の頹廢しやうとした時に、夫れを維持したものは婦人であると云ふ説も立てらるゝ。

[男女両本位説]

第三は男女両本位説で、之れは生物学、社会学からも立論せらるゝのである。男と女とは両方とも独立した価値のあるもので、社会は男と女とに由って組織せられたもの。実在は男子と女子とあるのであるから、此の説が確であると思ふ。夫れにはど一しても Monad から研究しなければならぬ。

Monad は Leibnitz が発見した処の真理の Monadology から始めねばならぬ。宇宙の一番の Essence は何かと言ふと、ライブニッツの説から言ふと之れを Monad と言ひます。

第一に此の Monad は只繰り返すところのものではない。又互に夫れをうつして模写的に出来るものではない。無限に違ふものである。Monad には唯一の独特なるものがある。其の一の特種なる性は両方面が同時に何時もあつて、Exclusive と Inclusive とがあつて、如何なる力、如何なる感化をも容れない性と、凡てのものを包容する性とある。此に余程深い意味が入れてあります。

ライブニッツは、They have no windows through which anything might come into them, no anything might go away. 其の窓から如何なるものといへども入ることなく、又如何なるものも出づることが出来ぬ。

They can never be reproduced nor destroyed except by God. Monad を造るものもなく、滅ぼすものもなく、神と共に出来、

神と共に存するものであると言つて居ります。動物学の Sel の説と此の Monadology とを十分に研究しておかねばなりません。一度には出来ませんから、猶自分で研究しておいでになるならば、わかりが速いと思ひます。

[中表紙]

大正三年五月十一日

予科及び一年にて

大正三年五月十一日

大学部予科、一年にて

今は日本の学問は唯に書籍のみでは駄目である。此の頃の賄賂問題の如きも道德信念の足りない処から起つたのであると言はれて居る。宗教家、教育家は今此に就いて研究して居る。

[一善主義]

日蓮宗の人で本多日生と云ふ人は諸国を巡って話しあひて居るが、その人の話しに、話をしてわかる婦人は日本女子大学校の卒業生丈けであると言つて居る。此の人の主義は一善主義で、一日に一つの善事をすると云ふことである。然し我々は毎日毎日、時々刻々向上して立派な人にならんければならないのである。然し人間は弱いから一日に一つでもよい、努力をする処があるならば、例へば朝寝することを努めて直すことが出来るならば、一つの善事でよいのである。

又、我が儘な子があつて、人に同情を表すことが出来ない。それで、一度でもよいから真心から親切をしたいと思つて行ふならば、それでもよいのである。一善主義と云ふのは此の様なしかたであらうと思ふ。子供の時から朝起きると先づ祈りをする、念仏を唱へる。又、箸をとる前におがむ。それもよいのである。即ちそれは信念の Expression で、其の仕方は色々ある。本校では其の内何れをとると云ふことは出来ないから、此の校では朝起きて皆が何か其の日、其の日に信念を作つて進みたいと云ふので、Card を作ったのである。

三年、二年の方では今、別な問題をといつて居るから、一年、予科の方から此の Card を初めたいと思ふ。そ一して皆さんが如何様にそれを選択したか、又、如何なるものを得たかを見たいのである。Card に英語で書いてあるが、之れが Card にあるから英語で覚えるのではなく、皆自身から英語が出て来るやうにならなければならないのである。

[潜在意識]

此の前にもよく話すことが出来なかつたが、人格の統一と云ふやうなことを言つた。之れは人格の力は意識と言つてもよいが、靈性には潜在意識 Subconsciousness と言ふのである。我々の Subconsciousness は深さをもつて居る。之れを靈性、又は神靈と言ふのである。之れが神と同一体となるのが出来るものであり、色々な働きを現はす吾人の性質が入つて居るのである。美術家、文芸家、其他色々な性質があるが、

之れは Nature、即ち個性があるからである。我々の人格の内部の深い処の根になるものをさして品性と言ひ、人格と言ふのである。政治家、芸術家、文学家などは人格である。その人の行ひ、Art は其の人の人格の Expression である。専門になると言ふれ共、それが人格にならんければならぬのである。

[Quality]

人格と云ふものの方面には発現のみでなく、Quality と云ふ内面の力がなければならぬ。人格と云ふのは長い間の Expression によって出来たる完全なる全体をさして言ふのである。人格は社会人格、宇宙人格と云ふやうに広く深い発現をして関係を有して居るものである。佛語に大我と云ふ語があるが、それである。人格生活と云ふと自分の意志、理想の実現もあるれ共、社会的、宇宙的理想も其の中に入居る。

修養と云ふと、内に深くなるのと関係を拡大するのと二方面あるのである。品性はそれを実現する方面で、実行である。それで人格と云ふ方面は完全な方面と考へてもよい。靈性を内に深く涵養する方面は外に向つて発現すること、即ち今一層時々刻々に人格を拡張する働きがあることである。その人格を修得するために Self-control と云ふことがいのである。此の前に言うた処で言ふならば、自制自定とも云ふことである。自制自定には前回にも言へる如く、力がいのである。即ち、勇気がなければ出来ぬ。

[勢力集注、価値の保存]

Card にある堅忍、奮闘の態度、出精、堅実と云ふやうなことがいのである。之れ等のことが如何なるためにいるかと云ふと、二つの目的がある。一つは勢力集注、一つは価値の保存である。内に集注して Intensity の経験の深味を増すこと。今一つの価値保存は保存を妨げる力に勝つことである。価値のために奮闘し内面の集注につくすことが、今までの教育にかけて居た処である。

今日此の女子大学に入学したあなた方は、之れから初めなければならない。即ち今迄外に向つて放散して居た力を、内へ向けて集注するやうにしなければならない。

[自学について]

先日来話す自学の第一は、観察と云ふことである。顕微鏡を以てどこまでも分解して見る。どこまでも細かく入ること。又、望遠鏡を以て地上は勿論のこと、太陽、星の世界までも出来るだけ拡大して見ると云ふ研究が大切である。その次には自分に深く入ること、自分をどこまでも小さく入ることである。之れ等は自学の道であつて、Extension である。

十九世紀には客観的にどこまでも掘いたらわかんと思つて来たのであるが、益々わからなくなつて、益々不安になつて来たので、今日の文明と云ふものが果してどこまで進んだのであらうかと云ふ疑問さへ起るやうになつた。そこで今日は、本当の価値と云ふものは何であらうと云ふやうになつて来たのである。即ちそれは内に集注すること、又集注力が大切であると云ふやうになつて来たのである。今までは内に集注する力を外部に放散するために妨げられて居たのである。

それで今日は之れに勝つて初めなければならないと云ふことになつて来たのである。之れは話してもわかりにくいから、出来るだけ銘々で考へて見なければならないのである。それで瞑想して深く己に入ると云ふ経験を積みなければならない。前回にも言つた如く、只努力奮闘したとてだめである。それをする前に考へて、進む道を創めてから努力奮闘しなければならない。努力と云うても、奮闘と云うても容易なものではない。そこで我々が働くときも、只働くのは盲目的である。目があいて居るから欲しいものを得るので、只力ばかりではいけないのである。人と一緒に居るときはまだしものこと、さて自分一人であるかなければならぬ時になると、何れを行くべきかわからない。例せば結婚問題にしても、親や友人の言ふ処と自分の考へとが異なる時があるとする。

そこで新文学の如きものが旧文学思想を破壊しやうとして居る。小説に書く処は何でもないやうに見えるれ共、之れは中々むづかしいものである。之れ等の読書によって自分を改善、進歩させやうとしてもだめである。あまりに複雑で、自分自身何れに向つてよいかわからなくなる。それであるから、如何なる場合に立つても、自分で見分けのつく人よりものの真相の見える人にならんければならぬのである。

そこで発表と云うても只動機のみではだめである。行く先きを照らす光と、之れに真理が見えて智が働くやうにならんければならぬ。それで今日は今まで盲であつたから、光を得て鮮明なる道を得て行くことにつとめるのである。

[Card について]

品性と人格とは少しの度がちがふだけである如く、Card もその如くで根本はちがはないのであつて、少しづつ進むやうにしてあるのである。五月十一日から十四日までの分はちがうれ共、意志の方面を教へてあるのである。Prudent と云ふことはラテン語の Provide と云ふことから来て居る語で、Pro と云ふは Before と云ふ意味で、Vide と云ふ意味は See と云ふことである。それで See before、或は Look after と同意味である。Provide と云ふことは予備、準備と云ふことである。之れが Providence となると、之れを神秘的に言へば天祐とか神の摂理とか云ふことになる。Provide と云ふことは Environment が見えなければならないと云ふことである。

[Foresight、Insight]

今日、将来のことを見る先見の明がなければならないのである。之れが Providence である。その力に二つある。Foresight と Insight である。そこで Genius のある人、文学家でも美術家でも人格のある人は、此の二つがあつた。有名な セーキスピア は此の二つがあつたから、かゝる Genius が現はれたのである。詩人 ウォールズウオーズ は Nature を見る力があつた。キリスト は神を見る明があつたのである。

我々の Observation は顕微鏡や望遠鏡を以てしなければならないれ共、其の奥に潜んで居るものを見る目がなければならぬ。それと同様に、人に接してもその Insight を見る目がなければならないのである。

そこで此の Concentration は只今働かなければならぬ。だから自分のもつて居る力を集注して行かなければならぬ。

Prudent の中に積極と消極とある。積極方面はやはり Prudent と言ひ、消極方面は之れを Cautious と言ふ。Caution と云ふことは利害得失を考へてする、禍失が起るやうなことがないかと心配すること。然し石橋をたゞいて渡ると云ふ位な注意は悪いことではない。積極方面とは熱心を以て馬鹿なことをせぬやうに進むと云ふことである。我々は此の積極方面に於て常に進むやうにしなければならないのである。

[中表紙]

大正三年五月十四日

第二、三年の為に

大正三年五月十四日

第二、三年の為に

[Monad は鏡である]

日本の三種の神器の一つにも鏡があつて、鏡は昔から大切なものとなつて居るのみならず、神道に於ては之を以つて御神体とする事が多いのであります。先日申しかけました Monadology に於ても、“The monad is a mirror which reflects the whole universe.” Monad は宇宙の姿を映す鏡である。故に此の Monad で出来て居る我々人間は知覚 (Perception) があり、Apperception がある。知覚とは例へば、今我々が万有を見るならば眼の網膜の中に映るので知る。之れが我々の知覚であります。其の他、音は耳で聞き、物体は手に触れてわかる。さう云ふ風に今迄いろいろ貯へられて居る経験と、今経験したものとを統一、総合する。之れを統覚と言ひ、英語で Apperception と言ふ。そこで Monad は鏡である。

[人格の調和、融合性につき]

又、此の Monad は其知覚、統覚によつて宇宙の現象を映す外に、宇宙の現象を起すものである処の実体、即ち神の姿を映す処の鏡である。故に我が国の御宮に鏡のあるのは、其の鏡に映ると云ふ意味であります。故に Monad は実体を映すとも言はれるし、入れるとも言はる。又実体の中に入るとも言はれ、つまり相互に感応、交感するものであります。故に Monad は一方に於ては独立自治のものであるが、又一方では実体に入り互に交感すると云ふ二つの特別な性質のあるものである。此の性をさして Leibniz は、Preestablished harmony 即ち先天的或は先定的調和性を持つて居ると言ひました。之れが今後、人格の調和、融合性と云ふものに大切な考へであります。

そこで例へば 皇太后陛下の御歌にも、**うきは心のくもりなりけり**、と遊ばされてあります。Christ 教の教へにも、**心の清き者は幸ひなり、神を見る事を得べければなり**、とあつて、心の鏡の清きものは其の実体が映るのである。

[神は完全無欠の Monad である]

我々の心には通有性と個性と云ふものがありますが、其の両方面がよく調和せられないと私共の発展は出来ないのであ

ります。そこで自分の心に神を映す、即ち神と自分とが調和一致するとは、自分と他の者とが調和一致する事になる。然らば Whole universe とは如何なるものであるかと云ふ事を考へないと、如何にして神と調和するものであるか、如何にして心に神を映すべきものであるかと云ふ事になる。Leibniz は之れに答へて、

“God is the supreme perfect monad, ground and reason of all, from whom all proceed as radiation or emanation, in whom all things are united.”

総てのものの土台であり条理である神は至高なる完全無欠の Monad であり、さうして総ての物に放射して居る光は神であり、総てのものの美は神である如く、神は総てのものを統一して居らる。故に神は総ての宇宙の調和であるとも言はれて、総ての Monad が其の中に入つて居るから、神は此の上もない完全無欠の人格であると言っても宜しい。そこで総ての Monad は皆其処に行かうとして居るけれども、無限な階段であるから悉くはなれない。けれども之れは程度の差であつて、種類の差ではないのである。

“Totality of all spirits must compose the city of God.”

とも言つて、総ての Spirit の総体が神の町。或は Heaven と云ふものは実は Monad から出来て居り、其の Monad は Spirit である。故に我々の認める事の出来る世界は Monad が本体であります。Leibniz は、いろいろあつた思想を統一する事が出来たのである。

[女子の人格、自由]

人格の一番もとは Monad であるから、夫れを段々と調べて行くと、男女とか主従とか云ふ区別を立つるは間違ひである。近頃進んだ処の生物、心理学、形而上学等から言つても、女子も確かに人格であり、又其の人格に徹底する事も出来るものである。故に女子も男子と同じく、女子の人格、自由と言ふ事が出来得るものである。詞をかへて言へば、女子も自主のものであつて、其の意志も選択も自由なものでなければならぬのである。

[宗教の第一階段]

故に先づ第一の、女子にも其宗教はありやと云ふ問に対しては、有りますと言はる。それで先づ第一階段、即ち自己に徹底する生活、即ち自覚と云ふ此の階段、即ち自制自定と云ふ事が出来るかど一か。女子も人格の尊厳を信ずるかど一か。即ち自身に夫れだけ価値あるものであると云ふ事を信ずるかど一か。夫れがなければ、ど一しても人格が出来たとは言はれぬ。無論人間であるから自分を保護し自重する事はあるが、発達の程度が違ふ。昔は人民と政府、即ち政府を組織して居る人格には尊厳があつたが、人民は手段であつた。又、治者は多数の被治者を奴隷として居つた。けれども夫れが一様に人格である故に相認むべきであると云ふ様になつたのは、僅に五十年位の事である。

[日本に於ける女子の地位]

従つて女子の自覚も各国とも遅れて居る。日本では今日でも人格の尊重など言ふと、女子を我が儘にするやうにとる者がある。我儘をすると云ふ事は、やはり人格を損ふ事となる。

自分の人格を破るゝ事に対しては抗抵して、真に自我を維持する意志が発達して居らねばならぬ筈である。即ち、自重である。自分を尊重する意味である事を知らねばならぬ。我が日本に於て、御婦人方もやはり此の階段に進んだであらうか。御婦人もやはり此の階段を進むべきであらうかと云ふ問題が起る。此の問題は皆さんが御自分で調べになる様に残しておきますが、夫れについて少し参考になる考へを申しませう。

日蓮宗の先生で本多日生と云ふ方は始終説教をして日本中を巡回して居られますが、此の方の話によれば、宗教、哲学と云ふ様な根本問題について、ほんとにわかる人は女子大学の卒業生だけであると言って居られました。兎に角、女子大学の人は卒業後いろいろの困難に戦うて、主義を一貫して行かうとして居らるゝと云ふ話でありました。さう云ふ人もあるものと見える。又実業家で世界を一周して来られた二人の方の話にも、未だど一も我が国に於てはほんとに宗教生活の徹底した人が少ない。けれども欧米諸国へ行つて見ると、社会全体に婦人にも行き渡つて居るやうに思ふと言って居られました。

故に我が国民が将来発展して行くに、斯う云ふ思想の行き渡つて居ないのは残念なことである。日本最眞のミス・ブラオンと云ふ婦人などでも、日本の男子は未だ未だよいが、婦人にはわからないと言って居ります。此の事について私の考へは申しませんが、あなた方自身で研究して御覧になる必要があると思ひます。

兎に角、私共は第一階段に入つて居る。昨年の卒業生は徹底せる個人主義と云ふ問題をとつて研究しやうと努めたのであります。

[宗教生活の第二階段につきて]

さて、次には宗教生活の第二階段、之れには女子も入り得るものと云ふ事を申したい。夫れは自我を社会的に拡大せる生活、私は之れを神秘的社會生活と言ふ。物質的形骸生活は我が国に出来て居ると云ふ事は申す迄もないけれども、此の神秘的とは五官に由つて感知する事の出来ないものである。故に社會的生活と言ふ。

此の信仰は、総ての人格は悉く靈性を有し、自他を超越して団体を作る事が出来ると云ふ、実に最高の自我を社會的大我の中に認め、総ての人を愛し、総ての団体を愛し、総ての關係的生活に生きて、其の調和的生活を営まねばならぬ。之れを心理的に言へば、集結的価値 (Collective value) と言ふ。此の人格、生命は互に交に相感應し、相接触し、融和協同する事によつて、互に生育、發展、拡充せらるゝものである。故に此の生活は一切の外形的藩籬を撤去し、人格と人格と深く相信認し、深く愛護し扶助するのである。吾人は斯くの如き人格と人格とを結合、融和して、全人格を結合し、以て一の渾一融合体を作る。吾人の人格は斯く段々に拡大して、家庭、國家、社會等一切の人類、団体を發展せしめて、完全なる人格、団体たらしむる生活を営むものである。要するに、生命自由にして偉大なる發展、充実に精進する主旨に於て、個人は団体に於て無私の犠牲となり、団体は個人に対して無限の

仁愛を布き、以て靈性至善の實現すべき信仰を以て奮闘すべき者である。実に此の神秘的社會生活は、一方には己の人格創始の働きのして、一方には國家社會の靈格を建設するものである。

私は余程以前に此の事につきて深い印象を受けたと思ふ。我が國家は、形体は出来たけれども未だ魂が入つて居ない。之れを Control し、Mind とし、靈格とするものを欠いて居ると思ふ。故に私は、ど一しても自分の使命として生涯微力を致す所は、其の國家の根底を為す處の使命を開拓する事に命を捧げたいと思ふ。故に女子教育をする事も、桜楓會を組織する事も、毎月會を開く事も、婦一協會を始めると云ふ事も、亦今度自助團を作ると云ふ事も目的は皆一つであります。

宗教では、キリスト教には天國と云ふものがあり、仏教には極樂と云ひ、神道には高天ヶ原と云ふものがある。斯う云ふものは皆神秘的世界であり、神秘的人格の団体である。故に Freemasonry では Freemason と云ふ、其の Mason は何によつてするかと云ふと、人格を以て宮殿を造る。故に其の初めに於て、鑿と槌とを與へるのである。つまり自分の意志を切磋琢磨して銘々の人格を磨き上げて人の人格を造り、其の人格と人格とが相融合した處の大人格を作らんとするのである。Plato は、國家は人間の如く精神作用を為し、各部分を有する統一體にして大なる人格なり、と言つて居り、Aristotle は、國家は有機體である故に、自己により自己の目的を達する精神の主体たらざる可らず、と言つて居ります。

[我々は一の天才なり]

故に今日の人格修養の目的は夫れと余程一致して参りました。我々は一の天才である。其の天才は何かの Freemason になる。其の目的は大精神を Art に表現すると云ふ事である。夫れで政治家も、教育家も、宗教家も、美術家も、音樂家も、詩人も、此の大理想を實現する所の Artist である。即ち、政治家は國家の建設者であり、詩人は國民の理想を描き出す技術家であり、音樂家は其の間の調和を謀る處の Artist でなくてはならぬ。

[私共の天職]

そこで我々が眞の人格を發揮し、眞の教育を受けて大人格となると云ふ事は、つまり一つの天職を見出だして大理想を發現し、其の任務をつくす事が私共の天職である。

[第一階段は自分の人格を完全にする事 第二、神秘的社會的生活]

故に私共は第一に、自分が意志を切磋琢磨して自分の人格を立派に彫刻する處の技術家とならねばならぬ。さうして人の人格と融合して立派なる神の國を建設する處の技術家とならねばならぬ。然るに今日の教育は其の人格を作る事に重きをおかずして、只知識の材料を扱ふ事に汲々として居るは、大なる誤りである。故に第一階段は自分の人格を完全にする事で、第二階段は社會的神秘的人格を實現し、其の大理想、大精神を顕す事に渾身働か得ると云ふ事に進み得るのが、第二階段の神秘的社會的生活であります。

然るに東洋では只自分が行をして、妻子を離れ、社會を離れて山に隱遁する事が修養であると云ふ様に思つて居つた。

我が国の文明、我が国の教育と云ふもの、其他政治にしても何にしても自分の保存、自分の利益と云ふ事にばかり止まって居るから誠に狭いのである。

[今は回転時機]

故に我々は自分の人格を重んずると共に、他人の人格と結合すべきである。Christ は己の如く他人を愛せよと言はれ、孔子は己の欲せざる処を人に施す事勿れと言つて居ります。さう云ふ風に教示を論じて行くと東西一つでありますけれども、東洋の方が団体的に進むと云ふ事に徹底する事が少ないと思ひますが、段々之れに心づいて来て改めやうとして居るから、今は其回転時機であると考えらる。

御婦人は此の神秘的社会的生活に入ると云ふ階段になつて居るか云ふと、西洋の婦人に於ては然りと申さねばならぬ。何とならば、彼方では婦人の間にも団体的運動、協同的活動と云ふものが遺憾なく發揮せられて居ると思ふ。然らば我が日本の御婦人はどうであるかと申しますと、形の上に於ては女子青年会、婦人矯風会、又は愛国婦人会と云ふやうな随分大きな団体がありますが、果して之れが神秘的社会的生活にまでなつて居るかどうかと云ふ事は断言する事が出来ません。之れは私が調べて居るものだけについて申したので、其の他は未だ十分に研究を致して居りません。

[桜楓会]

自分の一番よく知つて居るのは桜楓会で、未だ充分ではないけれども、其の要素が元をなして居ると云ふ事を思ふ。併し、今桜楓会が千四百人以上ありますが、夫れと大学部、高等女学校総てが連絡を以て其の人格が融合する事が出来たかどうかと云ふと、漸くにして其の間の障碍物がとれて、相互に調和融合しやうと云ふ氣運になつたと言ふ事が出来ると思ひます。

[第二階段に入る方法]

第二階段に入るにはどう云ふ修養を積みねばならぬかと云ふと、之れは口では十分に言ひ表す事が出来ませんが、只暗示を与へておきませう。Deepening of personal relation manward and inwardness Godward. 深くするとは其の関係を増進し、又其の関係を益々満足する事である。

皇太后陛下の御歌にうきと仰せられたのは、人と人との関係、神と人との関係が乱れ離るゝ事である。故に我々は其の関係を益々密着して深くすべきであつて、之れは自分の経験に由らねばならぬ。之れは毎日少くとも一つの親切でも、同情でも、一つの尊敬でも必ず行ふ。之れは上に見える事ではない。

見えぬ所を云ふのであるから、仮令其の人に詞で言はなくても必ず貫通するのである。宗教は Now and here で、自分の毎日関係する所から始めねばならぬ。人に同情をするとか親切にするとか云ふ事は、宗教の方から云ふと絶対に人の為にする事は出来ぬ。故に自ら経験するより外はないのである。人の為につくすと云ふ事は、大部分自分に帰つて来るのであります。故に自分で工夫する、自分で見出す、自分で経験するより外はない。之れが一番私共の価値を増す処のほんとの生活であります。

“No one can acquire for another not one.

No one can grow for another not one.

The song is to the singer and comes back most to him.

The teaching is to the teachers and comes back most to him, and no one understand any greatness or goodness but his own or the indication of his own.”

[中表紙]

大正三年五月十八日

予科及び一年にて

大正三年五月十八日

予科及び一年にて

今日、米國の加奈陀から日本へえらばれて來られた方々を實業界の方々が案内をして、此の學校を見に來られます。今日の計画は午前を帝國大學で、Dinner は實業界の催しで食され、午後女子大學へ來られます。其の中には有名なる ミスパースキンス と云ふ方、其他外國の方が五人許り。かう云ふ人に対し私が面會するために、四十分―一時間で講義をしまふかもしれぬ。而しかゝる時、時間を休むことはあなた方のために時間の損をすることになる。而しかう云ふ國から、殊に加洲とは大切な關係であるから、女子の教育の進歩につき此處が代表して紹介する責任もある故、止むを得ぬ。而し双方の利益を思ふなら、私が挨拶をした後、あなた方が此の人たちにあはるゝは利益のあること。尚ほ其の人々が一言でも話して下さるならば、話の材料が利となるばかりでなく、尚英語をきくことが出来る。語は第一口であるが、次は耳であるが、それには其の國人から極めて熱心な話をきくことは一番の方法である。さうすると向ふでも女子大學で話したことが記憶になり、又私共から云ふと進んだ國の人から英語をきくことは双方のためになるから、來られたなら一寸まつて居る間、二、三年もきゝなければ來て、聞くことにして時をつかひたい。

[Prudent, Cautious]

それで私は、今朝はそれにきめてその考へを思うて今日の時をつかふことをきめたと云ふ処置は、此の間から言ふ英語で話した詞にあてると何になるであらうか。此の間の題は Prudent, Cautious であつたが、今この時をつかうことを考へ定めたことは Prudent になるか、又は Cautious にあたりませうか。私が試験をして採点をする。それを毎日計算するとあなた方は勉強するが、試験をせねばいゝかげんにするのでは態度が面白くないと思ふ。先づそれからなほさねば教育にならないと思ふ。私は此間大分説いたが、あなた方が字引を以てしらべて新しい経験をもたゝやうに話したが、意味がよくわかつて居らぬとすればよくないと思ふ。

今一つは、今日の學問は余り分量が多きに過ぎ頭に取り入れることが多く、その結果、不消化になる。体も此の通りで

ある。大体の病気はたべ過ぎからバクテリアはくる。コレラ、チブス、じんぞうえんなどは皆多くとりすぎて消化せぬことから起る。学問も此の通りで、同化せぬと頭がわるくなるばかりでなく、学問が要にならぬ。我々が食物をたべただけでは害になって益にならぬ。混雑矛盾をすると人格は少しも発展せず、教育は目的を達することを得ず。消化せぬことは誠に害がある。むやみに食ふと云ふは、やはり試験学問の弊である。試験がすむと本気で学問をせぬやうではだめである。分量ではない、仕方である。よく消化する力を養ふ。精選する働きが最も大切である。

今一つは、Prudent, Cautious の異なるところはどであらうか。注意と云ふことが両方にあるが、其の間にちがひがある。積極と消極、今一つ之れを応用せねばならぬ。今私が時間につき、昨日突然米國の代表者が参観に来る時をあげるとあなたの時をとる故、之れについて前のやうに考へた。さうすると双方ともよいと思うて考へてきめた行ひは、何れに入るであらうか。積極的と思ふ人は……

何故積極的かと云ふと、今から之れをすると云ふこと。するについては如何にすることが互のために利益であるかを考へるから、Prudent である。之れは応用であります。

[中表紙]

大正三年五月二十一日
大学部第二、三年にて

大正三年五月二十一日
大学部第二、三年にて

[宗教の第三階段]

宗教の第三階段

自我を宇宙的に向上し歴史的に發展する事、即ち人生価値の第三階段は天上生活、或は神秘歴史的生活とも言ふ。此の問題を徹底致しますると神秘歴史的生活と云ふ事になりますけれども、充分時をかけて申さないと解りにくいであらうから、今日は天上生活と云ふ事に就いて申しませう。

[天上生活]

天上生活とは Kingdom of heaven で、之れは限りなく發展し進歩するもの、肉眼を以て見る事の出来ぬものであるけれども、靈感を以て直覚し得るものである。その靈界と我が人格との関係は如何なるものであるか。如何にその両者が交通し得るものであるかと云ふ事を了解する事が必要であります。故にその関係を我々の Concept にする事が大切である。

The aspiration of man is inspiration of God. 人間の向上心と神の天啓とは同一物である。故に働きの方から言へば、神が我れの内に来り、我れは神の懷裏に入ると言つても宜しい。之れを Universality of consciousness、或は Mysterious enthusiasm 神秘的興奮、或は Mysterious spiritual attraction とも言ふ。その間に働きあふ力を

Response 感応、或は交感と言ふ。色々表象を作つて申しますと、つまりさう云ふ譬喩的な觀念で Reality を掴まへる様にしなければならぬ。

も少し物質的の例へを以て言ふ事も出来るのである。何となれば、物質は精神界の意義を現す為にあるのであるから。そこで先づ地球に譬へて言ふならば、地球には南北兩極がある。その力の一つである。その南北兩極の力の一つになったものが磁石である。磁石はどんな小さい針でも、何処にあつても、ちゃんと南北兩極を指す。さうして世界中の磁石は皆その力を感じるのである。それは世界の最も大きな磁石の力を受けて居るから、軟鉄をもつて行けば必ず感ずるばかりでなく、その力は殖えこそすれ減る事はないのである。夫れと同じく、宇宙には一つの Conscience がある。又我々個人にも Conscience がある。善を慕ひ、惡を改めると云ふ Conscience は、宇宙の Conscience に一致を求めるからである。その他私共が真善美を慕ふは、宇宙が真善美であるから夫れに感ずる故である。

今日の宇宙觀は、宇宙は意識的なもの或は精神的なもので、つまり宇宙にはちゃんとした目的を持つて居るもので、その目的を Realize しようとして居る。之れが宇宙の進化である。宇宙は常に Create されつゝある。夫れは各個人の目的と宇宙の目的とが相一致しようとする。恰も宇宙は一つの Cosmos で、無数の細胞を以て出来て居る。さうして無数の小さな Cosmos は此の Cosmos の働きに一致しようとして居る如く、宇宙全体の目的は各個人の Monad の目的にかゝる様に出来て居る。今日の神秘的運動、即ち現世界の裏に動いて居る処の活動を察知して、夫れを自分の内にも体現しようとする所から非常なる熱心が燃えて来る。之れは互に相一致しようとして求めて居るのであります。こゝが即ち、Inspiration を受ける夫れに由つて、我々は益々向上心が燃えて来る。夫れと同時に宇宙の活動が益々我々に感じて来るのである。

さて、此の天啓と云ふものは絶えずある。又、夫れを受けると云ふ事も常住あるのであります。私は之れを詞に Formulate して、斯う申したい。眼前に起伏する世相の下に深く流るゝ時代精神の中には屢、天啓の暗示があつて、吾人が根本要求たる向上心に触撃し、一道の閃きとなり、覺えず覺醒奮起せしむるものがある。吾人は深く時の休徴に耳を傾けねばならぬ。其の真意を覺らねばならぬ。而して之れに対する反応、震動を怠つてはならぬ。之れ、即ち天来の新機会である。之れを Inspiration、或は天籟の声と言ふ。Goethe もさう言うて居ります。さうして欧米の大革新とも言ふべき大活動は、Mrs. Beecher Stowe と云ふ婦人の頭に一種の天啓があつたのである。

其他、佛蘭西の大革命は Rousseau の頭に閃めいた。其の導火線とも言ふべきものは、実に彼れの民約編であります。之れは一種の小説、面白いお伽譚として読んだのである。併し奴隸解放、民権自由と云ふやうな事は実現せられたのであります。我々は斯う云ふ事については夢の如く感ずる事があるけれども、一度天啓に由つて覺醒せられたものは、如何なる困難があつても其の目的の為に突進するのである。今日

と云へども我々は、現実にて於て心の霊眼にて於て目撃する事が出来る。又、事実として感得しなければならぬと云ふ事を私は信ずるのであります。

此の前にも申した様に、之れを只客観的にばかり見やうとしたならば益々私共の力が放散して、目的を達する事が出来ない。私共は（空 白）余り、外界に注意を払いました過去の習慣を改めて、深く自分の内に立ち帰って徹底した生活の出来るやうに改めて、又其の習慣を作って自ら夫れを求める様に改めなければならぬ。

私はいろいろ歴史的にも現実的にも言ひ、又自分の経験にも訴へて、あなた方の頭を其の方に導く様に過日来勉めて居ります。つまり、第三階段に入らうとして居りますから、さう云ふ深い経験を自らしなければわからないのであります。私は今、我が日本は非常なる危機に遭遇して居ると思ふのであるが、あなた方は夫れはどう感ずるのであらうか。夫れが危機であらうか。又危機と云へば、何が危機であらうか。又さう聞けば、日頃見て居る人は直ぐさう感ずるに違ひない。皆さんは一家を治める主婦となる御婦人であります。又、お年から言っても私共よりは余程若い。夫れで今のあなた方の目下の務めは日々の課業を忠実に修める事で、さう云ふお方に世界東西の関係から推して国家社会の事をお話するのは、あなた方にさう云ふ経験が少しもないならば斯う云ふ事を申すのは誠にふさはしからぬ事になる。けれども今は非常なる危機であります。それがあなた方に感ぜられないならば、其の時の休徴が見えないならば、之れは大問題である。併しあなた方には感ぜられて居るであらう。確かにその希望があると思ふから之れを申すのでありますが、唯だ説くばかりでは駄目である。真に国家の危機に陥って居る事が見える、感じらるゝと云ふ様な頭でないならば、私共は将来益々心配に堪へない事になります。

此の前の日曜の晩に、私は桜楓会員に申しました。今国家は一大危機に遭遇して居る。此の Situation に於て、感ずる事が出来ねばならぬ。教育の事にしても私共は今まで非常な徒勞をして参りました。世界は非常なる勢ひを以て変りつゝある。此の時に於て、あなた方は夫れが見える様にならねばならぬ。此の大切な時に於て、内から爆発した。夫れは過去四十年間、教育も政治も実業も唯だ形式にばかり流れて、其生命を失うたからである。

最も人生を深くする処の宗教はどうであるか。我が国に於て最も人心を支配したる処の仏教はどうであるか。我が国固有の神道はどうであるか。又、最も文明の域に進んだキリスト教はどうであるかと云ふに、実に今日の我が国は国家的良心を失うたと云ふ有様である。之れを頻りに論難攻撃する人がある。又、之れを党閥として盛んに人を攻撃する。お互に自分の事は棚へ上げて置いて、何か隙をねらうて人を倒さうとする空氣が充ち満ちて居る。国家全体の事に就いて国家百年の事を樹立すると云ふ人が少しもない。唯だ地位の高い人個人ばかりでなく団体としても、天に向つて悔悟すると云ふ事が少しもない。東洋の詞で言へば、過つては改むるに憚る事勿れと言ふ。此の悔悟と云ふ事、此の天の声に対し

て心から悔悟すると云ふ高尚なる心がけがない。我々は夫れを待つて居るのであるが、孰れの団体からも起らない。

私は前からも申したのである。外の敵は恐れない。我々の恐るべき事は内訌である。内の腐敗、内の油断から国家は滅びるのである。真に之れを自分の事として自覚する責任心は何処にあるか。昔から言ふ様に、鳥之将死其鳴也哀 人之将死其言也善で、今日は国家の諒闇であります。此の時に於て、実に我々は国家の死、国家の破壊と云ふ危機に遭遇して居るのであります。我が国民は何故に、此の時に於て之れまでの非を悔い改めないのか。総ての事が形式にとらはれて、飽くまでも虚偽である。私共は真に謙遜になって、真に銘々の責任として悔い改めると云ふ事が何処かに起らねばならぬと思ふ。

今日は二十一日であります。も一 二、三日たつと御大葬になります。私共は弔式として此の御式に列したくないのであります。私共は国家の霊である魂を以て心から覚悟を定めて、謹んで奉送致したいのであります。

今日いろいろの心得をお聞きになったのでありませう。私はもっと深い覚悟を致したいのであります。唯だ々木に於て風を引かぬ様に、弁当や敷物の注意ではない。教育と云ふ事にしても、何処かに於てほんと一に感奮する処がありたい。之れは女子大学に關係のある最も近い処に於て、目に見えぬ働きが起つて居るのであります。あなた方も之れを感じて貰ひたいのであります。

今、我が国のあなた方に最も近い処に於て、あなた方を呼ぶ処の声も、今此に聞えて居るのであります。之れが天職をきめる上に密接なる關係があるのである。又、其の働きを密接に感ずる事が出来るのであります。

私の経験を少し申したいのでありますが、其の前に此の間なくなりました James 博士は、自分の研究の結論としてど一云ふ事を立てたのであるかと云ふ事を申したい。其の Topic が五つ程ありますが、時をとりますから終りの方だけを申しませう。

James は、

A new gest which adds itself like a gift, and takes the form either of lyrical enchantment or of appeal to earnestness and heroism.

An assurance of safety and a temper of peace, and in relation to others a preponderance of loving affection.

此 New gest は Ecstasy の如き最も亢奮した事。亢奮にもいろいろあるが、非常に満足し、愉快に感じて、力にも満ち愛にも満ちた亢奮の状態、其の最も新しきもの。

宗教の経験は、叙情的魔力、或は熱誠、豪邁に訴へると云ふ如き Form に由つて顕はれるのである。故に、何か非常なる満足とか、非常に犠牲の念が起るとか云ふ。之れは非常なる至誠、即ち Heroism である。火の中、水の中も厭はないと云ふ有様で、天の使命を受けたと云ふ心の有様は、何物をも恐るゝ事はない、心配などは少しもないと云ふ心持になる。

他に対して真に厚意を以て、仁者に敵なしと云ふ状態になる。

斯うなると自分に対しては平和、安全となり、他人に対しては非常なる愛、恵みと云ふやうな態度が出来て来るのであります。

之れに就いて、之れが唯だ抽象的なものではない。James は人の経験を皆挙げて来て、斯う云ふ結論をつけたのであります。

[自助団の会に就いて]

今度自助団の会を桜楓会の十年期の時に晩香寮で致しました時、翌日、坂谷市長が言はるゝのに、昨晚の会は実に愉快であった。森村翁も澁澤男爵も、非常なる感動を以て決心せられたのであります。之れは実に我が国に於ける結合的人格の誕生であると思ふ。さうして其の時の Vibration は確に人々の頭へ響きつゝあると云ふ事を私は信ずるのであります。故に私は一昨年から一寸二年と五ヶ月の間に於て、其の生活は成るべく其の天の Inspiration を感じて動く様に、其の声に従順に従ふ様に、之れは私の使命である、天籟の声であると云ふ事を信じて進むと決心したのであります。

先づ我々は日本国民として、日本国家として、明治四十五年間の過去の国家の態度として、我が態度として反省しなければならぬ。過去に於て我々は如何なる過ちをしたのであるか深く反省して、祈りをしなければならぬ。James は祈りに就いて、ど一言って居るか。

That prayer or inner communion with the spirit there of be that spirit “God or law” is a process where in work is really clone and spiritual enrgy flows in and produces effects psychological or material within the phenomenal world.

祈りは Inner communion。人格と人格、神と我との交通である。其処に非常なる感激をする、ほんと一に Devote すると云ふのは皆祈りである。祈りは唯だ Amen と言ひ、南無阿弥陀仏と言ふやうな詞ではない。寧ろ Activity である。Life である。我々の祈りは何であるか。今日は形式の弊の最も絶頂に登った時であるから、之れを改めねばならぬ。此に震動が起って来なければならぬ。

私は二年半程受けた天籟の響き、大きく言へば国家の使命として皆が感じなければならぬ。さうして其の声に従順に従はねばならぬ。其の Point として挙げて見ました。

先づ第一に、我々は自己に徹底した生活をしなければならぬ。人格尊厳と云ふ事、即ち我が人格を傷つける様な行為はしないと云ふ事。賄賂が公行するとか、金銭で操を変へるとか、何か人に頼らうとする事、何か資格を得やうとする事、僥倖を得やうとするやうな事は、皆改めねばならぬ。故に先づ第一着に（ 空 白 ）外、広く之を実現し、実際に之を基本とす。

第二、他人の靈性、人格を信じ、之れを尊重し其の發揮を助くるに勉め、又吾人の信仰は（ 空 白 ）、他の信仰の自由を尊重する事に勉むる事。今日、宗教と宗教との軋轢のあるも其処から起る事で、帰一協会の出来たのも実は此の爲であつて、此の寛容の徳が出来ていろいろの諸徳が進んだのであります。

第三、一切の人格体は独立の価値を有する。互に融合、協力して偉大なる人格体を作り、生命の完全なる發揮をなすに勉む。

第六、国家發展の原力は国民各自の人格、生命。

（ 空 白 ）挙国一致の献身によりて国力を充実し、以て人類文明に対する帝国の使命を行はしめん事をつとむ。

も一一つの天籟の声のやうに確信するのは、私共は我が帝国の使命を人類に対して遂行しなければならぬと云ふ事であります。之れを私は 七、八箇条に分けておきましたから、之れを読んで貰ひたい。私は、之れは帝国民の使命であると信じて居りますから、あなた方、母として一日も使命を忘れてはなりません。之れが第三の階段であつて、婦人の生活が此の第三の階段にまで進化して居るか否やと云ふ事を、次に論じなければならぬ。之れは抽象的問題であつて、今日の女性の実生活を論証として立論しなければならぬが、之れは次に致しませう。

終りに於て私は、あなた方の修養に就いて一言申して置きたい。今日の思想界の魁をして居る処の Bergson は、今日の女子の教育には非常に同情を表しまして、今後の文明は女子の働きに俟つ事が多いとし、女子は最も直覺力に富んで居る。さうして宗教的生活に最も必要なる要素が女子には最もよく發達して居ると言つて居ります。けれども亦一方には、女子は自覺する事すらも出来ないものと批難する声もあるのであります。

然るに此の校で、あなた方が自ら醒むる処があつたならば確に出来ると思ふ。故に先づ皆さんが使命に感じ、立つ処があるならば、之れが修養上最も大切な事であります。そこで此の考へを最もよく表して居る処の詩人の詞をひいて御参考と致しませう。

あなた自身の未だ曾て（ 空 白 ）試みて見なかつた処の才能におたよりなさい。丁度あなたが無限なる神におたよりなされる様に、あなたの人格におたよりなさい。あなたの人格、靈性は其の全体から發射して出る処のものである。夫れにおたよりなさい。あなたは夢にも思はなかつた。如何なる力があなたの中にあるかと云ふ事は、あなたは少しも想像しなかつた。夫れは唯だ小波ではない。実に偉大なる太平洋の到底測り知れない処の深い海の如きものである。斯くの如く深い海の底に、如何なる力があるかは少しも試みしなかつたのである。黙して居る心がダイヤモンドの洞穴の上を今歩いて居るが、あなたは其処へ行つて其の宝をお探しなさい。其の欲しいと云ふ、誠に好ましい処の風のやうな熱情に導かるゝ事に従ふならば、非常なる力を見出ださるゝ。あなた方の力に制限を加へるものは何処にもない。あなたが Creator を信じ、自分に信仰を持って進むならば、如何なる勝利をも得らるゝ。又其勝利は限りなきものである。遂には、或る脚が未だ曾て達しなかつた所の一番高い階段にまで登る事が出来る。何故にあなた方は夫れを自分のものになさるゝか。突進なさい。遂行なさい。

あなた方には未だ試みない所の才能がある。つまり、あなたの向上心とあなたの天啓におたよりなさい。Press on,

achieve, achieve と云ふ声は今、耳に響いて居るのではないか。其の信仰にたよる事が今日最も大切な事であります。

“Trust in thine own untried capacity
As thou wouldst trust in God himself. Thy soul
Is but an emanation from the whole.
Thou dost not dream what forces lie in thee,
Vast and unfathomed as the grandest sea.
Thy silent mind o'er diamond caves may roll;
Go seek them, but let Pilot Will control
Thou passionst which thy favoring winds can be
“No man shall place a limit thy strength;
Such triumphs as no mortal ever gained
May yet be thine if thou wilt but believe
In thy Creator and in Thyself. At length
Some feet will tread all heights now unstrained
Why not thine own? Press on! achieve! achieve!”

[中表紙]

大正三年五月二十八日
大学部二、三年にて

大正三年五月二十八日

第二、三学年にて

第三階段の宗教的生活が女性の間に実現されて居るかと思ふ問題に答へますに、十九世紀の間に現れました婦人の實際生活の事例を以て、之れを証明することに致したい。

先づ、西洋及び東洋におきまして女性の宗教家三名を現代の代表者として挙げまして、間接に宗教界に働きましてところの代表者を挙げて論証することに致したいと思ひます。

[Blavatsky Occult 宗 Theosophy]

其の第一に挙ぐべき人はロシアの皇族に生れて、一地方の日本で言へば知事位な位地の人に嫁して一家を治めた婦人で、Blavatsky と言ひます。此の人は其の後、印度の西藏に入つて Occult 宗の行者について七年苦行を積んだ人であります。夫れから Theosophy 霊智学と云ふものが宗教として勢力を占むるやうになつたのは全く此の婦人の働きで、主として欧米に広めました。併し此の人のやり方はヤソ教の宣教師のするやうな風でなく、只自分の信ずる処を求めたい人に伝へたのである。昔から宗祖と言はるゝやうな人は、大抵迫害にあふものであるが、此の人も北米合衆國で殺害せらるゝと云ふ程の最後を遂げた。Blavatsky は自分の書いた Isis は是れから二十年の後、世に公にしてくれよと云ふことであつたが、死後十年目に公にせられたのである。此の人は天啓の暗示を受けた人であるけれど、亦非常なる精力家であり、又非常な集注の出来る人であつた。又非常な学者であり、語学者であつて博学であつたと共に、哲学的頭脳を以て複雑な思想を組み立つる能力もあつたのである。

[Isis unveiled]

いろいろの著書の中で最も大きなものは Isis unveiled と

云ふ本である。Isis と云ふ詞は埃及の極古い神様の名であつて、始めは地球の神様であつたが、後には月の神様となつて居らるゝ。さうして埃及の神様を調べたものに、此の神様は天の天王であつて太陽を衣服に着て居ると書いてある。

[デメター]

希臘ではデメターと云ふ神、Io と云ふ神と Isis の神とは同一のものであると言つて居る。ローマの共和時代に此の Isis の神が入つて、ローマ人から非常に崇拝せられたのであります。それから希臘のものに、この神は人間の総ての病を癒やすところの力ある神様であると記されて居るのであります。

[ギヤレン]

夫れから希臘のギヤレンと云ふ医師の書いたものに、其の人の時代に万病を治すものを Isis と言つて居た。さう云ふことから来て居る。

[マリー]

其の後、又此の女神は聖母マリーにやどつたと云ふ考へもあります。此の考へは我が日本の天照大神様と似たところがある様である。支那でも印度でも余り女を尊ばなかつたのに、日本の初めの神様は女性でいらした。夫れと同じやうに Isis は女性であり、其の衣服は日輪であつた。埃及の方から其の考へが猶太教にも伝はつたかと思ふ。

[クリストについて]

クリスト教にも、クリストの御母様のマリーと云ふ御方は神聖なる御方で、此の御方からクリストは生れられたのである。さうしてクリストは女性を尊敬せられたのである。斯う云ふわけで、東西非常に婦人に対する考へが違つて居るのであります。

日本では天照大神様から御生れになったのが天皇で、天皇は神聖な者からざるものであると云ふ思想が大和民族にあるのであります。夫れで日本でも昔は、女と云ふものをつまらない者とは思はなかつた。自らも中々勢力のあるものであつたと見える。

Blavatsky は、Isis と云ふ女神の名を以て此の本の名としたのであるが、此の人は婦人であつて神の Inspiration を受けて自ら預言者の如く宇宙の真理を明し、又二十世紀の文明の兆候を現して居ります。Blavatsky はさう云ふ真理を預言して幕を開いたのである。さう云ふ意味で、此の Isis の序幕開きと云ふ名をつけたものではないかと思ひます。

私は Blavatsky が之に Isis と云ふ名をつけたこと、及び Isis の幕を開くこと、十九世紀から女の神様が幕を開けておいでになる、男が頭をさげて崇拝しなければならぬと云ふ時代の幕が開いて来た。そこで先づ、今人間となつて居る男性とか女性とか云ふものは本は神様から生れたもので、我が日本でも神様は親のやうなもので、人類を育てゝ下さるものであると云ふ考へがあります。其の神様は埃及でも日本でも女性である。然らば果して其の神様は女性的のものであらうか。男性的のものであらうか。或る意味から言へば男性的のもののやうでもあるけれど、亦非常に女性的なところがある。故に今日の神様は平和を旨とし、母の如き情を以て慈母の如くに人を可愛がつて下さる。さうして美的なものである。

同情的である。此の平和、愛、美、同情、産むと云ふことを女性的と見ると、今日の神様の御姿は如何にも女性的であると言ふことも出来る。

[Fatherhood]

クリスト教の三位一体と云ふことは、神様はFatherhoodのもので男性的であります。靈性はMotherhoodで、其の間にクリスト即ちSonhoodと云ふものがある。神格の三方面と云ふものは斯くの如きものであります。

[Intuition]

智の方面から云ふとIntuitionであるから、解剖するよりも寧ろ其の真相を直感するのが最も婦人の特色である。斯う云ふ方面から婦人は神の最も深いInspirationを受けることが出来はしないかと思ふ。

[Self-realization, Self-creation, Self-subsistence]

先づ今日の時代の特徴、即ち此の時代の人間の新要求と云ふものは如何なることであらうか。英國の倫理学者のグリーンはSelf-realizationと言ひ、ベルグソンはSelf-creationと言ひ、オイケンはSelf-subsistenceと言つて居る。此のSelf-subsistenceとは自活自衛的精神生活で、自分の生活して行くに必要な手段、働きは自分から起して行くと言ふことであつて、之れに大切なことは男も女も自覺と云ふことである。カントはThings in itselfと言ひましたが、ショーペンハウエルは更に考へを進めて、内から始めて行かねばならぬと言つた。之れが今日の人類の要求であります。

自分の価値を作らう。自分で自分を見出だして行かう。自分の特色を発揮して一つの光彩を開展しやう。夫れには徹底しなければならぬと云ふことが皆の要求である。故に我々の修養は之れから始めて行かう。之れを第一階段として、第二階段は之れを拡充しやうと云ふ自我拡充。第三階段は之れを無限にしやうと云ふのである。

併し第一の自我に徹底しやうと云ふ中にも神がある。人がある。故に、神を離れ人を斥けて自我を見出だすと云ふ風に此処を間違てはならぬ。其の修養が東西融合して一致するやうになりました。

[Yoga, Yoga school]

此の自我に徹底しやうと云ふ集注がBlavatskyに出来たかど一かと云ふこと、研究しなければならぬ。先づ此の人が西藏に入って七年間苦行を致しました。此の時始めて徹底したのであります。夫れをYogaと言ひ、此のYogaと云ふ修養を教育に用ひやうとしてYoga schoolと言つております。斯う云ふ悟りを開いた人があるかど一かと云ふに、私は未だきかないのである。Blavatskyは婦人の身、特に外国人でありながら、命がけで此の危険極まる西藏の地に入って難行苦行を積まれたのであります。

[真我に達する階段について]

此の修行をするのをYogaと申します。Yogaとは徹底することで、真我になることである。然るに兎角我々は皮相のことにばかり走り易いものであるが、其の真我に達するにはいろいろな階段がある。

先づ第一に、呼吸を止める。第二に感情をとめる。第三、

瞑想に入る。第四、注意力の集中。第五、考察、思弁。第六、一心不乱になると云ふ順序にしなければならぬ。

Blavatskyは七年間の修行を積んで、非常なる精神力を発揮することが出来るやうになった。さうして此の人は、TheosophyをInitiateしたのである。此のTheosophyは広く東西思潮のあらゆる方面から網羅し、研究してConcordした。此の人は迫害せられわく言はれたから、此の人の本をよんでも読んだと言はぬ人が多い。けれ共よんで居ることは著書によってわかる。今日言ふところの内在的神と云ふことなども、此のBlavatskyに負ふところが多い。此の点について、女の身を以て一番の魁となつて奮闘努力して第一義に達したと云ふことは、私共は小Isisと言つて認めらるゝと思ふ。

[Point Loma]

さうして此の人の後をついだのは、男でジャッジ、女ではベザン、Point Lomaではミセス チングリーと云ふ人で、Yoga schoolは今も中々盛んなもので、数十万の信者を有して居るのである。

[Eddy]

次にはMrs. EddyのChristian Scienceである。之れはMrs. Eddyが自ら自分の向上心にInspirationを与へられて多くの病人を癒し、又心の煩悶を救うて、兎も角も何百万人と云ふ人に安心を与へた。之れはChristian Scienceと言つて居るが、一つの信仰をもつて進むのである。斯う云ふMovementが社会に起つたのである。兎も角も婦人の身を以て多くの人を覚醒したと云ふことは、女性の宗教家としてかぞへることが出来ると思ふ。

[天理教について]

第三は日本の天理教教祖 中山みき子と云ふ人。此の人も一つの信仰を以て生命、財産を抛つて世を救うたのである。夫にも親類にも非常な反対を受けながら、家蔵を売り払うて、全く宗教のためにしたのである。さうして始終警察からも迫害せられたけれども、少しもひるまずして、始めは病氣の人を救うたのであるが、夫れだけではいけないと思つて、精神上の慰安を与へることに勉めたのである。故に今では三百人からの信者があると云ふことです。

此の三人は孰れも完全無欠ではないが、兎も角、天の声をきいて自分の使命を感じ、死を決して世に關うて宗教のために一身を捧げた人であります。

夫れから十九世紀に於て女性でかくの如き自覺を得たのみならず、自分の天職を認めて生命、財産を抛ち、死に至る迄確信を一貫したと云ふ人は枚挙に遑なき程である。けれ共其の中で、女性の身であつて男子が崇拜して、あなたに由つて救はれた、あなたに由つて生れかゝつたと言つて感謝した程の大人格、小さい神様、さう云ふ人を思ひ出して研究するとよいと思ふ。

[ナイチンゲール]

先づ第一にあなた方の知つて居る人は、ナイチンゲール。此の人は大に感奮するところあり、後に獨逸に学び看護学を深く究めて、クリミア戦争の如き大戦争に出て数多の傷病者を

救うたために、人々は其の後姿を見ただけでも神の如くに慕うたと云ふことであります。斯う云ふことは非常なる人格があり、非常なる信仰がなくては到底出来るものではない。

[アグネス ウェストン]

アグネス ウェストン、此の人はやはり英國の人で、英國は海を環らした国であるから、海で死する人は一年に何千人と云ふ限りが知れぬ。故に此の人は、船のりの海でなくなった人の遺族を救ふと云ふことについて使命を感じて、一生を捧げたのである。此の人は船のりに慰めの手紙を与へる。其のCopyの一番多い時は二万一千程出たと云ふ。又、寡婦のために一軒に二百磅の年金を募って居るさうである。此の尊い働きのために船のりの人格を高め、家庭をよくし、其の子供の教育をよく行き届くやうにしたと云ふことは非常なる働きである。

[ブース、エリザベス フライ]

ミセス ブースは、救世軍を以て総ての人を救済したのである。エリザベス フライは監獄の改良家である。十九世紀の初めに於ては、監獄は非常に残酷なものであった。然るに、エリザベス フライが或る監獄に行き、三百人の女囚が子どもをつれて居る其の惨状に感奮して、万難を排して監獄改良に身を委ね、遂に議会を動かして着々その実をあげたために、今日では各国から此の人を聘するやうになって世界の監獄が変って来たのである。

[南北戦争]

ビーチャー スタウの小説 アंकルトムスキャビンは、丁度其の時代に天の声の如く響いたので、遂にアメリカの南北戦争の導火線となり、人身売買を禁止し人格を尊重するやうになったと云ふのは、此の人の筆の力、否其の人の人格の力、即ち精神の力であります。

[クララ バルトン]

ミス クララ バルトンは、アメリカのナショナル……と言はれた人である。此の人はいろいろな戦争にも尽力したのみならず、総て天災、人事から起るところの世界の難儀を救うて、多くの人を救済して、一昨年九十歳でなくなったのであります。

斯う云ふ人々は十九世紀に於て数限りなく出たのである。さう云ふ婦人があるから、男子が頭を下げて崇拜するやうになったのであります。斯くの如き婦人の至誠、愛の力、美、感化、同情の力によって世の中が改めらるゝ。之れ程強い力はないのである。故に今日は婦人の覚醒の幕開きである。其のVisionをBlavatskyが見たとも言はるゝのである。さう云ふ点を以て、御婦人は宗教的である、神の如きものであると云ふことが言はるゝと思ふのみならず、御婦人として、団体として非常なる使命がある。其の使命を認めたならば、生涯を捧げて進むと云ふ覚悟をきめることが大切であります。

[中表紙]

大正三年六月一日

予科及び一年にて

大正三年六月一日

予科及び一年にて

前の面会の時に問題が出たと思ふ自由と云ふことが、此の学校の主義であるが、凡て規則によらねばならんと云ふが、それは今日は如何であらうか。

自由と我儘、高慢と勇氣、謙遜と卑怯と云ふことなどが間違ひやすい。之れは今日説明しますが、真の意志の自由と我儘、我儘に陥りやすい経験をまとめて見ておくことが必要かも知れぬ。之れは今日の講義の終りに研究せらるゝがよいが、それからきめておきます。

[精美 Refine]

今日は六月一日で、ローマ字のSeibi nare がありますが、之れは如何なる意味であらうか。何か精美について経験が出来て、いくらか参考にでもなるやうなことがある方は？

之れは英語ではRefine と言ふ。ベンジャミン フランクリンは文学者であり又電気を発明した、英國では大人格の一人である。欧米の人は、よほど修養について工夫した経験は沢山あるが、フランクリンは少しも人に依らず、自ら修養し又学問をした創始力のある人で、学問の仕方、修養の仕方を凡て十二に分けて、有効な経験を つんだ人である。

精美なれと云ふは、只徳目位で、精美と Refine とは極近い意味がある。精美は日本語では優美とも言ふ。之れはやはり Refine と云ふことから来て居る。我が国は沢山外国の思想が入って居る。その意味をほんとに解するには、もとの考へをとることが大切である。それには外国の詞を一語位知ることが大切である。精美は Refine と云ふことが出て居る。

[Civilization、Cultivate、Culture]

文明開化と云ふ語がある。Civilization、之れも皆訳した語である。それには階段 Stage がある。一番下を野蛮人、次を未開、半開、開化。英語でCultivate、Culture、Civilization、Refine 等がある。

Cultivate は農業の耕すと云ふことから来て居る。Till と云ふ語も動詞で、耕すと云ふことになる。今一つ Husband、之れに ry をつけると耕すと云ふことになる。Cultivate の方は、時に物質的に、時に又精神的にもつかふ。かく人間がだんだんよい刺激をうけて育つことを云ふ。

Culture は全く修養のみにつかふ。之れは多く、個人的につかふ。Civilization は人類、国民の修養と云ふことにのみつかふ。知力、実力凡てあらゆる人間の精選されたのを Civilization と言ふ。

[金剛石の御歌について]

Refine は個人的にも国民的にも言ふ。re と fine との二つから出来て居る。fine は美と云ふ字、re は再びと云ふ字である。幾度も幾度も精選して出来た語で、精は純と云ふことである。美は交りけのない美。故に之れを真髓とも言ふ。

To be refine と云ふは、純潔なれ、又は自我に徹底する、自分の真髓に達する、自分の本性を発揮する、純なるものに自分をすると云ふことで、之れを植物にたとへてある 昭憲皇太后の金剛石の御歌はよくあつて居る。此の玉を磨き上げることが Refine である。即ち人格をみがく、徹底すると云ふことになる。此の意味が広くなると、人格が社会的性質をおびて来る。

[文明の感化について]

各人が人格をみがき、之れが国家となる。此の国家をさして文明国と言ふ。Refinement of nation とか、又 Civilization とも言ふ。我々が自分を修養する、即ち切磋琢磨すると云ふことである。Refinement の反対は野卑、又は動物的、野性的、乱暴である。無秩序な国民、野蛮である。未開人の ニグロ、アメリカンインディアン、ハワイアン などは野にあると如何にも動物的で、考へることも何でも動物的であるが、文明人の中におくと修養されて来て、少しも白人とちがはぬやうになる。

あなた方が入学の時と卒業の時との写真を見ると、教育をうけたのと而らざるのと心持が写真でわかる。非常に野性的なものと Refine なのとすぐわかる。かくの如く容貌でわかる。昔は故郷に錦をかざると言ったが、今日は錦を心にかざるのであるけれ共、あなたが修養が出来ればあなたの態度や顔にあらはれる。あなたが夏休みに郷里にかへられると、何にも言はないでも郷里の人にはすぐわかる。かくの如く其の写真でわかるから、況んや生きた顔にはよくわかります。あなた方の気分はすぐ体に影響する。Refinement が出来ると体がかはって来る。優美になる。あなたの趣味の通りに体がかはって来る。今迄のわるい癖、癪癪なのや角をとり、みがいて光りの出るやうにするのが Refine である。

体を支配することは中々むづかしいが、体が出来れば精神もいつて居る。腸胃の弱い人は、形からがよい。体のわるいのは自分でなほすことが出来る。之の毎日あなたがよい時には○をつけ、出来ぬ時は●となし、○に近いのは□とし、●にちかいは△としたのである。我々は健全な体に作ることが出来たら、もはや出来たと言ってもよい。

[消極の道徳]

切磋琢磨すると云ふことは、多くは克己と云ふこと。之れは消極道徳で、勿れと云ふ道徳である。偽る勿れ、我まゝする勿れなど、低い欲をおさへる禁欲と云ふ方の道徳である。

[積極道徳]

而し之れも忽せには出来ないけれども、今日は寧ろ反対の方に向ふべきことがわかる。之れを積極道徳と言ふ。文明は積極の道徳で、Culture はのぼす、育てると云ふことで進歩と云ふことが必ずある。進歩は角をとる、雑念を去ると云ふことだけでは出来ない。新しい要素を加へて創造する Creation と云ふことになる。故に Refine は積極の意味になることがわかる。より Create する。Refinement、Civilization、Culture と同じなれど、一方は機械的に、一方は生物的に我々の道徳は生活することで、生活は進歩、即ち創造することになる。

[動機を精選すべきこと]

故に Refinement、美をやしなふことは体にもあらず、行ひにもあらず、今一つ深いところにある感情、情緒、趣味、精神を養ふ動機を精選すると云ふこと。感情の融合、知識の統一、意識の統一、心の情をきれいに純潔に美しくする。趣味、理想を清く高く潔くすること。之れを勉めざれば、行ひをよくせんとしても体をよくせんとしても出来ぬ。Create すること又修養とは、つまりその自分の心情にある深い感情、心の傾向、目的、物心の動機が大切である。之れをなほさねば他は皆偽り、偽善となる。Refine は所謂 Culture である。精神状態の精選したことをよく悟らねばならぬ。

我が国の武士道もすたれ、商業道徳は殆んどないと言ふのは、皆其の信念と云ふ根底がないからである。之れは各宗派とも言つて居る。仏教、基督教、儒教、科学、又は高等師範の如き皆が殆んど一致して来た真の人格は、深いところがなくてはならぬと云ふことになって居る。我々をおほうて居る雑物をとって、真の自我を出だす。之れを高尚な趣味と云ふ。此の高尚な自分と云ふものを出すことが、宗教の修養であることに一致して居る。故に最も根本の自我を発現し、それに真の力を与へ、之れを解放することである。之れがわかれば自由と我儘、幸福と快樂が自らわかる。あなたが精美になる根底義はこゝにあるのである。此の経験をつまねば真の自由が得られぬ。之れが世間で色々煩悶し、又虚偽の行はるゝものである。

[中表紙]

大正三年六月十五日

一年及び予科にて

大正三年六月十五日

大学部一年、予科にて

今日十五日で、題は善と云ふ (Be good) ことである。今月の終りが多幸、To be blissful。之れは善からだんだん発達して進むので、之れを一つに關係をつけて考へた方がよい。之れにつき木曜日にあなた方を材料にしてタイプライターで出すから、尚くはしくおわかりであらう。

[自由と我儘について]

此の間の、自由と我儘との關係並びに區別と云ふことが、非常に關係をもつて居る。我儘と自由につき大分考へに合ったやうであるから、其の方から話して今日の問題に入るとよからう。あなた方の中には我儘と自由とはちがふ、或は正反対であるとかいてあるが、此の二つは日常生活に混じやすいから、今一つの方面を研究しなければならぬ。それは全然共通点はないものであらうか。此の方を考へると、尚明かになるかと思ふ。

我儘と自由とは如何様に共通で、如何やうにちがつて居るであらうか。我儘とは自分の欲望をみたすことである。自由

も我儘も衝動、欲望を思ふまゝにはたらかして満足させることが我儘であり、自由である。之れは共通の点である。而らば此の二つの異りはどの点であらうか。

[肉体的欲望、知的欲望、精神的欲望]

我々の求むる欲望をわけると、(1)肉体的欲望、物質的欲望 Physical desire、(2)知的欲望 Mental desire (名誉心、競争心等)、(3)は精神的欲望 Spiritual desire である。

此の中、肉体的欲望は一番低級なものである。けれども之れはわるい、又罪悪であるとは言へない。なぜなれば、体の欲望を満たさずには忽ち生活が出来なくなる。本能は遺伝や習慣から来て居るが、遺伝がなければ生の保存、持続と云ふことは出来ない。故に本能は決してわるいものではない。

知的欲望は、前のとは稍高級なものである。其の本になるところの好奇心、真理を発見したいと云ふことは必要である。故に一名、之れを徳欲とも言つてよい。故に之れは第三のものにつけてもよい。さうすると何れの欲望も皆よくなる。

[Slave]

遺伝から来る本能もよいのである。之れがなかったら、進歩も変化もない。進歩的变化がなくては生活はない。昔は之れを皆わるいものとし、人の意志によって圧迫して道具のやうにした。此のことを Slave と言つた。

自由になって今日の文明が出来た。矛盾統一せぬが、我儘と言はれたが、尚よくわかるやうにするには、今日の人は道徳のみでは満足しなくなった。今日の標準は何によつて定めるのか。知的欲望と云ふも、物理学、音楽、活動写真なども皆欲望で、何かを捨てねば出来ぬことがある。皆の言はれることは皆一部分の真理はあるが、之れを一つにまとめて一つの真理にならぬと、頭の中が混雑して誘ひになる。徹底と云ふは此のことで、考へるときも色々な方面から考へて、まとめて一つの真理になるまで考へることが積極である。之れは十分考へて後、事を定めることである。

あなた方から出た考へを分類すると、第一、理性と云ふこと、知力の方から見たこと、境遇と云ふことも考へねばならぬ。目的=理想、心情、意志活動=行為。之れを分類すると知、情、意の三つになる。

[真我]

欲望がかたまつて動機となり、動機が複雑になつて意志となる。意志を実現すること、意志通りに行ひ発表することが自由で、其の中には成効することの意味がある。意志は其の根には潜在意識がある。宇宙の意志と共通して居る自己と云ふものを靈性、又は真我(大我)と言ふ。之れは高尚な欲望をもつものが根底にある。故、神聖なものもあれば、又先祖からの肉体的遺伝もあり、其の中には善悪あり、欲望が多くある。之れが良心の働き、又知力の働き、意志の働きにより、それが一つにまとまつた処の意志になる。

之れまでには色々な感情があり、又之れをよく排列さすための理性、知力がある。之れに取捨選択の力もはいつて居る。之れを意志と言ふ。之れが完全であり十分働きをとり、之れが反対の力に勝利を得て行ふ処の行為、及び之れにより人格の発現するものを自由と言ふ。故に自由には意志が其の根底

をなして居る。自由は意志によつて出来るものである。意志は力であり、感情であり、欲望である。故に意志だけでは盲動になるから必ず之れに光りがそふので、之れは知、即ち理性である。之れは矛盾、衝突を防ぎ、調和、整理さす。此の自由を得る働きは、知及び理性が加はり、全体の統一されたものでなくてはならぬ。

[我儘と自由の違いについて]

我儘には感情が伴ふ。即ち之れは一時的の快樂はあれど、苦痛が伴ひ、良心と本能との矛盾がある。良心の叱責が伴ふものである。又、肉体的苦痛も伴ふ。之れに反して自由は、良心の叱責なき満足の感、即ち幸福の伴ふものである。永久的価値の感がある。境遇から云ふと、我儘の境遇は狭隘であるが、自由の方は制限を越えて、全体にわたる処の自己であり行為であると言ふことが出来る。

我儘の結果は退化の結果を生じ、自由は自分も、社会も、国家にも進歩、即ち善建設の結果を生ずる。(To be good) 故に自由は選択なり。悪を捨て善を選ぶ。我等の生活は常に選択である。知は常に判断の働きをする。意志は遂行する。之れが意志の自由である。意志の大切なるは、目的、理想を実現することが自由である。自由の生活をする人には、必ず大目的、大理想がある。此の目的は我々の意志、及び人の意志が一致統一すべきもので、此に於て矛盾、衝突、損失、後悔がない。此の階段が善から多幸に至るまでである。

To be good——To be blissful

あなた方が真に価値ある生活をなさるには、ほんとの自由、即ち一部の自分に捕はれた我儘から脱して、此の階段にまで至らねばならぬ。

[中表紙]

大正三年六月十八日

大学部第二、三年にて

大正三年六月十八日

大学部第二、三年にて

此の前の木曜日にあなた方の考へを聞きに参りまして、夫れから問題を出しておきました。未だ詳しく皆さんの答案を調べる暇がありませんでしたけれども、兎に角、真面目なる態度の出来た事を喜びます。

斯う云ふ根本な問題は只空で考へて居ても出来ない事であるが、丁度あなた方の適切な経験が出来て来ましたから、如何にして、又如何なる形式をとつたならば、あなた方の熱望して居る生活に入れるかと云ふやうな問題を、も一つ考へた方がよいかと思ひます。それで今研究の材料をあなた方に提供したのであります。

[二年生からの問題、三年生からの問題 宗教及び宗教生活]

宗教生活とは何ぞやと云ふ事。

如何にして宗教生活に入るべきか。又、如何なる形式を

とるべきかと云ふ事でありました。

宗教とは、此の前申した様に生活である。宗教生活とは何かと云ふと、天と云はうか神と云はうか実質である。

[加藤弘之氏及びHaeckel]

宇宙は機械である、物質である、自然の法則に支配せられて動いて居ると云ふ宇宙観を持って居らるゝのが、加藤弘之君、或は独乙のHaeckelと云ふやうな人々である。神と云へば万有で、所謂万有神教である。其の物質的方面を觀て居るのを唯物論と言ふのであるが、斯う云ふ宇宙観を懷いて居らるゝ人の生活は宗教生活と言ふ事が出来るであらうかど一か。

又、宇宙には自分と同じ様な考へを持って居る所の無限絶対のものがある。さう云ふ無限に対する觀念から行為をして、夫れを礼拝する為に宮を建て、物を捧ぐるのは宗教生活であると思ふ人は。

[美]

人生と宗教、道德と宗教、学問と宗教、芸術と宗教、皆關係があつて離るべからざるものである。然らば其の理想は何であらうか。

理想と云ふならば、必ず其所に完全と云ふ事を意味する。欠点のない、矛盾のない、醜とか病とか不幸とか云ふ事のない完全なる生活。此の総てのものが調和し一致して居る所の生活をさして、美と言ふのである。

美化し或は醇化すると云ふ事もあつて、今日ではあなた方の毎日の生活を美と云ふ所に進めやうとする。夫れを徹底すると云ふ、其生活を味はう、其の生活に入ると云ふ事は、其の理想の発現を云ふのである。其の理想の発現は如何にして味はう事が出来るか、如何に創造して進む事が出来るかと云ふ事が問題になるのである。

[形式]

其の問題に答へるに、先づ二つの方面が大切である。其の本質を生活に実現するに必要な事は、形式である。宗教の生活をするには何かの形式に現すべきであるが、我々は如何なる形式を選択すべきであるかと云ふ事になって参ります。之れは根本問題ではないやうであるが、此の為に總べての人が行き悩んで居るのである。

此の問題に答へて、私は宗教生活は何かの形式に由つて現さねばならぬと思ふ。丁度精神と身体とが離れられない様に、活動或は生活をして行くには、ど一しても形式を要するのである。外に現はるゝ形体と、目に見えない霊体とがある。真理とか教条とか云ふものと、夫れを表す材料とが、ど一しても我々はさう云ふ形式に従はねばならぬ。

[形式の変化]

然らば、其の宗教的形式と云ふものは一定のものであるか、千差万別のものであるか。又、其の形式と云ふものは昔から決して変らないものであるか、或は時代と共に変化するものであるかと云ふと、やはり時代と共に変るものである。

故に宗教の歴史を研究して見ると、Christ、釋迦、Socrates、Mohammedと云ふ様な大宗教家が現れる度に形式を改めた。其の為にChristは十字架につかれ、Socratesは毒を仰がれたのである。Christは非常に偽善者を責められた。欧羅巴で

も大きなお寺へ行くと、僧侶が袈裟をかけて居る事、蠟燭を立てゝある事、手を合せて拝む事等、我が国と同じ事である。斯う云ふ形式をさして宗教生活であると思ふから、間違ひである。

其の形式、儀式をさせやうとする。其の形式と利害の念、此の二つのものが昔から今日に至るまで、人の争ひをする本となつて居る。故に生命なき形式にあてはませやうとするのではない。形式は生命のあるもの、形体は実質の伴うたものでなくてはならぬ。今日の異端 Heresy は、明日の正当派 Orthodox である。

然らば、其の形式は如何に変るべきものか、又千差万別の中で孰れを自分は選択すべきものであるかと云ふと、第一に如何に変遷するものかと云ふ事から考へねばならぬ。之れは大分深い問題で、皆さんが十分考へねばならぬ。私共の思想は行為を産み、行為は又思想を生むのである。故に自分の考へる力が人格となり、自分の人格が思考力となるのである。故に我々の人格が時々刻々に進化する。如何に我々の形式も亦、時々刻々に変るのであります。そこで、如何なるものを選ぶかと云ふと、自分の生活に最も適当したる形式を選択するのである。故に、形式はど一でもよいと云ふ事はない。

第一に我が人格は神の発現である。故に第二の階段に於ては之れを社会、国家に現し、第三階段に於ては之れを宇宙間に現さねばならぬ。

然らば、今日あなた方のとるべき形式、今日我々が集中心として求むべき要は孰れに於て宜しいか。今日、私のあなた方に話すべき問題であります。其の目標は何処におくべきかと云ふと Beauty である。美の生活である。之れが今日まで寂びて荒びて居った。之れを欠いて居るから、時々あなた方は病気になる。總べての病氣は之れを欠いて居る処から起ると私は診断する。先づ自然に現れて居る所からお互の間にまで其の美を求めねばならぬ。

[Ibsen イブセン曰く]

Most surely is there beauty in ordinary lives of men. Though none but only artist can see and appreciate it.

美の趣味は通常の人の生活には誰れにでも必ずある。併し乍ら美術家の外には其の美を賞鑑し直感する事は出来ぬと言つて居ります。

此の美術家と云つても、必ずしも Ibsen の如き大文豪、Raphael の如き大美術家ばかりを意味するのではないが、あなた方は其の趣味を養ふ事に勉めて居らるゝかど一か。我々の内に、美とか善とか健全とか云ふ事が出来て始めて宗教的生活と言ふ事が出来る。其の本質が出来ないうちは如何に形式をとつても、夫れはほんたうの宗教生活と言ふ事は出来ぬ。其の形式は自分に適するものを取らねばならぬ。併し此の形式をとつて居るものは宗教生活でないと云ふ事は言はれないのである。あなた方が昨年夏期寮でなさった事の通りを今年なさるならば間違ひである。Rhythm であるから、毎年毎年新しく生命と云ふものを育てゝ行かねばなりません。

[Ibsen イブセン曰く]

The only thing I love about liberty is the struggle for

it. I do not care about its possession.

私の唯一つの愛するものは何であるか。自由を得やうと思つて奮闘し、一生懸命に人格を高める。其処に満足があり、夫れを最も喜ぶのである。

[中表紙]

大正三年六月二十八日

桜楓会例会にて

大正三年六月二十八日

桜楓会例会にて

[用意のたためこと]

今朝、会にお出になるとき、桜楓会の精神をききたいと思つて来られた方、又希望を述べたいと思つて来られた方もありませうが、若し聞きたいと云ふ考へなら先輩の方からきくとして、それにしても用意が大切です。私も今日の例会のあることを知らなかつた。こんなに話が出ないならば時間の浪費 Waste になる。先づ用意がたためことと、今一つはそんな貴重な問題ならばあなた方が十分考へて見なければわからぬことである。又、容易にまとまらぬことである。故にこんな会に出る時は、自分の考へをまとめて来なければならぬ。その位深い神秘的な永久的な問題であるが、其のときはその時丈けの頭をまとめることが、あなたの宗教生活に大切である。かうしてまとめたものをあなたの Card にかき、若し桜楓会に欠点があればそれをかいておいて、出来る丈け簡単に言ふ丈けの用意が必要である。言ひにくい人はそれをよんでもよい。然し感じが湧き出るやうな場合には、すぐにおしやつてもよい。

それから今少し考へが湧き出で、熱烈な要求が動かなければならぬ。もうあなたの命は旦夕に迫り、夏休み前の之れが最後の会である。何か桜楓会に対し理想も描かれ、熱心もなくてはならぬ。之れがなければ、あなた方の態度が出来ねば、今年の卒業生を如何とも外から助けることは出来ぬ。

[Attitude, Self-expansion]

宗教の根本要素は Attitude である。宗教に対する、桜楓会に対する Mental attitude。倫理学では Self-realization. Self-expansion 自己を拡大するところの態度、それは即ち有限の自我を無限に拡大したいと云ふ、神と交通したいと云ふ態度である。自分を拡大するためには興味を感じて居なければならぬ。自分の興味、自分の目的と一致するものでなくては、少くもこゝに達したいと云ふ態度がなくてはならぬ。あなた方が口には言へるけれど、未だ実現したとは言へぬ。仮定とあなた方とは一致して居るかもしれぬが、実際はそではない。真にあなたを拡充なさるため、あなた方の目的を実現するためには、桜楓会とあなたが一致するまでに拡大しなければ、あなたの宗教生活は出来ぬと思ふ。

あなたの生活に最も深い関係をもつて居るのに、之れを

如何にしようと思ふ熱心のない態度は虚である。宗教と云ふは、自分を宇内に拡大しようと思ふ態度である。之れには皆さん異存はないと思ふが、桜楓会に働いて居る先輩が時代におくれて居る、欠点が目について桜楓会に捧げることが出来ないと思ふは、之れが大切なところである。私もあなた方同様に不満なところはある。而し会と云ふ団体に、否自分と云ふものにも人には不完全なところは多々あるが、それによつて私共は十分なる自信をもち得ないと思ふならば、我々は宇宙、神に対しても不満をもつ。

昔から、天道はか非かと悲観したので、決して完成したものではない。我々は理想を完全にして之れを崇拜し満足して行くことが出来るが、現実には満足に出来たものではないから、之れによつて信仰が出来なければ、神も宇宙をも崇拜することが出来ない。故に我々は出来上らないものを理想として、此処に価値を見出し崇拜して行くのである。

自我を無限に拡大する。少くとも団体の中に自己を実現する。其の自分の価値を認むことは、自分と一致するものに対して非常な絶対の価値を認むことになる。宗教的態度の一つは人格の尊重である。自己を尊重すると共に他人、桜楓会に対して絶対の価値を認め、尊重し崇拜するところの態度、之れは神に対する態度と同じである。故に真の意味の敬虔、尊重と云ふことがある。深い人格に対する礼拝である。

[Worship]

我が国の宗教には余程 Worship と云ふことがある。我々が互に交はる中には必ず Worship の態度がある。此の形式を人にあふとするのである。之れを **おがむ** と言つて居る。自分以下の子供に対しても尊重の念、恩を感じずと云ふことがある。此の Worship すると云ふ誠にやさしい謙遜な態度、好意をもつた態度である。故に我々は桜楓会に対して **おがむ**、崇拜するところの念が態度である。たとへて現実はずつと理想にしても、理想に対して崇拜する。先輩に欠点があるにしても兎に角捧げて居るから、之れに崇拜しなければならぬ。其の苦心、其の努力を認めねばならぬ。たとへて遅々としても歩みつづけて居ることに対し謝恩の念の態度、人を Appreciate する其の態度がなくて、傲慢にかまへて人をわるく言ふやうでは、宗教的態度と言ふことは出来ぬ。故に今日あなた方が今日きかうと思つて出られたのはよいが、もう少し熱烈な要求がなくてはならぬと思ふ。即ち互によい態度を以て会をし、謝恩するの態度が大切であると思ふ。

[中表紙]
大正三年七月六日
予科、一年にて

大正三年七月六日
予科、一年にて

[Artist]

私共の美と云ふもののうちには、精神的美、知的美、道徳的美、肉体的の美と云ふやうなものがあつてあります。私共は自身、自己を造るところの Artist である。即ち美に生きるところの Artist である。生活それ自らが美であらなければならぬ。併して之れ等の美はど一云ふ風に表はれるものかと云ふと、即ち私共の肉体であるところの、一番よくわかるところの顔に表はれるのである。顔の Expression となつて表はれるものである。故に私共は其の顔によって、内にある其の人の美の程度を知ることが出来るのである。

[小人について]

私共は道徳的美(社会的美)がどの位まで発達して居るのでありませうか(To be social)。私共の小人と云ふは、即ち自分自身の興味より外、何にもないのである。自分の利益になることの外は少しも興味をもたない人のことを言ふのであります。

[Home に対する興味]

次は Home である。家庭と云ふものに対する興味である。我が国の御婦人は、此の家庭 即ち Home と云ふ階段までは興味があるのであるが、其の次の国家的、又社会的のことにについては一向興味がないのである。又、最も大いなる宇宙と云ふものに対して、自己を如何に修養しやうかと云ふ興味もないやうである。

私は此の間、大坂から東京に移られた人の話をきいたのでありますが、大坂に於て十九年の間、日夜力をつくして日本の女子を育てた。さうして今、国へかへらうとして居るが、自分の経験によれば、日本の婦人はどうしても利己心のあるために、社会団体のためにつくすやうになることは不可能である、と言つたさうである。併し、あなた方はど一お考へになるかも知れませんが、私は婦人もだんだん修養すれば Social になると云ふ確信をもつて居るのであります。

[Affable]

Courteous と云ふことは、人にあつて優美であり礼儀正しいことで、同輩の間に行はるゝことであります。

Affable と云ふは、善意を以て人を丁寧うけ入れると云ふ性情のあることを言ふのであります。即ち之れは Good will のあることを人に示すときに用ひるのであります。

[Sociable]

Sociable、之れは其の人の交際付、人づきのよいとかわるいとか云ふやうな性質を言ふので、其の人の内にもつて居るところのものである。

[Gracious]

Gracious、之れは自分の子供とか、又は自分より年なり

身分なりが下である、併しながら其の人は道徳的判断があるところの人に対して親切なることである。

[Kind]

Kind と云ふは、動物に対しても何に対しても凡て親切であることにつかふ詞である。

[中表紙]
大正三年七月八日
大学部二、三年にて

大正三年七月八日
第二、三学年にて

[To be social]

七月八日の徳目を合せて云へば、其の中心思想は美と云ふことになるのであるが、一日から三日までは To be refined、四日から八日までには To be social と云ふことになる。之れは社会的美と言ってもよい。如何にすれば新しい英語を消化して財源を殖して行かへるか云ふことを知らせるために、終りの方に書いておきました。

[Courteous, Affable, Gracious]

Courteous は人にあつて優美であり礼儀正しきことを言ひ、Affable は善意を以て人を丁寧うけ入れる性情のあることを言ふのであります。Gracious は自分の子供とか自分より年なり身分なりが少し下である、併しながら其の人は道徳的判断がある処の人に対して親切なることであるが、Kind は動物に対しても何に対しても親切であることになる。

[人格を尊重すべきこと]

今日の徳目は Social で、我が国は昔から君子国、礼儀の国と言はれて居ります。孔子も、仁義禮智信と言はれました。私共が人に対するに、人の人格を尊敬すると云ふことが大切であります。

私共は此の頃、あなたが**お母さん**をお泣かせになると云ふことを聞きます。それは、**お母さん**があなた方の心情を察して下さらないでありませうか。あなた方は親に対しても礼儀を欠くのではあるまいか。又、あなた方の身上にも直ぐ来ることでありますが、多くの夫の人は妻に対して暗涙に咽ぶことがあり、妻は又、夫に対して無情冷酷を訴へると云ふことを聞く。又、友達の間には妬みがあり、猜疑があり、いろいろの苦しみがあると云ふことを聞きます。さう云ふやうな態度で、斯くの如き精神的な空気を養ふことが出来ませうか。之れは我が国婦人に昔からあることで、猶之れが解決がつかないであらうか。

此の前のときに私は、やはり同じ問題を一年と予科とに聞いたのであります。此の頃大坂から東京に移られた人の話に、大坂に於て十九年の間、日夜力をつくして日本の女子を育てた。さうして今、国へかへらうとして居るが、自分の経験によれば、日本の婦人はどうしても利己心のあるために、

社会、団体のためにつくすやうになることは不可能である、
と言ったさうである。之れは無論 Private な話でありませうが、只自分と云ふことばかりでなく之れを超越して、人の難儀を我が難儀のやうに思うて真に心から同情して、人のためにつくすと云ふことが我が国婦人には少ないのである。斯う云ふことを研究した外国婦人もあるのであります。斯う云ふことについては、必ずあなた方にも目をつけるに違ひない。

[Beauty, Social aspect]

Beauty, Social aspect と云ふものが皆さんの間に見出ださるゝかど一かかと云ふことが、今日の問題であります。私が思ふに、近頃若い人が西洋で言ふ個人主義、之れには二つの意味があるが、我が国ではわるい方面にとられて居るのではないか。芸術家になると云ふことは大切なことで、我々はど一しても個性を発揮して一つの芸術家とならねばならぬが、それをとりちがへて、直接自分の利益にならぬことはど一ならうとも、親がどんなに心配しやうと、組がどんなに傾かうと一向かまはないと云ふ風になって居りはすまいか。

[Benevolence]

又、仁義とか Benevolence とか云ふことは昔の夢であつて、今日では親が子を育てるのも義務であり、金持が貧乏人を恵むと云ふことも当りまへのことであると云ふやうなことが、今日の青年の浅薄な頭に浸潤して来たのではあるまいかと云ふことを恐れて居る人も随分あるのであります。之れは今日の一般の流行を申すのであるが、今日我々の学校の内にさう云ふ校風が勢力を占めて居るのではあるまいかと云ふと、誰れもさうではないと答へるであらう。けれ共私は、今日の若い人の間に奉仕とか犠牲とか愛国心とか、又は愛校心とか云ふやうな真面目なことを考へるのは時勢に遅れたものであると云ふやうに考へて居る人がありはすまいか。昔は校風を作る上に熱烈なる愛校心を燃やして、寒暑の別なく夢中にでも行かうと云ふ無邪気なところがあったのである。然るに今日は、直接自分の利益にでも関することではなければ、人のために国のためにしやうと云ふことはないのであります。

[大学令について]

私共が涙を流して国のために教育を改めやうとしても、実に力が足りないのである。昨日も調査会に出て、真に微力を捧げて国のためにつくさうと思ふものがないではないが、実に前途遼遠である。大学令に女子大学と云ふことがないから当局について聞いて見ると、男子と云ふ字のあつたのを省いたのは女子にも適用することの出来るやうにと云ふことであります。世の中は斯く、女子も進む道を妨げるものではない。やはり門戸を開放しなければならぬと云ふことに段々となつて来るであります。

けれ共、実際はど一であるかと云ふと、男子でさへも平均二十七才何ヶ月迄学校教育を受けねば世に出られない。こんな国は世界にないのである。さう云ふ中にあなた方婦人も陥れやうとするのではない。私は世の論難攻撃は恐るゝに足りませんけれ共、内に於てあなた方は未だ努力しない、徹底しない。さう云ふことで、ほんとのことの出来るもの

ではない。私はあなた方のために泣くのである。我が国の教育は何時迄斯くの如き状態でつゞくのでありませうか。ど一して我が国を救ふことが出来ませうか。

あなた方は、西洋の文豪は只利己的の卑しい自然主義のやうな動機でたつて居ると思うて居るでありますが、

(一行空白)

総ての感情は総ての国の人と分つて居るとあるは、即ち世界各国の人を思ふと云ふことになるのであります。若しさうでなかつたら、如何にして人と人との間に了解の橋をかけることが出来やうか。私共は人のことを思うて始めて人がわかり、社会的關係が出来るのである。我々の義務と云ふものと幸福と云ふものとが一つになつて、始めて詩と云ふものが出来る。あなたの義務とあなたの幸福とが結婚をしたなら、始めてあなたの生活が詩となるのである。さう云ふ例をあぐれば、未だ幾らもあります。宗教にしても、唯だ我が宗派で小さい輪の中へ入れやうとする位では、宇宙と合体すると云ふやうな信念はない。信念から云つても、感情から云つても唯だ自分と云ふ小輪から脱することが出来ない。さう云ふことでは到底、高等教育を受けたとは言はれない。無論私は皆さんに可能のあることを信ずるけれ共、未だ熱心が足りない。それだけの態度では、ほんと一の大きなものとはなれないから心配を致すのであります。

[中表紙]

大正三年七月十日

第一学期終業式にて

大正三年七月十日

第一学期終業式にて

昨日私は会に出ることが出来なかつたので、後で報告をきゝましたが、高等女学校以上大学部、我が校の第十四学年、大正の始めにあたつて、私共は火の Baptism を受けまして、再び此の講堂に入るには生れかへつて新しい人とならねばならぬと考へて居りました。昨日始めて此処に会する筈でありましたが、私の都合で急に一昨日此の堂に入ることとなりましたので、幾らかうたへたかのやうな感じがりましたが、夫れは一時のことで、昨日いろいろ報告があつたと云ふことであります。

[高等女学校について]

高等女学校の方は、活動の自由を得たと云ふことである。自由とは誠によいことである。我国の風俗とか習慣とか云ふものが、婦人と子供とを非常に束縛して居る。其の束縛をはなれて自由を得たなら誠にめでたいことであります。併し、いくらか我が儘と云ふことが交つて居りはしまいかと云ふことである。之れは此の夏、深く反省して見なければならぬ。大学部になるとよほど深い問題になるから、其の深淺は一言にしては言はれない。此の一学期はいろいろのことに

妨げられたけれ共、兎も角も出来る丈けのことを皆さんがなさったのであります。

[やつについて]

此のやつでは私の庭に出来たのであるが、三つ共に同じ時芽を出し、同じ光りと同じ熱と同じ養分を受けながら、こんなにちがったものとなったのであります。どうしてこのやうなものが出来たかと云ふと、境遇である。人間はも一つ深い処に力があって、自発力を十分にはたかせると否とによって、非常な程度の差を生ずるのであります。

墨子は白い糸を見て泣き、孔子様も、女子と小人とは養ひ難しと言はれ、ソクラテースも婦人に対しては断腸の思ひをせられたのである。

私は此のやつを見て、此の間から実に悲しくてしかたがないのであります。どうしてかう違つたかと云ふと、之れは失敗したのであるが、之れは成功したのである。我々ははじめからど一云ふものを養ふつもりであつたか。私は此の葉を見て非常に愉快に思ふ。又、小学校の報告をきいて非常に愉快に思ひます。子供のすることを自由にさせておくと、誠に面白い。僅に二ヶ月の間にも、ど一云ふ能力が発達して来るかがよくわかる。

昨日も学監のところで教授方と一緒に会しましたが、其の集まりの中には漢字のタイプライターを発明した人もある。之れは中々苦心したものであると云ふ話をききました。又この間、帝國学院で三人の功労者に授賞式がありました。我国にも少しづつ発明、発見の出来るやうになったのは近来の快事である。其の発見力、創始力を養ふことが必要である。我國民にもそ一云ふ力の出来るやうに、國民の母となるべきあなた方から其の力を養はねばならぬ。それで先づ空気を作らねばならぬ。併し空気と遺伝とあつても、あなた方の意志の力、即ち自発力がなければならぬ。

[美について]

其の自発力を十分に実現し、その空気を作るために、今年は美と云ふこと、遊戯と云ふことを奨励しました。之れによって、幾分か美と云ふことは出来ました。即ち一例を言へば、体育係の方で競技会をなさったり、英文科では英語の話しをなさったと云ふこともある。又、寮舎では毎朝深呼吸をしたり、唱歌をうたつたり、色々自由な運動をなさることを奨励しました。併し、唱歌にしても宗教の色をつけるのはよろしくない。あなた方は他によい唱歌がないとか、夫れが一番やさしいとか云ふことでお遊びになったであらうと思ひますが、人と共にする時は、何の宗派と云ふ色をつけては宜しくない。

[小学校]

小学校の修養は Card にしたけれ共、夫れには幾らか Originality がある。あなた方は夫れをよく注意して、容易におつけにはならなかつた。之れは誠に賀すべきことであります。各寮で幾らかづつ英語が出来るやうになったのも結構なことであります。併し其の以上に、どれだけの Invention、Creative power が発達したのであらうか。あなた方も先生方も一緒になって汗水たらして、どれ丈け骨を折つたかも知れぬ。骨を折つたから之れ丈けのことが出来たのであるけれ共、

余りに程度の差があるから気がもめて来るのである。

[外国の一青年について]

ハーバード大学の図書館をど一しても火に焼けぬものにしなければならぬと云ふことを、ある青年が言つて居りました。さうして其の青年はタイタニックの沈没と共になくなりました。ところが、其の生前の一言をきいて居つた母親は、早速四万円で建設して、多くの書物を九万七千円の費用をかけて運んだと云ふことである。此の一事によつても、如何に外国では物が早い。又、子供の素志をついで母親までが、健気なる行ひを躊躇することなしに如何に決行するかと云ふことがわかります。

之れに反して、如何に我国のことが遅々として居るかと云ふことを考えると情なくなつて来る。此の学期にあなた方、先生、寮監、指導者がある限りの力をおつくしになつて此処まで進むことの出来たのは結構であるが、尚今後、益々進歩発展するやうにおつとめなさることを希望致すのであります。

[中表紙]

大正三年七月十一日

大学部第二、三年のために

大正三年七月十一日

大学部第二、三年のために

[美に就きて]

美と云ふものは Spiritual life から現れたもので、其の種類にもいろいろある。けれども我々の言ふ所は精神的生活に其の美を完備する事である。人格と人格との接触、融合によつて生ずる所のもので、之れを The social aspect of beauty と言ふのであります。あなた方が家庭に於て、又軽井澤においてになるについて其の根本となるものは、ど一しても自ら満足し、人に対して親切を尽すと云ふ精神的美と云ふものがなければならぬ。故に精神的美を発揮するにはど一しても Cheerful、Happy、Spirit、Loving と Contented mind がなくてはならぬ。

私共は此の精神的美を建設する処の技師でなければならぬ。自分を超越した社会我を作るには、ど一しても精神的美の建設者になると云ふ空気を皆が作つて行かねばならぬ。夫れで社会的問題は、社会を改善しやうと努めて居る総ての技師の全力を用いるゝ様に、解決すべき多くの問題がある。其の中で教育問題、窮民問題、罪惡、病氣、犯罪等の問題が少なくなる様に改善して行かねばならぬと云ふ事もある。故に、精神的美の建設者である処の技師は、そ一云ふ問題にも興味を持って行かねばならぬ。そこで利己的の心を弱くして同情を強めて行くと云ふ事が、社会を進めて行くに必要な根本問題であります。

[宗教生活]

さて、宗教の生活を大別すればど一なるかと云ふと、

自分と云ふものと絶対と云ふものになり、其の間の関係、其の間の交通、其の間の依頼、其の間の反応する事であります。

(一 頁 半 の 空 白)

世界のあらゆる宗教の要素が皆此に入って居る。其の神様は唯だ King とか Judge とかではなく、美とか愛とか善とかの神様である。是等の宗教の起った始めには必ず偉大なる人格があつて、其の場所に必要とする事があつて、其の時の預言者は其の神の聖旨を伝えるために遣はされたもので、其の使者たる人は其の神の Inspiration を受けたので、其の時の人々に最も必要な事を宣べ伝へたのであります。斯う云ふ様な人々は、神の美、神の愛と云ふ事をも一つ一つ深く現すものであらう。斯くの如き生活を実現すると云ふのが今日の時代である。

孔子、Zoroaster、佛陀、Christ、Mohammed、其の他の偉人達が使者として宣べ伝へた事は皆、其の時、其の処に最も必要な部分的真理を持って居る。故にその宗教はとるに足らぬなど言ふのは誤りである。悉く其の生活を高め、信仰を高める処の働きをなしたものであります。

[将来の宗教]

将来に於ては社会をも少し高尚な信仰に生れかはらせる処の働きに於て、今までの部分的信仰をもっと高尚な徹底した所のものとして古い滓となつたものをふるひ落とし、美の宗教が人々を徹底させるものであつて、部分的信仰は皆其の中へ入つて適当な場所を占めるものである。兎も角も、世界の宗教の傾きは斯くの如くになり、世界の思潮は斯くの如くに流れて居る。夫れを直覚しなければならぬ。

[宗教生活に対する婦人の使命]

私共の今日最も要求して居る事は、如何に生活すべきか、如何に美を発現すべきかと云ふ事で、之れには多分皆さんが異存のない事であらうと思ひます。結論として申すのは、御婦人は此の宗教生活に対し如何なる使命、或は此の時代、此の国に於てあなた方は如何なる Message を天より授けられて居るかと云ふ問題である。私は宗教の要素として愛、其の愛の生んだものとも見るべき美と云ふ事を申しました。愛と美とは分つ可からざるもので、実に宗教生活の本質であります。

其の本質たる慈愛及び美と云ふ性は、最も豊富に女性の人格に付与せられてあると言ふ事が出来ると思ふ。無論、宗教と云ふやうな根本的な性質は、男女と云ふ風に絶対に分ける事は出来ぬ。男子にも女子にもあつて、到底之れを性によって分ける事は出来ぬと云ふ事を前に申しましたが、又男子と女子と云ふやうに特質をわける事も出来ません。併し男子には男子、女子には女子として各々余計に与へられてあるものがある。即ち愛とか美とか云ふものは女子に余計に与へられてあると云ふ事は、真理と仮定するだけの論拠があると思ふ。故に御婦人は、殊に宗教に対しての使命を受けて居るものと言ふ事が出来るかと考へます。

[宗教の内面に於ける三大問題]

宗教の内面には、三大人生の経験である処のものがあると思ふ。之は私自身の経験と、哲学、宗教等で研究したもの

である。夫れは、

第一は生れる事、

第二は結婚する事、

第三は死ぬると云ふ事である。

之れが人生の三大経験であると共に、宗教の三大形式であり、人間発展の三大階級であると思ふ。此の三大宗教生活を営むに当つて、殊に御婦人がお働きになる処の使命が、其の三大宗教生活に与へられてあると云ふ様に思ふのであります。[生れると云ふ事]

生れると云ふ事は、私共は父母に由つて生れたと言ふけれども、父よりも母から生れたと云ふ感じがある。さうして生れてから乳を飲まして人として下すつた事は、主にお母さんに由つてである。之れは肉体の事であるが、翻つて精神の方から言つても、人格の出来た事はお母さんに由つての事が多いと思ふ。其の上にお父さんの血を受け、お父さんの教育を受けたと云ふ事もある。さうして成長すると云ふ事には非常に深長なる意味がある。此の子供を生み、人格を育て、其の意識を醒ますと云ふ事は男子の力もあるけれども、主に天職として女子の方に多く賦与せられてある。

此の生れたと云ふ経験、私共が親から生れて親子と云ふ情が生れて来て、其処にほんたうの宗教心が養はれて来て居ります。生れるとは即ち親子の関係、親子と云ふ情の生れた事で、之れが人間の経験の土台となつて居るものである。此の親子の関係の情が大いなる宗教心を醒まして居る。之れが拡大して大なる宗教心となつて居ると思ふ。若しも生れると云ふ事、即ち親子と云ふ経験が少しもなかったならば、我々は宗教の経験は生れる事が出来ないのである。此の人生の味が、絶対者と自分と云ふものの関係を自覚させたのである。神様は私を Create し、生命を与へたものである。私共は父母から生れたと言ふけれども、実は神様から生れたので、私共は神様の子である。其の間から生れた処の経験から自覚したのである。其の生れると云ふ事に就いては、も一つ根本な処の生と云ふ深い問題があると思ふ。之れはやはり直感で、生れたと云ふ経験によってわかる事であります。

之れは Ibsen が研究した様に、あなた方の日常生活に由つて研究なさる事が必要であると思ひます。私は、自分の宗教心はやはり父と云ふものがあり、母と云ふものがあつて生れると云ふ事から来て居ると思ふ。

私は、今年の十一月で母の五十年忌になりますが、此の母の亡くなった時に非常に宗教心が起つて、基督教を信ずる前には、我が国在来の総ての宗教を信じました。けれども私の頭は哲学的であるから、非常に科学的に傾いた。故に Personal God と云ふものは信じなくなつた。併し乍ら、天に対して父と云ふ觀念、親と云ふもの、自分を全く捧げて尊崇すべきものと云ふ考へは、ど一してものける事は出来ぬ。又、死ぬると云ふ事も唯だ物質が集まって出来たもので、死ぬるとは其の物質が離散する事であるとは思はぬ。自分と云ふものは、ど一しても永久滅びない処の靈性があると信ずる。さうして神様は遠くにあるのではなく、今此処にある。今、我々は神と交通して居るのであるとしか思はれない。

どんなに科学とか哲学とか云ふ自分の好きな学問と、宗教との間に解決のつかぬ事があっても、どーしても此の信念を動かす事は出来ぬ。夫れで先づ此の生れると云ふ事が、私の一つの宗教の経験であります。

生れると云ふ事はいろいろの働きに由って来るけれども、人生に一番強い感化ある働きは母親である。故に此の生むと云ふ事は一番深く女子に与へられてあるのではないかと思ふ。

私の言ふ生むと云ふ事は、決して子供を生む事ばかりではない。男と生れた自分でも生むと云ふ事はして居る。教育は即ち生むと云ふ事の働きである。今日教育の停滞して居るのは、此の生むと云ふ働きが欠けて居るからである。教育とは天から生れた子供の心の靈性を解放して、尊い人格を生み出だす事であります。

[Dr. Montessori]

Dr. Montessori と云ふ婦人が、現に此の教育をして欧米を動かして居るのであるが、あなた方の使命は此処にある。此の宗教心を養ひ、児童の靈性を生み出だすと云ふ Message を与へられて居るのは、あなた方御婦人です。あなた方が此の働きをして下さらねば、到底我が国を救ふ事は出来ないと思ひます。此の生むと云ふ事はあなた方の人格の根底に与へられてあるもので、此の働きをしなければ、あなた方自身も満足する事は出来ないのである。故にあなた方は、其の生んだ子供を養ひ立てる処の空気と使命とを与へられて居る者と言はねばならぬ。

[結婚と云ふ事]

第二は、宗教生活の階段であり大礼であるものは結婚である。私は人生の意義は結婚であると思ふ。生きるると云ふ事は愛であり、愛は即ち結婚である。生きるると云ふ事がなく、愛がなく、結婚がなければ、成長もなく刷新もないのである。愛は結婚により、結婚は人格と人格との引力によって融合した人格が生れるので、其の結婚して出来た処の人格と人格との Unit に由って、始めて Organization が出来て来るのであります。

さて、此の結婚と云ふものは男女と云ふ異性に由って出来るものである。併し結婚の要素である処の愛、慈悲、引力、感化と云ふやうなものは孰れに多いかと云ふと、美とか愛とか云ふものは婦人の方に力が強いと思ふ。今、心ある人々の東洋には理想的の愛と云ふものがないと言つて居る。夫れは男もわるいのであらうが、若しほんとに理想的の愛と云ふものがないとすれば婦人が未だわるいのに違ひない。婦人が立派な人となれば、必ずほんと一の Marriage が成り立つに相違ないのであります。生は愛なり、愛は即ち結婚なり。結婚は精神的の化合である。其の融合、即ち愛に由って働き合ふ関係、愛に由って出来る処の運動は非常に複雑なるものとなつて来るのであります。故に教会は妻であり、Christ は夫であると云ふ様に書いてある事もあります。即ち愛の働いて居る処に何か新しい価値が生れ出て来るのであります。故に愛と云ふ事は夫婦関係の上に一番よく言ふのであるが、啻に夫婦関係のみならず、神と我れとの間にも、友達の間にも此の愛に由つてよく調和したならば、之れを融合したとも、

或は広い意味で言へば結婚したとも言はるゝのである。故に人生の一番大切な意義は愛、即ち結婚すると云ふ所にある。互に相愛すると云ふ事は人生の根本要求であつて、之れがなければ どーしても満足は出来ないのであります。此の人と人との間を調和して、精神的融合をなす事を結婚と言ふ。即ち結婚は、人格と人格との間にある精神的結合である。

[Ibsen 曰く]

Ibsen は、

Marriage is something to which you must wholly devote yourself.

結婚は或る事である。夫れはあなたが全然捧げて了はねばならぬ事である。此の意味から言へば、誰れも結婚しないものはない。之れが結婚の本義であります。仮令形式の結婚をして居つても、愛がなかったなら夫れは虚偽である。罪悪である。愛は神聖である。宗教的である。つまり愛と云ふ事が宗教であるのである。此の結婚が成り立って始めて 社会が清められ、世界の平和が来されて、人生が幸福になるのであります。故に此の結婚が宇宙に満たさるゝ様になつて始めて、生が生れるのであります。斯くの如き愛を成り立たせる為めに、あなた方が非常に責任がある。あなた方は斯くの如き使命とを与へられて居るのであります。即ち此の間から申した処の Courteous とか Gracious とか云ふやうな諸徳を備へて、人の人格を Appreciate する事が出来て始めて愛の生活ができるので、之れが出来ない為めに非常な力の浪費があるのであります。

[死ぬると云ふ事]

第三、死ぬると云ふ事。之れは歴史的神秘生活である。私から言はせると、生れるのも結婚するのも亦死ぬるのも、皆生れると云ふ事であり、日が暮れて暗うなるのは朝が来る為であるから、死ぬるのも生れんが為であるが、此の死ぬると云ふ事は非常に深い意味のある事であり、

[死と云ふものを通して昇る階段]

死ぬると云ふ事には必ず人生の悲劇がある。悲劇には、どーしても死と云ふ事の経験が現れざるを得ない。さうして此の悲劇には必ず犠牲と云ふ事があり、勇氣と云ふ事があり、又冒険と云ふ事がある。悲劇に於て、人生の経験の一番深いものを積むのである。故に人格の一番高尚なものは、之れに由つて一番余計に現るゝのであります。Christ の表象は十字架に由つて一番よくわかるのである。Christ は天に昇られたと云ふ死は即ち昇天で、一番尊い処に昇るのである。故に忍耐とか冒険とか Level を昇るとか云ふ事は、皆死によつて得らるゝ事である。故に或る学者は三つにわけて、

第一、無意識の状態

第二、半ば寤めて、半ば寝て居る処の状態

第三、何時も寤めたる意識を持つて居る状態

之れは死と云ふ事を通して人間が昇る事である。故に死ぬると云ふ事は、もっと立派な人格に生れ変つて来る事で、宗教には何時も死と云ふ事があります。

小さい自分が死して、大なる我れと生れ変る事で、非常なる勇氣とか義侠心とかが其処に発揮するのである。今日の

女子教育は非常なる悲劇である。特にあなた方は其の悲劇の主人公となって舞台に立つべき役目を与へられて居るのである。之れは誠に苦しいけれども、亦愉快なる演劇であるのであります。

[中表紙]

大正三年九月十一日
第二学期始業式にて

大正三年九月十一日
第二学期始業式にて

[獨逸の火事]

家政学部の教授 渡邊謙吉君は中央亭と云ふ料理屋を営んで居られますが、四、五日前、其の料理室から出火致しまして、隣家まで延焼致しました。そこで幹事 塘君が本校を代表して見舞に行きましたれば、渡邊君は人に迷惑をかけてすまない、すまないと言って居られます。

然るに獨逸皇帝は、全欧のみならず東洋にまで飛火をしたと云ふ如き大火事を起された。其の火元をなしたものは、渡邊君や女子大学の如くつい火を失したと云ふ訳ではありません。永い間計画を立てゝ用意をして、余程の利害を打算して、さうして斯くの如き大火事を起されたのである。之れがために獨逸連邦は如何に苦しんで居るか。如何なる影響を蒙って居るのであるか。恐らく彼等自身に於ても、最後の勝利は得られまいと云ふ覚悟は出来て居るであらう。のみならず、随分非人道なことが行はれて居る。如何に此の多くの人々に迷惑をかけて居るか。如何に非人道なことをして居るか。殆んど歴史あつて以来ないことであると云ふことであります。獨逸皇帝は随分神経過敏になって、夜も寝られないやうなことがあります。併し、ひそかに天帝に勝利を祈るときに、如何なる感に耽るゝであらうか。必ずや良心の責めを感じらるゝであらう。又、其の覚醒のときがなくてはならぬと云ふことを、私は獨逸皇帝のために祈るのであります。

アメリカ大統領 ウィルソン氏は世界に令を出して、十月一日を以て全世界のために平和の速に回復することを祈祷すると云ふことであります。之れは世界の人誰れも同感を以て賛成することでありませう。併しながら只速く平和が克復する、自然の状態に回ると云ふことは、世界人道のためを思ふものは今度のことにについて心配して居りますけれ共、真に勝利を得たい、勝たねばならぬと云ふことを祈って居る。此の戦争によって出来るだけよい結果を得たいと希って居るのであります。

然るに獨逸皇帝といへども、ど一かして勝利を得たい、真に凱旋の冠を得させ給へと天帝に祈って居らるゝであらう。ロシアは東京に於て平和克復の祈りをなし、英國も勝利の祈りをなし、佛も同じく祈りをする。此の祈りに耳を傾くるころの上帝、真に世界を統御するところの絶対者は、此の

祈りを如何に見て居らるゝでありませうか。之れは今日の大問題であります。真に世界を支配する処の大勢は如何に発展せんとして居るか。我々はその傾向を感じなければならぬ。決して神はどの国に幸し、どの国に禍せんとして居るのではない。そんなものならば、真の神ではないのである。又、正邪を分たずに判断を下さるゝことはない。必ず正義、人道のために、其の祈りをきゝわけらるゝでありませう。それで私共はかう云ふ場合、実に千載の一遇である。天来の一大機会である。此の時に世界の消長、宇内の興亡が行はるゝのである。此の時に於て、唯だ物質的、経済的の動揺ではなく、根本義がある。あなた方は女性として国民の母として、此の時の教へに耳を傾けねばならぬ。我々は真に一身を犠牲として世界人道のために、天命のために赴くべき任務をもつて居るのであります。此の使命は果して何でありませうか。考へねばならぬのであります。我々は深く人類の運命、我が帝国の任務と云ふものを明かにしなければなりません。第一に我が帝国が軍国の使命としてとりました態度は如何、又、其の後とりました行動は如何と云ふことを考へなければならぬのであります。

[白哲人種]

我が日本は東洋の一孤島であります。又、白人種ならざる人種の一部分であります。世界あつて以来、世界を支配するものは白哲人種で、其の他のものは奴隸である。悪魔の子である。故に、神の国には入れぬものであると思つて居られました。故に白哲人ならずして其の仲間に入ったものは、なかったのである。アフリカにしても何処にしても不道德なる野蛮国であつて、世界列強の仲間入りは出来ぬものと見られて居った。

[黄禍説]

さうして黄禍説を真先きに唱へたものは獨逸皇帝であつた。日本人が劣等視せられたことは半ば自分の責任もあるけれ共、他からもわるく思はれて居った。さう云ふ訳で、獨逸國から排斥せられたのみならず、米國あたりからも日本は文明國の仲間入りをさせておくべきではないと、いろいろ不信任な不評判をたてられた際にかう云ふことが起りました。

[オイッケン、ハルナックス]

私の渡米致した時もさうでありましたが、姉崎君が行かれてから大分日本をわかってくれる人もあり、今秋は獨逸からオイッケンも来ると云ふことになり、獨逸皇帝の親友なるハルナックスも日本へ来られやうと云ふ時にかう云ふことの起つたのは、誠に遺憾なことでありませう。

[我が國の急務]

日本の信用、評判を回復することは容易なことではありません。日本はロシアの艦隊を全滅したと言つて居るけれ共、其の後の海軍の發達は非常なものであります。我が國は世界で六番目にしかなれない。米國の如きは六万噸からの軍艦をもつて居ります。大砲を一度うって試みるに六十万円を要するのであります。獨逸の如きは軍隊が足りないから、十五才より四十五才迄のものを皆徴發して居る。さうして平生の生産することをやめなければならぬから、獨逸自身も大変な

ことであらう。我が国から膠州湾へ軍隊を出すについても、三ヶ月間に五千万円を費さねばならぬ。あれはほんの袋の中の鼠同様なものであるけれども、其の袋の中の鼠をとるにも莫大な費用をつかはねばならぬ。アメリカの如きは、口に平和をとなへて軍備に反対な国であるけれども、近来は大きな軍艦をどんどん造って居る。其の財源は実に莫大なものがあります。我が国は、内には数多の困難を包蔵し、外には幾多の外患を扣へて、此の世界的困難の渦巻に入らねばならぬ。故に此の戦争は唯だ膠州湾を封鎖するに止まらずして、どーしても世界的活動に加はらねばならぬ。今日の急務は内にある。我が国の威信を高めると云ふことである。

独逸皇帝は、日本の盛んになることは黄禍である、日本は野蛮国である、道徳のない宗教のない国であると思つて居られた。日本が接触して居る加州問題について、いつも此の困難が起る。此の不信任をとかねばならぬ。

[Brutal]

独逸国民は学術研究に於て、軍備に於て優れた点もあるけれ共、Brutal である。平和の攪乱者である。故に独逸が勝つならば、文明も後もどりである。

[白耳義]

白耳義の如きは小さいけれ共、奮起したのである。独逸は強しと雖も、威信を失つてしまったのである。真に日本は人道に背いて居るか。果して野心があるか。唯だ自分勝手なことばかりをして居るか。たゞ血を見て喜ぶ喧嘩坊であるかど一かを世界の列強にまでわからせる迄、奮戦、努力しなければならぬ。

然るに幸に、我が 天皇陛下の宣戦の御詔勅、其他内閣の最後の通牒は、我が国の威信を高めると云ふことに於て其の措置宜しきを得たのであります。激論家はいろいろ批評を致しますでせうけれ共、我が国は独逸に向つて一週間の時日を与へました。膠州湾を我が国が囲むならば、真に袋の中の鼠である。勝つにきまつて居るのである。併し之れは大戦争の一部分であつて、目的なしに七千の兵をみな殺しにするには忍びないから、独逸に反省を与へたものと思はれる。然るに皇帝は最後まで戦へと云ふ態度をきめられた。そこで我が帝国は止むを得ず戦争を開くことになつたのである。若し一敗やむを得ぬときは、斃れてやむ、喜んで討死すると云ふ覚悟は、我が国民はもつて居るのである。あくまで君子国であり、紳士的態度を以て世界人道のためにはあくまでも戦ふと云ふ態度をもたねばならぬ。殊にあなた方御婦人によつて明かにせらるべき点が多いと思ひます。

[我が国の婦人の態度]

今朝私は、軍国の婦人として我が国の学生として如何なる態度をとるべきであるか、其の計画をお立てにならねばならぬと思ひます。今、他の学校でも色々致して居りますが、我が校に於ても、日露戦争にあつて慰問袋を作つたり、包帯を巻いたり、又は軍人の着物を縫つたり致しましたが、今日はそれ程の大戦争ではないから、どれ丈けのことを致したらよいか。必要がきまれば、喜んで我々はそのことに着手すると云ふことが大切であります。

我が国はロシアとは前から感情がもつて居り、英國とは前から同盟して居りました。此の時にあつて英國との同盟に基いてロシアと協同したことは、佛蘭西に対しても我が国の威信をあげた訳であります。米國とは親友国であるけれ共、アメリカは多くの国民から成り立つて居る故に、独逸から行つたものは日本が憎くなる。日本最良の人は、なるべく日本を紹介すると云ふことに努めて居るけれ共、未だ力が弱いのである。故に私共は、目に見えぬところに於て余程努力しなければなりません。故に今度博覧会に出品すると云ふことは誠によいことでありますから、時と力を集めて十一月迄にお拵へになることが必要であります。

今度の戦争について学ぶべきことが色々ありますが、最も急務であると思ふことは、独逸と連合軍との戦争は、一言に言へば物質と精神との戦ひである。独逸は物質的である。機械的によく整うて居る。英國などは義勇兵が多い。日頃訓練をして、所謂常識教育をしておいて、事ある時には軍隊となる。商賈をさすれば、それも出来ると云ふ教育である。独逸は軍隊的で、血を流して命を捨てると云ふことを恐れぬ。決闘と云ふものを政府で奨励するから、向ふの人の最も榮譽とするのは刀瘡のあることである。白耳義は、あの小さい国でも約束は決して違へぬと云ふ訳で、あの強国と戦うたから、大に国威があがつたのである。英國は堂々たる戦争をして、世界の大勢のために目に見えぬところの戦ひをつづけて居るのであります。独逸の如く己の利益のために、己れの都合のために戦ふと云ふことは少しも価値がない。英國はそ一ではありません。

[Organization]

どーしても私共は、精神的でなければならぬ。秩序整然として命令に服従する。国民が一つの Organization となつて、挙国一致して働く。そこは機械的に訓練されねばなりません。夫れよりも大切なことは人格の融合と云ふことであります。

[中表紙]

大正三年九月十六日
大学部計画発表会にて

大正三年九月十六日
大学部計画発表会にて

十分あなたの方の内にも経験を積み、外にも機会が多かつた。今日は全世界の大勢から推して銘々で考へて、夫れ夫れ全体をよく纏めた計画を立て、夫れに対して又十分な決心を持つて兎も角も自身でして行かう、又共同する事が大切であると云ふ事が分つた。共同せなければ十分な効果が挙げられないと云ふ事もおわかりになつたと思ふ。夫れで今日は銘々の深い意見を聞く機会はありませんが、之れが共同の働きに現るゝ計画の方面だけを見る事が出来ました。私の銘々の教育

及び全体の共同について大分考へて居る事がありますが、夫れは追々申すつもりである。併し夫れもわけて見れば、二つになる。

I 一つは目に見えぬ所のものと、

II 一つは組織によって外に現れる所のものである。

今日は生活が複雑になって、殆んど繁に堪へぬ程であります。其の複雑なる生活を段々と単純に集中して行かるとやうな道を見出だして、益々夫れを完全に進めやうとして居ります。

夫れがあなた方の生活では、係となって居る。始めは段々多くなって居りましたが、夫れを簡短にする必要があつて、今では係も五つとなり、従つて御報告なさる事も簡短明瞭になりました。之れは確に一つの進歩であります。

併し、唯だ係が減つて了う、報告が単純になつて了うと云ふ事が進歩ではなく、進歩には益々複雑と云ふ事が必要で、始終分化し益々複雑にならねばならぬ其の複雑なる生活をよく統一し、よく簡短に組織しなければならぬ。故に今日の事が確かに進歩したのであるかど一か、此の係の分け方が丁度適当であるかど一かと云ふ事は、よく考へて御覧になる必要があらうと思ひます。

私も此の複雑なる生活を単純にし且つ有効にする事に就いて、いろいろ研究も致し考へても居りますが、夫れは段々と申す事にして、あなたの方でも十分にお考へなさる事が大切であります。殊に其の効果を挙げると云ふ事、即ち木は実によりて知るべしと云ふ事の通りで、よき実を結ぶやうにしなければならぬ。今迄は其の木を培養すると云ふ事で沢山でありました。けれども今日では、今まであつた実では不十分である。今まであつたよりも少しいい木を作らねばならぬと云ふ事で、つまり今日の生物学は今まであつたよりも一層よい木を拵へやうと云ふ事で、之れはハーバックスと云ふ人のして居る事がよく証明して居るのであります。之れが今までは下等動物、下等植物にのみ行はれて居つたが、今日では最も高尚なる人間にまでも及ぼされて来たのであります。其の科学が成り立て、Eugenics と言ふのであります。

そこで、我々はどうしても自分の必要なる又理想として居る如きよき実を得たい、よい結果を得たいと云ふ事を目的として居るのであります。そこで我々がよく改善して進むならば、終に其の結果を挙ぐる事が出来ると云ふ事が信ぜらるゝやうになりました。そこで我々がいろいろ改善して最もよい結果を挙げやうと努めるならば、必ず其の目的を達する事が出来ると云ふ確信が内に出来て始めて、其の必要なる機関を見出だし、其の組織をも改善する事が出来るのであります。

そこで第一に、我々是如何にすべきであるか。我々是如何なる婦人とならねばならぬかと云ふ事であります。今、御報告の中に、未だどうも我が国は世界列強の有様に比較しては、どうも遜色がある。之れは残念な事ではないか。どうしても我が国を文明諸国と同じ程度に達せしめねばならないと云ふ事である。斯う云ふ時に於て我が国が、日常色々な方面に研究的に又共同的に出来て居らないからである。独りさう云ふ事に困つて居るのは日本ばかりではない。戦争をして居る

欧州諸国は皆さうである。必ずしも物質的方面のみならず、精神的に大に考へておかねばならない。

夫れから此間、学校の始まつた頃にも申したのでありますが、只利己的ばかりではいけないと云ふ事。今我々が自覚が出来なくてはならぬ。個性と云ふものが益々發揮せられなくてはならぬ。我れに背かうとするもの、我れを滅ぼさうとするものに向つて、必ず之れに戦ひ勝つと云ふ力がなくては世に立つ事が出来ないであります。今度独逸と戦ふやうになつたのは、或る国とは少しく感情を害したと云ふ事であらう。之れがために日米関係と云ふものにも影響を来すかも知れぬ。若し我々が之れを恐れて消極的に困難を避くると云ふ態度であるならば、到底進む事は出来ぬ。如何なる事があつても、我々は積極的に困難を排して立たねばならぬ。今度の事は我々も早晩ど一になつて来るだらうとは思つたものの、斯くの如く速かに来やうとは思はなかつた。然るに早斯うなつて来たのを見れば、今後の変動は急転直下の勢ひで来るであらうと云ふ事を予想しなければならぬ。

夫れで先づ第一に、我が国の威信を高めねばならぬ。(空白)氏の書いた本の巻頭に、亜米利加合衆國の白人種は九千万で、印度人のあひの子でも一千万からあるのに、亜細亜人種は十五万人であるとして書いて居る。之れを以ても、亜米利加が軍備を増して日本人を排斥しやうとして居るのであります。然らば日本國の威信と云ふものはどれだけであらうか。深く考へて見なければならぬ。

我が知力、我が精神の力は一番何に現れるかと云ふと、我が身体に真つ先に現るゝのであります。自分と云ふものは一番速く身体に現るゝのである。私共が世界を歩いて、其処の学生の態度を見れば校風、国風と云ふものは大抵一見してわかるのであります。明日はシカゴ大学総長 ジャドソン氏、及び支那で総領事をして居りました Greene 氏などが見えます。此の人々が支那を見て日本へ来て、どう感ずるでありませうか。詞はわからなくても、皆さんの様子によって大概はわかるのであります。

我が国では百姓とか海女とか云ふものは体格も立派であります。学生となると誠に柔弱さうに見える。併し外国へ行きますと、女学生と云ふものと他の婦人達と体に於て少しも劣つて居りません。さうして髪結び方から着物の着ざまに至る迄一糸乱れずと云ふ有様で、誠に Bright である。私共が我が国の母をどの点からでも比べて御覧なさい。決して遜色はないと云ふ自信が出来て、外国の人々も夫れを認めて始めて我が国の威信が高まるのであります。如何にから威張りをしても実価がなくてはだめである。故にどうしても私共が実を現さねばならぬと云ふ事になりました。

夫れで明日は外国の人々が見えて、ジャドソンと云ふ人は如何なる人格の人であるか、其の夫人はどう云ふ人物であるかと云ふ事をよく注意して見て貰ひたい。彼方の人も、深き注意を以てあなた方を見るのでありませう。私共はよその國民を学ぶ、又其の國民が如何なる理想を持ち、確信を持つて居るかと云ふ事を知らねばならぬ。又、私共が進んだ國の人々に劣らぬ者となり、又世界の文明に貢献するには、如何

なる事を学ばねばならぬかと云ふ考へを持って方針を立てなければなりません。

[中表紙]

大正三年九月二十一日

大学部一年、予科にて

大正三年九月二十一日

大学部一年及び予科にて

今学期の初めにあたりまして、此の夏休み中に経験せられたことが如何に実現せられつゝあるかをきいておくことが大切である。カードシステムなども其の方針で、夏の間経験して見たことが悉く、面会することをはぶいてわかるところの方法である。之れはまことに必要な報告であると思ふが、それがまとめてあるならきゝたいと思ふ。それには、よく内容を表はすやうに簡單明瞭にかくことが大切である。

[問題]

1、三学の集注点。之れは、時代精神が此の時期にひびいて居る。其の境遇に如何に応ずるかによって集注点が定まる。次は遺伝、経験による、休み二ヶ月の間に如何なることが出来たかと云ふことによつて考へる。

2、意志の方面から考へる。あなた方の最大要求、目的の方面から考へて、此の秋にすべき集注点を明にすること。之れを内容をわけて言ふと、第一、境遇は我が国民として、女子大学生として、日本婦人としての使命に対し、我々は今日何をなすか。

3、夏期休業中の経験。美、愛の如き理想の実現につとむること。之れによつて個人を知るやうにする故、カードを如何につかはれたかの経験をきゝたい。

[Self-consciousness]

カードの使用につき、避くべき欠点がある。それは余り自己を觀照するため自己感情 Self-consciousness に陥らざるやうに。故に寧ろカードは客觀的研究の態度で進むと云ふことになる。今一つは英語を応用するための機会として作ったのである。夏の生活は合理的であり統一的でありしか、或は断片的に陥らなかつたかがきゝたい。夏の経験により人を助け、後輩を導き、自己を修養するには、如何なる方法が最も有効であつたか。又は如何に改むべきか。如何なる考へで将来を率せんとせらるゝか。

4、健康状態を出してもらひたい。

主任の方から級の修養会、秋の計画等も出して下さつて、出来るだけ会の報告をして貰ひたい。

[Essence 統覚]

も一度 September、October のカードを十月からくりかへすことにしたい。此のカードの中には一貫したポイントがあるのである。あなた方の脳力の要とも Essence とも言ふべきもの、其の言ひ方は色々あるが、意志とも言ひ、統覚とも言

ふことが出来る。統覚とは本を読んで物を見ても、ちゃんと秩序よく統一出来る頭である。此の力が大事である。けれ共今日の教育では出来にくいのである。然し之れは、どんな小さいものでも大きなものでも統一する力がなければならない。之れは本当の意識、自覚と云ふものの素である。

それで夏休みのことや色々言つたが、前にあげた題目について、統一して見るのが大切である。前にあげた題目についてかけば一冊の書物にでもなるが、此のポイントは何かあるかを考へてもらひたい。

この独特と云ふことは一つの事、たとへば使命に対しては最高であるあなた方一人一人に独特なものがある。故に神と同一な普遍的なものと、今一つはあなた独特の長所がある。之れを發揮する。之れについては自分が Authority である。之れを以て社会に貢獻しなければならぬ。自分も之れをすることが満足である、糧である。我々は国民として偉大なる最上な国民とならねばならぬ。世界の統一に、文明に貢獻すべき特色がなければならぬ。かゝる国民を造るに、我々は如何なる責任をもつかと云ふことである。

[中表紙]

大正三年九月二十三日

大学部第二、三学年にて

大正三年九月二十三日

大学部第二、三学年にて

私は七月夏季休業に入る前に、我が国の女子の教育につきまして、桜楓会員並びにあなた方につきまして一つの問題を持って居りました。休暇中も成るべく夫れを研究して一つの解決をつけたいと思つて居りましたから、今日は稍其の解決をつけまして新しい方針を立て得るのであるけれども、夫れは大部分あなた方の中にある経験を本として立てたものであります。故に初めに、あなた方がど一見しておいでになるかを聞いて見る必要があります。あなた方はど一云ふ新しい方針をお立てになりましたか。又、今学期の集中心を如何にお立てになりましたか。初めに三年生に其の答へを求めたいと思ふのであります。

此の前に、実践倫理でとる問題をあなた方の最も必要と思ふ要求に対して取りたいと云ふ事を申しました。夫れに就いて未だ十分な答へを聞かないのでありますが、兎も角も今日は、実践倫理なり何なりの作業を最も必要な点から始めなければならないのであります。

[本校第二期発展に就きての努力]

人間は始終幾らか気分の上り下りがありますが、夫れにはやはり何かの原因があるのである。私共は何時も桜楓会員に対し、学生に対して期待する事が多いのであります。之れ迄十年間には大きい波がうつて、自分の信仰を動かさるゝと云ふやうな事がありました。然るに十年期を致しまして後、

過去三年の間は第二の発展の準備を致しました。そ—して第二の種が発展をするには境遇が必要であると思ひまして、境遇を開く事に勉め、世界の大勢をも見て来る事が必要であると思つて外国をも回つて参り、幾らか境遇を開拓する事に勉めました。

然るに十分外の境遇を開く事も出来ず、内の自発力を展ばす事も出来なかつたかのような感じが致しました。夫れを今日は、ど—云ふ風に解決をつけたかと云ふ事を皆さんに申して見度いと思ひます。

[十年期後の不完全に対する解決]

私は斯う解決をして居るのである。之れはあなた方が秋におきめなさつた信仰と一致したと考へます。私が桜楓会員に対する信仰は回復したのであります。今まで出来にくい出来にくいと言ふけれども、出来るのである。又、能力から言つても、遺伝から言つても力あるものである。故に信仰を回復したのであります。

併し、其の信仰はあなた方の実力と云ふものを今迄見誤つて居つたかと云ふと、そ—ではない。今迄心配して居つた事が今日は少しもなくなつたかと云ふと、そ—ではない。けれども之れを物に譬へて言ふならば、病人があつて夫れは痼疾で今迄ど—もはかばかしく治らなかつたのであるけれども、よく診察が出来て夫れを治す方法を見出したので、回復の見込みが立つたと云ふ訳であります。つまり我が国の婦人が決して外国婦人に劣つて居るのではなく、今日迄の生活の道が少し間違つて居つたと云ふやうな事から病気になつて居つたのである。けれども今日では、健全になる事が出来る、確に力があると云ふ事がわかりました。

[今学期の動き]

此の期になつて、お客さんなり我々自身の見た処で何か動いて居るものがある。之れは表面のものではない。今迄でも互の力の働いた時には確に一つの働きが出来て、其のあとかたが今日も矢張り残つて居るのであります。夫れで今日、其の実体を感じて居ると言ふ事が出来るのであります。

[過去の不満足は力の浪費にあり]

確にあなた方には、も—層力を出す事、も—層発展する事の出来る能力を持つておいでになると思ひます。夫れが何故も—一つ満足する様に発展する事が出来なかつたかと云ふと、確に之れ迄は力の浪費又は圧迫があつたと云ふ事である。其の浪費を取り除く事が出来たならば、其の生活の矛盾を除く事が出来たならば、銘々の力を遺憾なく發揮する事が出来る。必ず此処に見るべき活動を現す事が出来ると云ふ事は確に信ぜらるゝのであります。

夫れで私が今、集中点を申す前に、あなた方の焦眉の急とも言ふべき要求とも言ふべき、つまりあなた方の根底ともなべき要求を満たす前に、必要条件がある。つまり其の病気を治す前に極手近い処から着手して行かねば、道が塞がつて進まれないと云ふ事があると思ふ。

私は今のあなた方の態度と元氣とは大に満足をして居るのであります。併し此の間から大に心にかけて居る事があります。夫れは其の組に限らないでありませうが、其処に一番

現れたと思ふから代表して挙げねばならぬと思ふ。此処に一番浪費の大原因があるかと思ふ。

[学問は長時間を費すべきものにあらす]

此の頃、或る大学で斯う云ふ研究をしたのである。之れ迄余り勉強をし過ぎて身体を悪くしたり疲労をしたりして力を浪費すると思つて居つたのである。今、体格の一番悪ものは大学から出たものであると云ふ事でありす。然るに今日では、Overwork は生活の仕方の間違つて居る為であると云ふ事でありす。正しき生活をして居る学生が十五分間に十分仕遂げる事を、生活の間違つて居る学生は二時間かゝつて未だ完全にする事が出来ないと云ふ。

故に学問と云ふものは、唯だ時間をかけたからと云つて本当の事が出来るものではない。如何に働いたかと云つても、其の力を浪費する様では効果は挙げられないのであります。此処に原因がある。決してあなた方は怠つては居らない。非常に勉強もし、非常に働きもするけれども、其の生活を誤つて居てはだめであります。

[浪費の徴候の現れの早きもの]

此の浪費を計る標準がいろいろありますけれども、一番最初の見易いものは効力の減ずると云ふ事である。あなた方の毎日の働きに満足を感じるならば浪費が少ないと云ふ事は言はるゝが、満足が出来ないならば浪費が多いと云ふ事を証するに足るのであります。

夫れから私は斯う思ふ。今日仰つた事は感情と云ふ事ではありますが、其の感情であっても其の他の力の浪費が起つて来ると云ふ事が一番何処にあるか。又、私共の生活の上で一番浪費して居る分量の多い処は何処にあるか。又、其の浪費が何処に一番先に現れて来ると云ふと、先づ私は真つ先に身体の中に現れて来る、健康状態に直ぐ徴候が見えて来ると思ふ。身体の不健康なる生活から起る処の浪費が一番多くはあるまいかと思ふ。夫れで此の頃私が他の点については大分満足を致しますが、心にかゝるは身体の事である。此の中でど—も弱い様に思ふのは英文科であります。之れは人数が少ないから目につくのでもありませうが、又、少ないから何時も惜しむのであります。之れに就いて直ぐ即断を下して、他の組よりもOverwork ではないか、余り勉強を仕過ぎると云ふ事から来るのではないかと云ふ考へが出易いのである。

併し之れは果してそ—でありませうか。之れは独り我が校のみならず帝國大学、高等学校、その他総て我が国の学生の問題であり、特に私は御婦人の為に心配するのであります。さうして神経衰弱と云ふ事が多いのである。今日まで非常な学問をして居る学者は、悉く神経を疲らして居ないのである。故に、仕事を余計にするから神経を痛めると云ふ訳ではないのであります。働きさへすれば必ず能力は殖えるものである。つまり生活の仕方がわるいから、神経の使ひ方がわるいから起る事であると私は判断するのであります。

[学生の発展、国民の発展は健康の増進にあり]

故に学生を發展させやうと思ふならば、国民を發展させ様と思ふならば、先づ其の健康を増進しなければならぬ。そこで先づ第一に我々が考へねばならぬ問題は、如何にして此の

病を治すべきか、如何にして此の病を除くべきかと云ふ事であります。

つまり病氣と云へば結核などもあります。肺や内臓に結核がつくと云ふと、之れは外部からつくのであるけれども、其の原因は又、内にあるのである。故に我々は其の原因を防ぐ事も出来るのであります。病氣の一番の原因は疲労であります。故に先づ初めに此の疲労と云ふ事、例へば今日などは暑いけれども、疲労しなければ身体がだるくなったり眠くなると云ふ様な事はなくてすむのである。疲れた頭を以て物を考へても、本を読んでも効力が現れて来ないのである。故に私共はどーしても疲労の原因を除くと云ふ事に勉めねばならぬ。今日から皆が銘々に行つて、之れが学校衛生に普及するやうにしなければなりません。

今日疲労は何処から来るか、其の疲労は如何にして防ぐ事が出来るかと云ふ事は大に研究が出来たのである。之れを詳しく申す時間もなければ必要ありませんが、疲労の原因は何であるかと云ふ事を知らねばならぬ。今まで疲労とは、細胞の實質が消費せらるゝ事である故に、夫れを回復する為に休養をしなければならぬと考へて居りました。夫れも一部の真理であるけれども、今日の最もよく実験した考へは、其の働いたり考へたりして使はれた炭酸瓦斯、又食品が消化しないで余つたり或は少し腐敗した部分が血液に入つた時に、之れは肝臓の中へ入つて精選されて心臓の方へ来れば健康状態であるが、其の二酸化炭素や雑物が血の中へ交つて来ると直ぐ様疲労を感じ、或は病氣を起すので、之れはドクター ホッジ、其の他の人々によって証明せられた事であります。之れに食塩注射をすると直ぐ元氣を回復すると云ふ事もあつて、疲労若しくは病氣と血液とは非常に密接な関係があるのであります。

夫れから食品の消化がよくて、血液が清潔になつて内臓がよく動いて居るならば、確かに健康が増進するのである。之れは機械であつて、殆んど我々が意識を用いずに働いてくれるものであります。

併し一方には、我々が意志を以て始終此の働きを調節し、適当なる刺激を与へて行かねばならぬ。之れは気分と云ふものが大切であります。感情と云ふものが、能力の上に非常な関係をもつて居るのであります。私共が学問をしても、始終勇氣を以て勝に乗じて進軍する時の様な有様で勉強するならば、少し無理をしてもどんなに忙しくても決して疲れるものではありません。

[今年の方針]

然るに御婦人の生活と云ふものは、感情と云ふものが始終支配をして居るのであります。故に今年は斯う云ふ方針をとりたいと思ふ。夫れは、人格の感化力を以て力をつけると云ふ事でもあります。此の夏休みに読みました本の中に、人間の教育の上に感化力と云ふ事が非常に大切なものであると云ふ事が書いてありました。

[新約全書と旧約全書の違い]

宗教で言ふならば、旧約全書の教へと新約全書の人を救ふ方法と如何に違ふかと云ふと、旧約全書には憎む、罰、罪、

怒り、嫉みと云ふ様な字が沢山ある。故に旧約全書を読むと神様は恐ろしいものと云ふ様な感じが起るのである。然るに新約全書には愛とか、自由とか、信仰とか、希望とか、熱とか、勇氣とか云ふ文字が一番沢山使つてある。故に心に善い感じを与へて、之れに由つて感化して行くと云ふ事であります。

其の次に文学では、Wordsworth などが挙げてありました教育にしても、唯罰とか先生の威厳とかで抑へつけるのではなく、感化力を以て人を改めさせると云ふ事が書いてあつたのである。

人にしても、温い熱のある親切なる人格であるならば、何時もそー云ふ詞が多く出るので、其の反対の人ならば、又きつと反対の詞が出るのであります。

故に私共は自分にも人にも善い感化、善い暗示を与へて、暗示によつて教育して行くと云ふ事に重きを置くと云ふ事が大切であります。之れは浪費と云ふ事について原因を除くと云ふ事は、先づ第一に致さなければなりません。

私共は浪費に妨げられて居つて、其の為にどーしても満足なる生活が出来なかつたと云ふ事が事実でありませう。故に私共は先づ、身体から精神生活の教訓を受くると云ふ事が大切である。そこで私共は機械的に又精神的に浪費の原因を除いて、人格の温い感化に由つて銘々の力が十分に發展する様な生活を致さねばならぬと考へます。

[中表紙]

大正三年九月三十日

大学部全体のために

大正三年九月三十日

大学部全体のために

九月第一の徳目は偉大なれと云ふ事で、三十日は大我たれと云ふ事でもあります。夫れで、あなた方のお出しになつた集中点にいろいろあるけれども、つまり偉大、或は大我たれと云ふ事になる。今日申す事は総て比喩的であつて、之れ等の詞は表象的のものであります。

[偉大なれ]

夫れで先づ之れについて今日の境遇から考へて参りますと、偉大なれと云ふ事は世界的な人格たれと云ふ事で、之れを比喩的に言へば、汝の領分を世界的に拡大せよと云ふ事になります。英國は世界中、日の入る処がない。亜米利加は非常なる財源を持つて居る。我が国は国家から云へば、国家的勢力範囲が世界中に拡大せられねばならぬと云ふ事になります。併し今日の拡大と云ふ事は、唯だ領地を拡張すると云ふ侵略的の意味ばかりではありませんが、さう云ふ風に考へるとわかり易いのである。兎も角も、我が国家、我が國民は世界的にならねばならぬと云ふ境遇に居るのであります。最も大きくならねばならぬ刺激を受けて居るのである。其の境遇に適ふ所の教育を受けねばならぬと云ふ事になるのであります。

故に目的は、自我拡大と云ふ事になる。

[自由]

次に、集中点を自由と云ふ事であるとした人がある。之れも真理である。国家から云つても、外部の抑遏から逃れねばならぬ。今度、我が国は三国同盟で以て抑遏を加へた。復讐的に独逸を敵にとりました。之れは当然な事であらう。併し今度の戦争に由つて独逸皇帝は、ナポレオンの様に独逸皇帝と云ふものはなくなるかも知れぬ。けれども独逸と云ふ国は滅びはせぬ。さうして中々ねばり強い国であります。

[自立の必要]

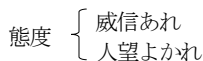
其の他いろいろ世界の列強と私共が運命を争うて行くのは、甚だ困難であると云ふ事を考へねばならぬ。夫れで丁度斯う云ふ境遇に於て、国家としても外部の圧迫からはなれると云ふ要求が甚だ強いのである。之れは個人としても同じ事があります。之れと同時に国家としても、個人としても自立と云ふ事がなくてはならぬ。

[気品高くなる源]



此の自発力が内に備はると、気品が出来て偉大になるのである。

[Noble]



Noble と云ふ事は其の人の威厳であつて、尊厳を受け、信用せられ、喜ばるゝやうな国家となり個人となることであります。

[Great]

そこで之れは、皆 Great と云ふ詞の中に入るのである。Great の中には**最上なれ**とか**最高なれ**とか云ふ意味がある。さうして Sovereign と云ふ詞を使へば、**帝王たれ**と云ふ様な意味もあります。

[女子には Great と云ふ事を要求出来ぬか]

併し之れは Napoleon の如く、Christ の如く、佛陀の如き偉人に要求するは宜しいが、之れを我々の如き女子に要求するはど一であらうかと云ふ不審が起るかも知れない。此の事に就いては、予科と一年とは詳しく申しておきました。兎も角も、我々は第一流の人物とならねばならぬ、偉大なる人格とならねばならぬと云ふ事が要求である。

[第一流の人物たる二大要素]

然らば如何にすればよいかと云ふと、此に二大要素がある。夫れは、

- (1) 独特たれ (2) 大我たれ

と云ふ事であります。精神生活に入ると云ふ事と、自分が独特の個性を充分に発揮すると云ふ事で、此の二つの修養を積みめば、我々は一種の偉人となる事が出来るのであります。

[現代の要求する修養]

之れは境遇から考へて、今日の時代の精神に励まされて起つて来る処の、ど一しても斯う云ふ修養を積みねばならぬ

と云ふ事になる。

[我が国婦人の不満足なりしは小人たりしによる]

第二に、あなた方の経験から考へて、何故之れ迄の我国婦人は満足が出来なかつたか、何故に煩悶があつたか、何故に共同生活が出来なかつたか、何故力の浪費が多かつたかと云ふと、つまり少さいと云ふ事になる。故にど一しても我が国婦人は大きくしなければならぬ。小人閑居して不善をなす。つまりぬ心配をしたり常識が欠けたりするのは、経験が小さい小人であるからである。所謂知識が断片的で、全局をつかまへる事が出来なかつたのであります。健全状態になれなかつたのである。故にあなた方はど一しても To be great 或は **大我たれ**と云ふ事に着眼して、学問修養をなさる事が必要であると思ひます。

[精神的我たれ]

第三、あなた方の要求から云つても、生活の徹底、信念の涵養と云ふ様な根本要求が其処に一致して居る。故に此に集中点をおいて活動を始めねばならぬと思ひます。つまり精神的生活、**精神的我たれ**と云ふ事になるのである。

[大我の真髓]

此の**精神的我れ**又は大我と云ふ事は、其の大我と云ふものの真髓は何であるか。夫れは二つあつて、Uniqueness と Whole である。一番大きなものは宇内である。

[宇内]

其の宇内と云ふのは拡がりから言つた事であるが、之れを内面から言へば完全と云ふ事である。故に自分が宇内と一つになり、全体の為に貢献すると云ふ所に使命があります。

[世界文明に我が国の貢献すべきもの]

我が国家は、世界文明に対して何かを貢献しながら世界と提携しなければならぬ。故に偉大なれと云ふ事の真髓には、ど一しても斯くの如きものがなくてはならぬ。其処で我々が偉大になると云ふ事は、無限に自分を拡大して行く、向上して行くと云ふ事にある。之れが宗教の目的であり、科学の目的であり、道德、芸術の帰趣であると言ふ事が出来ます。

[詞或は表象は真髓と一致す]

此に於て昔から今まで、人類が発明した処の詞、或は表象等を研究して行くと、其の根底は悉く相一致して居る。故に其の詞と表象とに由つて真意を解する事が出来ると思ふ。

Great と云ふ事は偉大と云ふ事の表象。又、精神的生活と云ふ事の表象は東西共に一つである。夫れは何であるかと云ふと、完全で○。日本の詞では円満、或は全一と言ひます。之れに⊕を入れると、基督教で言ふと十字架である。之れに卅を入れると、やはり仏教の**しるし**で、健全、円満と云ふ事になります。之れ等は皆完全と云ふ事で、宇宙、無限と云ふ事を意味するのであります。即ち宇内を包括したものが Great であり、其の中がちゃんと秩序整然として帰一して居るものを完全と言ふのであります。正しい人を□な人と言ふのも矢張り完全と云ふ事である。故に語の幹と云ふものは皆一つであつて、夫れからいろいろな枝が出たのであります。

そこで Greatness になるには生活にも欠陥のない様にし、完全無欠にならねばならぬ。我々の知識もちゃんと全体が

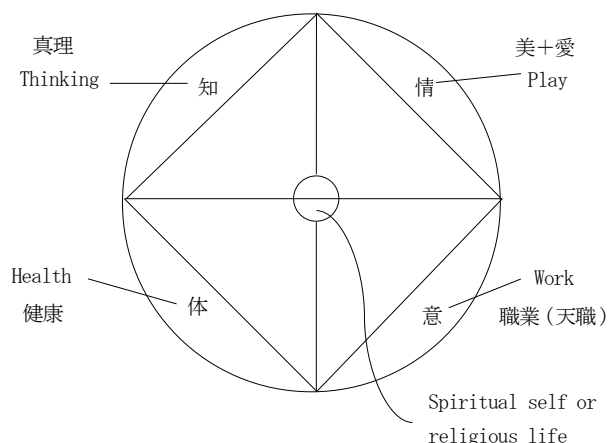
調和一致して居るものでなければならぬ。故に之れを時局から考へれば、誠に分り易いと思ふ。

[世界の地図を作れ]

私は此の際、あなた方に世界の地図を書かせやうと思つて居ります。地図を書くのは、あなた方の頭を拡大する所以であります。地球と云ふもの、細胞の核と云ふもの、宇宙と云ふものも円いものである。故に生活も円満でなければなりません。

[生活の地図]

此処に The map of life と云ふ本があります。私は生活の地図を引いて、円満なる生活とは何ぞやと云ふ事を説明する方が便利であると思ふ。



[Whole]

此の総ての働きと状態とが完全して調和、統一したものが偉大であります。之れ等を皆よせて英語では Whole と云ひ、夫れから生活が全体に徹底したものを神聖、即ち Holy と云ひ、身体の総ての機関が共同してよく整うた事を健全、即ち Health 又は Wholesome と云ひ、其の病気を癒す事を Healing と云ふ。之れ等の詞の本は皆、完全と云ふ事が根本となつて居るのである。

[Logic]

故に生活の根本は Right thinking で、偏らない様に、誤らない様に、偽らない様に、眩惑しない様に考へる事を Logic と言ふのであります。

Heidelberg の Driesch と云ふ人は、著書の名を Mechanism と Vitalism として居る。此の人は精神的論理をつかむと云ふ事が一番大切であると言つて居る。

精神的論理は、完全論理の一部である。而して完全論理は総ての論理の始めであり、又終りである。論理の終局は秩序の総計なり。故に総ての秩序の帰一、或は全一であると云ふ真理である。つまり此の論理を欠くから断片的となり、病的となる。婦人の欠点は多く此に存するのであります。そこに矛盾があり衝突があるなら、部分的であるなら、夫れは真理ではない。故に、知と云ふ事の真理は矢張り Wholeness であります。

[愛、及美の存在所]

夫れであるから、愛と云ふもの、美と云ふものの要素はちゃんと秩序があり、全体である所にある。働きと云ふ事を私は The whole of activities と云ひませう。

[Holy]

健康の本は Healing で、之れも Holy から出て居るのである。神聖とか、全体とか、清潔とか云ふ事の総ての本は Holy で、之れがやがて Spiritual life であります。

今、之れを私は時局から考へて比喩的に言つたけれども、矢張り一つの論理があります。そこであなた方が生活をする前に我が国家を偉大にする為に、国民教育をするに偉大にしなければならぬ。其の前に Map of life を作製する事が必要である。故に地図を作ると云ふ事は、最も時に応じた仕事である。さうして地理の上には歴史あり、歴史には必ず人間が伴つて居るのであります。

[地図の変化]

地理と云ふものは其の初め、誠に部分的な不完全なものでありましたが、近來漸く完全に近い世界の地図が出来ました。けれども今度の戦争によって、世界の地図は又どの様になつて行くかも知れません。

[世界の舞台に上りたる日本]

此の世界が人類活劇の舞台となつて、其の舞台と活劇とが昔から今に至るまでいろいろ伝はつて居りますが、我が国が世界の活劇の舞台に上つたのは、御承知の通り誠に新しいのであります。故に、我が帝国は如何なる特色を持つて居り、如何なる活動をして世界に貢献する事が出来るかと云ふ事、及び我々は如何なる使命を帯びて居るかを知らるために、此の地図を作製するのである。

[文明の中心点の移動]

私も昨年、世界を回つて参りましたが、何処に行つても都府と云ふものと、水即ち海や川と云ふものは非常なる関係があるであります。昔は地中海を中心として世界的活劇を演じて居つた。夫れが近年、殊に過去一世紀間に於て、太平洋を中心として文明に非常なる変化起して来たのである。然るに今後は何処に中心点が出来ると云ふと、大西洋に移つたのであります。日本は台湾まで手をのばし、米國は布哇、Philippine 迄出店を出し、英國は New Zealand, Australia 迄と云ふ様に勢力範囲が広がつて居る。故に今後大西洋で活劇をなすものは、我が日本と亜米利加合衆國と英國とであります。

[今後の世界的大戦争は支那]

或る人は今度の戦争を、恐らく世界の最後の戦争であらうと言つたさうであるが、最後ではあるまい。今後、世界的大戦争は何処であるかと云ふと、今後は支那を中心として開始せらるゝであらう。故に今後、孰れが勝ち、孰れが負けるか、孰れが拡大し、孰れが縮小するかと云ふ事は大問題であります。

[独逸皇帝の暗示を受けたる亜米利加]

亜米利加人は黄禍と云ふ事を夢みて居るが、斯様な事を Suggest したのは独逸國、殊に独逸皇帝で、此の暗示を最も

深く信じて居るものは亜米利加合衆國民である。故に此の黄禍と云ふ説が今日矢張り復活して、排日運動となつて居るのであります。

[黄禍説の二種]

此の黄禍説に二種あって、日本人が東洋を扇動して欧羅巴をかき乱してはならぬと云ふ事と、も一つは経済的の問題であります。そこで之れを防ぐには、英國と米國とが同盟して防ぐならば叩きつぶす事が出来るのであらうと思つて居ります。又、經濟上の事にしても、英米同盟によって当らねばならぬと考へて居る。此の考へは非常に広がつて居る様に私共は信じて居るのであります。欧米人は黄禍と云ふ事を恐るゝけれども、我々は白人禍を思ふのである。

[日本の急務]

そこで、我が日本は武力に於ても、富に於ても、道德に於ても、知識に於ても、総ての点に於て優秀なる帝国とならねばならぬのであります。そこで Great nation と云ふ事の標準はよく研究しなければ言ふ事が出来ないが、唯我々は総ての点に於て Great にならねばならぬ。

[今後の母]

其の國民の母となるべきものは、ど一しても Great にならねばならぬ。今日は小人ではいけない。故に先づ世界の地図を拵へて、修養の道を講じなければなりません。

[中表紙]

大正三年十月五日

大学部一年及び予科にて

大正三年十月五日

大学部一年及び予科にて

[主観的態度と客観的態度]

主観的 Self-consciousness と云ふ語は色々につかはれますが、文学、美術、哲学、倫理等、皆それぞれに意味をもって沢山用ひられるのであるが、此所では自我意識と云ふことに用ひたのである。自分を自分で見る、内観する、此の態度が主観的である。客観は自分が見る対象物である。自分を見るにも、此の両方の態度がある。之れは心理、倫理、文学、美術、それぞれの意があれど、之れは自分でしらべて見てもらひたい。

自分で自分の心を解剖して見る。自分の感情、意志、行ひの善悪を考へて見る。推理、判断するのが主観的態度である。皆さんがカードをつけて、自ら反省する、比較する、自分の価値を考へるのが主観的態度である。自分は病氣がある、又こんな欠点がある、又自分は如何なる才能があると云ふことを、自分で自分を知る。之れが即ち主観的の働きである。

しかし之れは若しよいときはよいが、もし悪い時、如何に努力しても悪癖がなほらないと、自分でつまらぬと云ふことを意識して来る。煩悶して来る。悲観して来る。之れが主観

的である。自分をつまらぬものとしてしまふ。カードをつけるに、余り主観的にならないやうにと云ふのは之れである。それ故、人から余り注意せずに自分で自分を省みて欠点をなほして行くと云ふやうにして、自分を客観的に見て批評し、客観的に見て改めると云ふ態度でありたい。幸福と云ふことを主観的に云へば、自分の心の向け方、もちやう、精神生活によつてである。

今一つ心の要求を満足さすには、境遇がよくなければならぬ。外部の満足は富の力によらねばならぬ。今一つは、社会と云ふ人との関係が理想的につかなければ出来ない。故に之れは境遇がなければだめである。社会の改善は自分の要求する境遇を作りさへすれば満足と云ふのと、今一つは之れをするのも、つまりは心のもち方一つである。意志が可能的にさへなれば心の状態を注意し、内をひらきさへすれば満足は立ち処に出来る。内に重きをおく、之れが主観的生活と言ふ。境遇に重きをおき、社会改善のために働く人を客観的な人と言ひ、客観的生活と言ふ。

[主観的、客観的]

今、皆さん自分で省みて主観的の傾き方と客観的の傾き方とありませう。東洋の修養は主観的になり、西洋の修養は客観的であるが、両方面が大切である。西洋と東洋と一方に傾いたために行きづまりとなつたのである。自分で自ら卑下するのと他から言はれるのと、此の両方で確信が出来ないのである。若し此の意味の主観がとれなければ信仰が出来ない。あなた方御婦人は、人の偉大なるところがどこにあるかを見ることの出来る力がなければならぬ。之れは大切な力である。此の力がなければ偉大な人を作ることも出来ないのである。

[中表紙]

大正三年十月十二日

大学部一年及び予科にて

大正三年十月十二日

大学部一年及び予科にて

学生の頭が一般に機械のやうになり、創始的にはたらくとか、又正しくはたらくことが乏しいため、非常に損になる。此の教育の弊の原因は、我が国の言語文字の不便から来て居る。

[ローマ字について]

之れをよくするには国語を整理するは勿論であるが、符号であるところの文字をかへる方がよからうかと思ふ。将来はローマ字になるであらうと云ふことは多くの識者の信じて居ると同時に、英語を易く学ぶことが出来るやうにする。此のために、かう云ふ方法をとつたのである。

第一の目的は頭の健全発達を計るためである。次には考へ方と之れを表す仕方にかへて、健全に発達するやうに

する習慣をつけることが急務である。To be great と云ふは To be perfect である。故に、それには先づ欠点を改めることである。考へ方をなほすと云ふことは大切なことである。それをなほすに大切なのは興味、自発力。よく反応することが大切である。殊に世界的に興味を拡大するために、時局問題を捉へて人格を世界的にまでひろげるの好機から、適当な材料をあげてかいたのであるから、考へ方及び態度をかへてもらひたい。

今一つはあなたが今、之れを消化することが出来たら、あなたの頭の発達が速かになると思ふから、精々勉強なさるやうにしたい。之れについて問題は 一、二、三年共同じであるが、内容がちがうのである。

[City, State]

City の語源はグリーキである。我が国でも城下と云ふことを言いますが、此の City は要塞と云ふことから来て居る。即ち、古代の避難所、城、要塞、柵の如きものと云ふことから来て居るので、グリーキの City と云ふは State と同じことである。State は国家と云ふ意味。政治と云ふことと同じである。

[Burg]

獨逸の Burg と云ふ語も City と云ふことから来て居る。山、高い処と云ふ意味である。

[Grad, Town]

ロシアの語では Grad、英語で Town と云ふも皆同じ意味である。それでこゝに City と云ふは、国家と云ふことに相当するのである。

[ホーマー]

ホーマーはキリスト降誕前 九百年に生れ、詩人として有名である。

[ヘロデタス]

ヘロデタスはキリスト前 四百八十年に生れた人で、最初の歴史家で、又美と真とを愛し、初めて地図を作った人である。

[ストレーボー]

ストレーボーはキリスト前 六十三年に生れ、旅行により地理の研究をなし、地理学につき十七冊をかき、キリスト後二十一年にて、即ち八十四才にて死す。今日の世界の中心点は太平洋か、地中海か、大西洋かと云ふことが大切な問題である。

此の次までに、地理の関係、原因、此の戦ひが将来に及ぼすことを考へておいでなさい。

[Great nation]

将来世界を支配するものは、Great nation である。世界の何れの国民が最も Great であるか。其の Greatness の Standard は何によって定むるか。我が国が消極的に丈けでも国運を保持することは容易ならぬことであるが、世界文明に貢献するところの一要素にならねばならぬ。之れは如何にしたら出来るかと云ふやうな問題を考へて見てもらひたい。

[中表紙]

大正三年十月十四日

大学部二、三年にて

大正三年十月十四日

大学部二、三年にて

[欧州大動乱の最近因]

欧州大動乱の最近因

- 1、獨逸皇帝の野心
各人種の競争
感情 = Hatred 嫌悪
- 2、Feeling = 恐怖心 = Fear
- 3、Desire = 欲
 - (1) 人種の嫌悪
 - (2) Seventeen provinces, Seventeen languages
 - (3) 獨逸及奧地利の危機に際する敵国の同盟
 - (4) 恐怖

[近因の大別]

獨逸と奧地利とが大層不利な地位に立った上に、自分を圧迫する三国同盟がある。第四原因として数ふべきものは恐怖。之れ等が最大原因であるが、之れを大別すれば二つとなる。

第一、人種的競争

第二、奧地利がセルビヤに反乱した事

之れ等が二大原因であります。

斯う言へばあなた方は、彼の獨逸と云ふ後ろ立てを持った老朽の奧地利が、あの小さいセルヴィヤを何故恐れたか、一寸不思議に思はるであらう。奧地利は十七の国王があり国会があり、又ハンガリーが分れて Croatia が分れて居る。之はハンガリーと別の国体を有して争うて居る。

次にボスニヤをもぎとつてハンガリーにつけたから、其の為にボスニヤが怒って殆んど謀反が起りかけた位である。

[人種及人口]

奧地利 ハンガリーの人口は二千八百二十五万人で、中 一千万人は獨逸人種で、チェックス人種は六百二十五万人、スラヴ人種が五百万人、ポーランド人三百二十五万人、ルスニヤ人が百二十五万人。

左様に人種が違ふのみならず、詞が違ふ。之れが益々仲違ひをする原因となる。其の上に、オーストリア ハンガリーは武力を以て圧服しやうとするから、君主に感謝するとか忠君愛国とか云ふ念は育ちにくいのである。

セルビヤ、ボスニヤ 対 他国は、宗教的争ひがある。他人の信仰を抑制せんとするのである。利害の関係も多いのである。之れが最近の不満を買った最大原因になって居ります。

昨年のバルカン戦争はモンテネグロ、ブルガリヤ、セルヴィヤ、 그리스 と四つの国が同盟して、土耳其古に向つて戦ひをした結果、其の時の同盟が今日猶続いて居り、ボスニヤ勃興となり、姉妹国のヘルゼゴヒナに由つて猶憎しみが加はつたのである。さうして皆が獨逸人を憎む事、犬猿も啻ならざる有様で

ある上に、民を懐ける事が出来ぬ。さうしておまけに宗教が違ふ故に、宗教から起る反感と云ふものが非常に強い。獨逸が地中海へ出やうとするには、ど一してもボスニヤをとらねばならぬ。之れ等は皆材料であるが、其の中から Cenrtal point をつかまへて、成る程斯うなれば軍は起らざるを得ないであらうと考へねばならぬ。露西亜、グレートブリテン、佛蘭西と云ふ三大強国がバルカン半島を保護して居るから、奥地利と伊太利と獨逸との三国同盟では今に抑へきれなくなるであらうと云ふ事が、又三大原因となるのであります。

[欧州動乱の遠因]

之れが今度の動乱の再近因で、其の遠因は五百年前から繰り返されて居る。今日は物質文明のために世界が狭くなって、終に大動乱となつて來たのであります。

[力の平均と法律の平和]

遠因として、も一つ大切な戦争の原因がある。之れは前に私が英語の雑誌に云つた事があります。夫れは力の平均である。之れは世界各国を治めて行く本である。世界の平和を得る原理は力の平均で、も一つの主義は法律の平和、或は正義の徹底である。詞をかへて言へば、徳義の力、或は愛の力で、之れを治めると云ふ事、之れが二大主義である。

[共同主義の起り]

然るに将来は Justice and brotherhood で行かれるだらうと云ふ事を夢見て居るのであります。Napoleon が出てから、共同主義で世界を治めて行かると云ふ事がわかつたのであるが、Napoleon より前にはわからなかつたのである。日本でも、昔は封建制度によって君父の讎は臣子が討つと云ふ事が道徳に叶つたものであつたが、今日は夫れは不道徳となつた。

併し兎に角、力の平均と云ふ事は大切な事で、此の平均を失して一国が他の国よりも非常に強くなると云ふと、必ず其の結果平和を乱し、文明を阻害する事になる。之れは歴史上屢々繰り返された事で、之れに由つて人類が発明をして力の平均を保つ様に勉めるのである。

[主戦論者の獨帝]

獨逸皇帝は主戦論者で、総ての力を軍事に用ひ、発明力でも何でも破壊に用ひ様とする。さうして他の国の安寧を妨害しやうとする。之れが他の国の同盟を起す所以であり、今度の戦争の原因であります。

[欧州の形勢]

獨逸の態度は進撃的で、始終自分の腕を伸ばさうとして居る。佛蘭西にしても白耳義にしても防御的である。英國は商業上の覇権を握つて居る。さうして米國是非常なる富の力が集まつて居る。之れも非常にあぶないのである。

[Alliance と Entente]

そこで、Balance of power と Triple Alliance と云ふ事を覚えねばならぬ。Alliance とは英語であつて、此の同盟に攻勢の同盟と防御の同盟との二つがある。さうして同じ意味で Entente は仏蘭西語であるが、今日では英語にも使用せられて居ります。Triple Entente は露西亜、佛蘭西、英吉利との同盟であり、Triple Alliance は伊太利、獨逸、奥地利の三国同盟を言ふ。さうして小さい国が同盟して大きな国に

当るのは League と云ふ。セルヴィヤ、土耳其、グリーキ、バルガリヤ、ルーマニヤ等が之れである。

又、此の主義から出来て来るものを、Neutrality 局外中立と言ふ。之れは自国の意志から出来るのと、他の国々との關係から起るものとある。又、一時的の中立と永久的の中立と二つあつて、之れも力の Balance をとる為に生ずるものである。局外中立は和蘭、(空白)と獨、佛の境にある瑞西。之れ等は永久的の中立であります。諾威、瑞典、丁抹、支那、亜米利加合衆國は中立で、日本、フィジーアイランド、オーストラリヤ、フィリッピンは赤組であります。

従来世界の活劇は地中海を中心としたのであるが、今日の舞台は大西洋である。然るに将来は、太平洋上に於て活劇を演ぜられんとして居る。さうして人種的偏見、語の相違及び宗教の違ひと云ふものが、如何に人類を苦しめたか。人類は其の為に如何に Struggle したかと云ふ事がわかりであります。此の事を知らせんが為に、此の地図及び本文を加へたのであります。

人種を大別して、白人、黄人、黒人種とするのであるが、今の戦ひの起つた本は白人種間の競争である。

白人種を分けると幾つになりますか。ノアの三子が分れてセムは埃及人種、リリヤ人種になり、ハマイはバヒロン、アッシリヤ、ヘブライ、アラビヤ人。ヤベデ (空白) スラヴィツシュが又欧羅巴の北東と南と西とに於て三つに分れて居る。ヤラウは日本人、韃靼人、露西亜の北の方、トルコ、ハンガリアン、モンゴリヤン等である。

今日の戦争は Teuton と Slav と Celt の争ひで、之れに Yellow が加はつて居る。斯う分けて見ると、Great nation、Great empire とは何であるか。も一つは世界を統一する力の平均、法律の平和と云ふ事が最も力あるものであらうか。斯う云ふ事を深く考へて見ると、今後如何なる人種が世界を支配するものであらうか。又、世界を統一するものは力の平均であらうか。法律の正義、又は道徳の力であらうか。

斯う云ふ事を問題として、少しく討議して見たらばど一であらうか。又、人種別にして、ど一云ふ人種が勢力を占むるものであらうか。又、如何なる国家が優勢になるであらうかと云ふ事を次に討議して見てはど一かと思ふのであります。

[中表紙]

大正三年十月十九日
大学部一年及び予科にて

大正三年十月十九日
大学部一年及び予科にて

[Balance of power]

中立国を定むるには万国會議をして、之れによって定めるのである。さうでなければ、強国が弱い国に迫ることがあるからである。それで獨逸が白耳義を侵したことは道徳上、又

万国公法の上から罪悪でなからうか。獨逸の有力な人で、之れは罪悪でないと言ふ議論があるが、あなた方は如何に判断せらるるのであらうか。

此の条約は戦時に於て犯してならぬことである。三国同盟が出来、又は中立同盟の出来るのは如何なる理由であらうか。即ち之れは国力平均 Balance of power である。世界の平和を維持するため、一つは国力の平均である。獨逸が非常に軍備に力を入るゝと平均がとれなくなる。故に国力平均により平和を保つことと、今一つは正義、愛、人道、四海兄弟主義などにより、精神力により平和を保つことであるから、文明が理想的になれば最もよいのである。

獨逸などは一ヶ国平均がとれない。それで三国同盟して之れに向ふ様になり、其の間に力の平均を保って平和を維持する。之れは軍備の点に於ても同じく国力平均のためである。故に軍備拡張の制限が言はれて居るが、未だ実行は出来ない。

[最近の原因は何か]

今度の戦争の原因で最も古い原因は昔に遡るやうになるが、最近の原因、即ち如何なる人種的動機、感情から来たかと云ふに、(1) 自我保存のため、(2) 大望心(進撃的態度)、(3) 民族的反感、即ち嫉妬心、(4) 利害の衝突(国家的)。

自我保存のために止むを得ず戦ふのを Defensive war と言ひ、進撃的の方は Offensive である。民族的反感は Racial hatred であつて、之れが戦ひの基である。利害の方は経済上の平均をとるため、このために戦争になることもある。

最近の原因はセルビアと奥國との衝突で、之れは宗教的反感である。今一つの原因は恐怖心である。奥國は不統一の老大国である。其の中が十七の小国に分れて、十七の国会をもつ。言語も十七種あり、人種は非常に複雑である。オーストリー・ハンガリーは威力によって平和であるので、奥國の人口二千八百万人の中一千万人は獨逸人種で、其の他は種々の人種からなり、之れらの民族は仇敵のやうに獨逸人を憎んで居る。

[研究問題]

次の問題について討論せらるゝやう。

- (1) 戦争の善悪について。獨逸は戦争はよいことであると言ひ、平和論者はわるいと言ふ。
- (2) 今回の戦争の責任者は誰れであるか。
- (3) 将来、世界中最も優秀なる民族は何族であるか。
- (4) 女子と平和(力の平均は男子であるが、愛によりての平和は女子ではなからうか)。
- (5) 軍国の女子として、女子大学生は如何なる態度をとり、又何をなすべきか。

以上の問題につき研究せらるゝやう。

それにつき考へる材料となるべきものは、ギリシア カソリックとローマ カソリックとは昔から仲がわるかつたこと。かくの如く宗教家、宗教が戦争の基をなしたと云ふのは非常な矛盾である。宗教は非常に感情的で、又排他的のものであらうか。

婦人が世界平和に如何なる使命をもつか。之れをなすには

如何なる方法をとるべきか。キリスト教合同のために、カーネギーは四百万円を出し、第一回の会をコンスタンツに於いてなした。

[英國の態度について]

此の戦争の起りに當つて英國の宗教家が如何なる態度をとつたか、國家が如何なる態度をとりしか、市民が如何なる態度、決心を示したかは、余程参考になることと思ふ。

[中表紙]

大正三年十月二十一日

大学部第二、三年にて

大正三年十月二十一日

大学部第二、三年にて

[力の平和か、正義道德の平和か]

此の前に、今後の平和は力の平和でありませうか、又は正義、道德の平和でありませうかと云ふ事を問題にしておきました。

[歴史研究の必要]

之れを研究するには、ど一しても過去の歴史を推論して見なければならぬ。も一つは、現状及び将来の理想、目的にも推し及ぼさねばなりません。若し此の力と云ふものが平和の要素であるとするならば、今後の一番優秀な民族は何であるかと云ふ事をきめねばならぬ事になる。

[Greatness の研究]

又、Greatest とは何であるかと云ふ事も研究せねばならぬ。今日では力と云ふ事も物質的に解釈せられて居る様でありますけれども、今後はもう少し充実して来なければなりません。兎も角も、文明を向上すると云ふ事は物質にあらずして、人間の Greatness で人間の力がきめるのである。夫れで優秀なる民族と主義と云ふものが、此の世紀に於て何処に発現するかと云ふ事を考へねばならぬ。昔から、人種的又は宗教的の考へが本となって戦争の如きものが發生するのである。故に其の間に立つて統一するものは、優秀なる民族が之れを支配するにちがひない。然らば今後の文明を向上し、世界を支配するものは何処に發生するであらうか。

[東西の優秀なる民族]

先づ東西にわけて、東洋の優秀なる人種は日本人であらうと云ふ事は誰れも異存はあるまいと思ふ。白人はアリアン、セミツツ、ハマイツツ、と斯う三つに分ける。其の中、どの民族が世界を統一する如き優秀なる民族となるであらうかと云ふ事は、今日の現実を見て推論をつける事も一つの方法であるけれども、過去に互り又広く一般に考へて、部分的ならざる処の結論をつけねばならないのであります。

[欧州戦争によって起る疑ひ]

夫れから、も一つは今度の欧州の戦争を見まして我々は、是迄の信仰に対し、理想に対し、主義に対して疑ひを懐かざ

るを得ざる場合が沢山ある。果して之れまでの信仰、人類と云ふものが、果して向上して居るものであるか否やと云ふ事が問題になって来る。之れは過去数千万年の歴史を考へて見ねばならぬ。少くとも有史以来太古はおいて中世紀、殊に近世紀の歴史は考へねば此の問題を解決する事は出来ない。
[歴史が科学的に研究される便]

今日は歴史が余程科学的に研究されて居りまして、私共は歴史によって或る程度までは満足が与へらるゝ事が多い。其の歴史を考察して見れば、決して此の文明と云ふものが退化して居るものではないと云ふ事が証明せらるゝ。又、唯だ現象の変遷ではなくて、實質的に精神的にも大勢は始終進歩向上してやまないものである。又、決して其の力を破壊し得ぬものであると云ふ事は事実であらうと思ふのであります。
[生命是不変、進路は Rhythm]

併し数万年に亘って過去を考へて見ると、宇宙の生命は進化は致しませんけれども、其の進化の路に於て Rhythm 即ち抑揚があり、音律的に行くものである。さうして生命は絶えず成長しつゝあるものであると言ふ事が出来ると思ひます。
[生命の暗黒時代]

又、其の生命と云ふものも、或る時代は種が地に落ちて形を現さないけれども、夫れは死んで了つたのではなく、来るべき時代の用意をして居るのである。此の時期をさして暗黒時代と言ふのである。即ち中世紀は暗黒時代であつた。
[文明の曙光]

夫れから、今日の文明の曙光とも言ふべきものが、Renaissance である。其の次に來たものが近代文明である。近代文明は何によって始まつたかと云ふと、発見によって始まり、何によって發達したかと云ふと、改善と云ふ主義であり、第一に宗教、次に政治と、段々改善せられて進んだ様であります。

其の前は、即ち二世紀頃はローマの全盛期で、亜細亜、亜弗利加、歐羅巴の三大陸を統一して居つた。然し、此の全盛期にも凋落の秋が來てローマが東西の二つに分れ、十五世紀にバーバリアンと云ふ野蛮人であり、異教徒であり、無教育である処の蛮人に征服せられた。其の前 Goth と云ふチュートニックの野蛮人とフランク스와サクサンと三つの蛮族の為に、遂にローマが征服せられて了つた。

[文明の同化時代]

そこで、つまり五世紀から十五世紀頃まで其の千年の間、世界の将来の發展の実を深く土壤の中に長く之れを保護し同化して、古い文明の種を埋没し、否、よく受け容れて同化し、類化する事に中世紀間中に養うて春の用意をしておいて、遂に今日發生した処の生命、今日の文明を産み出して、今日の文明を向上して居り、其の運命を支配して居るものはゴット、フランク스와サクソン、つまり英、獨、佛の三大民族である。此の三大民族が過去千五百年間、今日の文明を胚胎し保護して居つたのであります。

そこで年代でわけて見ますと、五世紀から十四世紀頃迄は暗黒時代、又は用意の時代と言ふのである。ど一云ふ用意をしたかと云ふと、第一に此の間にヘブライの宗教、即ち基督

教を入れた。つまりパーパスと云ふ蛮族が此の文明のローマを征服して、道徳も破壊し、美術も破壊して Brutal な行為をしたのである。之れはローマの滅亡史を読んだ人は知つて居りませう。併し、真先に宗教を改めたのはフランスで、今迄の Pagan を改宗して基督教になった。

[基督教の伝達]

キャルビンが英吉利に基督教を伝へに行つたとき、アングロサクソンは喜んで受けた。其のサクソンから獨逸の方にも基督教が伝はつたのである。故に蛮族が基督教を奉ずるやうになった。之れが一つの用意である。夫れからクラシカルエーヂ、即ちグリーキの文芸、美術と云ふものが歐羅巴に盛んになった。之れが文芸復興期であります。

[歐羅巴の吸収物]

つまり之れを分けて言へば、グリーキの文明、グリーキの文学、美術、又は社会の組織と、ローマの法律、政治、ヘブライの宗教と云ふ此の三大要素を千年間にすっかり歐羅巴へ吸収したのである。

[文明の流動]

併し歐羅巴人は新取的の国民であるから、決して古い物を唯だ貰ふのではなく、一切之れを同化した上に、之れまでローマにも現れなかつた処の歐羅巴特色の生命を發生したのである。つまり今迄わからない処の真理を発見したと云ふ事と、其の次には国民的自覺、個人的自覺をしたのである。之れは自我の発見と、宇宙の真理の発見であつた。之れに由つて新しい力を生み出したのである。

つまり、人類が古い処のよい物を吸収して、自ら新しい物を生み出だす処の力を持って居つた。之れが今日の新文明を發現して來たのであります。

[近代文明の原因]

そこで近代の文明の原因と数ふべきものは、之れを大別すると二つになります。其の一つは過去に属するもので、其の要素が三つある。つまりヘブライの宗教とグリーキの人文とローマの法律、政治である。そ一して英、佛、獨の要素。之れは孰れが勝つて居るかと言ふと、チュートニックが勝つて居る。(ジューツとアングルとサクソンとの三つがブリテンを征服し、セルツ即ちイングランドとスコットランドをも征服して、之れを今日ではアングロサクソンと言ふ。)

[チュートニックレースの特徴]

此のチュートニックレースの特徴は何であるかと云ふと、

- 第一に、自由を愛し、独立を好むと云ふ氣象。
- 第二、人格的価値を愛する、つまり人格を重んずると云ふ特徴。
- 第三、進歩發展を愛する、文明を愛する、教育を好む、所謂向上心に厚い。

此の三つの特徴が、つまり英、米、佛 国民をして斯くまで歐羅巴の權威を握り、且つ世界の文運を支配すると云ふ勢ひを示させたものと思ふ。つまり、此のチュートニックにある特徴がグリーキ、ヘブライの文明をよく受け入れて新しいものにしたと云ふ事が、今日の歐羅巴の文明を興させた原因をなしたと言っても過言ではない。

[東西に於ける Greatest の民族]

そこで先づ今日、英、米、獨、佛と云ふ民族が、今日の優秀なる民族 Greatest と言はるゝであらうと思ふ。又、東洋では日本が印度、支那の文明を吸収して、更に新しい東洋文明を生まうとして居る。つまり東西に、此の優秀なる民族が生存して居る。

[西洋に於ける同人種の衝突]

然るに猶、西洋では同じチュートン人種にして今日の如き衝突を來した。此の戦争は孰れが是であり、何れが非であるか。其の殘虐なる罪は誰れが負ふべきものであるか。其の結果、今日では孰れの國民が最も優秀なるものであるかと云ふ事は深く考へねばならぬと思ふ。さう云ふ問題を考へる為に材料が集めてありますが、英文三年生が指導となつてお調べになつたと云ふ事でありますから、初めの方は省いても少し内容を明らかにしたのであります。

ライン氏の目撃したる事、

英國の決議文 八月四日、獨逸に向つて宣戦したる翌日、即ち五日に英國の宗教家は如何なる態度を示したかと云ふと、(空白)に集まつて、次の決議をした。其の重なるもの、

- ・我々の義務は何か。我々は自ら天帝に対して謙遜にならねばならぬ。さうして神に対して我れ等は俟つて居らねばならぬ。
- ・之れは実に感謝すべき事である。英國の尽瘁した事は不幸にして無効に終つた。けれども我れ等は最後まで平和の為に骨を折つた。万国平和會議に於て英國も承認した如く、弱い國を保護しやうと飽く迄も努力したのである。
- ・教会は總ての民政の権能者と共同して行く事の用意をしなければならぬ。

之れは宗教家が宣戦せられた翌日にした事である。

次に八月六日、國民一般に公表せられた事、

- ・汝の頭腦を守れ。落着きて汝の仕事を靜肅に進行せしめよ。神經を亢奮したり、つまらぬ示威運動などをしてはならぬ。
- ・先づ人の事を考へよ。汝の日常、仕馴れて居るよりも一層人の事を考へ、汝の隣人に対する義務を考へよ。而して公共の事を考へよ。
- ・汝の分を寄附する様にせよ。汝の爲すべき事、汝の抱へる所に於て義務を尽す事によりて國家に貢獻せよ。總ての生活を經濟的にし、總ての冗費を避けねばならぬ。
- ・自分の財を貯へたり、人の困る事を故意にする様な事があつてはならぬ。夫れは利己的な誠に卑しい事である。
- ・汝よりも貧困なる人の事を記憶せよ。汝の借金をせる事は期限通りに償却せよ。汝の最も貧しき借り手には殊に速かに払はねばならぬ。
- ・兵士の慰めになり、安全を保つ為に出来る所の仲間や會が成り立つならば、喜んで之れを助けよ。
- ・若き人、無學なる人には此の戦ひは如何なる事より起りしかを説明せよ。而して我れ等は如何なる事より此の戦ひ

に加はらねばならぬ様になりしかをよく説き明せよ。

夫れで、よく態度をきめて挙國一致して戦はねばならぬと云ふ事を公表したのである。

八月七日には教会から何処に Message を送つたかと云ふと、第一に善意の人に送つたと云ふ事である。之れが戦争になつたと云ふ直ぐ其の時の Sentiment であつて、之れに英國人の態度がよく表れて居ると言ふ事が出来るのであります。獨逸は覇者の態度があるけれども、英國は飽くまでも王者の徳を備へて居る。こゝが導いところであります。

[中表紙]

大正三年十月二十五日
高女生徒の父母招待會にて

大正三年十月二十五日

高女生徒の父母招待會にて

先頃此の講堂が火災に罹りましたときは、皆さんから御見舞を下さりまして有り難く存じました。幸ひ此の屋根だけに止まりまして、速かに復旧工事を致しまして、半ば修繕の有様となりました。

今日は日頃の体操、日頃の授業を御目にかけけるのが宜しいのでありますが、皆さん非常にお忙しい中からおいで下さるのでありますから、成るべくいろいろのことを御覧戴きたいのでありますが、一時間半に總ての授業をお目にかくことは出来ませぬから一まとめに致してお目にかけ、さうして御批評を願ふことに致しました。

今日はいいろいろ父兄の方と御相談を申し上げまして、本校の過去十年間に致しましたこと、及び昨年来いろいろ外國の教育の仕方をも調べまして致して居りますことについて、學校と父兄の方との意志が疎通致しましてから御批評を願つた上で実行を致したいと存じます。

[教育の病源について]

近來、我が國に於ても教育の根底から改めたいと云ふ考へが盛んになりました。外國に於ても、是非國民教育を一新したいと云ふ精神で各國共に競争して居ると云ふ有様であります。我々も今日の教育の病源は何処にあるかと云ふことを診斷せねばならぬ。其の原因は生徒にもあるけれども、教員、父母にもあるのである。故に、我々はど一しても夫れを省みなければならぬと存じまして、一心協力致して居るのであります。

今日は、家庭のお方は教育を學校に任せ過ぎて居る余り、信賴し過ぎて學校ではど一云ふことをして居るか知らないと言ふこともあり、又學校では其の境遇、誘惑等の原因をも知らないと言ふことがある。

之れまで唯一の方法としては試験學問をさせて、夫れが弊害をなして居ると云ふことも事實であります。先づ今日の學問で最も進んで居ることは、理學の研究と醫學の診察とが

著しいものであると言はれますでせう。研究のための試験、診察等は成程必要なものではあるけれど、夫れがために競争心を起させたり、唯だ上下を争ふ虚栄心を挑発せしむるやうなことは宜しくない。

[松翁先生の言について]

教育家たる者は其の人の傾向、情実等をよく調べて、適当なる判断を下し、而して其の実行に努むることが大切であります。松翁先生の道話の中に、**豆まいて豆は生へるけれども人まいて人が生へるかはどうやら心もとない**、と言はれたことがあります。

[弘法大師の歌について]

弘法大師は、**人多き人の中にも人ぞなき 人となせ人 人になれ人**、と歌はれました。教育の目的は立派なる、丈夫なる、尊い性格ある人になすと云ふことにある。

豆をまけば豆が生へるけれども、夫れを立派な豆に育てるには骨の折れることである。けれども、人をまいて人が生へる迄には非常なる骨折りを要するのであります。一昨年私は加州へ参りましたとき、パーバンの苦心によって植物栽培上驚くべき改善法が行はれて居ることを実験致しました。

人間には漸う此の頃 Eugenics の如き人間の種を改良することが行はれて参りました。之れは又別の研究であるけれど、人間の性質を知り病源を究めて、従来の方の経験を集めてよい種を蒔くと云ふことは、未だ怠られて居るのである。故に如何に人間を改善して善い種として育てゝ行くかと云ふことについて、我々は日夜苦心致して居るのであります。

[試験学問の弊について]

今日改めねばならぬことはいろいろござりますが、第一にいけないのは試験学問である。近来、健康のわるいものが多くなったと云ふことを聞きますのは何故であるかと云ふと、今日の誠に無味乾燥なる形式教育の結果である。昔は心学道話と云ふものもあつた。教育をするには、ど一しても人間の性を知らねばならぬ。然るに今日の教育学者は、人の性を知って然る後に之れを育てゝ行くことを顧みないのである。夫れで欧米に於ては、人間を教育するにはど一しても先づ人の性を知って、立派なる体力を養はせて然る後に教育することが必要であると云ふ説が専ら称へられて居るのであります。

[ギューリツキ]

就中ダクター ギューリツキと云ふ人がいろいろ体育のことを研究して、子供の時代に必要なる体操をいろいろ組み立てました。到底、僅の時間で皆お目にかけることは出来ませんが、本校に於ても、さう云ふ考へから致して居るのであります。故に御質問なり御批評なりござりますならば、御遠慮なく伺ひたいと存じます。

併し此に注意すべきことは、さう云ふ風に教育すると近代の文芸小説等にも興味をもつやうになり、活動写真や演劇に迄も行きたいやうになるであらうと思はれ易うござりますが、此の学校では、さう云ふやうな弱点のある者は非常に窮屈で居たゝまらないのであります。立派な人物、目に見えない処の尊い人格を育てやうとする時に、さう云ふものを見せ

することは極力防ぐと云ふことは、昔も今も両親なり教育者なりの当然のことです。

[近代文学の弊について]

殊に近来の文学の如きは、半ば病的に陥つたものが多い。さう云ふ人が構はず自分の感情に任せて書くと云ふことは、思慮の浅い若いものにとっては甚だ危険千万である。心あるお母さんならば娘が何を読んで居るか、何を見るかと云ふことについて、必ず細心なる注意を払ふのである。夫れを構はず何でも見せる、何処へでも連れて行くと云ふことは宜しくない。活動写真夫れ自身がわるいことはない。中には教訓的なものもあるけれど、市中に行はれて居るものには甚だ宜しくないものが多いと云ふ一事を申したのであります。未だいろいろ申し上げたいことがござりますけれど、今日は時間がござりませぬから、細かいことについては麻生学監から申し上げることに致します。

[中表紙]

大正三年十月二十六日

大学部一年及び予科にて

大正三年十月

(編者注：日にちの記載がない)

一年及び予科にて

[Humanity]

日本の読本に Humanity と云ふことがない。女子の国語に国と云ふこと、政治と云ふことのないと云ふことを、或る西洋人は不思議に思うて居る。戦争は如何なるものか、平和は如何なるものかと云ふことがかいてあるが、我が国では少しも考へて居らないやうである。等閑に付してあるやうである。かう云ふことは皆よく解いて、真面目に考へることが大切であると思ふ。

戦争は社会文明を破壊し、秩序を乱すことになる。如何に極端な主戦論者でも平和を目的としての戦ひである。戦ひは平和に達する手段にして、平和を憎むものにあらずと。而し平和を悪いと云ふことにならんこともないと思へる。各国それぞれの意見を参考にしてしらべることがよいと思ふが、之れは余程の大問題で、凡ての事を洩れなく材料を集めることはむづかしいことである。

[Human nature]

先づ第一に必要なことは Human nature である。即ち平和を好むものであるか、戦ひを好むべきものであるかである。先日も言った如く、之れは人種的、宗教的の方からであるからである。精神的、道徳的にも殆んど動物的、狂的であることはわかる。我々が人と争ひ憎むことは、わるいことである。苦しいことである。さうすると Human nature は調和、愛を好むものである。愛を衷心から願ふので、又平和のために戦ふことを願ふのである。又満足は以てするのである。平和のために戦ふこと、苦しむことは満足である。人間は調和を愛す

るものである。国として人種として、大勢は平和を好むもので、又之れを実行にすることが随分歴史に表はれて居る。
[カーネギー]

実業家のカーネギーは平和のために四百万弗を投じた。その他、かう云ふ事実が沢山ある。実業家、文学家、宗教家、軍人等に於ても、平和は大問題である。軍備を整へるのも平和のためと言うて居る。世界の平和の道を以て支配するところの道をさがす。理想を実現することを叫んで、又求めて居る。之れは中々強い傾向である。唯だ平和は願ふが、それが力ですか、愛と云ふ精神の力によって保てるものであるかが問題である。平時の International 会には獨逸の皇帝も参列して居られる。何れの国にも平和論者と主戦論者があるが、主戦の方も、どうかしてよい道がないかは異口同音に言うて居る。今日、戦争がないやうになるには、今日では力を以て平和を維持する外に問題がないやうである。日本人は一人に付き六十円の借金の負担がある。どちらにしても今日の現状を知らないと空論になる。
[日米関係について]

又、我が国の位地も知ることが大切である。日米婦人間の共同により、大西洋の平和を維持せんとする考へもある。今からの舞台は大西洋から太平洋へ行くのである。日米関係は我が国の将来発展のために余程意味深きものである。
[米國海軍の歴史につきて]

今日、米國は一方に平和運動が盛んで、一方に軍備を拡張するのであるが、それには深い理由がある。海軍力と米國の歴史につき、次ぎのやうなことがある。

- 1、米國の今日あるは、独立戦争である。之れを成功させたのは、海軍力である。米國のかくなるにつき、海軍力は欠ぐべからざるものであった。
- 2、合衆國が野蛮の国々から来た海賊を防いで、安全ならしめたのは海軍である。
- 3、1812年の米國戦争に勝利を得たのは海軍力である。
- 4、南北戦争により合衆國から脱して独立せんとしたのを、永久に合衆國としたのは海軍力、北の陸軍であった。

自國の防御 海軍は米國第一の防御具である。もし之なかったなら、財源豊富の米國は他國の攻めをうけしならん。米國は海岸二万一千哩の保護をせざるべからず。嘲弄させるは軍備拡張の油断をするよりまされり。

経済上より見たるもの 軍艦は戦争より価格安きものなり。軍艦に用ひる金は米國の労働者、製造者の手におつるものである。軍艦を造るために従来より以上の金属及び製造を要求する故、米國の工業が一般に発展する。海軍は効力を増す商業を教ふる学校である。若き人の教育のために必要なり。之れが最も大切な大学である。

[Peace program]

Peace program 武装をとくことと責任ある中立裁判は両立せざるもの。武装は兵力の反対なる國を仲裁裁判に服従させるところの道具である。主戦論者は、力の平均を以て平和にせんとするものである。

[中表紙]
大正三年十月二十八日
大学部第二、三学年討論會にて

大正三年十月二十八日
大学部第二、三年討論會にて

[獨逸の思想はNietzscheに傾けり]

今日の Greatness が國の Greatness であると云ふ事は、今日の文明諸國の一致して居る考へである。けれども獨逸の思想は充分 Nietzsche の哲学主義に偏つて居る。Nietzsche の Greatness は Overman である。

[Greatness の標準を定むる必要あり]

英國では、此の間中申した事が Greatness である。英國は人義、人道を以て立ち、獨逸は勢力で他を抑へやうとして居る。つまり力と云ふものの標準が違ふから、先づ Greatness と云ふものの標準からきめて行かねば議論にならないのであります。

[主戦主義の獨逸]

獨逸の戦争の規約 1912年に書きしもの
獨逸と次に来るべき戦争

人間の身体に時々強い薬を要する様に、戦争と云ふものも時々必要である。獨逸が墮落したと云ふ事は戦争に遠ざかったからである。政治界には善意を以て正義の行はるゝものではなく、唯だ利益が目である。獨逸は正義である。世界に向つて戦ふべき権利及び義務がある。故に益々戦ひをして教育、宗教及びその他の実力を増さねばならぬ。之れは唯だ戦争によつてのみ得らるゝ事である。戦争は、獨逸の精神的義務であり道徳的責任である。獨逸の精神的義務、道徳的責任は戦争によつて尽さるゝので、剣を抜かずしては出来ないものである。戦争は総ての事の父である。國と國との裁判は戦ひより外に出来るものはない。戦争の力が権力である。

[主戦的獨逸人の信仰]

我々獨逸人は此の使命の為に選ばれて居る處の権利者であり、支配者であり、監督者である。故に、獨逸は平和によつて斯くの如き権利を失ふのである。英國などは精神的武器によつて國を建てたのではなく、金の力によつて建てたのであると言つて、英國及び合衆國を誇つて居るのであります。

[Nietzsche の哲学]

Nietzsche の思想と、此の主義とがよく似て居るのである。Nietzsche の哲学は、自分が神であり、自分が大であり、自分が最大中心であり、唯だ自分と云ふもののみが生存する権利を持つて居る。Self と云ふものは、決して人に機械に使はれたり支配せられたりすべきものではないと斯う云ふ風であるから、Nietzsche の哲学には傲慢、不遜、唯我独尊であるから、道徳もなく科学の証明もなく、唯だ権利と云ふ事があるのみで、義務の觀念はないのである。義務は奴隷の負ふべきもので、平和とか道徳とか云ふ事は弱者の言ふ事であるとして居ります。

Overman とは Superhuman と同意義の事であるが、之れは

性格が優秀であるとか知識、学問が優秀であると云ふ事ではなく、唯だ力があるとかが大胆であると云ふ事を意味するので、矢張霸道であつて王道ではない。此の人の言によると、Overman は善悪を超越したもの、勝利者で暴力者である。故に小人は何時も罪人と同じ事である。大抵の神様は愛であり、善であり、正義であるけれども、Nietzsche の神様は権力である。さうして普遍とか全体とかを否定して、個人のみを学ぶ。故に其の間に一致とか協同とかはなく、勝利者が神であり統一者である。故に其の目的の為には歴史を破壊し、道徳は迷信的のものであるとする。此の哲学は、愛は個人的のもので、国と国とは戦ふのがよい事であるとする。夫れで獨逸では決闘する事は政府で奨励するから、大抵の若い人には必ず額に刀痕がある。

つまり獨逸と云ふ国は、戦争して世界の覇王にならうと云ふ考へが子どもの時から植えつけられてあるので、之れには長い歴史があるのである。之れ等は獨逸の哲学の極徹底したものであります。此の他にもいろいろな主義があるけれども、今日までの教育の仕方、戦争の用意、其の外総ての事を総合して見ると、斯くの如き主義である事がよくわかるのである。故に獨逸と、英國や米國とは其の標準と云ふものが全く違つて居るのである。

[中表紙]

大正三年十一月十一日
青嶋陥落祝捷記念式

大正三年十一月十一日 青嶋陥落祝捷記念式

青嶋の陥落致しましたに就いて、祝賀の意を表する為に今日、全市挙つて休業を致し、且つ色々の式を致します。つきましては此の東京市にある学校も、今日業を休んで式を致し、且つ此の場合に於て精神教育の為に考へべき事を考へ、感ずべき事を感じる為に、式後におきまして何か学監より又私より御話を致す為に今日を用いたいのであります。

私は三十一日の夜汽車で立ちまして、私の生れた国であります山口、其の私の両親が葬つてあります よつち村と云ふ処へ参りまして、お母さんとお祖母さんとの五十年の墓参りを致し、一晚泊つて参りました。

夫れで、私が小学校生徒位の時に毎朝通うた憲彰館と云ふ処のあとが今は小学校になつて居ますが、其処で村の人々と共に一晚打ちくつろいで話を致しましたが、其の時にはも一祝捷の歌を作つて歌つて居りました。

其の翌日、私の出ました師範学校へ来て話をしてくれよと云ふので、母校へ四十年ぶりに参り、其の後で桜楓会の山口支部会へ回り、次に私の子供の時に育てゝくれました叔母の処へ参り、夜汽車に乗つて午前二時三十分には廣嶋を通ります時、汽車の窓から顔を出して見ますと、桜楓会員とお父さん

とが待つて居て下さりました。

[大坂にて青嶋陥落の報をうく]

七日の午後大坂へついで、梅花女学校の同窓会へ立ちよりました。其の日は丁度、大坂へついで始めて青嶋の陥落したと云ふ号外を見ました。其の日の夕方 宿へ帰りますと、も一往來は通られぬ程の人出でありました。車を度々止めて、漸う宿へ帰つてお客に会ふたりして、八日朝 大坂を立て、九時過ぎに新橋へつきました。

[祝賀式の様]

其の道にそうた処の小学校は悉く祝賀式をして居りました。或る学校は運動場で歌つて、何か拝して居るやうでありました。或る学校は汽車道へ出て、汽車に向つて旗をふつて居りました。又、或る学校は汽車に向つて提燈をあげて万歳を唱へて居りました。斯う云ふ時に喜びを表す時に當つて、何かに向つてお目出度いと云ふ感情を表す事が必要である。其の喜びの意味は申す迄もない。無論、其の村からは多くの軍人が出征して居りますでせう。私共が思うたよりも速く帝国の勝利となつたのは誠に喜ばしい事です。

故に今日は皆が心を合せて其の喜びの意を表し、どなたかに向つてお喜びを申す為に此処によつたのであります。今、時局の問題を殊に研究して、大学部の方におきましては、頭の働きを敏活にする為に討議の方法で研究しつゝあるのである。今日は水曜日で午後の用意を折角なさつたので、成るべくは今日で終了したいと思うたのであります。之れは大問題でありますから容易に決定すべきではない。随分時日を要するのである。けれども年内の時日をつもつて見ると、段々少なくなつて参りました。其の他、年内に致さねばならぬ事が沢山あります。然るに今日は臨時休む事になりましたから、出来るだけあなた方の参考になる様にと云ふ考へで、斯う云ふ Program に致しましたのであります。

高等女学校の方は六ヶ敷い事が多かつたらうと思ひます。けれども高等女学校と雖も斯う云ふ際に、出来るだけ時局並びに地理について心得ておいた方がよいと考へて斯う致したのであります。

今日は、此の間で 討論して居る事の結着点を示したいと思ひます。私が第一に此の問題を研究せしめて、是非到着させたいと思ふ目的地があります。夫れは大分向ふであり深い処に潜んで居るから、余程深く考へにならぬと容易に達せられないであらうと思ひます。夫れを今日申して見たいと思ひますが、其の前に、あなた方は此の間から大分意見を述べたいと云ふ元気が貯へられてあらうと思ひますから、初めに一言問ひを出して、あなた方から答へて貰つて、然る後に私の考へを出した方がよいと思ひます。

[戦争の目的]

夫れは、今度の戦争の目的は何であらうか。之れまでの歴史上の大なる戦争は悉く意義があるのであるが、今度の戦争は如何なる目的をとげんが為に世界が奮闘しつゝあるのであらうか。夫れを聞きたいのであります。

総て軍には二つの方面がある。一つは外に顕れて目に見える処のもの、も一つは目に見えない処のものである。此の

目に見えるものと見えないものと両方の方面がある故に、此の戦ひにはど一云ふ意味があり、方面があるか。之れは目に見えないものであり、幼稚なる野蛮なる者にはわかりにくい処である。此に最も価値があるので、夫れがあなた方にわかるかど一か。之れが真にあなた方の物として、あなた方の命として、経験として、目に見えない処の世界に活動する事が出来るかど一か。之れが私のあなた方に聞きたい処であり、望みを持つ処であります。

何主義とか何ismとか云ふやうな詞がつくと、其の主義になり、意義になり、又は其の深い処の争点のある意義を表す詞となります。

今度の争点は、Brutalism と Humanism、 Militarism と Democracy との争ひである。之れを統一して云ふと、Nominalism と Idealism との争ひである。

Nominalism とは、宇内の実在は目に見える処のものである。戦争とは軍艦、大砲の戦争であるとする。主義の戦争、理想の争ひは唯だ頭で考へた空なもので、名目をつけただけのものである。故に名目論で云ふと、力と云ふ事、価値と云ふ事は目に見えただけのものである。人間と人間との間に頭はるゝ美とか愛とか云ふものは空なものであると云ふ風に、Nietzsche の如きは悉く排斥して、唯だ本能と云ふものを道理よりも重しとするのである。故に普遍的真理、実在と云ふ様なものを唯だ名目であるとする。

そこで、神も愛も道徳もなくなって丁度、個々別々のものが争つて、銘々が力を奮ふのが宇宙の実在であるとする為に、美とか愛とか共同とか云ふ目に見えぬ処の実在及び価値と云ふものを否定するのであります。故に哲学的に言へば、此の目に見えぬものと、目に見えるものとの争ひであると思ふ。之れが今度の戦争に於て獨逸に違算を生じた訳であります。日本帝國と云ふものも露西亜と恨みを持って居るから、必ず露西亜の虚を衝くであらうと云ふ風に勘定したのである。処が夫れは皆、違算である。

何故違算になったかと云ふと、此の世界には精神の力がある。愛と云ふものがあり、共同と云ふ事がある。此の目に見えぬ処に精神上の偉大なる力がある、価値があると云ふ事を忘れたのである。唯だ己れあるを知って、他を奴隷にしようとした。精神界に動いて居る処の目に見えない力を勘定に入れずして、幾ら虎や狼の如き暴威を逞しうした処で勝たるゝものではない。此に争点があるのである。

Nietzsche の主義によれば、此の目に見えぬ処の力を否定するのである。然るに我々は、此の目に見えぬ処の力を信ずる。否、宇内の実在は目に見えぬ処に宇内を支配する処の力があると云ふ事を信ずるのであります。

今度の小さい青嶋であると云ふけれども、窮鼠却つて猫を噛むと云ふ事がある。獨逸と云ふ強大なる国の力を以て立て籠つたのであるから、之れを攻め落すのは或はむづかしからうと思はれたのである。然るに、さ程の悲劇をも演ずる事もなく勝利を得るに至つたのは、此に目に見えない処の力があるのである。之れは多くの人は見ないのである。国中挙つて出征したと云ふのは非常なる勢ひで、確に獨逸は強い国で

あるけれども、果して夫れだけが力であると言はれやうか。腕力とか軍備とか云ふものよりも、もっと深い処に目に見えない処に戦ひがあるのである。之れは即ち主義の戦ひ、動機と動機との戦争であります。之れは孰れが勝ちを制しつゝあるかと云ふ事が問題であります。

[獨逸の国民に対する戒]

も一つ、物質の戦ひの中に商売の戦争もある。之れも英米の実業の主義と、獨逸の実業の主義とも違つて居るのである。此の商売の主義について申せば、

- ・ 如何なる支払ひを為すに当りても、常に自国人の利益と云ふ事を念頭におくべし。
- ・ 外国の品を買ふに當りて、常に汝の国の貧弱なる事を忘る可からず。
- ・ ………
- ・ 外国の食料品を汝の食卓に上す事勿れ。
- ・ 外人の甘言に迷はされ……

斯う云ふ事が十ヶ条ばかりある。之れを英米の主義に比べると、非常な違ひである。

[我が国の国産奨励会は異なる]

此の頃、我が国に国産奨励会と云ふものが興つた様である。一寸聞くと、大分獨逸の考へに似て居る様である。けれども我が国のは獨逸とは違つて居るのである。如何となれば、國際裁判に服せしむると云ふ事は、夫れを抑へるだけの力がなくては無効であると云ふ。故に、メービーを拡張すると云ふ事も世界平和の為であります。

[亜米利加の主義]

亜米利加ではど一云ふ考へであるかと云ふと、九月二十三日に Colombia 大学で 161 回の始業式に、President バトラの演説せられた話が昨晚参りました。

亜米利加の目的は Unselfish である。其の主義はど一云ふものであるか。亜米利加合衆国の政策は平和と云ふ事である。唯だ欧羅巴の力の平均ではなく、世界の人種と人種との調和であると云ふ主義である。斯くなる手段は世界の出来事を裁判する。International suspicion は丁度、巡査が人民の訴へをさばく様でなければならぬ。

[戦争の起つて日米問題に就いていただいた心配]

孰れの国でも最も有為なる青年が死傷して、最早世界で百五十万と云ふ数に上つて居るであります。其の他莫大なる費用を使つて居るのであります。

も一つ目に見えぬ処の戦争について申しますならば、今度の戦ひの初まりに於て一番私共の心配したのは、日米關係でありました。

[米國の態度]

亜米利加には多くの獨逸人が入り込んで居つて、新聞に雑誌に排獨熱を防ぎ、其の他多くの獨逸の学者があつて獨逸の為に弁護したのであるけれども、亜米利加の良心は未だ麻痺する事なく、買収せらるゝ事なく、大に反動を起したのである。さうして Harvard 大学に巨額の寄附を申し込んだ人々も、斯くの如き節操なき獨逸人の教授を罷免するにあらざれば、其の寄附金申し込みを取り消すと云ふ抗議を提出し

たのであります。

夫れで、どーしても斯くの如き利己主義は世界の許さぬ処である。併し此の憐れむべき事情があるのである。其の学者達が政府の命に背いて祖国の為に弁護しなかったならば、生命をも保たれなかったであらう。併し学者達が真理に服従する事なく祖国の非をかばふならば、本国に対しても不忠なるものと言はねばならぬ。

又、やゝもすれば我が日本を目して、獨逸の如く Brutal なものである、血を喜ぶものであると云ふ考へが欧州にある。これは誠に觀察を誤つたものであります。我々は決して獨逸に心酔するものではない。けれども深く顧みて未だ欠点があるならば、速かに改めねばならぬ。挙国一致して、大和民族が団結する処の忠孝の精神とも云ふものは一步も退いては居らぬと思ふけれども、深く反省して、斯くの如き誤解に勝つだけの用意がなくてはなりません。

今日は極うちの会でありますから、此の目に見えぬ戦ひの一部分を申しておくのも必要であらうと思ひます。此の目に見えぬ戦ひは独り軍人ばかりではありません。我々も日夜此の戦ひを続けつゝあるものである。我々の連合軍も日に日に勝利を得つゝあるのである。私は此の喜ばしい日に於て、此の目に見えぬ処の深い意味に於て、共に祝したいものであると考へます。

[中表紙]

大正三年十一月十八日

大学部二、三年にて

大正三年十一月十八日

大学部二、三年にて

[適者生存]

人類の中で何れが優秀であるかを定める標準を知らなければならぬ。ダウインの発見した優勝劣敗、適者生存の原理に今日の社会も支配されて居る。而し、之れを言ひ換へると競争と云ふことになるが、尚ほ研究して、今日では相互扶助、即ち共同と云ふことになってあらはれる。

只生物学と云ふと身体のこと、即ち生存に必要な食物を争ふことになる。利己を根本として居るのである。自我保存、自己の欲望がなくならざる限り戦ひは止まぬ。之れを満足させるためには戦ひは免れぬ。そのためには手段を選ばぬと云ふことになる。

人間は向上心がある。之れが戦ひのもとである。之れは一面の真理であることは否定することが出来ない。ダウインの発見も原理である。併し之れは現象界を支配する原理である。物質論が過去半世紀、非常に勢力を占めたが、之れでは満足が出来ずなり、現象界の外に Essential がある。現象は Reality の Symbol である。まけたものが低く、勝つたものが優れて居ると云ふことは低い階級であつて、人間の進歩、

向上心のあることは誰れも認める。そのために Struggle のあることも認めるけれ共、其の Struggle が低い劣等の専横を極めるのではなくて、深いところの意味がある。

[Great man]

之れは道德的の適者、Greatness と云ふこと、精神的の意味である。精神的の力を云ふのである。動物的の力でなくて高尚な力である。此の力の偉大なものが Great man である。之れは善の力、正義の力が凡てを支配する力である。其の優れたのが偉大と云ふことになる。此の標準には何れの人種が適して居るかは、抽象的に言はないで事実には照らして定めねばならぬ。獨逸の今日までとる理想、方針、政策、尚ほ戦争によつても方針に一致した行動をとるのによれば、到底我々の標準になつた国民と言ふことは出来ぬ。

而らば英國は如何と云ふに、英國は世界至るところに日の暮るゝところなき、富の力に於てもまさつて居る。米國も自然の財に富んで居る。カロフルニ、布哇、比列賓、南米にも手を出し世界に雄飛して居ることは獨逸と同じであると云ふこと、又物質主義により国民が墮落したと云ふ点より云ふも、滅亡に近いではあるまいかと云ふやうにも考へられるけれど、根本的に獨逸と違ふところがある。

[Democracy, Militarism]

獨逸の強いと云ふは、挙国皆軍国主義である。而し英國は反対である。道德に一致した主義では Democracy でなければならぬ。Militarism の中には Freeman と Slaveman との二つの階級になる。グリーキの如き共和政治となつた理想的国家でも奴隸と云ふものがあつた。而し Democracy の主義は、人間は皆人格をそなへた同胞であると云ふことである。未開の民も奴隸とすべきでない。兄弟である。子供と親の関係であつて、奴隸として道具として虐待することは人道にそむく。

[英國の方針について]

獨逸は侵略主義であるが、英國は殖民である。地を耕すと云ふことである。英國の政策は荒地を耕す人民を殖すと云ふので、奴隸とすることは不可と云ふことになって、世界から奴隸売買を止めたのはアングロサクソンである。英國は墮落と常に戦つて、国の方針を決して過らせないやうに戦つて居るから、國民を奴隸扱いにせずして自由を与へる。自治独立をゆるす。オーストラリア、ニュージールランド、カナダでも、之れを占領して自由を奪ふと云ふことをせぬ。国をひろめることは殖民である。故に印度、カナダに居る独人すら英國に義勇兵が出たと云ふことで、殆んど凡ての殖民地は故国を助け正義を行はしむると云ふ態度にでるのである。

[アメリカ合衆國について]

今一つは、文明を高める、人道を高めるやうな行爲をして居る合衆國で、代表者としてあぐべき人はワシントンである。彼れはナポレオン、カイゼルに比べて如何でしやう。ワシントンは大統領となりましたが、第三期には自ら辞して真に人民につくされた立派な人である。リンコルンも奴隸廃止のために斃れた人で、アングロサクソンは一見獨逸のしたことと同じやうであるが、根本がちがふ。それであるから United States としておさまつて居る。富豪のロックフェラー、カーネ

ぎ一、其の他多くの人が如何なることに用ひるか。米國の教育が盛んであるのは、皆かゝる財力をもつて居る人によって出来て居る。大学が四百幾つあるが、State の方が少くて私立の方が多い。学者、大学が只だ研究のための研究のみでなく、人道のために用ひられて居る。それは殖民、即ち大学が Universality settlement、College settlement となり、無学のものをひきいと云ふことのために殖民して居る。皆を教育すると云ふ考へがある。

[英米の婦人について]

独逸の高等教育は皆女子の職業のための教育である。而るに英米の婦人は之れだけではない。婦人の力で社会を清め、又は貧しきものを助けるとか云ふやうに、慈善のことに力をつくして居る。之れは人間ばかりでなく牛馬にまで人道主義を及ぼして居る。決して虐待しない。之れ等は皆婦人の力による。婦人も非常に社会的に、人道的になって来たが、独逸にはかう云ふことは余程少ない。何れが Greatness かと云ふことは、今日の事実と又米英の歴史によってわかる。此れは人道主義と動物主義との戦ひである。英國にとつては義憤である。戦ふと云ふことは同じであるが、其の動機に於て異つて居る。何れが優秀であるかである。併し獨逸の取るべきはとらなければならぬ。我々は獨逸の学ぶべからざるところを排斥しなければならぬ。

[中表紙]

大正三年十一月十八日

大学部二、三年にて

大正三年十一月十八日

大学部第二、三年にて

[Greatness に就いて]

今発表されたが、Goth と Anglo-Saxon と何れが優秀になるかと云ふ事であるが、之れを論ずる前に先づ、如何なるものが偉大であり優秀であるかと云ふ事を定めねばならぬ。

一昨日、一年、予科の方で戦ひは善か悪かと云ふ事に就いて結論をつけたが、即ち生物学の方より言ふと、勝者が弱者の上になつて此の世の中が支配されて居ると云ふ事であつたが、之れは身体上より主として言つた事である。Darwin は此の競争について重に説いた。利己と云ふものを主に動機として競争し、遂に我の争となるのである。食物の充分なるか、自我の保存、種々の欲望の無くならぬ中は、戦争は止む事は出来ない。之れを満足せんが為にする戦ひは悪ではない。又之れを行ふ手段としては如何なる事をしてよい、虚言を發するもよいと云ふのである。

も一つの考へは、人間には向上心がある、今日よりも向上しやうとする要求がある。国民で云へば、他国民に勝たうとする。故に戦争は止まぬのであると云ふ事であつた。之れは確かに一方面的の真理である。適者生存も一つの原理で

あるが、これは Science の方面より言つたものであつて、現象界を支配して居る。

之れ以上に、も一つある。それは Nominalism と Idealism との二つがある。Nominalism は道徳、宗教等は空想なり、虚名なりと称へる。此の思想は過去五十年間に勢力ありたるものなれども、人間は到底これのみにては満足する事が出来ぬものである。故に眞の Reality は目に見えない深いところのものである。現象は Reality の表象である故に、純粹なる処は表はすことは出来ぬと云ふものである。優勝劣敗は人生に應用する Stage に於て表はるゝものである。Nietzsche は人間と云ふ程度、又人間以上の超越的人間にならうとして居る。即ち、人間が階段を登らうとして居る。これは哲学者、科学者等も信じて居るのである。

そこに達せんが為めに奮闘して居る事は何人も認めて居るのである。そこに達せんがために奮闘して居ることは何人も認めて居るが、夫れが劣情の専横を極めるのではなく、高尚なる意味がある。夫れは何であるかが大切なのである。夫れはも一つの深い処の意味がある。

今日の社会を支配する処の力、優勝者、意志の力となつて表はるゝ力は道徳的の適者でなければならぬ。Greatness は精神的に言はねばならぬ。唯軍備を拡張し猛勢なるものは Greatness とは言はぬ。今日の人間の要求、向上心を充たす、人類を富ます力がなければならぬ。

動物的になる力ではない、高尚なる力である。其の力の優秀なるもの、偉大なるものが優者となるのである。正義及び善の力が総てを支配するのである。其の優れたる処のものが即ち偉大なるものになると云ふ標準を置くべきである。

偉大なる人間、国民が Great man、偉大なる国家であると云ふのが標準である。先づ之れより夫れに近きは何れの国民、人種なるか。之れを抽象的でなく事実を照らして証明し、判定しなければならぬ。

獨逸人は百年前は優秀なる人種であつた。夫れは Bismarck は偉人であつた故に、五十年前は偉大なる獨逸人であつたのである。科学、哲学、政治上の革命、宗教の革命等に貢献した勲績も沢山ある。カイズルにのみ罪はきせられない。国の主義、理想の偏した事は前に述べた如く事実である。故に弁護する事は出来ぬ。獨逸方の人でも政策を誤つたと言つて居る。之れは一時誤つたのである。故に、之れが覺醒する時には偉大になるであらうと云ふ事は考へねばならぬ問題である。

遺傳的によき血の流れがある故に滅亡せぬと云ふのも、一面の真理である。Greek の生み出したる文明は今日、世界に消滅して居らぬけれども、Greek と云ふ国は滅亡した。Rome 國も同様である。此の事実に見るも、何時も獨逸の取りたる方法にあり。佛國、Greek、Romania の如き同様である。獨逸の今日の戦争は無意味である。此の戦争に当り、国民は結合し学者までもよく結合して居る。青年をも墮落させて居る。世界中でかゝる政策を好まぬのである。内外共に獨逸の政策、計画、理想に同意せぬのである。それ故、かゝるものが再び勢力を得る力は疑問であると思ふ。

これは長い間に養はれたるものの表はれである。霸道で行ふ事は、必ず勝利を得る事は出来ぬのである。Greatness にはなぬ国民である。英國は世界到る処に領地がある。富の点より言ふも、植民地により得る富力は之れに勝るものはない。米國も天然の財産を有し、人口は一億位で英國をしのぐ位である。其の上、今日はPhilippine 及び南米にも手を出さんとして居る。同じく国を拡張せんとして居るのである。之れ等は同様に感ずる。物質的主義より人々が墮落した事は同様である様である。米國も今日勢力がよい様であるが、佛、英の如くになるであらうと考へられる。けれども獨逸の場合とは根本に於て異なるのである事は充分知らねばならぬ。獨逸の經濟方面に発達したるも皆軍国主義である。英米は之れとは違つて居る。今日の社会に道德上の善は Democracy にならねばならぬ。

[Militarism]

Militarism の主義は長く続いて居る。戦争で国を支配したのである。此の主義には階級制度がある。

之れを二つに分つと、 1, Freeman

2, Slave man となる。

如此、模範的国体でも奴隷と云ふものがあつたので、軍国主義は敗けたものを属国及び奴隷としたものである。

人間と云ふものは人格を存する同胞であると云ふ主義である。未開の人もあるが、之れは奴隷とすべきものではない。親子の關係で行くべきものである。道具視する事は人道にそむくと云ふ主義である。英國の領地をとるのは侵略するのではない。殖民である。其の地を耕作する、開拓すると云ふ如き状態である。其の土地を殖民地と言ふのである。故に世界を耕やし、民を植えつくと云ふ所にある。猶奴隷とする事は悪であると云ふので、奴隷売買を止めさせたのは英國である。戦争で虐待する事は大いに反対し、又婦女子を虐待する事を戒めたのである。悪が起りかけると、一致して反対して居る。其処に正義は勝たんとする意気がある。占領地を圧制し奴隷視はせぬのである。自由を与へる、独立自治を許すのである。即ち殖民して、世界をよくせんとして居る。此の主義である故に、殖民地等の人民も正義の為に祖国を助けんとする活動を起すのである。

尚、世界を開拓すると云ふ主義は文明を扶植する。世界の開けぬ処を開き、人道を高めると云ふ主義である。故に其の行為をとるのである。歴史上に勝利を得て居るのは此の主義にある。北米合衆國は Washington が代表的人物である。此の人は Great man なるが、Napoleon Kaiser に比するに、Napoleon は共和政治の為に先鋒として自分の野心を完うしようとしたが、Washington は初めの在職を四年に限り、第二の選挙にも自分になつたが、第三の時には自身からならなかつた。之れは民主政治に反すると思つたのである。自分の権勢等は犠牲にしたのである。公人及び私人としても立派なる政治家である Lincoln は又、奴隷廃止の為に尽力して倒れた人である。Anglo-Saxon は獨逸及び Rome 人等の主義と同一の様であるが、動機が異つて居るのである。米國の如き広い国の合衆國として、よく治つて居るのである。

米國も英國も富んで居る。米國の Carnegie、Rockefeller 等の富者が金を使ふに如何になすか、その他の人々も如何に用ひて居るか考へて見たい。米國の教育事業は此の如き財力を有する人によりてなり、十億に近き金を出して居る。State で作ったものは少なく、私立のものが大多数である。世界の平和を進めやう、人類を高めやう、人の事、又他国の人をも思ふと云ふ広い考へを以て金を使って居る。教育、学者、大学等も戦争の為に使うて居る獨逸等とは、大なる差異である。

英米に於ては之れのみならず、人道の為に用ひて居るのである。之れは學問の出来ぬものに學問をさせる為には、学者も殖民地に行つて開拓しようとして居る。獨逸にては同じ学者にしても、唯だ国を國民を強くしようとして居る。英米の教育主義は平等と云ふ事がある。

[英米婦人と獨逸婦人の差]

猶一言する事は、両国間の婦人である。獨逸は大学生が四、五百人もあるが、之れは單に職業の為に、家政をとる為に勉強して居る。英米の婦人は社会の為に、殊に慈善事業に尽力して居る。其の心は動物の愛護心に迄及ぼし、實地に之れを行つて居る。婦人にも偉大なる人がある。かゝる国体は到る処にあるのであるが、獨逸婦人は之れを余り行ふものはない。何れが偉大なる人の標準に近きかは、其の国の歴史によりて之れを考へねばならぬ。要するに人道主義と軍国主義との戦ひである。

されば此の主義を征服せしむる為に、四百或は五百万の兵を募つて居る。私は之れを義憤の戦争であると思ふのである。目に見えぬ動機によって異つて居るのである。併しながら獨逸人の取るべき所は取らねばならぬのである。時間的に蒔きし種は発達して行くものである。連邦が別るゝならば、夫れ等の邦国より発達して来る事でもあらう。全く滅ぶるものではない。(其の根なるものは)

獨逸の悪方面を学ぶはよくないと云ふ事を知りて排斥すべきである。之れは我が国に於ても大いに反省を要するところであつて、学ばべからざる悪方面を学んで、國民教育を誤まらぬ様にすべきである。

[中表紙]

大正三年十一月二十五日

大学部二、三年にて

大正三年十一月二十五日

大学部二、三年にて

年内も段々時が少なくなりまして、しなければならぬことが沢山残つて居りますが、先づ第一着手として、我々の生活の状態及び方法を直したい。其の意味にも、方法にもいろいろありますが、先づ今日は我々個人の身体及び精神、心靈に於ける病弊を治したいと云ふことであります。

病弊と云ふと何かわるいことでもあるかのやうに聞えます

が、殊に此の頃わるいことがあるとか、又は此の頃発生したところの欠点があると云ふことではなく、寧ろ之れは宿弊とも言ふべきもの、又社会一般の傾向とも言ふべきものである。殊に我々の国とか家庭、寮舎とか云ふ我々に接近した間に行はれて居る直接な関係、又は適切な事柄をさして申すのであります。其の病弊を、も一つ皆さんが自分の直接の事柄であると云ふやうにお考へになり、又其の状態を極シリヤスに感知なさるやうに説明することが必要でありますけれ共、単刀直入に其の問題に入りたいと思ひます。

私は今日、あなた方の病氣と思ふところを大分以前から診察をして見て、其の病源は多分こゝであらうと思ふことを察知して居るのであります。病氣と云へば欠点がある、不完全である、不平均である、不調子であると云ふことになる。其の病氣に二つあって、一つは栄養不足である。内容が貧弱である、飢えかつえて居る、ど一も満足でないと云ふ病氣であります。之れは何と名をつけたらよからうか。まあ夫れは此頃、子供にもあります。三年生は卒業と云ふことが近づくのであるから、果して卒業させることが出来るかど一かと云ふことを年内にきめねばならぬ。又、二年以下は進級と云ふこと、之れも年内にきめねばならぬ。かう云ふことについていろいろ心配がある。之れも病源の一つであるから、其の病源からなほさねばなりません。

[Real living]

さう云ふ病氣を生じて来たとか云ふ最近の原因と云ふものはど一云ふことであるかと云ふと、つまり私が栄養不足と言ひましたが、英語では Real living 実生活と言ふ、此の実生活がよく出来て居らぬと云ふことである。

[空想生活について]

今日起って来るところのさまざまの病原はど一云ふところから起って来ると云ふと、Live your own life と云ふ詞がある。実生活を欠くと云ふことの裏は、空想の生活、想像の生活と云ふことになる。夫れを知識とし形式として、ほんと一に生活して居ない。いろいろ本をよんで居る、いろいろ人から説をきいて居るけれ共、之を自分の實際生活にすることが不十分であると云ふことになります。故に実が結ばない。

夫れで生活を二つに分けて、一つを意志の生活、所謂目的をもって居るところの生活と言ひ、今一つを感情の生活と言ひます。感情の生活の中で愛の生活と云ふこと、之れは自分が人に対する愛と、人から自分が愛せらるゝところの愛と云ふことがこもって居る。其の愛を哲学上から研究し、或は文学の方面に於て聞かざるゝことが多い。私が栄養不良と言ふのは、其の方面に於てうえて居り、かつえて居り、心が荒れずさんで居ると云ふことである。故にど一しても根底に於て其の要求を満足することの出来ないとか云ふところに、其の病氣の原因が横たはって居るであらうと思ふ。

今一つは、意志の方面である。之れは即ち向上心である。ど一しても人間は向上したいのである。さうして真に自分と云ふ人格其の物が、もう少し発展したいのである。其の内容がもう少し変りたいのである。知力ももう少し展びたい、力ももう少し発展したいと云ふ深い心の要求である。然るに此の

意志の要求を満たすことが不十分である。ところが意志について研究をして居る、文学で味はうて居るけれ共、ど一しても意志が毎日ほんとの生活をしないのである。此の二方面が我々の内に欠けて居る。此の欠陥が私共の大いなる欠点となって居ると思ふのであります。

[病源の根絶について]

夫れで今一番急務なことは、其の病源を如何になほすか、如何に根絶するかと云ふことが問題であります。今日ど一してさう云ふ病源が我々に出来たかと云ふことを、一、二申しておかねばならぬ。其の訳の一つは、今日の教育の仕方のわるいと云ふことから来て居る。

[今日の教育の弊について]

今日の教育は知と云ふことに余り偏り過ぎたのである。それから今日は、其の知ると云ふことが事実の知識の分量に重きをおきすぎたのである。故に事実の知識を収集することのみに勉めて居る。さうして其の知識は多く暗記に止まって、頭の中で事実の知識を構成して居る。故にその知識が空想となり形式となって、真に実行となり満足とはなつて居らぬ。之れが空生活にならしめた原因であり、過程である。

も一つ、ど一してもあなた方が知っておかねばならぬことがある。夫れは近世文学をよみ損うたと云ふことである。即ち一知半解の知識が文学から来て居ると云ふことである。そこで、この病源をど一して根絶し得るかと云ふことを申したい。目に見えぬところにいろいろの欠点がある。其の原因は愛がかけて居るからで、愛と云ふことには二つの意味があります。

[犠牲]

一つは私共が他に対する愛で、其の愛の甚だしくなったのを犠牲と言ふ。ど一しても誰れか愛するものがなくてはならぬ。宗教の出来たのも、家庭の出来たのも、社会国家の成立したのも之れがためである。真に自分が人を愛したならば、其の病人の心がなほるのである。

[Christ]

此の世界で最も多くの人を愛せられたのは Christ である。親のない子は誠に不幸なもので、私共は六つのときお母さんがなくなつたと云ふことは、今日迄少しも忘れたと云ふことはない。何か自分を捧げるところのもの、愛するところの対象物がなくてはならぬ。夫れから親友、益友と云ふものがある。之れが宗教になると絶対無限、天の父或は母と云ふものがある。絶対、或は神に対して自分を捧げると云ふことによって癒やさるゝのである。

も一つは、自分に対して同情をして貰ひたい。父の如く母の如く、兄弟の如く、一心同体の如くになって貰ひたいと云ふことを要求して居る。其の生活、其の関係、其の交通の出来ない人は誠に心が飢えかつえて居る。さう云ふ人は必ず神経衰弱になる。夫れから心が曲るとか嫉妬するとか云ふことも皆、愛の欠乏から起るのである。

故に之れを治すにはど一するかと云ふと、之れを治すために病院があり、保養院があり、寺院があり、寮舎と云ふものがあり、家庭と云ふものがある。斯う云ふところはさう云ふ

病人を保養させるところである。其の病気をなほすに大切なものを境遇と言ふ。其の境遇を作るために、或は講釈をし説教をし、いろいろな方法が社会的に講ぜられて居るのであります。けれども病院に入れたからとて、寮舎に入れたからとて、決して夫れだけで治るものではない。どーしても実生活でなくてはならぬ。

[実生活について]

実生活とは具体的なもので、時間的、空間的に時々刻々に始終現はすところのものでなくてはならぬ。親子、兄弟、友達等の関係に於ても実際に生活して行かなければ、少しも心は育てられない。少しも成長、発達は致さないものであります。そこで私共は此の教育は実生活にさせる。教育は個人的でなければならぬ。寮舎でもない、病院でもない。会も必要であるけれ共、会ではない。寮監が寮生を教育すると云ふのは、一人が一人に向ってすることでなければ効力はないのである。故に実生活は個人的にしなければならぬ。心と心との融合が出来ねばならぬ。真に其の人のために仕へるところがあり、真に捧げるところがあり、真に其の人のために涙を流すところがあればならぬ。夫れをしないで只大勢に向って抽象的にしたところで、効果はあがらないのである。けれ共夫れだけでは未だ足らないのである。

[自己について]

然らば、其の病源を癒すところの一番の根底となるところの方法は何であるかと申しますと、之れは全く自分の力によると云ふことになる。つまり人の感化と云ふことも、四囲の境遇と云ふことも、自分の人に奉仕すると云ふことも、皆其の価値を選択し、其の方法を決定するものは自分である。故に一番大切なものは自分であると云ふことになる。故に欠点をなほすと云ふことも、自分が一番大切なものになって来る。又、人を治さうとするにも、先づ自分の中にさう云ふ動機を起して来なければならぬ。之れを教育の主義から云ふと、自動自発の教育と言ふ。つまり其処になると意志の方面と云ふことになるのです。意志と云へば、向上の方面と根底に於ては一致して来るのであります。

[Individualism]

之れが即ち近代思想の一番要なところであります。日本では之れを自覚と言って居りますが、英語で言へば、即ち Individualism であります。自分の意志が覚醒しなければならぬ。此の Individualism と云ふものは意志と云ふことになる。独逸で云へば、ショーペンハウエル、或はニイチュ、其の他の近代哲学者は、さう云ふ思想に傾いて居ります。米國のエマソン、英國のマツシュ アーノルド、或は近代のベルグソン、ゼームスなども主智説に傾いて居る。夫れでどーしても自分の意志が覚醒しなければ、今日の病源を根治することは出来ないのである。

そこで之れを根治するにはやはり二つとなるので、一つは愛で自分を捧げること。も一つは自分を向上し、自分の意志の独立を主張することになる。故に社会を改善し自分を徹底するには、どーしても愛の力により向上に勉めねばならぬ。之れが即ち自分を見出だすところの一つの標準の如きも

のになって居る。近世主義の思潮はやはり此処にあるので、文学も宗教も教育も皆、此の流れを汲んで居るのであります。

然るに之れは複雑なる考へであるから、ほんと一に真意をとらないと所謂一知半解になって、偽生活になり、不正生活になり、空生活になるのである。今日の思想が若い者に誤られやすいから、わるくすると却って誤りを生ずる虞れがあります。故に、ほんと一の意味をよく考へねばなりません。

[中表紙]

大正三年十一月三十日

第一学年及び予科にて

大正三年十一月三十日

第一学年及び予科にて

あなた方は我が日本帝國の教育を受けたものの模範たれと云ふことは、私が始めからあなた方に期待したところであります。然るに其の模範たるべき力及び動機が生れ出たかど一かと云ふことは、私が此の間から考へて居ることあります。一年中の最も大切な時、最も集中すべき時は半ば過ぎ去って、残るところ僅に一ヶ月を余すのみであります。夫れであなた方に是非今日深く考へて、自らの状態を見出だして貰ひたいのであります。

私は先日自分の出ました山口縣の師範学校へ、自分が卒業してから四十年ぶりに行って見ました。さうして私が六、七才の頃、人間の芽を育て、貰ひました漢学の憲彰館と云ふ小学校に参りました。私に最も人格の感化を与へた人は、私の父親と三人の先生とであります。父はも一なくなりましてけれ共、三人の先生は未だ存命で八十余りでありますが、此の先生方と一緒に食事を致したのは誠に愉快でありました。

[Association]

私の最も深く覚えて居りますことは、夕方風呂をわかつて其処につくなんで居って、あとで風呂に入るのである。夫れはど一云ふ訳かと云ふと、私の国では重い罪を犯したものとあると斬罪に処せらるゝ。其の人達が斬られに行く時は白い着物を着て、背中に罪状書と云ふものを貼って連れられて行く。私は子供の時の好奇心から見に行きました。風呂を焚きながら上を見ると、も一夫れが皆、首になって並べられて居る。其の首と風呂との Association が深く心に刻まれて、自分はど一云ふ人物にならうかと云ふことを常に心に思つて居りました。お父さんのやうな人にならうか、天神様のやうな人にならうか、三人の漢学の先生のやうにならうかと。何時も考へるのは、人と云ふことであります。之れが何時も小学校に学んだ時の動機でありました。

夫れから師範学校へ入ってからはど一かと云ふと、始め六ヶ月の間は誠に忠実に勉強をしたのである。其の頃は今よりもむつかしいものを教はりしました。組は六十人程の組でありました。私は実は年も一つ足りないで入学致しましたから

余程勉強しましたので、其の時は六十人の中で三番になりました。故に本気に勉強をしましたけれ共、私はどーしても師範教育ではだめである、斯う云ふ教育ではどーしてもほんとの国民を作ることには出来ない、到底人間と云ふものは出来ないと云ふことを深く心に印象して、自分の目的を成し遂げたいと考へました。

其の目的とは何かと云ふと、人を作る教育を施したいと云ふことであります。其の人を作ると云ふことは、いろいろなことが揃はなければ人は出来ないのである。夫れから決心致しまして、今日まで四十年の歳月を過しました。

今年私が国へ参りました時に、どれだけ人を作ることが出来たかと云ふことを尋ねました。そして帰りに京都へよりましたが、仏教の大学へ招かれて行つて見ますと、其処には三百八十人程の学生が居ります。或る人が申しますのに、自分は宗教のために尽さうと思つて志を立てゝ入学しましたけれ共、卒業すれば僧侶になつて檀家に招かるゝことを職業のやうにして居つて、真面目に宗教のためにつくさうと云ふ人はない。故に自分は別に食べるだけの仕事をして、宗教のためにあく迄尽したいと思ひますが、御意見は如何でありますかと尋ねられましたから、私は実によいことであると答へました。宗教家でも其の通りである。私共が奮然として起つてから四十年になりますが、ほんとの人物の出ないことは依然として同じことであります。

[我が国の教育の状態について]

我が国の青年、女子ばかりではないが、未だ私共の教育の目的は達して居らぬと思ふ。世間の人から見れば我が日本に高等師範学校も出来た。女子大学も出来た。立派な建て物もあり、図書館もあり、博士と云ふやうな教授も来らるゝ。誠に教育が盛んになったやうであるが、ほんとのことは出来て居ない。世間の人の見るのは知識の分量である。成る程、物は知つて居るけれ共、我々の言ふほんとの教育と云ふことは未だ親達にもわかつて居ないのである。故に私は、あなた方が予科、一年の時代からほんとの學問をして貰ひたいと云ふことを深く要望するのである。夫れは何であるかと云ふことを見出だして下さるやうに、私は切に望むのであります。

此の教育を実行致すには、一番大切なものは其の教育を受くところのあなた方自身の態度である。夫れが出来なければ他のものは皆、無益になつて了うのである。併しあなた方の目を醒すに足る丈の強い刺激と云ふものが必要である。殊に其の時代の精神、其の時代の思想と云ふものが最も大切であります。故に此の間から今の時局について尋ねましたことについて、あなた方が熱心に調べてお出しになったことは深く満足致します。今日それについて少し申し上げて置きたいことを序論として進ませう。

[戦争について]

戦争と云ふことについては、必ず勝敗と云ふことがある。此の勝敗を争ひ、勝敗を決するところの戦争は生のつゞき限り、又此の生は無限である以上は永久につゞいて行くものである。併し其の戦争と云ふものは、必ずしも干戈の戦争ではない。今日のやうな隊を組んで世界の富みを破壊し、人の生

命を奪ふことばかりでなく、目に見えぬ戦ひがある。夫れは意志の自由を得るために、其の意志の働きに妨害を加ふることに勝つことで、之れは進化に欠くべからざるものである。

[ニイチェの説につきて]

之れは近世の哲学、文学の看破して居るところで、ニイチェの如きも之れに対しては誤つて居ないのである。ニイチェは余り極端に走せて論理を誤つたために、未熟なる読者につまづきを与へたと云ふ欠点はあるけれ共、其の中に採るべき点、彼れがつかまへやうとした実相は確にあるのであります。其の誤りから思想界の動乱となり、世界の大戦争となり、其の波動が我が国にも伝はつて来て、あなた方の思想をも動かして居ることは事実でありますけれ共、之れが善い方に働けば必ず善い結果を来すことであらうと思ひます。

[婦人の覚悟すべきこと]

意志に欠けて居ると言はるゝあなた方御婦人が、態度をきめて十分なる意志を以てきめてかゝらねばならぬ。

[偉人、君子、Superman]

やはり勝利者でなければならぬと云ふことは大切なことである。之れは人となる目的を成就した人で、此の苦しみに遭遇せずに出来たものはない。此の苦しみに鍛はれなかつた人間はない。夫れで、どーしても人間と生れて来たからには其の目的を達して人格を発現する、其の意志を成就するには、どーしても此のStruggleがあるのである。其の目的を達して其の意志を獲得した人を偉人、君子、或はSupermanと言ふのであります。

斯くの如き生活の意義を全うした人は、其の生涯に於て必ず悲観、厭世に陥つたことがある。之れが即ち世の中に、死ぬると云ふこと、病と云ふこと、或は戦争と云ふこと、其の他の悪事と云ふものが絶えないと云ふ証拠であります。夫れで此の我々の生活の自由を、即ち人生の真意義を発揮するところの自由を妨害し、又は之れを圧迫し、之れを余儀なくするところの障害物が充滿して居ると云ふことは免れない。故に、どーしても戦争が必要になる。此に於て悲観厭世的の傾向に陥ることを免れない。ニイチェの如きはショーペンハウエルの思想を受けて、殆んど虚無主義にまでなつて居る。東洋で云へば佛陀の如きも、人から云へば厭世主義、虚無主義とまで見らるゝ迄徹底して居るのであります。

[クライスト]

クリスト教の開祖クライストの輝きには必ず十字架と云ふものが伴つて居つて、十字架なしには殆んど其の光りは認められないのであります。

[ニイチェ]

夫れでニイチェなどは、夫れを極端に言ひ表はして居るので、殆んど非道德であるとも公言して居るのであります。ニイチェの最も愛したものは知恵と権力で、驚と蛇とは最も愛したものである。道德に対してはどー言つて居るかと云ふに、世界の人が私に対して道德の破壊者と言ふが、実にさうである。宗教についてもさうであります、と言つて居ります。けれ共其の真相は、ほんとの生活をするにはどーしても習俗的なものを破壊しなければならぬと云ふことであります。

[圧迫より超越すべし]

私は、あなた方がほんと一の人間となる上にどーして妨げを受けるかと云ふと、習慣的の道徳に捕はれ、学問の制度に圧迫せられて居るからであります。故にどーしても此鎖りを打ち切り、此の圧迫から超越しなければ、ほんと一の人間とはなれないのであります。我々はどーしてもこれ等のものに勝たねばならぬ。此に於て厭世的になる世間からは、道徳を破壊するものではないかと云ふやうに攻撃せらるゝこととなるのであります。之れをとり違へてはなりません。一知半解で誤ってはならぬ。

併し人格を発現すると云ふことが目的である。此の目的を達するには、やはり戦ひを要する。あなた方はいろいろの物に捕はれて居る。其の束縛を脱して何物にも勝つと云ふ、目に見えぬ戦ひによって目に見えぬ処の勝利を得なければならぬ。之れをするには、ほんと一の力があるのであります。私はあなた方に教員の免許状を与へることが教育ではないと云ふことは、始めから申して居る。目に見えぬところにあるほんと一の人間を作らねばならぬ。之れをなさずして幾ら表面に物を積み重ねたところで、役にもたゝぬ。我が国民を偉大にすると云ふことは到底出来ないものであります。

[順応]

そこで此の自分の人格の本質をかへる、或は本質が増進する、殆んど生れ更どころの教育、之れを Self-development と言ふ。つまり其の中の根本動力は意志である。我々の生活は始終、創造して行くところの生活でなければならぬ。其の教育を実行するために、今学期の方針をたてたのであります。[独逸の思想について]

併し偉大なれと云ふことは、今の独逸やニイチェの主張するところのものとは違ふのであります。ニイチェ等の思想によれば、Great man, Superman と云つて、此の中にクリストの如き偉大なる人を作る。さうすると其の人の力により、感化により、模範によって文明を高めることが出来る。其のために、凡てのものは其の人の奴隷となるのである。其処に独逸皇帝と云ふもの、独逸帝國と云ふものが出来れば、即ち神の御心であると云ふ風に考へる。けれ共今日では、之れを旧思想と言ふ。独逸の思想は近世文明に反した処の思想であります。独逸の此の思想が如何に世界を苦しめたかも知れぬ。終に夫れが破裂して、今日の如き大戦争となつたのであります。

[天才は各人にあり]

併し蜂が女王をつくるのは宜しい。此の中に指導者となり天才となる人があるならば、悉く夫れを育てゝ行くことが必要である。天才は一人ではない。一人の天才のために皆が奴隷となることは好まない。銘々何かの天才がある故に、銘々が育たねばならぬ。銘々が偉大なる人格となるところの動機を育てねばならぬ。私は此のことを深くあなた方に要望し期待して居るのであります。

そこで、も一此の大正三年も暮れんとして居りますが、確に之れで行かれると云ふ芽生へだけは発生させたいと思ひます。あなた方はど一かほんとに覚悟をきめて、ほんとのこと

に着手して貰ひたいのであります。併し、あなた方を束縛するところの習慣、制度、其の他いろいろのものがあつてあります。之れ等のものに対して悉く勝つと云ふ態度をきめねば、之れは出来ないことである。あなた方はどーしても此道を見出だして、お進みにならねばなりません。

[中表紙]

大正三年十二月五日

寮生のために

大正三年十二月五日

寮生のために

寅の歳で虎のやうな猛烈な事變がありはすまいか、火があり、地震があり、戦争があるやうな前兆ではあるまいかと心配を致して居りましたが、果して其の予言の如く我が国内に於ても、世界に於ても非常なる出来事があり、又、我々にとっては曾て思ひもかけなかつたところの火事などもありました。然るに其の寅の歳も将に行かんとして居る際に、あなた方が何かの必要を感じて此の会をお開きになつたのは、最も其の當を得たことと考へまして、私は満足致すのであります。私共は此の元日から心に深く祈るところがありました。今日も尚深く祈つて居るのであります。私共は深く訴へて居るところがありました。今晚はど一か此の訴へがきかれたいものであります。

あなた方は深く訴へて居るものである。寮監は、又私共はあなた方に訴へて居るのである。独り我々ばかりではなく、あなた方のお母さんも、ど一も子供に聞かれないと言つてお訴へなさる。又あなた方はお母さんに願ひが聞かれないと言はるゝ。国民は何か深く 天子様に訴へて居る。天子様は、ど一か国民に聞いて貰ひたいと訴へておいでになるのであります。今晚はど一か此の願ひ、此の訴へが聞かれないものでありますけれ共、皆聾になつて聞えないから心と心とが通じないのである。如何にすれば聞えるやうになるか。何が我々の訴へを聞えぬやうに遮つて居るかと云ふことを考へねばならぬ。

[We are God]

之れは遮るものが一つある。さうして今一つは訴へ方がわるいから貫徹しないのである。私共は、或る学者が申しましたやうに We are God で、我々は皆一つの小さい神様をもつて居るのであります。メーテルリングの詩の一つを訳しますと、我々の内には一つの王国がある。王国であるから必ず一つの王があり、裁判官もあり、善い国民もあり、悪い国民もあるところの王国であります。夫れで私共は、ど一か王様にきいて戴きたいと願つて居るけれ共、何か一つ其の間に遮るものがある。夫れは誠に倭悪なる、陰険なる奸臣があつて妨げて居る。夫れが自分の王国にもあれば、人の王国にもある。其の奸臣が何処へ訴へをもつて行くかと云ふと、又

向ふの奸臣に訴へるのである。此の 天子様と国民との間を妨げて居るところの奸臣を除かざれば、国民の願ひは聞かれないのである。然るに此の奸臣は非常に権力を振うて居って容易に除かれない。之れは何であるか。今、学監は我が儘、利己と言はれました。まあそんなものである。片意地の頑迷なる利己的の意志である。自分程えらいものはないと思うて居る。之れは王国の奸臣である。我々の王国が此の奸臣のために迷はされ、かき乱されて居る間は、どーしても王様への訴へは届かないのである。故に、この片意地をもって片意地に当り、怨みに報ゆるに怨みを以てすと云ふ風で此の代弁人を使うて争うて居る間は、どーしても 天子様への願ひが達せられないのである。此に非常なる煩悶がある。メーテルリングは、どーぞ之れが解けますやうにと云って居ります。

[ボーロ]

ボーロは之れを解かすために、頭の上に火を載せよと言ふ。此の片意地を捨てゝかゝらねば、此の意地を以て人に對しいろいろ忠告を試みて心と心とは通じないのであります。

又、夫れがお母さんでも、先生でも、寮監でも、時々之れが出ることもある。親の權威を以て、先生の權威を以て子供の意地にあたる。さうすると益々反抗して効果はないのである。故に、時々考へて見ねばならぬ。そこで私共は訴へるべきところに行つて訴へると、よく聞かるゝのである。

[Heart]

其の訴ふべき処は何処であるか。又其の使にやるべき者は何であるか。夫れは私共の王国にあるところの裁判官である。良心である。私共はどーか Heart を以て、真心を以て、情を以て、向ふの頑なる人の心に入らんければならぬ。例へば宗教に、敵を愛せよと云ふことがあります。私共の敵の向ふには目をかけないやうにしなければならぬ。故に我々は何時も其の奸臣を退けて訴へが聞かるゝやうに、又聞くやうにしなければならぬ。

[悔い改むべきこと]

我々の内にある訴へ、願ひ、祈りと云ふものは、真に我々の衷情でありまして、時には怒り、時には喜び、いろいろ変わるけれ共、其の中には真心があるのである。私共は、どーかあなた方の心が開けるやうに、あなた方の人格が出来るやうにと日夜祈つて居るのであります。先生、寮監は何を祈つて居るのであるか。又、あなた方は何か願つておいでになる。どーか此の事を聞いて貰ひたい、此の事を認めて貰ひたいと願つておいでになります。今晚は、どーか之れを聞いて貰ひたい。心と心とが通じなければ、一致共同と云ふことは出来ないであります。其の上に、我々の上には大なる帝王がおいでになるのであります。之れに祈れば何事もきかれぬことはないであります。故に今晚はどーか、お互に心が開けて意志が通じ合ふやうに祈りたいのであります。さうして明らかなる裁判官の前に、猶私共が片意地であつたならば、私共が怠りであつたならば、私共が頑固であつたならば、私がわるうござりましたと悔い改めねばならぬ。悔い改むれば必ず赦さるゝのであります。

私共は一年間の事をよく考へて、此の太陽の光りの前に

照らされて改めねばならぬ。私共は神の前に謙遜に悔い改めねばならぬ。人に悔い改めよと言はないでも、先づ自ら悔い改むれば宜しい。其の心を以て對へば、必ず人の真心に入るのであります。

第三には、どーか年内に皆が心から喜んで感謝するところの感謝祭を致したいのであります。さうして私共は一年間戦つたのである。生徒も先生も、一年間努力、奮闘なさつたのである。決して怠つたのではないけれ共、今学監の言はれたやうに、我が国家と云ふものが困難である。境遇がわるいのである。学校も甚だ困難である。力が乏しいのである。力が足りて来れば何事が成らざらんである。

私は此の寅の歳を送る前に、どーか此の祈りを聞かれる、第二に心から悔い改める、第三に此の感謝を以て今年を送らるゝことを希望致します。

[中表紙]

大正三年十二月七日

大学部一年及び预科にて

大正三年十二月七日

一年及び预科にて

[反省]

私は、あなた方が自分で自分のことが見いだされるやうにと思つて試験をすると云ふことになると、之れ迄試験と云ふことがあなたの面白くないところの連想がありまして集注を妨げるかも知れないと思ひます。自発的にするやうにするには、自分で自分を支配する、自分で自分を教育する、自分を拵へて行く道を知らなければならぬ。それには自分自身が如何なるものであるかと云ふ実質がわからないと、如何に自分を取り扱ふべきかがわからない。それをほんと一にするには、反省、自省、Self-examination が行はれないと、自分を明かに見出だすことが出来ぬ。それで自分がわかつて、其の次は自分の目的である。今日、努力して修養し勉強するところの目的がつかまへられないと、自分の力を開拓することが困難である。

[真の試験について]

私が試験をすると云ふのは、其の自分の力、自分をためすには如何にすればよいかを明かにするやうにと考へて居るが、今迄の試験とはちがう。あなたと私とが協力し、一所に働いて行くと云ふ意味である。試験と云ふと外から自分の価値を定められ、上下を定められると云ふやうに、又、人を排斥し陥れる、人の特権でも奪ふやうな連想がある。学生が始終なやまされて居るのは試験と云ふことである。試験で自分の生活を乱さるゝことは、此の最も大切なことをする時期に於て妨害になる。今は非常に力を集注してしなければならぬ。然るに試験のために妨げられるところが、あなた方に矛盾がある。之れをのぞいて、真の生活をするに云ふことが問題で

ある。あなた方の人格の実質に何かの増減が生じて来ると云ふやうな、根本な価値に関する問題である。之れに行く妨げになるものを排斥し、又それに行く希望を覚醒なさるやうに前に言うたが、之れは如何なるものかは皆さんに任せて考へられたい。

先づ深い問題を考へられる前に、態度、用意をなさることが大切であらうと思ふ。Self-examination について、Conventional なことをあなたが受けることのために生活に矛盾があると Waste になる。それは如何なる態度にすれば無益な徒勞をしないでよいかを話して本論に入りたいので、今あなた方のして居る試験の弊について述べたい。

[試験の弊について]

第一、今日の試験はあまりに僥倖的になって居る。それ故学生が投機的な氣になる。そして之れが不真面目の本になる。問題が何処が出るかは受験者にとりて大切なことである。もし自分の得手なところが出ればよいが、不得手なところが出ればわるい。全く僥倖によって定まる。一方の人にはよい機会であつて、一方の人には不幸なことがある。それ故、試験が人を神経質にする。そのために知力が他の色々な氣分によって働きを乱され、狼狽するやうなことがある。試験が僥倖に傾く恐れがある。不安がある。そこで飾ると云ふことが出来る。又なるだけ自分が出来るやうに表はすと云ふ弊が伴ふ。此の弊からあなた方の心の働きを自由にさせたい。我々は僥倖的、投機的に生活するものではない。さう云ふことは余り重いことではない。試験をうけて出来るだけ多くの点をとるために、他の自分の徳を犠牲にしてまでする処の態度をかへねばならぬ。此の弊から自由を得て、勉強する態度でなければならぬ。

第二、今日の知識の試験は余り浅薄であり狭隘になり、それは消化したのも不消化なもの、記憶したものをためすに過ぎぬ。故に、その知識は局部的、浅薄なものである故、自分としては極表面な価値なき知識である。それよりも私共のために大切なことは、知力の働く Method 方法である。如何に研究するか、如何に真のところに到達するかと云ふ研究の力の方が大切である。故に、試験によって学問の出来たと思ふは間違ひである。結果を第二にするとところの態度を以てしてもらひたい。

第三、今日の試験は事実を理解するか否かで、事実の知識である。我々は事実と事実の關係の知識、かくれて居るところの事実の意義を知ることが大切である。

第四、其の教授を受けた知識を授けると云ふ最近の目的を達したか否かの結果をしらべて見るに過ぎない。其の知が其の人の人格及び日常生活に如何なる働きを及ぼすか、之れを受けた学生の実質が如何に發展するかを見るに、教へた知識の結果、目前の影響をしらぶるに止まって居る。故に其のSelf-examination、又自分を真に開発するところの結果をしらべて見て、間違つて居れば改める。それ以上のものがあれば改善すると云ふ真の知識が、今日の学校の試験では出来て居らぬ。

そこで私共は極正確に自分を知る、自分を完全に統一する

目的を以て、永久に続いて發展する如き生活を営むためには、今少し深い智が必要である。之れを得るための実験のために尚深い試験を要す。つまり深い試験は、我々が生活して居るがそれは我々の目的にかなふべきものか、有効な生活をして居るか、或は我々の働きが無効になるやうな徒勞な生活をしていないかと云ふことがわからねばならぬ。

[知、情、意の三方面について]

私共の生活には二つのものがある。目的、理想等の客觀的方面と、今一つは之れを追求するところの主觀的のもの、内面的のものの両方に分れる。目的を作り、理想を描くものをさして理性、知の方面で、内面的の方面は之れを感情と言ふ。其の中には本能、衝動、感情、情緒、情操或は動機とも言ふ。感情が知の要素を加へて、力を統一して働くところのものを意志と言ふ。之れは両方にまたがつて居る。之れを両端に分つと、知の方面と感情の方面となる。今あなたが学校教育で重きをおくは知の方面である。此の我々の人格の根底に影響しなければ、知の価値を失ふのである。只皮相な、狭隘な、一部の知となる。それで私共の目的とするところの生活は、其の自分の人格に影響し、人格の実質内容を革新する如きものでなければならぬ。

[本能、衝動、愛]

第一あなたが考へねばならぬことは、又自分と云ふものが如何なるものか、又今学期にどれだけの進歩をしたかを考へて見ると云ふことは何であるか。知の分量ではない。今年学んだ智が自分に如何なる影響を与へたかと云ふことである。能力が自分の内に、どれだけ發達したかを考へねばならぬ。私は之れを動機と言ふ。動機の發展を言ふのである。或は意志と言うてもよい。自分の意志がどれだけ出来、發達したかと云ふのである。意志の強いと云ふことが力である。力は即ち感情である。感情の土台は Instinct 本能と云ふものがある。本能がもつと發達して、衝動と云ふ情操の最も徹底したもの、統一調和されたものを愛と言ふ。愛は感情のまとまったものを言ふ。人格の根底となつて居るものは愛である。喜ぶ、怒る、憐む等の感情がある。憎悪、希望、落胆の感情があるが、皆愛に帰着する。愛がなかったなら、かう云ふ感情はない。かう云ふ感情の關係を明かにし、又、意志を以て支配するために智が必要である。之れは知力を以て考へねばならぬ。我々の意志の力は、本は感情である。愛の感情が深くなり動いて居らねば、人格の力は強く進むことは出来ない。其の力を大切に育てることを怠り、只道具とする、智にばかり頭を用ふ、殊に記憶に止まると、それが学問と思うて人格に何等の影響も与へぬ。却つて妨げると云ふことになる。之れがSelf-examination である。

そこでつまり私はあなたが第一に考ふべきことは、自分の動機、意志がどれだけ發達したか、又、日々の生活に著しく發展する経験があるかないかを考へねばならぬ。我れによき感化を与へ、之れがよく發展することにならねば、今日の生活に価値がない。Motive の対象物には必ず目的がある。Motive は内面的で、目的は客觀的である。之れは両方共並行して進むものである。我々の感情、欲望の中には本能がある。

本能は只動物的に用ふるときもあるが、人間の性は本能のかたまりである永く永久に進化して行く生命である。其の生命が生活して居る。それは何によって生活するかは本能的にそなはって居る。此の特殊の本能、衝動は皆目的物がある。之れを自覚して、経験を調和して働く道を見出だすと、感情に智の働きが加はる。之れを欲望と言ふ。欲望、動機、即ち意志には必ず目的を追求するである。

[興味について]

私共の発展に最も大切なもの、人格の真髓となるものは、動機が盛んなこと、元気である。動機は必ず目的を求める。之れに向って態度が傾いて居ることを興味と言ふ。興味即ち動機が目的を愛する。即ち愛である。愛が深からねば元気は盛んにならぬ。人格の偉大な人は興味のもえること。学問をするにも興味がなくてはならぬ。無味乾燥な学問は無益である。我々は如何なることに興味があるか、どれだけ進むかが最も大切な根本である。興味、動機、目的、理想が発展、進化するならば、有効に満足に働ける。それをせずして結果を求めても出来ないのである。其の時に失望、落胆して、元気がおとろへる。之れは自分が退化するのである。つまり動機の力、種類があなた方の将来を律するのである。幸不幸、皆動機の種類、選択によってである。之れは私共の生活の態度をしらべて見るのが大切である。

[認識的態度]

第一の態度を認識的、知的態度。真理を愛し、知を慕ふ情である。其の最も根本的なものを好奇心 Wonder と言ふ。Wonder は好奇心の発達したもので、Mystery を愛するのである。不思議をさがす好奇心があつて、人間が進化する。此の態度を認識的態度と言ふ。之れが我々の研究をする本である。

[意識的態度]

第二の態度を意識的態度。努力的、奮闘的態度と言ふ。之れは目的を愛する、対象物に向って居る態度である。之れが自分の行ひを律して居る。

[感情的態度]

第三は感情的態度。純粹の愛である。此の三つの態度を私共がしらべねばならぬ。之れが私共の人格の根底である。意志の根本である。余程深い問題である。今一層お考へにならぬと答へがむづかしいから、此の試験は後にしたい。

[良心]

第二にしらべて見たい大切な Point は、価値選択の力である。此の力が私共の人格を別物にするところの力をもつ。同じ学問をし職を得るにも、各々異るところの性質、力が発達する。又、正反対の人間が出来る。之れは何によるかと云ふに、各人に自由選択の力をもつ此の価値の選択によってである。又、人に之れ位大切なものはない。知識、力、才よりも何よりも大切である。真価値を選ぶ。美を選び、善を選び、誠を選び、愛を選ぶ。之れを趣味、及び良心と言ふ。真によいことを採ふことの出来る人は、之れ程安全なきれいな徳な人はない。我々は此の力が一番大切である。私共は学問をして何か新しい知を追求する好奇心がある。不思議なものを追求して止まぬは、価値を求めて居る。今少しよいもの

がある以上なものを捕へんとして居る。此の力が発達すれば、書をよんで要点を捕へることが出来る。必ず真相を見ることが出来る。此の力は必ず自分にとつたものを消化し同化する力をもつて居る。私共は、時に力に境遇に限りあり、いつも選択し、つまらぬものを排斥し、最もよいものを選択することが大切である。我々が自分の生活を経済的にするにも力が大切である。

[Organization]

第三は Organization。統一力、調和力、連合力。凡ての事実、価値に適当な関係を結合する力である。之れは我々に大切なことである。Association の力である。之れがよく出来る人は物の真相がわかり、記憶力も余程発展するのである。真の Organization が出来れば、決して忘れない。此の力が自分の生活を統括するために大切である。之れが如何に連合して働くか。創始力も此の力によるのである。読書し観察するにも、真相を捕へ選択するにも、目的をもつて Organize されてはじめて我々の力となる。事々物々にあたる毎に、如何に働くかの働き方によって実質が出来るのである。自分の力を見ると云ふのは、さう云ふ力を自ら試験するのである。読書した中から何の価値を見出だし、如何に連合して、如何なるものを創始したかが大切である。さう云ふ価値の選択力、及びそれを Organize する其の働きが如何に機敏であるかが、ほんとーに進んだかどーかである。

[中表紙]

大正三年十二月十四日
第一学年及び予科にて

大正三年十二月十四日
第一学年及び予科にて

今年、此の月曜日が今日と二十一日と二日になりまして、今年中にあなた方として了はんければならぬことが十分出来ませんでありましたから、其の計画と方法を大体申しておきまして、銘々で夫れを考へ、且つ実行して貰ふより外に方法がないのであります。

先づ第一に、是非此の一年生も、二年、三年と力を合せて銘々の生活をも一つ改善し、且つ徹底する様に致さねばならぬ。いろいろな方面に互つて直して、銘々新しい経験をして貰ひたいのであります。

[本能について]

其の上にも一つ問題が残って居ります。之れは二十四日終業式をすましてから来春まで考へて貰ひたいと考へます。そこで先づ、自分で考へて改めるやうにして貰ひたいことの大体を申しておきませう。夫れは丁度あなた方の年齢満十七、八と云ふ年齢に於て、此の間から申しました自発的の衝動、或は内から起るところの感情、或は本能と云ふものが起る。之れは生涯の間に一番盛んであつて、其の時機に著しい発展

を来すのであります。故に此の時期に於て夫れを失ふと、取り返しがつかぬ。あなた方の生涯は今日きまると言つても間違ひではない。其の時に於てあなた方の生活の仕方が誠に大切であるのみならず、一方から言へば、最も危険な時であります。あなた方が今一番、自分について考へねばならぬ大切な時機であります。夫れで今日から、之れ迄習慣的、伝説的に伝はつて来て居るところの欠点を改めることが非常に大切なことであります。此間あなた方の方に感情と云ふことを申しました。又、三年の方にも幾らか申しました。感情は誠に危険なものであるが、又一方から言へば私共の生命である。故に感情を統一し、支配する。つまり感情の根底から養つて行かねばならぬ。

[人類の遺伝について]

感情の一番根底となつて居るものは本能である。本能は何から来て居るかと言ふと、人類の経験であるところの遺伝である。之れが私共の人類の又は国民的生活を繰り返すところの、即ち此の文明の価値を保存する、所謂進化の持続を保つところの根本動力となつて居る。永遠の昔から流れて居るところの生活を再びする処の根本動力となつて居るのである。之れを人類の遺伝と言ふのである。

も一つは宇宙の進化の遺伝と言つてもよい。宇宙の進化をついで、宇宙の生活をして行くところの傾向をもつて居ると言つてもよろしい。故に宇宙の進化が伝はつて居るとも言はれるし、又人類の歴史をも、今私共がうけついで居るのであります。故に宇宙の傾向も我々の感情となつて現はれるし、人類の経験も私共の感情となつて現はれるのである。之れが、過去の人類の歴史を私共が生れながらにして付与せられて居る訳であります。故に私共の感情は、一つは機械的に働くものと、猶自分の働きで新しいものとなつて更に発展しやうとする要求となり、傾向となつて現はるゝものである。夫れで私共が人となるには、二つの力が働き合つて出来るものであると考へて宜しいのであります。

[自発的本能]

其の一つは自発的本能であり、も一つは夫れに応じ夫れを誘ふところの力である。之れを主観的方面と客観的方面と言つても宜しい。此の両方面は常に相引き、相応じて居るのであります。故に私共の内に本能となり感情となつて相要望して居るところのものは、必ず其の実体となるものが存在して居るのであります。

[愛]

例へば、此の間から格言となつて居るものをさして、感情或は情操となつて居るものを指して愛と言ふ。其の愛と云ふものにはいろいろ色がわかれて居りますけれども、其の色が区別せられて感ずると云ふのは、私共の内に遺伝があり、又外に向つて対象せらるゝものが必ず存在して居るのであります。

愛と云ふものは一番わかり易く言へば、人格と人格との関係である。必ず友達を要求するのである。若し友達がなかったならば、誠に寂寞を感ずるのである。其の友達との関係が理想的に行かないならば、必ず煩悶を生ずるのであります

けれども、私共が友を求むると云ふことは決して空なものではなく、必ず求むるところの心に叶ふ対象物が必ず宇宙にあり得るのである。又、宇宙にさう云ふ経験が実在して居るのである。故に或る時代には必ず友達を求める。又、其の理想にあふところのものがあるのであります。宇宙に自分が求めるやうな人格があつて、其の人格と人格との接触によつて益愛が成長して来るのであります。

[社会的本能]

私共には他を愛する情と云ふものがある。之れが発達すると、又社会的本能と云ふものが盛んに起つて来るところの感情となる。之れが愛国心とか愛校心とか云ふ、つまり自分の属して居るところの社会をよくしやうと云ふ考へから、必ず国家と云ふものがあり社会と云ふものがあつて、対象物が必ずあるのであります。

又、も少し進んで発展すると云ふと、も一つ我々には根本問題があり、敬虔の本能がある。之れを宗教的本能と言ふ。つまり宇宙に対し、神に対するところの情と云ふものがあり、夫れに対する対象と云ふものが必ず宇宙に実在して居るのであります。夫れで私共が生れ落ちて遂に世を去るまで一生涯の間総ての時期に於て、限りなく此の本能が覚醒して、夫れを養ふところの滋養物を得て対象物に遭つて、其の対象物と共に助け合つて、即ち結婚するとか生れるとか云ふことが始終行はれて進化して行くのであります。

[感情の調節について]

夫れで不知不識の間に我々は、生れ落ちると直ぐから其の経験をつみ重ねて来たもので、十七、八の青年には必ず起るところの要求があり、又夫れに応ずるところの対象物が必ずあつて、其の刺激物が四囲の境遇に充満して居るのであります。故に之れを虐待したり、恣にしたりすることは宜しくない。故にあなた方は、今日に於て十分お考へになつて、ほんとの道をお進みになることが大切であります。最も大切な時であると共に、又一方に偏り易い、一部の猛烈な感情の起り易い最も危険な時であるから、此に其の調節をとる方法を講じなければならぬ。之れが、私があなた方に生活を調節してもらひたい、又よく考へて自ら直すやうにしてもらひたいと申すわけであります。

夫れで制度のことにしても、あなた方自らがよく考へて打ち勝つて行くと、抵抗力を生じて生涯のためになるのであります。つまり私共の主とするのは実質であつて、あなた方はほんとの一価値に着眼して行くやうに、此の間試験のやうなことをしたのも其のためであります。

兎に角、今は非常な発展の時機であると共に、平均を失はぬやうにせねばならぬ。故にあなた方は全体の生活に注意を払つて生活を調節せねばならぬ。夫れで、此の時代の生活に最も強く働くところの感情を如何に取り扱はねばならぬかと云ふことを、極卑い本能から最上のところにまで考へておくことが必要であります。

[身体の変化について]

先づ一番卑い本能と云へば、身体の上から始めねばならぬ。今、あなた方は生涯の中で身体を作る時で、出来上るのは

二十四、五才であるが、今は建設中で仕上げをする時であるが、所謂十二才から十八才迄の間は非常に変化の多い時で、又非常に本能の盛んに起る時であります。本能のほんとの種は身体の中に織り込まれてあるので、私共の気分の変化が又身体に影響して来ることは事実であります。

私共の細胞には二種類あって、感覚神経と運動神経とある。筋肉の力の増進が又意志の力に非常な影響を及ぼすものであります。力が強いばかりでなく、其の力の働きの性格になって来ると云ふことに発達する。さうして、も一つの筋肉と筋肉との共同が盛んに発達する時機であります。故に身体の方から云へば、筋肉の働きを支配して筋肉の働きに満足させることが必要である。何とならば、必ず活躍しやうと云ふ要求があるからで、若し此の中に弱い人があるならば筋肉の働きを怠って居る人であります。

も一つ此に危険なことは、筋肉の発達と骨の発達と靱の発達とが平均して進むべきものでありますが、其の平均を失ふ時は、我々の身体に不平均の発達を起すことであります。青年期には身体の発展が盛んであると共に其の刺激の盛んになる時であるから、適宜なる身体の運動を怠らぬやうにすることが必要であります。つひすると学問をする人は、身体のことを怠ることがある。其のために憂鬱になり煩悶するやうになって、神経衰弱などを起すことがあります。故に此の時代に於ては殊に遊戲的、趣味的、労働的生活を怠らぬやうにせねばなりません。

此の内の要求に応じて働くことは、芸能となつて発達して来る。十七、八、二十才頃迄に私共は生涯の働きをきめて、筋肉の発達をさせておかねばなりません。

[Self-consciousness]

第二にあなた方の時代に起る心理状態の中で、今日は非注意しておかねばならぬことを申しませう。此の時代に特に注意しなければならぬことはSelf-consciousnessで、之れを大きく言へば自覚ともなりますが、自分のことが気にかゝるやうになる。之れは誠に大切な傾向である、其の時代の大切な感情であると言はねばならぬ。如何となれば、人間に一番大切なことは、自分がわかると云ふことである。

ソクラテスも Know thyself と言って、人間の禍の本は無知と云ふことであるから、先づ自分がわからねばならぬ。人を知り、社会を知り、歴史を知ると云ふことは自分を知ると云ふことで、総て物を知ると云ふこと、同化する、消化すると云ふことは自分の経験と同じであると云ふことを定めたことで、つまり自分と一致すると云ふことであります。故に先づ自分は何であるか、自分の長所は何であるか、自分の之れからの運命はどうなるであらうか、又自分の使命は何であるかと云ふことが大変気にかゝって知りたくなる。夫れをSelf-consciousnessの盛んな時代と言ふのである。

之れは此の時代に必要なる大切な感情であるから、夫れをよく支配し、統一することが必要であります。一方には、其の本能のために他を圧迫して顧みないと云ふ風になって危険な時であるから、よく之れを調節しなければならぬのであります。此の時に身体の注意を怠り、筋肉を働かすこと、

遊戲などをしないで居つて弱くなる人が沢山あります。故に夫れがよく行けば天才を発揮することが出来、わるくすると自殺するやうなことにもなるのであります。

[狭い興味の弊について]

其の自分と云ふことに傾き過ぎて陥る弊は何であらうか。私共の本能には、必ず夫れに反応するところの対象物があると云ふことを申しました。自我意識が盛んになると、他と云ふことが起る。自分を知らうと云ふときには理想を実現しやうとするのであるから、自分をうつす鏡を得やう、自分の手本を求めやうとするから、理想の人格を尋ねると云ふことがある。故に此の時代に於て Friendship と云ふものが出来易い。自分を知つて賞ふところの一人の理想的人物を選択しやうと云ふ心が起る。之れが他を排斥し、社会一般の興味を捨て、狭い興味を以て一人に対する感情に集注しやうとする。之れが青年の危機であります。つまり自分と云ふものが主観的になって、自分の人格を自分の選んだ一人の人格に制限し、其の人の人格を自分一人の人格に制限し、親に捧ぐべきもの、社会に捧ぐべきもの、神に捧ぐべきものを殆んど一人に捧げて了ふことになり、総ての物に色眼鏡をかけて氣をまはして見るとか、所謂嫉妬心を起すと云ふやうなことも、此の時に起りやすいのであります。Friendship を求めると云ふことは同性の間にもありますが、異性の間にもあることもあれば、又此の時代には畏忌すると云ふこともあるのである。故に此の時期によく修養しておかないと、救ふべからざる運命に陥つて生涯を破滅することがあるから、よく慎まねばなりません。之れは個人と個人とのことであるが、社会に対してもよく修養をしないと、何時も社会が自分を圧迫するやうな感じが起つて、自由に自分の意志を発表し行動することが出来なくなることがある。又、試験と云ふやうなことののために何時もびくびくして、自分は人からおさへつけられて居ると云ふやうな臆病な性質になることがある。

又一方には、自我意識が強くなって人を馬鹿にするやうな性質も此の時期に起り易いのであります。併し、此の自我意識が盛んになると云ふことは、生涯の発展の上に非常に大切なことであるから、積極的に之れをよく導くと云ふことが大切であります。いろいろなことを感じたり考へたりするやうになりますが、つまりは夫れがど一云ふことのためであるかと云ふと、児童期に於ては模倣性が盛んである。然るに十七、八になると、自分で自分を支配しやう。今迄は人によって人に教育せられて来たのであるけれども、もはや自分は一人の人間となった。故に自分の運命を開くのは自分の責任である。又、目的をもって生れたのであるから、其の目的を成し遂げたい。又、意志の活動を自由にしたいと云ふところから自分の生涯について考へ、自分の力、自分の傾向、自分の境遇と云ふことを考へて、自分は如何なる生涯を営まうか、自分は生涯に於て如何なる事業を成就しやうか、自分は如何なる職業を選ばうかと云ふやうな考へがいろいろと湧いて来る。夫れで之れをど一云ふところに統一するかと云ふと、いろいろ考へが働いて居るけれども、つまり自分の確信を得やうと云ふことになる。確信の中に使命と云ふことも加はつて居る。

故に結局、此の時代は確信を得やうと云ふことになるので、世界の歴史を調べて見ると大抵十七、八で確信がきまるのであります。

そこで確信を得るために総ての力が非常なる勢で活動するのである。其の本は熱烈なる感情であるが、夫れがどーして実在を把握しやうとするかと云ふと、直感が想像によって詩的にもなり、哲学にもなり、宗教にも及んで行くのである。此の想像がいろいろの方面に働いて考へさせる。所謂直感力によって、想像的に物の一番の結局まで考へて見やうとし、自分の将来迄考へて見やうとする。夫れで此の時代には、想像力が非常に活動するところの要求が盛んになる。兎も角も自分で考へて見たいのである。

〔創始的能力〕

其の考へると云ふこと、つまり一つのを構成する、自分の理想、目的等を拵へやうと云ふ創始的能力となつて働く。故に自分で非常に考へて見たくなる。静かなる部屋で、内に深く考へを構成して見たいと云ふ要求が盛んである。然るに今日は其の要求を満たすやうに考へるだけの余裕を与へない。そこに第一、若い人の頭が飢えて居ると云ふことも、今日の欠点であります。故にあなた方は此の時期に於て十分考へて、確信を得ると云ふことが出来ねばならないのであります。

〔第二の誕生〕

確信が出来ることと云ふことは、先づ自分がわかり、社会がわかり、宗教的本能と云ふものもわからねば出来ないのである。人がわかり、社会がわかり、天がわかると云ふことは、自分の内の要求がわかり、尋ねて居る者がわかつて同化して後、始めて人がわかり、自分がわかり、確信が出来るのである。之れをさして第二の誕生と言ひ、発展と言ふのであります。故に、生れるとか発展するとか云ふことは、も一段高い階段に上ると云ふことで、此の確信の出来るのも十七、八から二十才までの間であつて、大天才の現はるゝのも此の時期に於てすることが一番多いのであります。

之れから正月迄の間に、此の深い経験が出来るやうになさつたらどーかと思ひますので、次に我が確信と云ふ題であのカードにおかきになることに致したいのであります。さうして、あなたの毎日の生活に最も有益であつたと思ふ格言をかいて、最後に二ヶ月の経験をまとめて、あなたの理想となつて居り性格となつて居ると思ふところにまとめて、日々の生活のわかるやうにカードにかいて、十九日にもつておいでになることを希望致します。

〔中表紙〕

大正三年十二月十六日
大学部第二、三年にて

大正三年十二月十六日
大学部第二、三年にて

〔年末に於ける要求〕

積極的方面を話すにつけても、結論をつけるまでに各自の感謝の会をする事の出来る様に致したいと思ひます。

毎年の暮に私は皆さんに訴へる所がある。之れは我々の満足する所まで行かないから願ふ事であります。併し、我々お互に根本要求を持って努力する事に満足して居るのであります。そこで今日は、今後の生活を如何にすべきかと云ふ事に就いて申しませう。

あなた方に就いて、卒業生に就いて、又桜楓会の働きについて、日夜私は考へて居りますが、其の結果は五年や十年の短日月では容易にわからないのであります。けれども母校の全体を社会の一要素として見たならば、必ず其処に何かの力があり、幾分かの発展を自覚する事が出来ると思ふのであります。夫れで、実は今晚は帰一協会の例会に於て新年の問題に就いて一場の話をすることになつて居りますので、其の出かけに此処であなた方の告白を聞き、お話を聞いて居るのであります。

〔帰一協会設立以来の今日の結果〕

帰一協会の出来る時には種々の反対を蒙つて居つたのである。然るに今日は宗教家、教育家を始めとして、我が国の牛耳をとつて居る人の間に段々と認められて参りました。我が国の道德、宗教と云ふものは何かの信念がなければならぬと云ふ事になつて、宗教教育を学校に入れる事に就いて数回の研究会を開かして、其の研究を重ねる事となりました。其の問題が何処まで進行して居るか云ふと、先づ五つばかりに分けて、

甲

乙

(三行分の空白)

長い間の研究で、先づ此の辺まで進んだのである。

〔国民の墮落は信念の欠乏から〕

大多数は、今日の国民の墮落、青年の意気消沈と云ふ事は此の信念の欠乏から起るものであると云ふ事に一致して居るけれども、之れを如何にして救ふべきかと云ふ事に就いては又問題である。

〔信念涵養を真面目に行へる日本の学校〕

斯う云ふのが先づ、今日日本の教育界の現状でありまして、此の問題を解決して、ほんとの信念涵養の必要を認めて本気にやつて居る所は、宗教学校は別として其の他の所では此の校を除いては余りない様に思ふのであります。之れが一つはやはり私思ふには、幾分かあなた方の間にも問題になつて、

世間が反対である為に其の間に立つてすると云ふ事がむづかしいのみならず、夫れを信ずる事が困難であるかと考へます。けれどもどんなに困難であっても、一人の信仰を根底から養ふ事が大切であると信じて居ります。其の事例を以て我々が示す事が出来ると思ふのであります。そこであなた方も一つ徹底して、信念の涵養と云ふ事の理想を実現して見たいと考へるのであります。

[帰一協会に於て話されたる題 本校生を以て信念教育の標準とさる事]

実は今晚の私の題は、児童及び青年に於ける信念の創生及び其の涵養法と云ふのであって、之れは広く世界の材料を集めて結論をつけないければならぬけれども、一番強い処は、此の学校のあなた方を標準としなければならぬ。故に、あなた方は其の強い処の証人となる迄に修養せられん事を望むのであります。之れはあなた方に幾度か訴へた事ですが、私は今晚の事を承諾する前から此の事を考へると共に、何時でもあなた方の生活と云ふ事に就いて考へたのであります。夫れでど一してもあなた方の経験に訴へて、其の真理が我々の間に於ては何処まで実際になって居るか、又今後如何にして其の理想が達せらるべきものであるかと云ふ事を考へて、私共が真に満足する事の出来る様に進みたいと思ふのであります。

[実際に照らして見よ]

そこで、今晚言はうと思ふ事を申して見ますから、之れをあなた方の実際に照らして見て、何処まで達して居るかと思ふ事を反省して貰ひたいと思ふのであります。

[Genetic]

初めに信念の創生 Genetic と云ふ詞の定義を申して置きたい。此の信念とは一種の宗教の儀式又は教条を言ふのではない。宗教の真髄、道德の根本動力、犠牲の熱誠、天職に対する確信等の精神力をさすのであります。

此の創生と云ふ事は、信念の起源及び発展を云ふのであります。此の問題を解決するに独断にならぬ為に Genetic psychology、及び James の調べましたもの、並びに近來進んで参りました処の児童心理学の経験した処を参照して立論したのであります。

[創生の三箇条]

- (1) 信念は如何なる力であるか。
 - (2) 其の信念は児童期、青年期に於ては如何なる順序に発生するものであるか。
 - (3) 其の各時期に於ける涵養法は如何。
- と云ふ順序で進んで参りたいと思ひます。

[信念の起源]

第一、此の信念は感情、情緒、情操、態度、動機等で、其の因って起る処は、人類的の遺伝及び宇宙生命の流れである処の総てを総括した本能、天賦の性及び祖先の遺伝と云ふ様な根本動力である。之れが人格の種であつて、適当な刺激を受けて各時期に於て本能を繰返し、自己の選択力、又は自己の経験に由つて新しき生活力を創始するものであります。此の種の発生時期及び発生段階は、丁度人類進化の順序に

従つて居りまして、恰も人類進化の過程を原始時代、半開時代、文明時代と云ふ様に、児童本能の発生が児童時代、少年時代、青年時代、大人時代と云ふ様に段々過程を作つて進むのであります。

[児童の進化 年齢の區別]

私は児童期の三才より六才までを模倣時代と名づけ、六才より十二才までを同化時代と致して、十二才から十八才迄を自覚 又は天職確信時代、十八才より二十五才までを確信時代と致しておかうと思ふのであります。

[宗教的本能]

我々は自身の記憶にある経験を思ひ出すやうには出来なけれども、祖先の経験した事を本能的に再現したいと云ふ本能が再現する処の此の本能が忠孝の情操となり、愛国心となり、Cosmic patriotism 即ち宇宙の進化に忠と云ふ宗教心となるのである。此の発達は始めは模倣的、想像的であるが、夫れが段々反省的、論理的、直覺的となり、終に理想、目的となり、信仰、箇条と云ふやうな哲学的信仰を胚胎する様になって来るのである。之れ等の傾向、感情を総称して、私は宗教的本能と言ふのであります。

[人格の根本]

さうして此の本能が人格の根本であり、道德の原動力である。如何となれば、精神的な生活と云ふものは人類最高生活の中心であるからであります。

[宗教的本能の発生の始]

此の宗教的本能は原始時代に発生した様な形式で、神話的崇拜の情が児童の心に発生するのであります。始めは木や石や動物や天体を人格視し、又之れを崇拜するのである。夫れで児童は始めは自然の崇拜者であります。斯くの如き態度より思想上に大感化を得るものである。斯くの如き基礎なくしては、人類の根底である処の宗教心の創生は望まれないのである。

今日発達して居る処の最高の宗教、最上の文明は、斯かる自然と自然に対する同情の態度とがなかつたならば、決して発達し得るものではなかつたのであります。斯う云ふ自然に対する同情、自然に対する好奇心と云ふものが本となつて、其の本能が段々と発達するのである。

[信念は内部より発生するもの]

故に信念と云ふものは、外から与へたり教へたりする事の出来るものではない。Paul の言つた様に、Paul は飢え Apollo は水そゝぎする事を得せしむるけれども、之れを増長せしむるものは神である。信念は、遺伝又は天より与へられたる自然の要求で、内から発生する力である。

[教育は信念の指導者のみ]

教育は夫れを指導し、感化を与へ得るだけである。換言すれば、其の宗教的本能から起る衝動、適当なる食物を与へる。之れは恰も身体に營養本能があり、食物が其の本能を満足せしむると同じ事で、根本は自ら衝動的に信念を求めて居るのである。

[信念本能の分析]

故に此の満足を得て始めて其の根本の人格が発展する事が

出来るのであります。之れを分解的に言へば、之れ等の本能を三種に分つ事が出来る。

1、自我発展の要求。

之れはNietzsche、Ibsen、Maeterlinckの言ふSuperman、或は仏教で言ふ処の大我で、今の人間の生活を人間以上に向上しやうと云ふ事である。今日の人類の要求は超越的自我を発現したいと云ふ事である。

2、犠牲奉仕の念。

真に国家とか団体とかに一身を捧げたいと云ふ事。

3、大我徹底の根本要求。

神と一体になり度いと云ふ処の根本要求である。

之れが即ち宗教的要求、自発的衝動であります。之れを養ふには必ず其の食物となる処の客観的对象がある。子供の対象はお母さんとか、先生とか、乳母とか云ふ人格の感化である。

次には家庭とか、社会とか、国家とか云ふもの。即ち其の時代の精神活動の雰囲気であります。

[信念の発生所]

そこで宗教と云ふものは、内に自発的に起る処の要求、及び之れを刺激する処の外部の感化である。故に内にあるものをAspirationと言ひ、外のをInspirationと言ひ、此の間に信念が出来るのであります。故に信念の涵養と云ふのは児童発達の際に適当なるInspirationを与へるのである。人格の感化、時代の感化、宇宙天籟の声、即ち真善美の感化であります。つまり信念の涵養と云ふ事は、決して外からつぎ込まれる事でもなく、又人工で拵へらるゝものでもない。人間の生れながらにして最も強く内から湧き出づる処の願ひであり、情であり、愛である。又、必ず夫れを宿す処の境遇がある。其の丁度よい境遇を与ふる事が、信念の涵養と云ふ事であります。

[適切な境遇を与へよ]

然らば、其の方法はど一したらよいかと云ふと、即ち此の児童時代、少年時代、青年時代と云ふ様に段々と成長するに従つて、其の時期時期に起るべき自発的衝動に応ずる適切な教育を与へるのである。此の信念涵養は、家庭に於ても学校に於ても一日も欠くべからざるもので、之れが即ち宗教、道德、教育に欠くべからざるもので、之れを怠るならば総ての事が機械的、形式的になつて、力を失つて了ふのである。

[象徴は実行的信念涵養法]

然らば、家庭に於ても学校に於ても実行の出来る信念涵養の方法は何であるか。私は之れを象徴的方法と言ふのである。
[内的、外的、両世界の生活]

前に申しました様に、児童は段々成長するに従つて常識の世界、即ち目で見、手で触れ得る自然律の世界から、超自然的世界、即ち想像も直観し得る世界をも発見して、此の両世界に生活するに至るのである。

[内的世界は直観による]

而して此の現象世界を知るには、今までは常識、理知でわかつたのであるが、内面的世界は直観、感応等の加はるに非ざれば、其の真相をつかまへる事が出来ない。

[象徴主義]

又、此の精神的な生活は象徴的発表によらねばならぬ。之れを象徴主義と言ふのである。此の主義は、事実よりも其の意義、形式よりも内容、部分よりも全体、表面よりも徹底、器械的説明よりも洞察、理知よりも情操を重んずるものである。故に精神世界に入るには此の道を通らねばならぬ。

故に宗教、文芸、道德、科学、哲学等、高等文明の要素は此の象徴主義の文明で発達したものである。此の象徴的方法によつて、信念涵養の目的を遂げる事が出来るのであります。

[象徴主義とは如何なる事か]

然らば、私の言ふ所の象徴主義とはど一云ふ事かと云ふと、極端なるNietzscheの主義もあり、又穏健なるIbsenの象徴主義もある。私は其の総てを含んだ所の円満徹底したものを指すのである。

[象徴主義の(空白)]

然らば其の象徴主義は如何なる時に発生し、今日の文明に如何に現れて居るか。又、如何にして此の信念涵養に応用する事が出来るかを述べたい。

此の主義は詳に人類に宗教本能の萌した始め、即ち文明の曙光に発生したものである。世界の宗教の一番の起りは埃及の宗教の象徴主義から始まったと言ってもよい。アッシリヤの古物学教授Sayce(セース)博士の言をかりて言へば、

- ◎ 第一、今日我々の懐く宗教思想は埃及に負ふ所が多い。即ち流出説から其の後に起つた神秘主義、基督教の神学、近世の進化論、又今日の発達した処の象徴主義の原因をなして居る。
- ◎ 第二には、三位一体論と云ふものは矢張、此の埃及の象徴主義から出来て居るものである。
- ◎ 第三は、万有の永久の命のある事。

後の神秘主義、或はアレキサン德里ヤズム、基督教も象徴主義から湧き出でたものである。Hegelの形而学派も悉く此のNileの谷間に有して居ると言ふて居る。

[埃及文明の枯死原因]

斯くの如き雄大なる思想が斯かる埃及の枯死した文明から流出したと云ふ事、即ち宇宙の実体を見る眼光となつた処の象徴主義は、其処の形式にとらはれて将来よりも過去を重んじ、精神よりも物質を重んじて、目が眩んで終に埃及文明は枯死したのである。

[埃及文明の影響]

けれども其の滅亡時代に彼等の落した種は、決して埃及と共に枯死する事は許されずして、今日文明の種となつたのである。其の種は我々に伝はり、今日の修養の根本となつて居る。故に我々は古代人の世嗣であり、今日の文明は埃及文明から発生して居ると言つて居ります。故に、宗教及び文明の根底は象徴主義から起つたもので、埃及文明及び宗教信念は東西二つに分れて、一つは東洋に流れ、一つは西洋に流れて屢々之れを調和し様とした。

[宗教、象徴主義の酷似せる点]

日本の神道の象徴主義と埃及、バビロンに起つた象徴主義

と酷似して居る点がある。儒教の中にも、仏の秘密主義にも象徴があつて、其の本は埃及から流れて来たやうである。

[埃及文明より今日の文明に及ぶ]

今日の文明は、Greek、Hebrew、Rome から源を発して居つて、之れも本は埃及から出て居る。

又、今日欧羅巴の宗教である基督教も融合しやうと勉めた。基督教の象徴も其の当時の基督教のみならず、其の他のパガニズムから来た事が多いのである。火の洗礼を受ける事、晚餐を守る事、日曜日を守る事、十字架を守る事も他の宗教から入った事が多い。

[宗教の調和的傾向]

異宗教との調和点、即ち根本原理を認め、又相違点を認めて、其の間に調和統一して成るべく其の内容を豊富にする事に勉めたのであります。故に、もと埃及から源を発して東西に大潮流となつて発達したけれども、其の間に調和、融合しやうと云ふ傾向は常に絶えなかつたのである。

[宗教の今日の現状]

さう云ふ様な順序で進化、発展して、近代に至つてはど一云ふ様になつて居るかと思ふと、先づ宗教では今迄の独断的の狭い態度を改めて自治的の、形式、習俗に捕はるゝ事を免れ真に宗教の本質に到達しやうとして居る。之れはど一しても象徴主義によつて新活動を始むる外はないと云ふ事になつて居ります。

[文芸の復興は]

文芸は Emerson あたりから復興して、Ibsen、Maeterlinck となり、哲学は近來 Pragmatism 等が起つて Bergson、Eucken なども出て、益々物質的傾向に打ち勝たうとして居る。

[近來 象徴主義の傾向を分類して]

そこで、近來の象徴主義の特徴を分類して見ると、

- ◎ 第一は、物の真相、真意に到達せんとし、局部より全体に徹底せんとし、有限より無限に融合しやうとして居る。之れが各宗派、各人種、特に東西文明の融合を得んとする処の運動となつて居るのであります。
- ◎ 第二は、今日の文明が余り物質界に限られ、形式に束縛されて居る事がわかつて、此の束縛を離れて意志、感情の自由を得やうと努力して居る。
- ◎ 第三は、芸術的、職業的、哲学的、教育的 Inspiration を得やうとする傾向。
- ◎ 第四は、真の向上心を高めやうとする、向上心を満足しやうとする考へ。即ち近代文明の Level、又人格の Level を昇らうと云ふ処の運動である。夫れから之れを日常生活、殊に学校教育に如何に応用して信念を涵養させて、道德の根本動力を養はしむるかと思ふ事になりますが、も一時間がありませぬから申しません。

[天の Inspiration を受けよ]

之れは我々が日々努力して一種の経験を持つて居ると思ひます。併し私は、皆が天から Inspiration を受ける事の出来る態度となる様に努むる事を希望致します。

[中表紙]

大正三年十二月二十一日

第一学年及び予科にて

大正三年十二月二十一日

第一学年及び予科にて

よく落ち付いて自分の注意力を何かの問題に集注することの出来ぬ人は、深い人格にはなれない。又、物の真意を捉へること、自分を統一することが出来ず、何時も四圍の事情に支配されるのである。そのために一週に一度位は深い問題について考へる神聖な時をとることを自ら要求するやうになり、自ら深い生活が出来、又さう云ふ空気が出来なければ社会を進めることは不可能である。

然るに私は、かう云ふ問題を研究する態度で過去一年のことを考へられ、又来るべき新年を迎へる時期に於て自然に講堂の空気が出来るやうでなければならぬ。私はあなたのおかきになつたものよりも、あなた方の精神に行ひに顔にあらはるゝのである故に、私はあなた方の顔色に接することが最も大切である。然るに、今あなた方の其の落ちつきのないところの態度を見まして、私は甚だ遺憾に感じたのであります。今あなた方の大分進まれたであらうかど一考へは、自分で自分を支配なさる力が大切である。あなた方が此の堂に入られたら落ち付いて銘々に考へ、始まる迄静肅に考へて居られることを望むのであります。そこで始まつたなら注意を集める態度を作ることに時をとらないで、直ぐさま問題には入るやうにありたいのである。

[自我発展]

そこで我々が今年とりました目標は、自我発展と云ふことであります。此の自我発展がどの位まで出来たかはあなたのカードによつて見るのでありますが、又、あなた方自分で考へて、自分で反省して、又方針なども自分で見出だしてもらひたいので、それで二十四日までにも一枚こしらへて、二十四日の朝までに出して貰ひたい。それについて、よく私の言ふことを注意して前後の関係によつて知ること。そして先づ態度が落ち付いて、意志の働きが加はつて真意をとることが出来、丁度尋ねたことにあつた答へをしてもらひたい。尋ねた真意がどこにあるかを考へて、次の問題に答へてもらひたい。

それは此の一年間にあなたの時と力を如何につかはれたかであるが、それにはあなた方の時間表をおうつしになつて、一年にどれだけ徒労があつたか、又どの部分だけ有効であつたかが見たいのである。

第一、時間表と仕事の種類をあげ、自分の時間を最も目的のために有効に用ひたいのが銘々の要求であるが、それが制度のために余儀なく妨げられて居ることがある。団体と一緒になつてせねばならぬことがあり、又免許状を得るためにすると云ふやうな外部的な制度のために、一年間どの位妨げをうけ徒労となつたかを、十分比例でも、百分比例によつても表はしてもらひたい。

第二は、其の不満足な部分に確に自分の仕方のわるいため、又自分を支配することの出来ないために、つまり自分のわるいために徒労になった時間、部分を表はしたものだ。

第三、制度も要求に適合し、自分の傾きも自分の意志の働きも丁度適当にはたらいって有効につかった時間、最も自分で満足であった部分と一年の時間を、此の三つにわけ入れてもらひたい。

第四は、其の徒労になった原因は何であるか。

第五、改善法。明年は如何にして改善するか。自分の態度、仕方につきては如何にするか。又団体、組等について改善を要するところ、学校とか文部省等の制度については如何に改善するかを出してもらひたい。

私が未だあなたの方のカードをしらべない前に、本年の結果につきまして今一つ如何にも心配しましたことは、今日の感謝の会に致したいと思ひます。足りなかったところは補ひ、悪かったところは改め、互の欠点を心からゆるして、心配懸念のない満足なうちとけた一つになるところの態度が出来る新年を迎へ、又、一致共同の出来る大なる目的をたて方針を明かにして、理想、自信力を抱き喜んで新年を迎へると云ふ態度が出来ましたなら、私共が意味ある感謝の会をすることが出来る。それを希望したのであります。

然るに、今日の我々の少しもかざらない、おほはない、心底をうちあけて其のまゝを表はして見るならば、未だよく断言することは出来ませんが、確に満足し感謝する方面をそなへておいでになる。今年の働きに対する自信があるかと察する方面も色々もって居りますが、未だ自我発展が徹底したであらうか。又同時に発展すべきことも出来たかを考へますと、懸念するところがあります。今一層あなた方が考へて、二十四日まで徹底して真の満足の出来ることを希望するのであります。

それには二つの方面がありますが、其の間は密接な関係をもつて居ります。故に若し一方向が出来て居れば、他の一方向も出来るはずであるが、之れまでよく徹底しないで誤解となつたこともあるので、そこを説明して生活に徹底なさるやうにと思ひます。

それは知識ではない。銘々の生活である。人格の根底であるところの感情である。故に知ったから出来るものではない。知は其の生活を助けるけれども、それに徹底するならそれに必要な知力はあるのである。内に何かもつて居れば、何かに表はすことが出来る。表はす道があるから、言葉や知識も之れに伴ふに相違ないのである。私は程度は余り尋ねませんが、人格の芽がふくんで来たか、或は幹ができ、枝ができ、実がなると云ふ如く程度があるが、私は之れを尋ねるのではない。其の人格の芽が真に出来かけて来た、真に気づいて来たと云ふことであれば、私はそれで満足するのである。未だ何もしないがと云ふなら誠に心配である。私の尋ねることはそれだけである。

[客観的方面]

自分が何か感ずる自信が出来、意識が出来れば、何かの道を以て表はすことが出来ると思ふ。私は、それは先づ比較的

出来たかと思ふ。数から申しまして、比較的に自己発展と云ふ態度なり知識が出来たやうに思ふ。それが出来たと致しますなら、其の人格の表現する客観的方面がある。之れを団体生活、社会生活、共同生活と言ふ。今年は自我発展に力を入れたため、級として、学校として、寮舎として団体生活の上に相当に發揮したであらうかを懸念します。それは、自我発展と云ふは個人主義教育法であるから、之れを奨励したために社会主義教育法を忽せにすると云ふ弊がある。
[個人主義について]

個人主義は教育の一つの方法である。之れが人生の一つの主義である、学説である。さう云ふよい名をかりまして、所謂利己主義、我がまゝを遂げるところの口実に用ふこと、之れは個人主義と我がまゝとを混同しやすい点である。此の個人主義では真にわかつて居らない、徹底しない半解の頭であると思ふ。此の点はあなた方が反省して見られるやうに、かう云ふのは極端、不健全、病的の個人主義と言ふ。

私は今日の青年が個人主義を曲解して、我がまゝをすることをよいと思ふのではあるまいか。我がまゝは自分で自分を苦しめる。我がまゝは情欲に負けるのである、弱い人である。意志の薄弱な人である。恰も半身不随の人の如くである。故に、我がまゝは最も忌むべきことである。全体のためによいと思ふことをなした方がどんなに幸福でありませうか。然るにかう云ふ考へをもつて居る人は実に危険である。人を苦しめ、妨げる。我がまゝをよいことに思ふことは、誠に困つたことである。之れは心の一種の病氣である。友人を、家中の人を、組中の人を苦しめるのである。我がまゝは自分のためにも、人のためにもわるいのであるが、今日個人主義と云ふ立派な名の下に、其のかげにかくれて、我がまゝをして偉人になれると思ふやうな人がないでもない。今年は自我発展、個人主義、修養法を申したために、我がまゝをゆるしたやうなことはないか。之れが心配なところである。之れはあなた方がかう云ふことにつき知識を得られました故、半解におはらぬやうに徹底させないと誠に危険である。故に今日、文学をよんではならないと云ふやうなことは言はない。何となれば、青年はかう云ふ根本思想を要求して居るからである。そこで私は之れを冷静に批判して、世界の健全な思想にふれて、健全な発達をしなければならぬと考へます。

[ヘレン ケー]

かう云ふ考へでニイチエのやうな人も紹介したのであります。近來最も勢力を占めて居るのはニイチエの個人主義である。併し、ニイチエの個人主義の中にもよいところがある。其のよいところを聞いた婦人はエレン ケーと云ふ女である。そこで、ほんとの教育主義の個人主義はSelf-developmentである。私共は遺伝、それを育てる社会、及びそれを選択するところの意志、此の三つが出来なければ、真に社会を進めることも出来ない。又、自我の発展も出来ないのである。

それで、此の一年に於てあなたの社会的方面が如何であつたかを、今一度反省してもらひたい。之れが出来なければ真の自我発展は出来ないのであります。

[中表紙]

大正三年十二月二十三日
大学部第二、三年生の為に

大正三年十二月二十三日
大学部第二、三年生の為に

信念の涵養と云ふ事が宗派の異同を問はず又有無に拘はらず生活をして居るが、果して信念となつて居るか否や。

此の前に、三年全体も二年全体も大に気が揃うた様であると云ふ御報告であつて、私は満足したのであります。実は今年の空気は永く曇つて居りまして、晴れであるか曇りであるか、有か無かわからない、何か其のわからない所にあるであらうと信じて居りました。

併し一度は雲が晴れて其の実が現るゝ時があると云ふ事を信じて、お互は大早に雲霓を望む様な感があつたのである。あなた方は今年は殊に深い生活をなさる事であると云ふ事を信じて、あなた方の自発的の運動を成るべく自由に任せておいた。さうして少しでも傾向が出来るならば、其の萌芽をいためない様に致したい。又、萌しを育てる様な態度を私はもつて居つたのであります。処が昨日代表者がおいでになつて、此の間はさう申しておいたけれども其の所、心から喜んで希望に満ちて感謝の会をするに至らないから、二十五日迄待つて戴きたいと云ふ事でありました。

私は夫れは甚だ残念であると思つたれば、さうではありません、私共は出来るであらうと云ふ希望を持って居りますと云ふ話でござりましたから、私は御注意をしておきました。さうして昨夜又おいでになつて、愈皆が打解ける事が出来、感情が融和する事が出来ました。猶昨晚も会をして、今日も此の時間迄会をして、十分な結果を見る様にする考へであると云ふ事を聞きまして、私は安心致しました。夫れで余程熱心な会をなさつた事と思ひますが、私は唯だ其の報告を聞くばかりで、未だ其の内容は聞かないのである。

[全き悔い改めの必要]

一年もそ一云ふうやむやで過したと云ふ事は、甚だ宜しくない。斯う云ふ事は此の学校創立以来ない事である。其の病源は何処にあるか。未だ一人も告白する人はない。故に其の内容は、私にはわからないのであります。併し、お互に態度を改めた、胸襟を開いて打とける事にお努めになつたと云ふ事は事実である。其の原因は何処にあるか。其の責任は誰れにあるであらうか。誰れの怠りであらうか。誰れが其の傾向を Check したのであるか。之れは甚だわかつたと思ふ感じはあらうけれども、未だ一人も私が悪うござりましたと云ふ白をする人はないのであります。さう云ふ根を洗つて明らかにする事は、却つて其の人の為にも宜しくなからうと云ふ皆さんの御考へもあるかも知れません。けれども、夫れでは却つて直りません。今後、責任を重んずると云ふ事が育ちません。故に、本当に悔い改めをすると思ふ事は、改むべき事を改めて、夫れを実行すると云ふ階段にならねばならぬ。

[将来に対する希望の起るべき必要]

第二には、又、将来に対する希望が起らねばならぬ。さう云ふ階段を上つて行く為に、私共はも一少し内容を明らかにしておく必要があると思ひます。夫れで私は昨晚、皆さんが御報告においでになつたが、夫れは聞く時があるから、其の儘にしておきました。

[自己を責むる人なきか]

誰れも自分が悪かつたと言ふ人がないから、隗より始めよ、私は自身を反省致しました。さやうな空気を発生したのは私の責任である。私自身に負ふべきものであると決心致しました。其の責任の枝葉はあなた方と懇談すべき所があるけれども、其の責任の根底は私自身にある。故に責むるならば私自身を責めねばならぬと思ひました。と言つても、空漠たる事ではいけない。故に私の責任をも明らかにしておきたいと思ふ。又、あなた方の責任、及び教授、寮監の分担すべき責任もある。夫れは恰も自分の事の様に感ぜらるゝから、夫れをあなた方に訴へて見たいと思ひます。夫れで私も、自分の反省記は Card につけたのであります。

[山口から帰校以来の方針]

先づ私は、ど一云ふ方針を此の学年にとりましたか。私の留守中、あなた方は三年生を助けて留守番をして下さつたのである。其の後、あなた方は三年のあとを受けついで校風の発展に尽して下さつたのである。私は帰つてど一云ふ方針をとつたかと申しますと、沢山の卒業生も出しましたから、今後はど一してもあなた方を救ふのは制度にある。故に根本の改革に努めて、制度を改めねばならぬと考へました。

私が使命を感じて欧州の教育も見参りまして、出来るだけ多くの材料もとつて来た事である。あなた方は又夫れを十分咀嚼したいと云ふ熱心はあると思ひました。

[寮監、指導者の置かれし理由]

又一方には、信念の涵養と云ふ事、之れもあなた方はよくわかつて下すつたと思つた。夫れは幾らか Philosophize して、祈りもあり高調もありして、幾らか宗教の発現がなければならぬ。さうして方法もいるのである。又、夫れを個人化して行かねばならぬ。之れを日常生活に個人化して行くと思ふ事をしなければならぬ。之れは千人の人について私が一人一人導いて行く、自分の人格と人格とで導いて行く事は不可能である。故に其の間に指導者、寮監を置いて、一人一人して貰ふと云ふ事にしました。

併し此に私が誤つたのは、私が少し観察を誤つたのである。私は、あなた方には夫れだけ要求があると思つた。けれども夫れだけ。私の提供したお土産も、材料も、あなたの Note にとられただけである。あなたの知的に了解せらるゝに留まつた。Note に留めて、之れを舌の上に載せて噛み砕いて消化すると云ふ事をなさらない。時間をかけずに御飯の食べらるゝものではない。まして精神上の生活をするに、祈りもせず、想像もせず、黙思もせずして出来るものではない。西洋では日曜日はさう云ふ事の為に用ひ、其の他の日も必ず一度は其の為に用いて居るのである。然るに我が国の学生は、さう云ふ時間を用いずして Note にとどめるのである。あなた方が

燃えて居るならば、私が材料を上げる度毎に益熱して、益燃えて来る筈であります。

私はあなた方を大学生と云ふ大人扱ひをし過ぎた。あなた方は未だ子供であつた、幼稚であつたと云ふ事ではあるまいか。余り材料を沢山与へて、食滞をさせたではあるまいか。今日の弊を改めやうと思つて努めて居る私迄が、其の弊に陥つたのではあるまいか。之れが私の反省の第一に考へた事ではありますが、如何でせう。然し夫れが間違つて居るならば、立つて答へを戴きたいのであります。

[大正四年には校内の事に尽力する]

第二は、何故斯う云ふ事になったか。さう云ふ Under move に何故もつと速く私が心づかなかつたかと云ふと、私が個人として接する事がなくて、三年間私が怠つたのである。故に之れは、も一少し私が直接あなた方と共に研究して行かねばならぬと思ふ。之れは私が全体の制度を改めるとか、言語を改めるとか云ふ事に責任を感じて外に尽す事が多くて、内の事は寮監、指導者の他の先生方がして下さるから出来ると思つたからである。故に明年は、も一少し内に力を注がねばならぬ。

第三は、指導者及び寮監に余り責任を負はせ過ぎたと云ふ事である。指導者は寮監である上に教授上の事、又は桜楓館の仕事もあるから、余程むづかしい事である。何か一つの事に集注して専門なり職業なりのほかに、広い考へを以て一般の教化に尽して行くと云ふ事は、余程修養をせねばならぬ。夫れを私が寮監、指導者に望んだのは、どこかさう云ふ人物になつて欲しいと思つたからである。之れをするには先づ第一に始終頭が進まねばならぬ。夫れが出来たならばほんと一に偉人であるが、むづかしい事である。あなた方が寮監に望むのは、出来るだけ学問も深くして下さい、人格も出来るだけ進んで下さい、さうして私共を望む様に導いて下さいと要求なさつたであらう。あなた方がさう云ふ指導者をお望みなさるならばお互に尊敬して、寮監をお母さんの様に慕ひ敬愛して行かねばならぬ。然るに日本では、人が少しよい地位に立つとけなして行く。少し欠点があると直ぐ数へ上げて、益々大ならしむると云ふ風がある。成る程、日本には偉い人が少ないかも知れぬけれども、社会が育てないと云ふ事もあつて、日本では人材が育たないのである。皆が助け合つて行くと云ふ態度になれば、さう出来ぬ事はあるまいと思ふ。

も一つは、私共は人格の感化で教育をする。余り命令とか規則とかで縛る事なく、無言の間に直して行き度いと思ふ。けれども多くの中には病人もあり、気の狂ふ人もあるから、警察もあれば監獄もある。故に其の間には権威と云ふものもなければならぬ。さう云ふ所も察しなければならぬのであります。理想はよいし、又皆がさう云ふ要求を持って居るのはよいけれども、直ぐ様さうならねば承知しないと云ふ風であるから困難を生ずるのであります。あなた方はさう云ふ要求があり、私も亦要求する所がある。指導者と寮監とか云ふ頭の進んだ人の経験で以て、あなた方はさう云ふ要求があり、私も亦要求する所がある。指導者からよくわかる様に下の人を導いて下さると信じて、余り重きを置き過ぎると云

ふ事もありますでせう。之れは、私かも一つあなた方の生活を知らなかつたと云ふ事に帰するのではあるまいか。未だ此に大分書いてありますが、時も進みますし、余り細かく解剖しないでもおわかりになる事と思ひますからはぶきまして、も一つ、私はあなた方に反省して貰ひたいのであります。

[今後の方針]

夫れは此の前に、一年の方にも一寸注意を与へたのであります。今年私共がとりました修養法は自我発展であるから、教育の主義から云ふと、個人主義教育法であります。此の個人主義は今度の獨逸との戦争で最も明らかになつたのである。

[個人主義と象徴主義の自然の感化]

此の個人主義が非常に極端に走つたと云ふ事と、此の間申した象徴主義で徹底したる個人主義と云ふものと二つになつて居る。此の思想界の波動が、知らず識らずあなた方の頭にも伝はつて居る。此の極端なるものは Nietzsche などによく現れて居りますが、Nietzsche 一人ではない。我が国の女子教育にも及び、世間で新しい女と云ふ人々の間にも影響して居ると思ふ。獣欲主義とも言ふべき濃厚なる自然主義と云ふものが入つた。夫れはど一云ふ風に入つたかと云ふと、エレンケーの書いたものや何かで入つて来たのである。之れ等の書物を書いた人々の考へが、わるくのみ解せられたかと思ふ。

[我儘のために用ふる今日の主義の意]

エレン ケーなどの考へは決してさうではない。然るに今日の人は自分の劣情を恣にする言ひ訳に、此の尊い主義をふりまはす事が多いかと思ふ。之れは一知半解の誤りである。昔は我が儘と言つたが、今日では利己主義である。主義と云へば立派なるものである。そこで我儘をするために利己主義を振りまはし、夫れを個人主義と言ひ、我が儘が通らぬと圧迫であると言ふ様な事では、統一はつかないのである。

[主義一致の必要]

こゝで主義が一つにならねば、我々が同じ身体となり、同じ命となり、同じ力となつて突進して行く事が出来ないであります。

[主義に就いて深く考ふべき事]

此の個人主義と社会主義と云ふ事、教育の個人主義と云ふものはさう云ふ事ではない。Overman, Superman と云ふ事は、偉大なる人となる大我徹底で、国家社会と一つにならうと云ふ主義である。我が儘は甚だ宜しくないもので、他から抑へつけらるゝはきまつた事である。社会から嫌はるゝものである。又夫れが為に、人は大層迷惑をするものである。其の我が儘をするために、個人主義をふりまはすのではないか。

十二回生は如何なる主義をもつて居るのであるか。個人主義と云へば、必ず一方に社会主義と云ふのがなければならぬ。之れは自分の遺伝、境遇、教育等から考へて行かねばならぬ。之れが充分あなた方に徹底して居るかど一かと云ふ事をお考へにならねばならぬ。

[今までになき傾向]

何故、私が之れを申すかと云ふ事を申しませう。私と面会の時にあなた方の一人の御方は、今年の三年生はいろいろ

学校に対し、全体に対して、随分深い要求があるけれども、斯う云ふ事を発表すると却って馬鹿を見るからよしておかうと云ふ考へであつた。けれども私はさう云ふ事にはかまはず、思ふ事を申しませうと言って、其の後、忙しくて内容は聞きませんでしたが、之れが今日の傾向でありますと云ふ話でござりました。私は此れを聞いて、少しく心配致しました。
[十二回生の主義を明瞭にせよ]

十二回生はど一云ふ主義を以て居るか。斯う云ふ主義は**お上手主義**である。此の旗を靡かせて居るものは、当世風と云ふ風である。涙を流して、飽く迄も主義を貫かうと云ふ精神はないのである。此の信念を本として精神生活をして、犠牲となつて行かうと云ふ主義と、所謂個人主義と今日迄戦つて、何時も勝つて来たのであります。第十二回生に至つて**お上手主義**で行かうとするか。
[此の叫びがきこゆるか]

今日私の申す声は、あなた方の耳に徹底するであらう。ど一しても此の旗は撤回しなければならぬ。其の辺は如何であるか。事実であるならば、改めましたと云ふ自由がなくてはならぬ。本を質すと云ふ事がなくてはなりません。
[十二回生の手落ち]

夫れからも一つ、私はあなた方の少し手落ちではなかつたかと思ふ事があります。夫れは、あなた方は余り先を急ぎ、余り現実にあせりまして、あなた方に歴史あり、あなた方に生活の根底ある事をお忘れになつたのではないか。
[歴史的精神を重んぜよ]

私共は必ず自分の根底は遺伝から来て居る処の、又宇宙の精神から来て居る処の、必ず歴史ある処の生活であります。之れは大きな根本的生活も、亦小さい学校生活も同じ事です。あなた方は、此の十四年間養はれて来た処の歴史ある処の精神を受けついで、何か新しい力を加へて第十三回生に伝へると云ふ、経験ある尊厳なる生活を大事にすると云ふ事を怠つたのではあるまいか。
[Self-devotionを養へ]

此の関係が復興しなければ、我々にはど一しても Self-devotion と云ふ神聖なる態度が発揮する事は六つかしいのである。未だ私は、十二回生の生命は此に在る、十二回生の旗色は此にあると云ふ声は聞かないのであります。さう云ふ抱負が欠けて居つたのではあるまいかと云ふ懸念をするのであります。
[今年を明治の年に直せば]

何故さう言ふかと申しますと、今年は大正三年であります、之れを明治にかぞへると四十七年であります。明年は四十八年であります。今から十年前、即ち明治三十七、八年はど一でありましたか。国家が露西亜と戦つて、上下共に覚醒した時であります。
[第一回卒業式の当時]

其の時の校風は如何なるものでありましたらうか。第一回卒業式の時などは、森村さん方も非常なる感涙にむせばれたのであります。其の時は卒業生も国民的使命と云ふ様な事は非常に深く感銘したのである。之れが森村さん方を動かして

第二発展を遂げると云ふ動機となつたのであります。

[日露戦争の比にあらず]

然るに今年は如何でありますか。今年の日露戦争の比に非らざる世界的動乱に遭遇して、国家的使命も非常なる躍進をして居るのではないか。此の光榮なる砲声はあなた方の耳に響いて居るのではないか。

[旗色を見せよ]

此の時に於てあなた方は、ど一云ふ使命を感じておいでになるかと云ふ旗を立て、ど一云ふ軍隊を組織して、ど一云ふ犠牲の働きをなさねばならぬであらうか。私は最早、あなた方は互に胸襟を開いて Mutual understand と云ふものは出来ましたが、之れを実行に現して、如何なる働きをしなければならぬか。此の態度は出来たのであるけれども、今後の決心をかたむる上に私が懸念する処をあからさまに申すのであります。

[感謝に必要な条件]

そこで感謝の会をするには、決心と希望と熱心とが現はれて来なければならぬ。十二回生の使命は此にあり、第十二回生の特色は此にあると云ふ事を明らかにしなければならぬ。
[生命の価値をあげよ]

第二には、今迄の乾燥なる生活はいけぬ。此に血と涙とを以て、神聖なる生命の価値をあげねばならぬ。

[精神的宮殿を見しや]

第四は度々申しましたが、あなた方に見えましたか、如何ですか。今年は見えない処の精神的宮、人格によつて組み立てられた処の精神的感情、精神的となつた処の一つの宮殿を建設するにあつたのである。我々の精神的関係で出来て居る処の空気と精神的刺激と云ふものがあつて始めて、我々の生命は育つものであります。之れは私共が経験から云つても、勝利から云つても、此の精神的団体の活動が出来ませんと、真に世界的生存に勝利を得る事は出来ません。私共はど一しても一致協同して進むに非ざれば、到底勝利は得られないのであります。

夫れで、責任の根本は私にあるけれども、責任の枝葉についてはあなた方と相談すべき点があると思ひます。故に今日は、私が昨晚反省した事を告白して、皆さんの反省を促し、ど一しても一致団結して、新しい年と共に新しい希望を以て進む事の出来る人になりたいのであります。

[中表紙]

大正三年十二月二十四日

第二学期終業式にて

大正三年十二月二十四日

第二学期終業式にて

今、子供にも言ひましたが、西洋には宗教の儀式があつて、一週に一度は必ず其の集まりがありますが、日本にはそれが

ない。教育にはそれぞれの宗派があるから孰れによると云ふことは出来ないが、其の宗教の真髓とも言ふべき精神を養つて行かないと、人格の根底がない訳になるから、どーしても其の信念を養ふことが必要である。故に、かう云ふ式の時に其の空気を作りたいと思ひます。

[大岡さばき]

昔話に大岡さばきと言って名高い話しがあるが、之れは子供の方もきいたことがあるであらう。其の中で私は一番面白いと思ったことがあります。多分大岡さばきの中であつたと思ふ。(盗人の譚)

之れは一つの譬へである。其の金を盗んだ手に、さう云ふ嫌な臭気が残つて居るのではない。此の鼻で嗅ぐのではない。心が臭気をもつて居るのであります。私共、子供の時によく感じたことは、天知る、地知ると云ふことがあります。人の前では、いろいろ弁解をしたり理屈を言うたりするけれ共、心中には非常に苦しいのであるから、顔色がわるくなったり、勇気がなくなって夜も寝られなくなるのである。故にこゝろに何か臭気があるならば、夫れは校風の弛んだしるしである。たとへ子供でも、今日あたりのやうなよい天気で空気がきれいであるならば、悪いことが少しあると、臭気が少しあるとぶんと感ずるのである。けれ共そこら中、悪くなると感じなくなる。之れが家風の弛んだしるし、国風の弛んだしるしである。之れが皆の心配した点であります。

昨日も言うたやうに、時の外務大臣 加藤さんが今から十年前、日露戦争の酣であつたとき此の校へ来られると、凜とした空気があると言はれたのであります。今日は世界の危機である。今日の校風はどーであるか。生徒がルーズになった。又、Loose なることを要求するやうになったとは怪しからぬことである。

然るに高等女学校の方では、先日來大變引きしまつて來たと云ふのは誠によろこばしいことであります。又、大学部の方では此の頃大いに反省するところがあつて、皆が無声の音楽の合奏に応じて目さむところのあつたのは実によろこべきことである。故に此の際、校風の弛んだところはないか、又、此の千載一遇の時機に於て、我々の覺悟すべきことは如何なることであらうか。此の時に醒めざるものは、將來望みなき者であります。

併し精神界の方から見て、皆打ち解けて胸襟をひらくことが出來たと云ふことである。又外部から見て、あなた方の静肅なる今朝の態度、及びあなた方の服裝は誠に宜しきを得て居るものと考へます。熟々と此の一月から今日までのことを考へて見ると、あなた方皆が一致共同して今日迄おつくしになったことも決して少くはなかつたと云ふことも深く感じて居るところであつて、あなた方の態度が今日の時代の精神に触れて居ないことはないけれ共、之れが先生方の心配なさつたことでありますが、夫れに気づいて來たことは誠に祝すべきことであります。

今日は漸う態度が一致して參りましたから、皆さんと共に今年を送り新年を迎ふる用意、希望について申しておきたい点がある。夫れを申さうと思ひましたが、今時計を見ますと

十二時十五分前になりましたから、今日は之れでおきまして、皆さん自分でよく考へなさるやうに致したい。猶、明日も会がありますから、其の時に都合のつく人は成るべくよることにして、皆さん銘々でよく考へて、徹底した生活をなさることを希望致します。

[中表紙]

大正三年十二月二十五日

桜楓会例会にて

大正三年十二月二十五日

桜楓会例会にて

今日は皆さんが十分心の窓をひらいて、清らかな美しい心の音を發して、ほんとに一に訴へるところがあり、悔い改めるところがあつたために、其の中には十分感謝もあり希望もあつて、こゝに穏かな澄み渡つた気が漂うて居ります。之れは誰れの耳にも心にも十分流通したと思ひます。併し未だ沈黙を守つておいでになる方がありますけれ共、考へを表はした方も黙して居らるゝ方も等しく、此の氣を呼吸して一つの新らしいものを得られたと思ひます。

之れ迄、桜楓会の徽章は桜と紅葉でありました。其の色の美しく輝いた時もありますが、今日はも一つ新しい特色が加はつたと思ひます。夫れは香りである。梅の花にあり、蘭にあり、水仙にあるやうな一つの香りをもつたならば、猶深い印象を人に与へることが出來ると思ふ。此の匂ひは自然に溢れ出るところのものであつて、皆がおちついて居る時に、極穩かに清適に深い感じを我々に与へてくれるものである。此の人格から出て居るところの香りが我々を育てゝくれると云ふことは、今日の空氣によつてわかるのである。

併し皆さんが詞でお述べになつたことは、悉く肺肝から出たものである。又、おきゝになる方は十分同情を以て訴へをおきゝになつたことはよくわかるのであります。時間がないために未だおっしゃらない方もあるけれ共、是非一言しておきたいと思はれることがあるならば、斯う云ふ際であるから、寮監からでも何方でもおっしゃるとよいと思ひます。

今、此の寮監、指導者から、此の学校の中心となる人格と接觸する間を遮つたと云ふお話しがありました。之れは一言弁じておかねばならぬと思ひます。さう云ふお感じがあるならば、私もさう感ずるのである。皆さん学校へお入りになつて、親の感化を受けたいと云ふことは皆の要求であります。併し、我々人間が慕うて居るところの、愛の根本であるところの親は確にあるのである。夫れは自分から離れて居つて、其の間に遮るものがあつて直接行かれない。之れが宗教の真髓である。埃及の古い宗教にも之れがあつて、然も父とある。此の親を慕ふと云ふことと、も一つは Brotherhood で、之れを慕ふと云ふことが何処の国でも、何れの宗教でもの真髓となつて居るのであります。

[Inspiration]

斯う云ふ団体で皆が代表するけれ共、殊に私が枢要な地位に居って、其の意味で私は代表するのである。皆さんは、父に飢えて居るのである。始終其の中に通うて居り、時々Inspirationを受ける。けれ共、そこが人間であるから力が足らないと云ふことは、今寮監の言はれた通りで、私もさう云ふ感じがあるのであります。私はあなた方を娘のやうに思うて日夜心配して居り、又さう云ふ責任を感じて居るのであります。

私も鰥寡孤独の者であり、小さい時から親を失うたものであります。親を失うた子、夫を失うた寡婦、子を失うた親と云ふものは、昔から今日でも哀れなものである。私も其の一人である。又さうでなくても、さう云ふ飢えた者があると云ふことは十分察することが出来るのであります。

も一つ、私はあなた方に対して非常に責任を感じて居るのであります。私が親か兄のやうに信じて居った澤山と云ふ人に一人の娘がありました。其の人は親がなくなる時に、実は私にたのまれたのであります。唯だ一人となりました。さうして私が洋行して帰って、一日大坂でゆっくり逢つていろいろ話を致し慰めて、其の後、其の婦人は学校教師をして居ったのであるが、或る時私に一封の書をよせて、いろいろ自分の寂寞の情を訴へて来ました。殆んど詩のやうなものであった。其の時は丁度、此の女子大学の創立の頃で、私も非常に忙しかつたので何とかしてやらうと思ひながら、どうしても私に暇がなかった。其の後まもなく此の婦人は自殺を致したのであります。私はあなた方の経験をきいて居る中に、あなた方も親のないために、寂寞を感じるために少し神経質になって、殆んど精神的自殺をしやうとしたのである。私はあなた方をさう神経質にならせぬやうに姑息な愛は与へないことにして居ります。故に此の校では非常に練れて、意志の強いところがあるのである。併し私共がほんとの父親の愛に接することが出来れば、決してさうではない。そこが一つ開ければ此に親もあり、兄弟もあり、母もあり、姉もあり、子もあるので、決して孤独ではないのであります。親のない子は心が曲るのであるけれ共、此の経験をすればさう云ふことは皆治るのであります。

今日は其の親の愛に入つて、いろいろの病が治つて新しい生命に触れたと云ふことであらう。今の自殺を遂げた子供に対して、又多くの子供に対して親に代つて十分導くことの出来なかつたのは、私の実に残念に思ふ處であります。併し夫れは怠つたのではない。けれ共、力が足りなかつたのである。あなた方が謙遜な態度であられるのと同じやうに、私も謙遜になつて之れを申すのであります。夫れで今迄心配したことは、先づ夫れで解けたものと見て宜しいであらうと思ふ。そこで銘々の信念と、銘々の築きたてた人格の力とによつて進むならば、何も出来ないことはあるまいと思はれる。

併し、も一つ此に考へておかねばならぬことがある。夫れは、私共の今後進んで行くところの主義であります。又は目的とも言ふことが出来、方針とも言ふことが出来るので、つまり之れは理想の方で、人間が出来て行くのはどうしても

一つの根底があり、徹底したところの大理想とも言ふべき銘々の頭の大理想があり、将来とるべき大方針がなくては、将来発展は出来ないのである。今後あなた方が世界の大思想にふれて、我が国婦人の地位を高めるためにお進みなさるべき道を明かにするために、先頃大問題を出したのであります。

即ち、二つに分れて研究もし、討論もなされた。其の一方は獨逸側になつて、獨逸の理想、目的、国是と云ふものを選び、一方は英米等の主義、理想、目的等をお選びになつたのであります。私共は日本人として立つて居るけれ共、之れからは世界の一員とならねばならぬ。既に英國と同盟を結び、獨逸と交戦国になつたのである。之れから米國との國際関係も益々複雑になるのである。私共は宇宙の大勢に加はり、時代の大精神と共に動いて居るのである。故にど一しても私共は世界的になり、も一つ大きな舞台に立つて行かねばならぬ。[世界的戦争]

殊に今日は世界の大動乱が起つたのであるから、私共は是非共、之れを何とかしなければならぬ。さう云ふわけで、かくの如き大きな問題を出したのである。我々には遠いことのやうであるけれ共、私共はも一世界的戦争の中に入つて居るのである。故にさう云ふところ迄考へて、之れからなさうと思ふところの理想主義と云ふものを確立しなければならぬ。

然らば私共は、獨逸について共に軍をするがよいか、又連合軍について軍をするがよいか、此の戦争の意義は何であるかと云ふことを明かにせねばならぬ。獨逸におつきになつたのも、英國におつきになつたのも間違つては居ないと思ふ。故に此の両方を明かにして、私共はど一云ふ態度をとるべきかを今日定めねばならぬ。

私共は、ど一云ふ態度を以て此の戦争をしなければならぬかと云ふこと、及び獨逸式政策をとるか、又は英國式政策をとるか云ふことが、私共のために残つて居る問題であります。私共は個人的には、戦争をして勝利を得て行くと云ふ奮闘的態度には獨逸式をとる。さうして根本的には、英國式をとることが必要である。故に、あなた方が二つのSideに分れて研究をなさつたことは、其の当を得て居ると思ふ。夫れから一年では、戦争のよしあしと云ふことを研究なさつたのであるが、戦争と云ふことにも二つの意味がある。併し徹底した意味から云へば、実は人生は戦争であつて、戦ふ度に其の力は加はつて行くのであります。

[我が国の婦人について]

我が国の御婦人は、昔からやさしいところはあつたけれ共、確乎とした意志の力で勝利を得て行くと云ふ如きところも、今後の婦人にはなくてはならぬ。自分を鍛えて練つて行く、所謂努力と云ふ要素は、あなた方に必要なことである。

あの獨逸があく迄も戦つて、一人になつても恐れないと云ふことは悪いところもあるけれ共、感心なところがあります。獨逸はど一してかうなつたかと云ふと、一つは境遇と云ふこともある。獨逸は八方塞りであるから、国力を發展するには容易なることでは出来ない。故に科学を研究するとか、富みを作るとか、ど一しても独立の力で以て知力も養うて、又

版図も争うて、戦争の力で以て進まねばならぬと云ふ境遇にあったのである。故に、決闘をするにも真剣です、何事をするにも命がけです、血を流してすると云ふこと、之れは独逸人の性質もあるけれ共、一つは境遇である。故に独逸へ行つて見ると、非常な活気がある。

[三十年戦争について]

それで歴史を見ても、三十年戦争には国民の半分迄死んだと云ふことである程で、命を賭して来たのであります。之れはヨーロッパにある非常に残酷な歴史であります。之れが政治と結びついて、今日の大戦乱を来したのであります。我が国民性にも少し Refine して、紳士的に出来て居つて、あゝ云ふ残忍なところは無い。之れはよいところであると同時に、も少し強いところのどん底まで徹底した、あく迄も突進して行くと云ふところが足りないのである。此の鋼鉄の如き意志、鍛ひ上げられたところが欠けて居る。殊に御婦人には欠けて居りはしないかと思ふけれ共、此の強いところがなければ、其の Struggle には堪へ得られないと思ふ。

[ヨーロッパ人について]

故にヨーロッパ人のねしこいところは是非とて行かねばならぬ。宗教のことにしても、ヨーロッパ人は誠にねしこいのである。夫れだけ深いのである。信仰も強いのである。ところが我が国の宗教と云ふものは、仏教にしても、神道にしても極形式にとどめて、あつさりしたものである。会にしても、あなた方のなさるやうな真剣な態度は他の会では決して見られないのである。此の飽く迄も奮闘する、障碍物に向つて戦つて行くと云ふ力がないならば、此の桜楓会にしても血と涙を流して犠牲となる人がないならば、此の生命は育たないのである。其処まで行かなければならぬと思ふ。

之れを誤ると、自分が一番尊いものであると云ふ風になつて、世界の最大中心とならう、さうして他の者は皆虐げて自分のものにしようとした。之れが世界列強の起りであるけれ共、かう云ふ帝国は皆滅亡を免れなかつたのであります。今一番古い帝国主義、国家中心主義は独逸が終りかも知れぬ。私共はさう云ふ主義はとりたくないものである。又、夫れ程えらいものではない。理屈は何と云つても、確に私共には立派なる理想に向つて向上して行かうと云ふことと、低い方にひっぱり下げやうとする力と、二つある。之れは皆にあるもので、我々は弱いものである。故にど一しても我々は黙想して修養して行かねば、すぐ様ひき下げらるゝのであります。さう云ふものに打ち勝つて、あく迄も向上して行くと云ふ修養が大切である。併し之れは一朝一夕に出来るものではない。故に、ヨーロッパのねしこいところ、謙遜なる態度で自分を鍛うて行く、あく迄も戦つて勝利を得て行くと云ふ点から独逸主義に学ばねばならぬと思ひます。之れは主に、自分を磨き自分を発展して行くには非常なる奮闘をしなければならぬと云ふことを申したのである。

[英国主義について]

けれ共夫れ丈けではない。ど一しても英国主義がなくてはならぬ。商売にしても英國は、外国を征服して貢をとると云ふことではなく、世界の市場で大貿易をすると云ふ共同主義

である。英國は領土をとつても、貢を入れさせやうとするのではなく、皆独立させて大きな連邦を作つて居る。そして兄弟主義で、世界的大生活をしようと思ふ動機から今度の連合軍も起つたのであります。

世界がさう云ふ風になつたのであるから、私共はど一しても孤立主義ではいけない。ど一しても共同生活をして、世界的であらねばならぬ。故に桜楓会のことにしても、さう云ふ大きな主義の下にたゝねば大なる発展は出来ないであらうと思ふ。之れが私共の意志、感情から出来るところの心で組み立てられて居るところの宮殿で、其の空気によつて人を育てゝ行くにあらざれば、大きな発展は出来ないのである。此の点から云へば、英國の門戸開放主義、自由貿易、之れはたとへであるが、ど一しても英国式でなければならぬと思ひます。

此に感謝の会をして、将来一致団結して進むには、ど一しても銘々の理想主義が出来ねばならぬと思ふ。之れがおかりになれば、一つの大きなまとめをつけておく必要があります。皆さん、おわかりになりましたならば、一同起立して心から音楽を致したいと思ひます。

[中表紙]

大正四年一月一日

新年の御話

大正四年一月一日

新年の御話

此の元旦におきまして、私共大きい家族が一同此の処に打ちつどひまして大正四年と云ふ年を迎へますことは、深く喜び、又深い感じを禁ずることが出来ませぬ。殊に昨年来皆さんがふるひとるべき、又洗ひ払ふべき感情又は感想を脱ぎすてゝ、此に新しい着物をきて、新しい態度、新しい希望に満ちて此の年をお迎へになる有様を見まして、お互が皆満足に感じて居るのであります。

昨年来、既往を考へ又将来をお考へになつて、いろいろ将来のことを考へられ、又今朝いろいろ有益なる教訓をお考へになつて、此に十分なあなた方の希望が出来て、又いろいろ進まうと云ふ決心も出来て居ることと思ふのであります。夫れで此の諒闇中の元旦にも拘らず、何かあなた方の参考になるやうな考へを聞きたいと云ふやうな希望で、此の暮以来續いて居ります処の緊張の態度をおとりになつたことは適当なことであらうと考へて居ります。今日は十分感謝の態度が出来て居ります。猶子供も交つて居りますから、何かうちつけて無邪気に一家団欒のやうな会をなさつたらど一かと申しておきましたが、委員の方は、今日は斯う云ふやうな会とし、三日の夜にさう云ふ会をしようと思ふことである。皆さんが物の真相がよく見え、適当な判断をなさるやうになつたことは誠に喜ばしいことであります。

[象徴主義について Be confident]

今日は一つ皆さんに申しておきたいことがあります。昨年来象徴主義と云ふことを申しましたが、お正月に申したいことの一つは、Be confident 自信あれと云ふことであります。私は、今年の目的を立て其の仕事を實現なさるには信仰、自信と云ふものが大切である。其に私共の力が籠って居ると思ひます。

Confidence in God 或は in Heaven 又は others、若しくはさう云ふやうな人におふこともある。私共はど一しても自信力を以て或は信仰を以て必ず成る、又必ず出来る、可能である、必ず自分の運命は開き得る又開けるであらうと云ふ自信力を以てかゝらねば、其の計画は失敗である。故に私はあなた方の今の態度に対して、Be confident と云ふことが最も大切であらうと思ふ。之れを信仰に導きますのに、Symbolic teaching に由つてしたいと思ひます。

[Symbol]

我が国の宗教、又は習慣、風俗と云ふものは大いに Symbol を以て伝えられたものである。例せば、此に松竹梅がある。之れは只花を飾つたばかりでなく、何か活きた物に人を導くところの意味がある。又何か深い感化を与へて呉れるものであります。故に唯だ其の表象だけを科学的に解釈すると誠につまらないものとなり、迷信であるやうに見える。併し之れを今の表象主義に解すると、深い意味になる。

又、昨年は寅の歳であつたが、今年は卯の年である。寅は非常に猛烈なる動物であるが、兎は誠にやさしい、かほいらしいものである。之れは只だ面白く年に名をつけたばかりでなく、天地の万事はやはり循環的に変化して居つて、音律的になって居る。

歴史にしても、今を明治に算ふれば四十七、八年であるから、十年前には大戦争があつた。人間の一生も音律的である。昨年のやうな地震があり火事があり、寅と云ふ Symbol が最もよく表はして居るやうな年もあれば、又今年は変つて来る故に、さう云ふ表徴が予言的にあたることもある。故にさう云ふ表徴を用ひるのも適当なことでもあります。今年、大正四年と云ふ年は如何なる年であらうか。之れは即ち、私共の境遇である。自信と云ふものは、一つは私共の境遇に非常なる関係がある。故に私共が計画を立てますのには、境遇と云ふものが大切である。自分が非常に確に思ふと云ふことは Confidence in environment で、我々は先づ、今年は勝利を博する年であらうか、敗北の年であらうか、昨年よりも益あはれて来る年であらうか、又平和な年であらうかと云ふことを考へて見なければならぬ。

[卯の年について]

私が思ふに、昨年は寅の年であつたが 今年は卯の年である。此の象徴と云ふものが、よく其の変りを表はして居る。して見ると、此の年は誠に平和なる謙遜なる年である。かほいらしい、柔和な、友達としてよい物のやうな年であるならば、も一奮闘しなくてもよい年かと云ふと、さうではない。益奮闘しなければならぬ。今年は世界全体の戦ひとなるであらう。云はば虎と兎との戦争である。虎が敗けて、兎が勝つと

云ふ年である。あなた方は戦争のことを研究なさつて、進化論から 強い者が勝つて弱い者が敗ける、所謂 優勝劣敗と云ふ結論をおつけになったやうである。

虎と兎との歴史を考へて見ると、虎は段々人口が減つて来る。檻の中に入れて鉄の鎖で繋がれて、只見せ物などにせらるゝだけであるけれど、兎と云ふものの人口は益殖えて来る。成る程、自分の足とか牙とか云ふものは兎は誠に弱いものであるけれど、兎は目に見えぬところに力があつて、虎とか狼とか云ふものに勝つべき力をもつて居る。故に兎と虎とが戦へば必ず勝つべき力があるのであります。今年は誠に小さいものの年である。弱いものの年である。其の小さく弱いものに偉大なる力の發揮する年であると思ひます。

[エレン ケイ女史について]

エレン ケイと云ふ人は、二十世紀の朝、一つの書物を出して子供の世紀 (The Century of Child) と名づけました。又、其の後いろいろ書物を出して、二十世紀は婦人の世紀であると云ふことも稱へたのであります。

婦人や子供は腕力から云へば、又戦争の立場から云へば実に無能なものである。故に日本でも封建時代には、此の婦人、子供を輕蔑し圧迫を加へたものである。けれど今年此の弱いものが非常な力を表はし、今迄は弱いものとして人が眼中におかなかつた女や子供、此の弱いものを神がお選びになつて、非常なる榮譽の冠をお与へになつてあると考へます。之れについて私共は十分なる証拠をあげることが出来ると思ふ。それはいろいろ現れて来るところの此の頃の現象によつて感ずるのであります。之れは独り婦人ばかりではない。虎の如きものを男性とし、兎や羊の如きものを女性とするならば、此の弱いものが選ばれて非常なことをする。それを私共が信用するならば偉大なる力を以て進んで行く。其の選に与つて居るものである。そこに非常な力があるのであります。

力と云ふものは、外に表はれて居る、只今迄そばんではじいたものと、目に見えぬ偉大なるものとある。つまりは、そこに勝利が歸するのである。最高なるもの、最上なるもの、此に自信が生ずるのである。

昨年 アメリカ から一寸日本によられた ブライス と云ふ人、此の先生の言つたことに、世界で最も小さい国 イスラエル に最大宗教が起り、小さき 希臘 に芸術を負うて居る。英國が ペーゴン、(空 白) などを出した時の人口は、今日の ベルギー 一位しかなかった。又、アメリカ は ワシントン、リンコン、ゼフ アシイ と云ふやうな大政治の居つた時は、丁抹 と (空 白) とを合せた位の人口しかなかったのである。今世界での偉人は如何なる処に居るか。ノールウェイ に イブセン、デンマルク に ストリンダベルヒ、ベルギー に メーテルリング、ナザレ に イエス、ギリキ に ソクラテス を出したのである。

今度の世界的大動乱に於て、此の大戦争、ミタリズムと共同主義、民衆主義、物質主義と精神主義、利己主義と道徳主義と云ふものは、世界的の大戦争である。此の未曾有の戦争に於て最も榮譽を荷うて、真に人道のために勝利の冠を得べきものは誰れであるか。世界的勝利を得せしむるやうにせられた国王はどなたであるかと云ふと、メーテルリング の

筆でかゝれたものをローマ字雑誌の向井軍治君が訳して掲載せられたものが誠によくかき表はしてありますベルギー王 Albert 陛下。(メーテルリング) 今度の大战のつはものの内、人間の記憶に残るものの中で純粋なものは、一人の幾ら讃めてもほめ足りないものの一つは、確に我が祖国の若い偉い王様である。実に肝腎な時に天の遣はした人、皆の心の望んで居た人と成って立たれた。忽ち美の形に表はれて、其の国民の奥深い決心の権現に成り、忽ち自覚し、又人に認められたベルギー全体の決心に成られた。極気強い人でもたよりなく感ずる程の極悲しい、極心配な瞬間に於て、自ら度胸を据えぬ人の気を引き立てる手際は感心の外はない。此の方が居られなかつたら万事様子がかはって居るは疑ひを入れないし、歴史は其の美はしい高尚な頁の一つを失つたであらう。

若し主が其の瞬間に決すべきことを誤り、決心を鈍らしたならば、ベルギアの運命は如何になったであらうかに就いて言つて居るが、之れは省く。

併し王が如何に苦しまれたか。日々如何に苦しまれつゝあるかは、運よく人間の中で最もさとい、最もえらい怖氣が有つてびくつき易い。其の国民を愛せらるゝ様は子を受する父に似ないで、息子が己れを大事にする母を受するに似て居る。此の英雄に接したためしのない者にはとてもわからない。其の謾りとし喜びとせらるゝ此の大事な王国、其の幸福な家、其の親しみと愛との家庭、之れ等の物の内に残つて居るのは手のつかない都が僅かある許り。此れも、是れ迄天地の多く載せたことのない程の穢れた強盗が刻一刻とおどして居るのである。其の外のものはかく美しく、或は斯く奇麗な、斯く笑つて居る。斯く静かな、斯く愉快に活動して居て、悪気ない平和の冠を楽しんでいる。正直、潔白の家族生活の手本と成り、忠義、厳格な働きや、始終笑つて居る心底から人よしや、言葉こそ少なくとも始終手を延ばし始終胸を開いて迎へるものでなしのやどりばとなる。

総ての外の者は、皆滅びて石の積んであつた跡もなくなり、世界の最もよい景色の一つに数へられて居た瑞々した緑の田舎は、只荒れた野原を残して居る計りである。人間社会の最も尊い、最も趣味ある宝の内に数へられた多くの宝物もなくなり、色々の証拠物も消えうせて、何を以てするも之れを償ふことは出来ない。何よりも其の古い質素な習慣、其の貧しい住家に憧れて居る国民の半ばは、今はヨーロッパの道々を迷ひ回り、幾千の罪なきものは虐殺せられ、生き残つた者も大抵はやつて飢餓にせまつて居る。然るに其の生き残つた者は、たゞ王の霊を霊として居る。咄きもせず、悪口もせず、昨日は人口三万の都が其のちゃんとした家、其のお寺、その之れ迄せつせと稼いで気楽に住みなれて居た由緒ある土地を捨てゝ立ち退けと命ぜられた三万の人々は、女も子どもも老人も暗を冒して不確の隠れ家を隣りの都に求める。ところがそこも同じく危くて、明日は追ひ出される順番が来るかも知れない。而も早速に行くところはあるまい。其れでもかまはず彼れ等は黙つてすなほにして、皆君をほめて其の祝福を祈つて居る。之れ実に衆合体の、無名の無邪気の、

殆んど無意識の勇氣の例で、極昔の宗教物語か歴史にある夫れに等しいが、場合によれば勝つて居るのである。何となれば偉い殉教者以後は、唯だ簡単な理想のために死すると云ふものは早速無いのである。夫れでやはりベルギーと云ふやうな小さい国、猶年はもゆかれぬ国王陛下が斯くの如き決心をせられたのも決して偶然ではない。殊に世界で最も根柢ある計画を立てゝ居るものはベルギーである。故に世界で此の王様に勝利の冠を与へることに不平を言ふものはあるまい。此の王様は実に小さな国の王様である。

[ミリタリズム]

殊に今年、軍勢を整へやうとして居る世界の傾向は、斯くの如きミリタリズムを斃すと云ふことである。其中で最も深刻なる真面目なる運動は、婦人の団体に於て起らんとして居ります。

[婦人の世紀]

故に私は、今年は婦人の世紀である。弱い者、小さい者の間に非常なる力の發揮すべき時と思ふ。此の年に於て卒業すべきあなた方が非常なる決心をなすつたのは、決して偶然ではない。世界の斯くの如き運動にも参加すべき運命を荷うて居るのではないかと思ひます。之れは決して私共がたゞ考へて居るのではなく、世界の大なる運動であつて、此の力は如何なる大砲を以ても打ち破すことは出来ない。ベルギーは小さいけれ共、偉大なる運命を負うて居る。此のベルギー王は隠れたところに最も強い力をもつて居らるゝところのえらい王様であると信ずるのであります。

先づ私共は、今年是如何なる年であるか、又、世界は如何なる方面に進軍しつゝあるか、又、其の勝敗は如何になるべきものであるかと云ふことは予言することが出来る。私共は小さいものである。謙遜なるものである。けれ共、信仰を以てすれば必ず出来ると云ふ自信を以て進むの外はないと思ひます。私は決して困難がないとは言はぬ。物質的の困難は昨年よりもひどからうと思ふ。けれ共、信仰を以て進むならば如何なるものにも勝たれぬことはないと思ひまして、一方には益ひきしまつて今年を迎へ、一方には非常なる確信を以てお互に進みたいものであると云ふことを切望するのであります。

[中表紙]

大正四年一月八日
大学部第三学期始業式

大正四年一月八日
大学部第三学期始業式

今年はいろいろ希望を持って将来に喜ぶべき前兆を見る事も出来、又一方には、悲しむべき事もあり、いろいろ心配をせんければならぬ事もある。悲喜交々来ると云ふ様な状態に於て此の新年を迎へたのであります。

[夢]

昨夜、寝に就く時の私の頭は、いろいろの希望と心配とが相往来すると云ふ状態でありました。その為か、面白い夢を見ました。其の夢は、七つの星が一つの群となって居る。先づ中心に一つの星があって、其の周囲に六つの星があって、其の色も七色である。夫れが或は集り或は離れ、或は輝き或は暗くなり、其の光も時には炎の様になり、時には花の様になり、いろいろ変化をして大空に輪をなして、殆んど飛行機の様になって何処かに行きましたが、間もなく再び顕れて参りました。夫れで私は、皆速く来て見る様にと申しました。丁度我々の頭の上に参りましたから、私はその星に向つて石をなげました処が、その石に添うて落ちて来ました。然るに我々の頭の上には落ちないで、少し先きの方へ落ちました。其の時、あなた方の一人が夫れを取ると、七つの星が一団となって黄色になり、殆んど完全無欠なる金剛石のやうになった。其の時に目が醒めました。

[英語の夢]

私は、これはど一云ふ意味であらうかと考へて居ました。夫れからうつつとして居りましたが、又英語で夢を見ました。近来余り英語の夢は見ませんでした、其の詞は、

Have you understood its meaning?

I have understood it.

Have you not misunderstood?

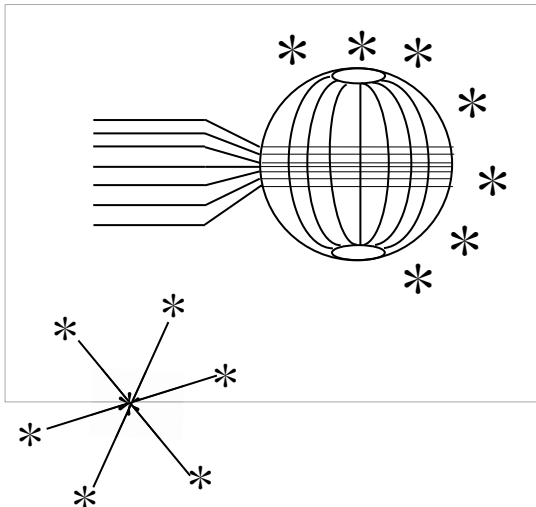
I it have understood.

Have you not misunderstood?

I it understood have.

斯う云ふ問答をしたのである。私は新年になりまして、之れはよい Symbol であると思ふものを見たのであります。

[夢を画に表はしたるもの]



之れは互に相反駁するものではない故に、之れが一つに調和、統一すると一つになる。故に今後、世界が統一するといろいろの異人種、異宗教を奉ずるものが一つになって、万国平和の時が来ると云ふ事である。其の青いのは空色であつて、天の道によって根本的に共同一致が出来ると云ふ Symbol である。此に七つの輪がある。之れがさう云ふ夢に

導いた訳であるとわかりました。

[六つは雪から受けた印象ならん]

も一つは、私は雨戸を明けて休むのでありますから、私の肩に雪がかゝつて無意識の中に夫れを感じたのであります。御承知の通り雪と云ふものは六つのはなびらになって結晶したものであります。近来米國の ベンドレー と云ふ学者は雪の花を研究して、今迄調べたもの二千種の形を写真にとつて居りますが、其の孰れに拘らず皆六つの花びらになって居るのであります。

[今年の旗幟]

さう云ふ形が私の頭の中に入つて Vision を作ったのであります。其の画は活動写真であるけれども、夫れは動いて居るのであります。故に今年の我々の軍を進めて行く旗幟は之れである。之れをしるしとして立てゝ行き度い。夫れで第一に此の Symbol は何を我々に教へて居るものであるかと云ふと、之れは即ち自然の働きである此の雪一ひらに由つて、宇宙の法則が示されて居るのである。此の雪の白いのも、光線の白いのも、之れが七つに分れて又一つになって居るのも、等しく此の宇宙の価値及び深い意義を顕して居るのである。

[今年の目的]

其の原理は何を教へて居るか云ふと、Organization であります。宇宙には個々別々のものがあるけれども、互に相関係し統一して生存して居るものである。つまり私共の学問の目的も、一番肝要なる事は其の Organize する事で、いろいろな学問をちゃんと一つのものに結びつけて建設する事であり。故に今年の主義は個々別々の原理を覚えて置くのみでなく、互の関係をよく明らかにし、互の関係を秩序よく組み立てゝ一つのものを創始して行く事であり。故に一番大切な事は其の組み立てであつて、新しい物を創始する事である。

[一物を創始せよ]

七色が一つの色になる。今のあなた方が一つの球をつかまへたのは、真意を捕捉する其の機会を失しないで、今其の物を見ると云ふ事であり。故に私共の目的は解剖も大切であるけれども、其の各部分を組み合せて一つのものを創始すると云ふ事で、之れがあなた方の是非努めねばならぬ事である。判断を間違へたり、部分的になつたりして悲しむべき事を起すのは、皆頭がわるいからである。此の象徴は、此の意味を表したものであります。

[欧米婦人の気象]

第二には此の旗印は大きく考へるならば、世界の平和である。此の事の為に最も本氣になって活動して居るのは欧米の婦人であり。過日、桑港から来られた婦人の心からの話に、又いろいろ此の頃くる Invitation の意味は、あなた方東洋の婦人を覚醒して、共に世界の平和の為に尽したいと云ふ事であり。此の平和の為に我が国家は何物かを貢献しなければならぬと云ふ事は、疑ひもない事であり。

[最近の福音]

此の平和は何に由つて得らるゝかと云ふと、平和主義によつて此の空気が作らるゝ。之れは誠に大切な事であると思ひ

ます。此のお正月早々私の耳に入りました事で最も喜ばしい福音であると思ふ事を、あなた方に伝へたいと考へます。

夫れは今から六年前に此の学校を卒業して廣嶋縣の山の奥のしんじやう村と云ふ所へ参りました卒業生の話であります。其の時は僅に六人の生徒が居ったので、学校の資本は一文もなく借金があると云ふ位である。県庁あたりでも、何、女子大学の卒業生が夫れでは、逆も此の田舎におちつかないであらう、位に思はれたものが、今日では女子ばかりか男子の教育に迄及んで、吉川藩の城址に中学程度の学校、実科女学校の如きものを建て、産業、商業をも進めたいと云ふ計画を立て、豊留さんと校長と村長と三人連れで私のところへ話しに來られました。

夫れがど一云ふ様にして出来たかと云ふと、今日では村中の人が皆一つ心になって居る。資本などはど一して出来たかと云ふに、共同の田地を作つて其処に苗を植えつけると云ふ様な時には生徒も働くけれども、村中の人が出て来て勞力を寄付するので七千円と云ふ金を作つたのであります。之れを十年間に二万円にしようと云ふ計画であります。

〔豊留氏の行為の光〕

其の豊留さんは土地の人ではない。熊本の人であります。さうして夜も昼も力を尽して僅のものを貰つて居るが、其の中から自分のものをさいて三人の学生を育て居るのであります。故に村長などは男子ではありながら此の婦人を立て、誠に謙遜になって居るのみならず、村中の人が此の婦人を村の慈母としたいと云ふ事であります。

又或る人は、是非とも東京へ子供を出して高い教育を受けさせたいと云ふ事である。其のお父さんもあまり金持ちではない。お母さんが五人の子供を残して死にましたので、人々は後妻を貰つたらよからうと勧めたけれども、何、男でも子供の育てられない事はないと言うて、今に独身で五人の子供を立派に育て、男の子はも一中学校に通つて居るのであります。ど一して其の様な寒村に立派な風が出来たかと云ふと、全く共同の力である。互に譲りあうて謙遜になって、一つの身体となつて互にわかりあうて働きあつて居るからであります。世界がも一さう云ふ風になって居ります。

〔平和を作れ〕

我が国でも一いつ出来ないのは、此の人の和と云ふ事である。互に仲をわりあうて、少し人がよい事をするると直ぐ妨げをして破しにかゝる。斯う云ふ事で、ど一して世界の平和に加はつて行かれやうか。此の人の和と云ふものは万国平和の為に誠に必要な事であると思つて居りました際に、昨年来あなた方は互によく分り合つて、同じ気分、同じ態度になつて働く様になつた事は、誠に喜ぶべき事であると思つて居ります。お互は Peace maker で、お互に助け合ふ人とならねばなりません。今の豊留さんの話に宗教家までが一緒になつて働いて居ると云ふ事である。一番むづかしいのは信仰の違ふ事であるが、夫れも根本に於ては一致する事の出来るものであります。

〔秩序を守れ〕

第三に其の平和を保つには、お互の間に秩序を守らねばな

らぬ。其の秩序と云ふものには、究竟の秩序と云ふものと、其の時、其の時の秩序と云ふものがあるから、ちゃんと區別をしなければならぬ。無論、我々の最も尊ぶべき事は究竟の秩序であるけれども、其の時、其の時の秩序に従はねばならぬ。その秩序を守らぬ者は間違ひを來し、混雜を來すところの者である。

此の学校には此の学校の規約、習慣と云ふものがある。夫れを破る者は非常なる罪である。人殺しをするものは罪人である。賄賂をとる者があるならば罪人である。人を殴る者があるならば罪人である。何とならば一人の為に多くの人が迷惑をするのである。何処の家でも家風があり、何処の学校でも秩序がある。ちゃんと法律がある。故に我々はちゃんと秩序を守らねばならぬ。自分の義務を尽さねばならぬ。どんな事があつても、之れは守らねばならぬ。

例へば、先刻申した英語にしても、

Have you understood its meaning? と問はれたなら、英國では、I have understood it. と答へねばならぬ。獨逸では同じ意味でも、I it have understood. と言ひ、佛蘭西では、I have it understood. と言ふ。

さうして日本では、I it unnderstood have. と言ふ。

之れは其の国々の詞の秩序であるから、其の国に行つてはど一してもさう云ふ順序の詞を用ひねばなりませぬ。其の国の秩序を破るならば、其の国で話をする事は出来ないのであります。

併しながら、此の雪の色は純白である。私共は純白、純愛、純和でなければならぬ。之れが我々の根本である。此の天の道に適うて居なければなりません。此の色、此の愛、此の和と云ふものは個々の者につかむ事が出来るけれども、我々は其の全体に生きて居なければなりません。我々には主義がなくてはならぬ。其の主義には確信がなくてはならぬ。婦人といへども確信がなくてはならぬ。確信なき者は自分だけを保つて行く事も出来ないのである。故に此の確信はど一しても持たなければならぬのである。丁度此の私の夢はよい Vision に適ふものと考へますから、之れを申して皆さんと共に今年の方針を定めたいのであります。

〔中表紙〕

大正四年一月十一日
第三学期 計画発表会にて

大正四年一月十一日
第三学期 計画発表会にて

〔図書館について〕

今年の三年の終りの期に臨んで、共同して成し遂げやうと云ふ目標をお立てになり、各部から御報告になりましたことに就いては、私から何も申す必要はありません。唯だ私も一少し便宜にしたいと思ふことは、図書館、研究室であり

ます。僅に一つ出来た丈けでありますが、其の外に各部のために設けたいと考へて居ります。其の予算は37000 円ばかりでありますが、其の金は何時つかはれるかと云ふと、今此の学校の基本金が十五万円位でありますが、夫れにも少し足して三十万円ばかりになる。其の半分を森村さん、澁澤さんが引き受けて、其のあとを募らうと云ふことになって居ります。此の図書館、研究室があなた方に是非必要であるならば、ど一にか都合のつかぬことはないと思ひますけれ共、焦眉の急と云ふ程のものではないと考へます。ど一したならば夫れを有益に使ふ人になれるであらうか。ど一したならばあなた方の人格が立派に築き上げられるであらうかと云ふことが大問題であります。

私共は三十年来、砂漠に水を求むるが如く互にはげまし合つて進んで居るけれ共、其の目的地に達することは未だ中々である。あなた方は昨年来いろいろおつとめなさつて、ある程度迄覚醒し、お互に心情が疎通して、互に力を合せてはたらき合ふと云ふ態度におなりなされたのであるが、之れから何をするか、如何にするかと云ふことが問題であります。今此に図書館、研究室が出来てもだめであると思ひます。夫れよりも焦眉の急があるのであります。私はいろいろ考へて計画も立てました。此の計画、此の方針と云ふものは過つて居ないと思ふ。併し如何に計画を立てゝも、ど一も機関がはたらかない、も一一つ進まんとして進まれないことがある。之れは何が原因であるかと云ふことをお考へにならねばならぬ。あなた方が如何に相談をおたてになつても、其の力が出てこなければ進まれないのであります。之れは今はいじまったことではないけれ共、殊に此の頃、私は痛切に感ずるのであります。

[婦人の欠点たるべきことについて]

あなた方御婦人の生活に欠けて居ることがあると思ふ。私は自分が男子であり、あなた方は御婦人である。そこにちがったところがあります。併しそこには共通なものがあり、国民性として必ず、なほさなければならぬ欠点もあります。

あなた方に美しいところがあります。非常に優美なところがあります。けれ共夫れをも一つのぼして行く、も一つ開いて行くには、そこに止まって居てはその長所を表はすことが出来ないではないかと思ふ。之れを先づ、知、情、意と分けて申すならば、あなた方には情もある、直感もある。けれ共も一つ足りないものは知と意ではあるまいか。よく考へて、ちゃんと物がわかったなら決定すると云ふ意の力が欠けて居りはすまいか。男らしいと云ふことが男の長所であり、優しいと云ふことが女の長所であるから、意志の力は先づあとまはしにしてもよいと云ふ考へがあるではあるまいか。

而しあなた方には向上心がある。向上するには意志の力がなくてはならぬ。計画にしても何にしても、我々の立てたものは直ぐさま倒れるのである。故に永久につづいて行くところのもの、あくまでも奮闘して最後の勝利を得るには、ど一しても意志の力がなければならぬ。此の意志の力がないために、我が娘として信用することが出来ぬ。此の意志のないために自信力がないのである。

之れが出来ない原因にいろいろあります。先づあなた方には義務心がない。天の命とならば、喜んで生命を捧げる。そこに生命があるのである。此の義務心がない、自分は女である故に、やりそこなつても誰れかがつづなってくれるであらう。親がある、夫がある、子供がある故に、誰れかが養つて呉れると云ふ依頼心がある。故に経済のことにしても何にしても、依頼心があるために本気になつて物をしないと云ふことがある。けれ共私は思ふに、男でも女でも此の意志の鍛練をしなかつたら、人らしい人にはなれないのである。あなた方、見てごらん下さい。昔から金持の息子で何の苦労もしたことのない人に、ほんと一の人格ある人があるかど一か。お殿様と云ふものがそれである。西洋でも東洋でも同じことであります。東洋でも此の意志を鍛はずに、ほんとの人間が出来るものではない。此の信用の出来ぬ人は、必ずいつか亡びてしまふのであります。これは私の杞憂であるかど一か。考へて頂きたい。

[男子の義務について]

も一つは、男子は国民として必ず税を納めると云ふ義務がある。男子は必ず一度、兵役につかねばならぬ。軍国の場合には喜んで生命を国家のために捧げねばならぬ。今独逸では、十五才以上の男子、五十才以下の教授も悉く義勇兵となつて出なければならぬから、中学校以上の学校は皆からとなつて居るのであります。又、飛行機のために、研究のために命を捨てた人は、日本にも西洋にも沢山ある。之れは男子のことでもありますけれ共、御婦人の中には命がけで研究した人がどこにあるか。主義のために、教育のために、宗教のために命を捧げた人が幾人ありますか。

婦人も同じく国民であります。然るにその出来ないのは、此の間から私はあなた方の使命は何であるかと云ふことを申して居る。婦人と雖も必要な場合には犠牲とならねばならぬ。命をかけて研究をする、事業をする。此に於て意志が鍛練せらるゝのである。男子が出征した後をひき受けて居る西洋の婦人は、命がけになつてはたらいて居る。此処が西洋婦人の立派なところであります。然るに我が国の婦人はど一であるか。国民の母は未だ生まれぬのである。私はど一しても我が国婦人は決心が足りないと思ふ。之れが出来れば何事も出来ないことがないと信じます。故に私は今日の急務はど一しても機械ではない、道具ではない、人格である、意志であると云ふことを最も強く感ずるのであります。

あなた方はど一か此のことを年頭に於て深くお考へになつてお進みになることを希望致します。

[中表紙]

大正四年一月十三日
大学部第二、三学年にて

大正四年一月十三日
大学部第二、三年にて

[調和者或は建設者の態度を認む]

あなた方が大切な第三学期の方針と活動の計画をお立てになりまして、私は其の要点と思うて取りましたのは、先づあなた方の態度は調和者或は建設者である。其の態度だけは皆揃うて出来た様に見て居りました。其の目的は個人の生活及び校風を純白、純和、純愛の域に迄達せしめやうと云ふ方針を立て、日常生活に行うて、夫れを二月或は三月頃、其の高調に達するや、之れを学芸会若しくは文芸に現したいと云ふ事の様でありました。

[意味ある二、三年の会合]

二年は昨日横の会をなさしまして、之れも一昨日深くお感じになって三年の活動を助け、同時に三学期の目標を立て、十分後継者の任を確実にしたいと云ふ事で満足なる結果を得られたと云ふ事です。私は三年及び二年の会合が意味あるものとし、価値あるものと認めて、心から之れをお助けする様に致し、十分あなたの意を徹底させる様にしたいと思ふのであります。

夫れで今日は其の計画に対しまして、進行の順序と方法とにつきまして少しあなた方の考へを進める様にして、明日から愈々実行に取りかゝる様に致したいと思ひます。

之れで大体、態度と決心が出来て居ると云ふ事です。所謂あなた方の根本に、無意識的に深い傾向が出来て居ると思ひます。けれども夫れをも一つ深くし、も一つ発展させるには、茲にも一層深くして明かに目標を立ておきたいと考へます。大体の傾向は調和者或は建設者、何と言っても宜しいが、全体の生命を育て何かを貢献しやうと云ふ事がありますが、其の上に明かにしておきたいと思ひます。

そこで、調和者となるには先づ第一、自分が其の人になる事である。詞をかへて言へば、自我発展をする事の出来る自由を得なければならぬ。即ち実力或は権力と意志とを得なければならぬ。自分の意志を貫くにはどうしても権力、其の力を得ねばならぬ。故に先づ自由と力のある処の調和者たらんければならぬ。

[Peacemaker]

第二の方面は、私共はPeacemaker、人と人との調和を助ける処の動きをしなければならぬ。所謂、兄弟を助くる処の保護者でなければならぬ。其のために必要な時は己を犠牲に供せねばならぬ。其の動機を以て人の幸福を計り、全体の安寧、秩序を進めて行く事が大切である。

[Feemasonry]

夫れで先づ第一に、私共は自由を得んければならぬ。自由の国民にならねばならぬ。昔から数千年続いて意味を表したのは自由の御手、Freemasonry でなくてはならぬ。

[境遇の自由]

第二は、選択の自由である。人間が階級とか、人格とか、宗教とかの制限をなくして、平等に人間としての自由を得たと云ふ事は近來の事である。昔は権力あるものの奴隷に使役されて自由がなかったのである。

併し猶今日も、境遇の束縛を受けて居る人間が少くないと思ひます。夫れは今牢獄に繋がれて居る人、癲狂院と云ふ様な病院に入れられて居る人は無論看護を受けて居るけれども、少しも自分の意志と云ふものはないのであります。も一つは自ら生活する事の出来ない貧しいもの、親類に厄介になって居る者、公の世話をを受けて居る者は少しも自由がないのである。

其の第一の束縛を受けて居る者、つまり暴酒暴飲をして其の結果、社会の秩序を乱して居る様な人、暴食して何時も過失して居る様な人、之れ等の者は皆自由を失うて居る人と言はねばならぬ。斯う云ふ人は皆境遇の自由を失うて居る人である。

も一つの種類は所謂、価値選択の自由を失うて居る者である。自制力の欠けて居る人である。斯う云ふ人は何時も牢獄にある人、病院にある人、癲狂院にある人と同じく、何時も寂寞を感じ、何時も要求を充たす事の出来ない人である。飢え渴く如く食を求めて居て、得る事の出来ない人で、さう云ふ者を餓鬼と言ふのである。何時も砂漠の中を旅行して居る様な者であります。私共が自らさう云ふ生活をして居たなら、どうして人の為に団体の為に尽す事が出来やうか。人の為に犠牲にでもならうと云ふ興味が起らうか。焦眉の急務は自分を救ふ事です。故に先づ自分の内心から修めて行かねば、人の為にする事は不可能である。故に先づ、自分を救ふ。自身の生活の自由と云ふ事が問題であるならば、あなた方のお立てになった仕事を始める事が不可能である。

[感謝の日を送れ]

故に第一着に、自分はどいであるかと云ふ事を考へて見なければなりません。毎日感謝して自由なる日を送る事が出来る事、之れが真先に出来ねばならぬ。之れを始終境遇に求めて居るけれども、之れは内に求めねばならぬ。内の自由を要求しなければ、到底満足は得られないのであります。夫れで之れを仮りに、若しあなたが要求して居る通りに外のものが備はるものである、与へらるゝものであるとしても、やはり根本に満足の出来ないものがあるに相違ない。どいしても安心の出来ない事があるに相違ない。之れは今迄に度々問題になった事であるけれども、あなた方が真に満足する事の出来る様になるには、あなたの生活が徹底しても一つ根本に入らんければならぬ。

[門口まで]

夫れで若し之れが問題であるならば、又さう云ふ根本の生活に根拠を求めねばならぬと云ふ事が疑問である様な程度であるならば、先づそこまではどいしても、も一つ研究して御覧にならねばならぬ。併し其処に生命を求めねばならぬと云ふ門口迄は来て居らるゝ。或る人は既に其の門に入った方

もあらう。けれども其の門口も未だわからぬ人があるならば、之れは特別として扱はねばならぬ。けれども其処迄は皆さんが達して居らるゝ者として、今日は論じたいのであります。
[門口に入る前に]

夫れで皆さんが生活の自由を得ると云ふ事は、先づ第一に、私共が自分の生活を調和し、又は統一すると云ふ事が出来なければならないのであります。其の自分の生活を調和、統一するに困難な点がいろいろありますが、全局に互つての議論はおきまして、皆さんが此の門口に入らねばならぬと云ふ際に於て一番大切な其の二者の調和と云ふ事だけは、此処でどーしても考へねば歩を進むる事は出来ないであらうと思ひます。

[内に潜める二つの人格]

之れを私は仮りに象徴的に申すならば、自分と云ふものの中には二つの人格、二つの Mind がある。其の二つの人格が互に矛盾、反駁するのである。或は其の二人格が分離すると云ふ事が有り勝ちである。故に此の両者の間に調和、統一が出来ねば満足なる生活は出来ないものであります。

其の一つの Mind を卑い人格と言ひ、も一つ Mind を高い人格と言ふのである。其の高い人格と卑い人格とを進まうとして、高きに向ふ人格と下に向はうとする卑しい人格と言ひます。

[自由生活の源]

此の卑い人格は感覚の満足を得やうとするもので、高い人格は内在的大精神に感応するところのもので、其の境遇にしか生活する事の出来ないものである。故に此の高い人格が卑い人格を使うて統御する生活をさして、自由の生活と言ふのであります。併し之れは必ずしも相反駁、分離するものではなく、根本的には必ず調和、統一する事の出来るもので、一方を欠けば一方の生活が必ず苦しんで来るので、どーしても両者がなくてはならぬものであります。

夫れで、私共が卑い人格の要求は感覚世界に於て満足する事が出来るのであるけれども、高い人格は感覚世界にのみに由つては満足する事が出来ない。感覚世界のみに由つてはどーしても高い人格は得られない。権力、意志を得る事は出来ないものである。故に私共はどーしても其の高い人格を要望する。その高い人格の意志を遂げる、其の理想を実現しなければならぬ。そこで調和統一とは、此の二つのものを調和統一する事であります。

[憧憬]

此に於て我々の根本に求めて居るものは、高い人格の呼吸して居る其の世界との交通、調和をしなければならぬ。此の高い人格の要求を憧憬と言ふ。其の要求に応じてくれるものを Inspiration と言ふ。

[人生の真価]

此の天籟の感化を味はふと云ふ事が人生の本当の価値であり、本当の意志の自由であり、本当の自我の発展であり、永久の価値であります。

[霊の通路の研究]

故に高い人格と内在的霊感との交通の道を研究しなければ

ならぬ。如何にして神霊交通の窓を明ける事が出来るか。如何にすれば天籟の光を我が心の部屋に入れる事が出来るかと云ふ事である。之れは我々の要求を悉く満たし、我々の煩悶を皆癒やしてくれるものである。其の道はどーしたならば見出だす事が出来るかと云ふ事であります。

[近來の象徴主義]

其の道がどーしたら分るかと云ふ事が近來の象徴主義である。之れはも一つ Symbolic に考へて、私共の卑い Mind が宇宙の現象界とどー云ふ風にして接触を保つ事が出来るかと云ふと、先づ空氣 Ether の振動に由つて伝はる。又、色々な固形物は私共の感覚によつて心の中に伝はつて行く。つまり何かの媒介物に由つて伝はる。之れを感覚界と言ふのであります。

[人格の素は深い要望]

私共の高い人格と云ふものはどーして得らるゝかと云ふと、深く考へる、深く要望すると云ふ事があるならば何かの仲介によつて接触する事が出来る。之れを直感と言ふのである。つまり精神界の波動があつて、夫れに由つて交通する事が出来るであらうと思ふ。

[Bergson]

夫れならば、どー云ふ生活によつて夫れが味ははれるかと申しますと、Bergson は之れを Intuition 直覚と言ふ。之れは理知ではなく直覚によつて感ずるのである。

[直覚は如何なる心的作用なるか]

此の直覚は、どー云ふ心的作用に由つて感ずるのであるか。其の Vibration は、どー云ふ作用に由つて起るのであるか。宇宙の大精神と、或は世界の偉人と、或は心とが、どー云ふ作用に由つて相交はる様になるかと云ふと、之れは色々な人の経験によつて見ると詞では言はれないが、象徴的に言ふならば、やはり之れを調和、或は美、又は愛とも言ひますが、音律的の調和、或は音律的生活に由つて、つまり憧憬と感応との音律的作用に由るものであります。

そこで立派なる詩に由つて、或は非常なる音楽に由つて私共の心の窓から開けて、夫れを感応する事が出来るのである。又、自然界に表はれた色々なものによつて、私共が深く感ずるのであります。其の自然界の現象もやはり律動であります。此の自然の Vibration に由つて私共が天啓を感ずるのであります。

今一つの作用は、想像に由つて物質界から物質の制限を超越して其の暗示を感ずるのであります。之れは自分の之れ迄の宗教の経験と、詩人や音楽家や宗教家や其の他の大きい人格の経験を虚心、平氣に考へたならば、其の意味が了解せらるゝのであります。之れは卑い人格と高い人格、又は自分の人格と宇内的大精神との調和と云ふ事が私共の非常なる要求であつて、容易に得られない。其の門には如何にして入るかと云ふ問答に対する道筋であります。

処が此に又問題が起つて来るのである。夫れは、さう云ふ道筋を辿つて行くならば、直ぐ様其の世界に入らるゝものであるかと云ふ事であります。此の Inspiration を受けるには理知の働きは全く排斥すべきものであるか、又は矢張り理知

の助けを要するものであるか。若し我々に天才があるならば、其の天才が Inspiration を受けて立ちどころに大詩人となり大音楽者とならるゝならば、毎日刻苦勉強するのは無益ではあるまいか。科学は信仰を失ふものではあるまいかと云ふ事は、昔から繰りかへされた考へであります。

私共が此の高い人格の要求を満たす事と卑い人格の要求を満たすと云ふ事は、如何にして其の間の調和を求むべきものか。如何にして其の間の平均をとるべきかと云ふ事を考へて見ねばならぬ。

[Ecstasy]

夫れから私共の生活に此の高調に達したと云ふ Ecstasy と云ふ生活がある。即ち芸術によって我が傾きを徹底し、我が要求を満足せしめ、自発的、渾身的なる生活と、又**ぢみなる**生活と云ふものがある。

[啓示]

例へばベトーベンが天籟の啓示を受けて、非常なる天才を発揮したと云ふ事がある。夫れには毎日毎日練習をした。骨を折る事は**ぢみな**事である。さうして非常なる努力、奮闘をして殆んど堪へ得ないか知らんと思ふ生活がある。此の緊張して、努力して、言ふべからざる苦しみをして戦うて居る。斯う云ふ生活を旧約聖書に書いてあるのに、ヤコブが天の使と角力をとって居る。さうしてヤコブが天の使に対して言ふには、若しあなたが私に恵みを与へないならば決して帰さな
いと言って居る。こゝである。一生懸命になって努力するならば、其処に始めて Inspiration が下るのである。故に努力もせず、働きもせず、研究もせず、又自分の生活を象徴的に発表する事なしには得られないのであります。

[諸思想の統一]

も一つ大事な事は、あなた方は書物から、講義から、演説から、又文学から種々様々な思想が入って居る。又問題も色々さまざまで、雑然として其の頭の中に入って居るのである。けれども之れを悉く統一して、一つの確信とし、一つの主義として自分のものとする事が出来にくいと云ふ事でありませ

る。例へば自由と法律、又は欲望と義務、又は自己発展と犠牲と云ふ事、斯う云ふ事についての思想が始終矛盾して、衝突して居る。之れは、斯う云ふ考へを纏めて統一する事が出来ないと云ふ事を表して居る。之れが色々な知識が衝突し、博識が却って自分を浅薄にして居ると云ふ事である。

夫れであなた方、調和者となり、建設者となるには、先づ自分の人格を統一して、真の自由を得なければならないと云ふ事を申したのであります。故に、此の調和者となって団体の為に尽し、助け手となって人の手伝ひをする、又医者となつて弱い人を治すと云ふ様な、即ち人の為に尽すと云ふ事を私共は始めなければなりません、先づ第一に、Freemasonry にならねばならぬ。之れは人から頼まれたのではなく、自分から選択の意志を以て人道の為に尽す、自ら喜んで捧げて尽したいと云ふ気分で働く。之れが Freemasonry の主義であります。故に境遇も大切でありますけれども、唯だ境遇にばかり要求して居つてもど一しても得られない。是非とも自分の内から働かねばならないのであります。之れは今申した

様に、第一に Inspiration に由らねばならぬ。けれども、夫れだけではいけない。ど一しても研究しなければならぬ。さうして毎日毎日訓練しなければならぬ。骨折つて奮闘して行かねばならぬのであります。

丁度三年生と二年生とが今学期の方針をお立てになつたのであるから、先づ此の方針に従うて其の生活が出来る様に、さうして其の目的が達せらるゝ様に研究し、生活し、象徴的に発表する処の道を講じたいと思つて先日来考へまして、凡その案も立ちましたから、之れをあなた方に発表したいと思つて、並べて申して見たのであります。

さうして、昨年来あなた方がお考へになつた学風、校風の改善と云ふ事も矢張り之れに由つて出来るので、決して別の事ではありません。あなた方は時間が足らぬと云ふ事をよく仰やるが、時を得るには制度をも改めねばならぬ。夫れから未だど一もあなた方の健康が足らぬ。故に身体も強くせねばならぬ。さうしてあなた方がよく仰る事には、ど一も効力が顯れないと云ふ事である。之れは頭の働きが鈍いと云ふ事でもあります。夫れで私はあなた方に最も適切な方法を見出だして実行したいと考へて居りますが、夫れには大分時がかかるのである。故に今日は、急務と思ふ事から着々始めて行きたいと思ひます。之れは言ふ迄もなく人格教育であつて、此の人格が先づ出来ねば何事も出来ないのである。故に先づ人格を作らねばなりません。

さうして今日の我が国の大学には、此の根本である処の人格教育が出来て居ないのである。夫れで私は追々と此の事を教育界に訴へて見たいと思ふ。さうして此の根本を我が大学に置きたいと思ふ。故に此の実践倫理と云ふものと Seminar の様にして、本当の大学にして見たいと云ふ考へで居るのであります。

[中表紙]

大正四年二月一日

大学部第一学年及び予科にて

大正四年二月一日

大学部一年及び予科

[問題]

1. 象徴主義の意義
2. 象徴主義の価値
3. 象徴主義の生活
象徴主義の教育

教育に云ふ象徴主義を吾人は生活にするや否や。我々が生活に必要なものを絶えず探して居る、殊に学生が探して居るもの、夫れを Blue Bird と名づけて居る。即ち夫れは（ 一 行 空 白 ）
之れを探すに光がなければならぬ。又、目が必要である。

其の光には二種ある。夫れをメーテルリンクの言で言へば、青い鳥と歌ふ草である。

光に就いての他の解釈は、一方より之れを言へばダイヤモンドと云ふ様に例へてもよろしい。如何なる秘密も凡て現し得る光である。又一方の光はLampの光と云ふ、普通言ふ所の光である。

而して二種類ではあるが之れが合して一つとなつて、共に助け合つて初めて人間の用をなすものである。此の光を知識と云ひ、真理と云ふのである。即ち、大事なものを探す為に知識を求め、要求して居るのである。

此の光を取り扱ふに就きて考へねばならぬ事は、真理の価値を見るに就いて感覚の価値を学び、其の関係を知らねばならぬ。即ち之れを明らかに知るには、メーテルリンクの言ふ処のBlue Bird、即ち象徴である。

[教育にて云ふ象徴主義]

教育にて云ふ象徴主義とは何ぞや。之れは現はれたものと現れないものとが並び立つて居る。之れにはかくれたものと現れたものと、見ゆるものと見えざるものと、さる事の出来るものと出来ないものと、聞ゆるものと聞えざるものととの別がある。其の見えないもの、聞えないものの中に価値がある。見ゆるもの、聞ゆるものは只其の価値を現はす方法である。

教育象徴主義は其の見えない処に根本となるべきもの、即ち人間のEssenceの根本のある事を確めて置かねばならぬ。其の根本の生命が現れるに就いて必要な象徴がある。即ち象徴に表はるゝと云ふ両方面があると云ふ事を確める事が大切である。

[本能]

其の目に見えぬ實在生命と云ふものが、即ち吾人の根本より要求するものにして人間には不思議なる力があると言はるゝは、之れの事である。之れは即ち人格の種子であり、又人類的遺伝である。日本人ならば国民性と云ふ国民的遺伝あり、人類的遺伝あり、大きく言はば宇宙の大生命の流れが吾人にあると言ふ事が出来る。之れを本能と言ふ。

本能の最初に現はるゝものは欲望である。進んで憧憬、即ち向上心となる。不思議なる深い力は即ち之れであり、神秘的力である。理知で解し得られないものである。象徴にも此の力があるのでEmbodiment（やどる）と云ふ事で、吾人の肉体は神が肉体となつて居るものなりと云ふ事をNature即ち自然界と云うて、教育にも肉体と精神とある。即ち思想が肉体に宿りしものを云うて居る。之れは心がEmbodimentしたものである。教育の象徴主義は此の不可思議な力が現はれ、又内より発する力によるものと云ふのである。

[象徴主義の効果]

象徴主義は、毎日自分の内から変化がなければならぬ。新らしく變つて行かねばならぬ。肉体は精神の象徴であらねばならぬ。愛とか美とか云ふものを現はす象徴でなければならぬ。理想、思想の体现でなければならぬ。之れが即ち生きた教育である。

此処に問題になるのは、吾人は自我発展と云ふ事が出来た

か否かと云ふ事である。如何様に変りたるか、何によつて試験するかと云ふに、吾人の象徴によりて見るなり。象徴によりて其の人格が分る。吾人が自我が発達した時は必ず象徴があるなり。之れは吾人の生産物Productionによつて分かるのである。其の働きの何かに現はれて居ると云ふ事。どんな結果をこしらへたか、夫れによつて知る事が出来る。

[Emerson]

Emersonは植物が鉱物を動物の食物とする様に、自然にあるものを人間が考へて、而して様々なる人間の要素を発明したのである。それでEgyptの象徴は何であるかと云ふと、今から六、七千年前、すでに此頃ある硝子でも作ったのであります。金銀をちりばめたものあり、建築までもおぼえて居た。之れは象徴主義が現はしたのが体现して來たので、之れは平たく言へば発明発見、又は創始と云ふ事になるのである。つまり私共がど一云ふ様に新しい工夫が出来るか、又発見するか。之が一種のInsightとなり、鏡となり、光となつて、予言的の考へ方でも出来るのはど一云ふ理かと申しますと、一言で申しますならば、中にある力が象徴的に働いて発明となつて現はれて来る。

[Egyptの象徴]

Egyptの文明、或は歴史的人類の発達と云ふものは、何によつて云ふか。之れは今日残つて居る象徴、文芸、宗教等、此の時代に作られた人物の頭で出來た産物、之れを以てEgyptの文明と云ふ。之れによつてEgypt人の頭の發展と云ふ事が知れるのである。

[象徴は進歩の産物]

私共も欲望と云ひ、向上心と云ふものは自分の發展である。之れをBergsonはCreateすると云ふ。自分をこしらへて行くのが人間の目的である。之れは発明であり考へをこしらへて行くので、之れは空に出来るものでなく、何か象徴しなければ満足が出来ない。

[Freemasonry]

何かをこさへるか、大建築をするか、又は飛行機の如きものを作るとか、美術をするとか、機械を作るとか様々の事をするのは創始力が働くので、自我發展の要求を充たさうとするのである。働くこと云ふ事は發展するのである。之れがFreemasonryである。

[人間の創始せるものが象徴なり]

大きな建築をしたり、立派な着物を作り、立派な文学をし立派な画をかくなど、之までないものをこさへるのは発明である。発明でなければ創始でない。只人の知識では、何にもならない。総ては象徴でなければならぬ。其の知識は新しいものをつくる暗示とならねばならぬ。吾人のこしらへたものがなければ象徴がないのである。文明は発明がなければ出来ないものである。吾人のこしらへたものがあれば發展したと云ふ事が分る。必ず自我發展の有無は自分のこしらへた発明がなくてはならぬ。此れが人間の労働によつて出來て來るものである。それで象徴主義の教育は何か發展でなければならぬ。自らが發展するは、自分の発明発見がなければならぬ。自分の創始力がなくてはならぬ。

[カードから 度量あれ]

本日の項目は、度量あれと云ふ事なり。

度量とは自分の心に自信する処ありて、物事に対して大胆なることなり。我国の婦人は従来習慣のために度量が狭い。是れ、即ち独立の人格にあらず。自己発展をしようとするならば、自分が如何なる有様になっても勇気を出してせなければ決して成就するものにあらず。

[Sentiment を作れ]

毎日頭でなり、手でなり新しいものをこさへて行くと云ふ事をしないと、どーしても発展と云ふ事が出来ない。何か自分でこさへて行くには、頭が出来なければならない。それで現はして見て、練って見て、其の後で度胸があったかどーかと云ふ事を查らべて見て、あったと思へばそれでよい。之れが Sentiment である。

夫れから又、新しい Sentiment を作る事が出来る。英語を覚えるにも、なるべく新しい Sentiment を書いて覚えるといふ。之れは自分でその方法を作るのである。新しい Invention を作らねばならぬ。総ては自分で工夫してしなければならない。生涯、先生について居ては駄目である。新しい工夫が自分で出来ない人を、進んだ人とは言へない。進むには努力が入る。勇気が入る。

[例]

私は英國の紳士に、あなたは死を恐れませんかと尋ねた。その人は、決して恐れないと答へた。然し或る時、病氣になった時に如何なる行ひをしたかと云ふに、其の人の行ひは其の死をおそれないと言うた事は偽であつた。我々も死を恐れなしかと問はれた時に、恐れないと答へる。然し肺腺カタルらしいなど言はれると神経が弱って来る。之れは死を恐れないと言ふ事が出来様話であらうか。之れは毎日修養しなければ出来ない事である。

私共は色々な競争場裏に立つて、迫害されたり阻害されたりなどする時、心配をする。之れは度胸のすわってない事である。自分が度胸を落ちつけて居ないと、死に会ふ事はむづかしいであらう。

以上は一例であるが、何か朝あなた方に感化を及ぼす様なものをあなた方に与へて、教育の象徴主義はどんなものであるかと云ふ事を暗示したいのであるが、尚あなた方でカードによって、も少し象徴主義をお試みなさる様になさる事を希望するのであります。

[中表紙]

大正四年二月八日

大学部一年及予科

大正四年二月八日

大学部第一年生及び予科生の為に

[象徴主義代表の人々]

私共の言ふ象徴主義が分りませんと、Freemasonry の事も分らず、又生活にそれを味ふと云ふ事も出来ないであらう。

象徴的なもので文芸に関するものは、まだ日本ではあまり訳されてないから、其の二、三を挙げて、その他参考になる様な事を申して置ませう。Plato 全集、Carlyle、Emerson、Maeterlinck 等が幾分か参考になると思ふ。

併し象徴主義を研究するには古物学をしらべる事が入る。埃及、Greece、Assyria、印度等に多いのである。併し夫れ等の古物もなく、又読書の時間もないから、今日は前に挙げた諸学者の言を引いて御話をし、それから疑問の点を聞きたいと思ひます。

[Carlyle 曰く]

Carlyle が象徴主義をどー云ふ様に考へたかと云ふ事を申したい。象徴の中に、又象徴主義によって、人は意識的に若しくは無意識的に生活し活動し、又其の存在を保つ。而して象徴的価値を最もよくみとめて、最も高く創造し、総ての時代に於て最も高調に達したものである。

人生と云ふものは象徴によって深く味はれる。之は日常生活にはなるべからざるものである。今までに象徴主義が人間にみとめられて居たが、之が人生に最もよく合ひ、之が人間の最高調に達した時代であると言ふ事が出来る。象徴によって昔の時代も今日復活する事が出来る。

象徴がなかったならば、文学はない。否、言語でもない。言語それ自身が象徴であり、文学それ自身が象徴である。否、万有は象徴であつて、宇内の意義を現はして居る。天地の大原因を象徴して居るものである。世界の人が自覺して言語を口にしたその暁から象徴がある。神が世界に名をつけた。夫れは即ち Creation であると言つて居る。此れ等の考へは Emerson から来て居る。

夫れで象徴主義と云ふものは古いものである。歴史を分けて、前歴史と後歴史との二つとなす。歴史の前と云ふと、歴史は何によって伝はるか。之れは即ち象徴によつてである。此の象徴が消えるものであるならば、又紙などに書き、土に書きつけるならば、なくなる様なものであるならば、古いものが今日までつたはらないのである。世界中で一番古い象徴は埃及にある。埃及には其の象徴を石にきざみ、焼物としたりなどしてあるから、埃及に出来た象徴が最も古きものである。之れによつて何年続いたものかと言ふ事が出来る。

Hieroglyphic、之は画の文字である。Hieroglyphic は、埃及に出来たものは之は神が人に与へた神聖なるものであるとして居る。支那でも同じで、本を読む時には之れを頂いてから読む。此の考へは埃及にもある。

[象徴の例]

第三の時に於ては、全く象徴になった。即ち全く字になった。象徴が一つの発音の象徴となった。その音譜を以て字をくみ合せたのが言である。漢字と云ふのは旧時代のもので、字としては古い未開時代の字である。

Greece のものを御覧になったら分るが、さもなくとも米國などの蛮人の中に見られる。

Freemasonry に就いて、之れに入るには Compass を貰ふ。之れは丸いものをかく。之れは宇宙とか精神とかを表はすので、定木があるが、之れは物質を現はしたもので、身体と精神と平均させる事を意味したものである。

又、槌と鑿とを画いたものがある。之れを以て石を刻む。之れは実行を表はしたもので、働く事を現はしたものである。之れは何を意味したものと云ふと、人格を磨く意味である。

其の他色々あるが、以上の如きは象徴の一例である。かゝる象徴が現はれて言と云ふものが発達したと云ふ事を申したいがために、形に表はれた象徴を御目にかけたのであります。

[Carlyle 曰く]

Carlyle が言へる如く、只に、独り人間が形をこさへたり画をかいいたりするのが象徴でなく、万有は皆象徴である。

[Emerson の象徴に対する論]

Emerson は之れを三つにして論じて居る。

- 1、 象徴は自然界の事実を現はせるものである。
言語は事実を現はせる象徴である。
- 2、 象徴は特種の事実の象徴である。
- 3、 万有は総て、霊とか精神とか觀念と云ふものの象徴である。

先づ第一に、自然界の事実と云ふもの及び現象は、万有の進化、つまり博物学は進化の歴史である。進化の歴史は、超自然界の進化の助けになるために大切な用をなして居る。総て進化論を查べるのは、歴史以来の進歩を查べる補助機関である。そこで常に万有は霊界の象徴となつて居る。

[言の源は自然界にあり]

言と云ふものは、寧ろ言と云ふものを自然界につかふためである。言の根と云ふものは総て万有からとつて來たので、之を比喩的につかうたのである。

例へば、正しい事を正直と言ふ。之れは竹の如くに真直なものを言ふので、之れは偽りを言はない正しい人を正直と言ふ。それから正しいと言ふのである。悪と云ふのは曲と云ふ事から來て居る。即ち色々正直にないうねうねして居る人は曲がると言ふ。それから親切なる情を Heartily と言ふ。日本でも心臓から來て居る事を現はして居る。之れは、自然界の事情からとつた事が言を表はす象徴になつて居る。之れは子供の時代に起る言であるが、野蛮人にもある。

象徴は精神化するので、言の起つて來る一番の源である。

[言の用]

それから之等は、皆精神的意義を運んで持つて行くのが言の用である。そこで Emerson は、総ての各事実は何かの精神的生活、事実の象徴を現はして居る。

[人格は象徴である]

それから物質的事実が象徴となれるのみならず、我々の人格、又人の人格と云ふものは又一つの象徴であると考えてもよい。人間は何の象徴であるかと云ふと、無限絶対の象徴である。我々と云ふものは無限と云ふ神を体現する事が出来る。基督曰く、我れを見るものは父を見しなり、と言はれたのは神の象徴である。

我々の現在の生活は無限の歴史的生活の象徴である。私は何億年永久の象徴で、過去、未來の象徴である。Bergson 等は生は流動的である、その様に宇宙の生命は流れであると云ふ事を教へて居る。之れは象徴である。

私共の Instinct は人類の本能がある。過去の生活が復活して現在の生活が出来る。此の二つが象徴して無限の海の様な波頭に將來が出来る。將來の象徴主義は象徴によつて分る。
[社会生活の象徴]

も一つ、我々は社会生活を象徴して居るのである。大きな池に石をなげ入れると、波となつて池中振動が起る。夫れの如く我々の振動が必ず社会生活を体現して居る。それで我々は社会生活の象徴と言ふ事が出来るであらう。象徴主義の奥義が分ると、主観と客観とが一致するのである。即ち主観と客観、物質と精神、内部と外部の如きものなり。

[五官と靈感]

も一つあなた方の疑問となる事がある。此の間細しく言はなかつたけれど、理知、自然科学的知識、も一つは実体形而下の知識、Metaphysical 実体を見る処の知識、即ち精神界の知識、之れを知るに二つある。

一つを五官と言ひ、一つを靈感と言ふ。Bergson などで云うふと、此の靈感を直覺と云ふ。併し今二つに區別したけれども、之れは全然別なものでなくて、相助け合うて両方を全うする事が出来る。全知と云ふものと Insight、直覺的に見る真理、此の關係があなた方に分るかどうか。之れは哲学の認識学の事であるけれども、大体は分るでありませう。

[觀念連合]

之れを大体分り易く言ふと、理知の方は觀念連合である。其の理性の働きの出来るものは觀念連合するもの、之れを同化する働きがある。此の理性の著しき働きは数学的であり空間的である。その特色は極く正確なものであつて、Exact knowledge である。併し之れは感覺界の手足にふれる様な、殊に物質上に比較する様な知識では、之は一番確かなる実質であると考えて來たのである。

[深い処に進むには科学の範囲にあらず]

之れは十九世紀の後半期に非常に此の方にかたむいた処の傾向である。処が此の理知の働きの研究によつては、も一つ宇宙の本体と云ふ様な、又人間で言へば人格となるも一つ徹底した實在、即ちも一つ深い實在は、理知によつて本當に見る事、分る事が出来ないと言ふ事である。

之れは何によつて分るかと云ふと、感覺にあらずして生命にある。靈感とか直覺の力によつて見なければならぬ。それが象徴主義である。今までの普通化学では駄目である。その見方をするについては、象徴主義の生活によつて始めて

徹底する事が出来る。

[実体を見る事と学問とは矛盾せず]

之れまでは科学と宗教とは一致しなかったものである。又哲学と文学とは一致が出来なかったが、今日は哲学は知識であると言うて居る。本当の実体を見るところの学問とは決して矛盾、衝突するものではないと云ふ事である。即ち実体は心である。その実体を見るには心を以て心に到達するより外ない。自分を以て他のものに直接に融合する事が、本当に物を見る事、真理を掴まへる事になる。

夫れであるから、真理を研究する、悟りを開くと云ふ事は生活によってしなければならない。本当の研究をする事は、本当の生活をする事になるのである。真理を研究する、象徴主義で生活すると云ふ事は相離れられぬ関係がある。その生活を先づ要素にして象徴すると、次の如き言葉になる。

[Sympathy]

Sympathy と云ふのである。

第一、Sympathy は同情と訳されたが、そのみでなく、
第二、Sympathy は暗示とも訳されたが、今一つ、
第三、Sympathy は模倣。之は今少し深い生活になる。

そこで象徴主義と云ふ事は、類似せるものを思ひ起す事。そーすると習字などでも型を見せて之れを習はせる。かう言ふと、象徴は型であると云ふ様に思ふかも知れないけれども、さうではない。寧ろ象徴は型どほり現はす事で、例を挙げる、再現すると云ふ方がよい。Represent と言ふ方が意味が深い。今まで内に潜んで居るものを多く呼び出して来ると云ふ事から言ふと、再現と言ふ方が適当と思ふ。之れはつまり、心と心、人格と人格、精神と精神とが Correspond と云ふ方がもっと真に近い事を現はして居る。

[偶感情、偶意志]

Sympathy は偶感情、偶意志の二つにする事が出来る。偶感情は Inspiration である。偶意志は啓示、又は天啓である。

[感情の反応]

そこで之れは、象徴によって私共の感情が感情を起し合つて、此処に交流を起して来る。之れを Sympathy と言ふ。同情とか憐れむと云ふ様に思つて居たが Sympathy と云ふ事は、此方に起った感情が此方の心状態通りに向ふの心状態に現はれる。之れを愛と言ふ。互に愛を求めて居る、そーして其の間に融合が出来ると、感情の Creation になつて来る。象徴は感情を高調に達せしめるものである。

[偶感情の例]

例へば、私があなた方に御話する時に訴へると云ふ事がある。之れは何か一つの感情がある。若しあなた方に不満をいだいて居ると、之れが憤怒の情となつて現はれる。

又今度の戦争に於て、白耳義が正義の為に獨乙と戦つて居る。之れを見る時に私共も之れに同情し、正義のために私共も戦はねばならぬと思ふ時に、声に、顔色に、言に、手に、身体の様子に表はれる。之れは感情が象徴されたのである。此処に至つて合はないならば反対する、合ふならば同意する。之れは言にあらず、声にあらず。感情が一致する。即ち、心の態度が互に働き合ふのである。子供が泣くと、それを他の

子供が聞いて、又泣き出す事がある。之れはその声をきくと同じ情が起るのである。之れは只に情が起るのみならず、過去の色々な経験が表はれて来て、直ぐ様、人格の実質に影響を来すと云ふ事になるのである。

[Tolstoy 曰く]

之れを Art にして云ふならば、Tolstoy 曰く、

美術の本質は美術に自分の感情を体現したもので、Expression である。そーして美術が発射する Emotion が、此の Art を見る人の心に交通するのである。之れが Art の Essence である。人を愛すると云ふ事を学ばんとする人は、その人を知らなければならない。真に人に感化し様、働かさうとするならば、その人を見る事である。

二十年程、私の妹はそばに居たけれども、我々の母が死んだせつなにて初めて妹と云ふものを見た。

私共と一緒に暮して居たからとて、本当に見る事が出来ないのである。一番自然的な心と心との関係と云ふ言で初めて心と云ふものがきこえるのである。心と心との関係は、美と云ふもので分るのである。本当に情のこもつた情で、至誠のこもつた情で交らなければ、本当の愛じない。

[中表紙]

大正四年二月十五日

大学部第一年及予科にて

大正四年二月十五日

大学部一年及予科にて

心情と心情とが向上するための方法が象徴である。又、心と心とが相接触し、相反応し合ふ働きを言ふ。之れを根本的に解せんには、先づ芸術の感情と云ふものが分つて来なければならない。此の芸術、象徴主義を論文に於て我々に最もよく現はしたものは、近代では Ibsen、Maeterlinck、Tolstoy である。

[Tolstoy の論文中に]

芸術は人と人との文通の方便の一つである。芸術の総ての作品は、其の迎接者（迎へ接する人）と、之れを産出し又は産出しつゝある作者、及び同時代又は過去に於て、又は将来に於て、之れと同様の芸術的印象を受ける人々との間に存する一種の関係に入り込むのである。

芸術を産み出し又はこしらへつゝある、此の芸術を受ける人々（読む人々、見る人々、感ずる人々）との間に同じ心地が起つて、その中に入つて了ふのである。

[Tolstoy]

話が人の思想や経験を伝達して、人と人との融合の仲だちをする様に、芸術も同様の働きをなす。言語のなかだちによる交通と芸術の交通方法との相異なる点は、言語は思想を伝達するのであるが、芸術は感情を伝達するのである。

その外は両者相似て居る。

芸術家の人々の感染する感情は実に種々様々である。甚だ強いものあり、甚だ弱いものあり、甚だ大切なものあり、甚だつまらぬものあり、甚だ良きものあり、甚だ悪しきものもある。例へば慕郷の情、敬神の念、神又は運命にまかせたる状態、小説にある Love する人の超越、又は絵画に現はれたる肉観、凱旋マーチ、嬉々の情、おかしい御話によって起る滑稽の情、夕景の景色や小守唄の情、これ等は皆ことごとく芸術である。

此処に芸術の象徴であると云ふ事、又、象徴の偶感情が Essence であると云ふ事が分る。

芸術の高尚なる情育は、人間に高尚なる感情を植えて感化して行く事である。芸術と云ふものは、実生活から湧き出づるものでなければならぬ。芸術の本当の働きは芸術家が生活した実、即ち結果として現はれるものである。

芸術はそれが生れるだけの素がなければならないのである。これは長い間人間が経験を重ねた実である。今成就すべき芸術の労作は、互に憐れみ愛するの情、同胞の感を作るのである。

人間はお互に同胞である。故にお互に他人を愛する。それで芸術の目的はお互に愛する、又感情を Create するのが目的である。そこで、万事の表面は習慣的感情と社会の最上なる人物によって出来る。

[現時代に於ける芸術]

今、我々の時代に於て此の芸術の運命と云ふものは、此の論理の世界から感情の世界にうつらうとして居るのである。それは、一緒に成立して居る安寧国は現在の権力界から愛の王国にうつらうとして居る。之れが人間の最上の目的である。[Ibsen]

今日の芸術は権力主義から仁愛主義（覇者の王国より王者の王国）にうつりつゝある。之れが即ち Ibsen の言へる、

我々は皆芸術家である。又我々は Great drama をするものである。Freemason である。Free artist である、と。之れは愛の王国を建設すると云ふ事にある。教育と信念涵養の 18 頁にも出て居る。其の結晶体を人格、性格と云ふのである。吾人の感情の現はれたものは、行為また身体に残るものが吾人の性格である。

Motive は大切なものである。動機は必ず外に現はれんとする。此の時に必要なるものは象徴である。画家は之れを絵に現はし、音楽家は之れを音楽に現はす。その作品は情がこもりたるものなり。即ち偶感情である。象徴となり、自分の感情となりて現はれ、遂に之れが学校の内に、寮舎の中に、又家庭の中に感化して行くのである。

[象徴は日常生活の現れなり]

私共の言は象徴である。私共の顔の Expression、之れも象徴である。手を以て力を入れ堅きものをなぐる事も、又礼法も、握手をする事も、皆象徴となつて、その人の情にうつて行くのである。若し私に憂ひがあるならばしめった様子になつて、此処に憂鬱な空気をあなた方に与へるのである。

何か私が感奮したならば、その感情を以てあなた方に接するならば、それがあなた方につたはる。必ず総ての事は自然に出来るものではない。そこで何か組の事を思ひ、皆の間によい事をみなぎらしたいと思ふならば、先づ自分の中に自分を養ふのである。之れが養はれるならば、皆の間によくものを来らす。即ち、かくの如くにして王国の生活にする様になるのである。之れが即ち象徴は偶感情であると云ふ謂れである。

次は寓意、意味を寓すると云ふ事。之れが理想を養つたりするのである。

も一つ先に言ふべき事は、感情と理性である。観念の連合は我々の経験を反省して、その似て居る処の部分をよせ集めて、概念をこしらへたものが理性の働きである。

そこで我々の経験を過去、現在、未来に互つて反省して見、或は感情、行為を律するために、象徴をこしらへるために、此の理知の働きが必要である。そこで理性と感情との関係は、主人と客、或は自我と自我のつかふ機械と言ふてもよい。即ち自我の価値を増進し、自我行為を養ふために必要なる機関である。そこで理性は、価値を言ふならば第二におくべきものである。

第一におくべきものは、自我それ自身である。Nature であり、感情、本能（昔の本能と云ふ本能とはちがふ）である。そこで我々の理知と云ふものは、我々が生活するになくてならぬ道具であると申してもよろしいかと思ふ。

そこで理知は、我々の経験に就いて自我についての説を構成するに過ぎないものである。つまり私共の教育とか発展とか云ふものは機械的構成をする事にあらずして、自分の本質を充実する生命それ自身に進化を与へて行く。即ち、新しい経験を味はひ、新しい新生活を構成して行く処のその生活が最も価値があるのである。只に知識を構成するのでない。それを以て本当の行為をし、本当の行為を作進し、自我そのものを養ひ、経験を増し、内が發展すると云ふ実を挙げて行かねばならぬのである。此の生活は何によって出来るのであるか。

之れは象徴によって出来るのである。象徴は我々の心と心とを交通する。又目に見えない様な世界を感知するのである。只象徴にとらはれないで、之れによって自らを表現し、自らを深い世界に拡大して行くのが象徴主義である。愛と云ふ心を充実し、之を複雑にしに拡大するは何であるかと云ふと、之れは交通である。此の間言うた様に、愛、美、真と云ふ様なものは、之れは無限に宇宙に充ち充ちて居るものであり、永久にながれて居るものである。之れに我々はふれて、永久に変わて行くのである。

我々は深い経験をして行くのである。それを趣味と我儘と云ふ事を同じ様に解しておいでになつたけれども、之れは此の間も申した様に、美と醜とを区別して美をとる。我が儘と云ふ事は劣感情にしたがふ事である。即ち、一時的劣感情にしたがふ事である。

[中表紙]
大正四年二月二十四日
第二、三学年にて

大正四年二月二十四日
第二、三学年にて

[青い鳥の浅黄幕]

浅黄幕

幸福とは、つまり私共の満足の経験であるから、其の中に喜びと Great joy とがある。喜びとは深い印象で、又深い人生の経験である。希望とか喜びとか云ふものは確かに向ふにあるもので、空なものではない。実在である。けれども我々にとっては最も大切なものは、今我々の内に何が出来て居り、何が活動して居ると云ふ刹那、刹那に適切なものでなくてはならぬ。之れが生の要素である様に思はれるから、此の幸福の宮殿の中に青い鳥が居りはせぬかと考へるのは尤もな事であります。ずっと将来に向って発展して行かうと云ふところに価値があり深い情緒があるから、どーしても人間が実生活に於て深い喜びとか深い情緒をもって行くことが大切であるから、此の幕は非常に大切なところであります。

此に、本当の喜びは愛とか美とか云ふことから来ると書いてあります。併し其の喜び、幸福の中には、ほんとの喜び或はほんとの幸福であるものと、偽物とがある。夫れを見せる様にしたものである。偽物であるところの物に、喜びなり幸福なりがあると云ふ其処に贅沢が生ずるのであります。夫れで今迄青い鳥を探す為に非常なる努力と忠実とを以て人間を助け、猫や其の他の誘惑には一度もかゝらなかつたところの大すらも、此の贅沢には迷はされて、子供達も非常に危くなった。然るに此の場合に於て光が、今金剛石をお返しなさいと言って、直ちに回したのである。さうすると、今迄非常に立派な美しい処と思つて居たところが、誠に醜い惨憺たるところとなつたのであるから、子供は訳がわからなくなつて、私共は何処に居るでせうと聞くと、光が言ふに、何に同じところである。唯だあなたの見る目が變つて来たからである、と言ひました。之れは誰れの経験にもあることで、あなた方もよく仰ることであります。

そこで此に最も大切なものは母の愛である。けれども光が言ふに、未だあなたの見て居る眼界が余りに小さい。最大の喜びに迄達しなければならぬ、と申しました。此の余りに小さいと言つたのは何であらうか。親子の愛、兄弟の愛、友達の愛、夫婦の愛と云ふ様なものは特殊のものである。最大の愛とは総ての愛の根底であるところの宇宙の愛、神の愛とも言ふべきものである。故に特殊の愛が発達して家庭の愛となり、宗教の愛、宇宙の愛とならねばならぬ。之れを普遍の愛と言ふのである。

幸福も具体的にならねばならぬが、やはり最大の幸福とならねばならぬのである。其処の愛に徹底する為に特殊の義務、特殊の感情、特殊の喜びと云ふものを通らねばならぬ。夫れで此の終りの章にどーなつたかと云ふと、喜びが余り

喜んで顔からは涙がこぼれ、詞は極まつて沈黙になつたのである。喜び極まれば涙となる。併し足は少しも留まらずして、も一直接に青い鳥を探しに行つたのであります。

[墓地]

墓は怖いところであると思つて少年はふるえて居つた。然るに立派なところであり、生命の満ちた場所であつた。榮えて居り、活動して居り、十分に美を表現して居る処であつたと云ふ。之れはどー云ふ意味であらうか。若しも我々に未来があり、極楽があり、天国があるならば、どーしても墓原を通らねばならぬ。墓原には死んだもの、過去のものが葬つてあるから、どーしても墓原と云へば過去と考へるより外はない。此の幕は何が真髓になるかと云ふと、墓原は未来の国へ行く道であるから未来と云ふ意にもとられるが、つまり過去の葬つてあるところと見なければならぬ。併し此処が面白い。過去と云へば、皆死んだものと思はれて居る。けれども、メーテルリンクの考へでは、さうではない。人類の過去の経験、喜ばしい事も、悲しいことも皆保存されてある。我々の過去の経験は一つとして消滅したものはない。我々の Subconsciousness の中に葬られて居る。けれども之れは新生命となつて復活して居るのであると云ふのは、も一未来である。之れからの将来、前途と云ふものは皆過去の復活である。故に死と云ふものはない。孔子様は、生を知らず奚んぞ死を知らんや、と言はれた。けれども メーテルリンク は、死と云ふ事と相談しなければ、どーして死が知れやうかと云ふことを言つて居るのであります。

故に此には三つの意味があつて、

- (1) 過去の経験は死んでは居ない。
- (2) 新しく復活したものである。
- (3) 限りなく進化して止まないものである。

と云ふ三つの要点があるのであります。そこで死んだ様に居て居る過去から、今日の現在の生活に必要な力を得ることが出来、又将来の進化の為には Inspiration を受けると云ふことになる。

さうして墓場に行つて見るには、真夜中でなければならぬとある。之れはどー云ふことでありますか。Middle night は暗黒の頂上で、私共の一番困難に遭ひ、危険に遇つた頂上で、少年は恐れを懷いてふるえて居る。之れも一つの象徴であります。我々が行きつまりになつて、非常なる失望、落胆に陥る。意志の強い人は辛うじて失望、落胆には陥らないけれども、なす所を知らずして戦慄する様な事がある。此の刹那に於て大なる Inspiration を受けてから、つとしてまるで天地が變つて来る様なこと、之れは我々の経験に属する事であります。

夜の宮では、いろいろな罪惡や懷疑説や不信仰と云ふ様な強い敵と戦つて、非常なる恐怖心を起したのである。其の次には森の中で、所謂固定した教会の迫害に遭ひ、其の捕虜たることを逃れ、其の圧迫から自由を得るために非常なる奮闘をしたのである。故に少年少女二人にとっては過去の二つの処で非常なる恐怖であり、熱誠の冷却の様になつたけれども、此の幕では、過去の経験が悉く復活して進化の原動力となり、

将来に対する態度と用意とが出来たので、大に面目を一新して居るのであります。故に過去を死んだものとして今迄忌み嫌うて居ったけれども、此の墓場で拵へた処の態度を以て進むならば、皆有力なる助けとなり、何物も妨害となるものはないと云ふ意味であります。

[未来の国]

未来と云ふことには、時間の限りなく続くと云ふ事がある。も一つは、永久に生命が進化して行くと云ふ意味がある。青いと云ふことは天と云ふことになる。天は無限である。故に将来は無限に進化するものであると云ふことで、つまり青い鳥とは無限の進歩と云ふことを意味するのであります。さうして其の御殿には無数の子どもがあつて、将に生れやうとして居るので、今後の進歩は此の無数の子供に由つて実現されやうとして居ると云ふことが寓してあるのである。故に今後どう云ふ發明があるかも知れぬ。人間は詞と詞とを交はさずして無言の間に意を通ずることが出来ると云ふ事もある。今日の此の罪惡に満ちて居る処の社会は将来に於て清められて、愛の世界、美の世界、神の世界と云ふものはこれから生れて来るのであると云ふ意味であります。

さう言ふと、我々は直ちにUtopiaを描き易いのであるけれども、さう楽に來たされるものではなく、非常なる努力を要するのである。無知と罪惡と云ふものは兄弟である。今後も此の無知と罪惡との二つの箱を持ってさう云ふものも現れて來るけれども、我々は時を俟つて、我々の理想は未来に於て実現しなければならぬと云ふ事であります。

[訣別]

けれども未だ青い鳥は捕へて居ない。唯だ光が、青い鳥は私が上着の下に隠して居るから大丈夫である、と言ふ。夫れがほんとの物であるやら、ほんとに青いやらわからぬ。後で見ると青いと思つたのはピンクであつたと云ふ。之れは唯だメーテルリンクの産物ではなく、今日の時代の産物である。故に私は此の本を読んで、之れは無限の泉であつて汲めども尽きずと云ふ感がある。あなた方もどうか、詞の表象に捕はるゝことなく深く研究なさることを望みます。

此の光が、青い鳥は自分が持つて居ると言つたけれども、之れは光の出來ることではなかつた。若し此に時が十分あつても、我々は十分に此の思想を汲み尽すことは出來ないけれども、時が鎌を持って來て權威をもって臨んで、最早此處を出なければならぬと云ふことであるから極要点のみを摘まんで申すと、我々の運命は理知に由つてきまるのであるが、WisdomとはInspirationを受けることである。過去の物は皆死んで居ると思つたけれども、さうではなく、我々の現在と云ふものは少しも消滅することはない。故に悲觀するには及ばない。肉感の如きは一時消滅する様であるけれども、夫れには意味がある。故に訣別と云ふことも悲觀するには足りないのである。

未来の国では青い鳥を捕へたと思つたけれども、之れは捕へられるであらう、多分此處には居るであらうと云ふ予想であつた。そこで光の役目は子どもを案内するだけであつて、鳥を捕へることではなかつた。故に青い鳥を捕へるには理知

によらねばならないのである。

愛はSelf-sacrificeである。少年が青い鳥を探すのは、唯だInspirationだけではいけない。自分の持つて居るもの即ちEmotionがなければならぬ。少年が宅へ歸つた時は、全く態度が變つて、己の生れた同じ家がまるで變つた様に立派な處となり、病氣して居る娘にあの鳥を上げやうと云ふ気分になる。さうすると病人は治る。自分は愉快である。此の人の為に上げやう、何かをして上げやうと云ふ態度になると、ほんと一の幸福は自分の内に來て居るのである。

第三には、過去がわかり将来が見える、情緒がありInspirationを受ける、夫れだけではいけない。自分の義務と云ふものを今此處に尽さねばならぬ。部屋にある鳥を隣の娘と云ふ病人に与へると云ふ、今最も近い足もとの事から実行せねばならぬ。之れがNow and hereで、実生活で此に非常に深い奥義があるのであります。

[問題]

- (1) 象徵主義とは何ぞや
- (2) 象徵主義の価値
- (3) 象徵主義の生活

終り

[中表紙]

大正四年三月三日
第二、三学年にて

大正四年三月三日 第二、三学年にて

大体、二年と三年とから考へを纏めて御話しになつたことは、私の満足するところであります。今日の問題が最も大事なことで、先日来、象徵主義の産物の代表的なものを研究致しましたが、其の目的は私共の態度を一定し、且つ其の生活を徹底する為でありましたから、もっと討論的に出來ることを望んで居りましたけれども、も一時間が段々たちましたから今日は時間のあるだけを用いて、一段落をつけたいと思つて居ります。然るに先日来少々風をひいて居りますのと咽喉をいためましたので、今日は用心をしなければなりません。

近日あなた方の試験をしなければなりません、夫れは不意に致します。一体私共の注意と云ふものはいろいろの事に誘はれて妨げらるゝものであります。故に心の中にFocusを作つて、取るべきものを取ると云ふ働きが大切であります。そこで書物を読んで、よく其の意味をとつて頭の中にFocusを作ることが出来るかどうかと云ふ事は、注意力の試験となるのであります。

も一つは連合の力である。私共が本を読み、或は話を聞いて居る時に、夫れが離れ離れのものではなく、一つの完全体となつて現はれて來ると云ふことも大切な働きであります。之れをさしてOrganizationと言ふのであります。此の力の

働き如何に由って、成功もすれば失敗もするのであります。

此の働きがも一つ発達して高調に達して来ると、之れを Enthusiasm と言ふのである。此の境に達すると余程熱心になつて来るのであるから、物を見ても象徴に捕はるゝ事なく、直ぐ様実体を捕へることが出来る様になる。さうすると話を聞いても直ぐ様人の心がわかる様になり、本を見ても直ぐ了解が出来る。之れがあなた方の外国語を学ぶ時にも非常に効力あることであります。故に私が象徴主義を鼓吹するのは、さう云ふ秘訣もあなた方に見出ださるゝ様にと云ふ考へからであります。

終り

[中表紙]

大正四年三月八日
大学部第一年及予科にて

大正四年三月八日
大学部第一学年及び予科にて

[動機に自由を与へよ]

人間の力の基は動機である。此の動機は何で分るかと云ふと、その態度で現はれる。その態度がとゝのうて居ないと、その人は出来てないと云ふのである。それで何をするにも態度が大切である。それで動機の働きに自由を与へると云ふ事が大切なのである。夫れで来学期からは其の動機に注意し、態度と云ふ事をきをつけるために、その注意を今申して置きます。

[実践倫理の時間]

此の実践倫理の時間は、皆さんの態度や傾向を知るために私には大切な時である。

夫れで各組から御出しになった質問、夫れらは此の間から申して居ります象徴であると見て居る。今日、進級なさるあなた方のために大切な事は、自分を知る事であります。之れは言ふは易く度々聞く事であるが、此の同じ言が名々の程度にありまして意味がちがふ。

[Know thyself]

昔から Know thyself と云ふ事は繰りかへされて居るが、此の同じ言を聞く時に、新しい意味が味はへるのである。真面目にお考へになる方は、自我を知ると云ふ事を御考へになつたであらう。此の間も申しました様に、

He who knows not and knows not that he knows is asleep.

[試験]

我々は、自分が知って居るが自分が知って居ると云ふ事を知らない事が沢山ある。夫れで各々が試験をするのである。自分が知って居ると云ふ事を知らない事がある、未だ Knowledge と云ふものとなつて居ないその時に、夫れを細かに益々徹底的に考へて行く。之れを反省と言ふ。之れには試験と云ふ言が最もよく当てはまつて居る。自分を知ると云ふ

事は、自分をど一にか支配する。之れは自分を見出だすために必要な事であります。

[子供]

そこで子供であると云ふ事は、其の人を教へる事が出来ると云ふ意味である。それで分らない其は謙遜な態度で色々指摘して貰ふがよい。

[指導者]

自分が知って居ると云ふ事を知って居ると云ふ事が分る人は指導者である。それで私は年のおかげで、あなた方よりは少しは余計にもつて居る。私のあなた方を見た処では、丁度今のあなた方と今の日本のあなた方位な女子と丁度符合して居るから、その結論は矢張り日本の女子であると言ふ事が出来る。

[女子の発展]

我が国女性の女子の力（発展する力を言ふ）、此の生命も宇宙の大生命と云ふものも発展して居る。之は総てを象徴して居る。之れは生物学に一番よく現はれて居る。

発展と云ふ事は生物学で云ふと、単純なものから複雑なものに分発して行く事である。例へば花の形の如きも単純なものが色々な美化して行く。之れを進化と言ふ。総ては之れである。生活もその通りで、分化して行くものを文明と言ひ、せざるものを野蛮人と言ふ。文明と云ふ事は発展と云ふ事で、分化が止まないと云ふ事である。

も一つ人格に対して、偉大な人と小人と云ふ区別がある。小人と云ふのは何であるか。生れてから或る時代まで分化するけれども、それからびしやつと止まる。大きな人間になると何時迄も進歩して止まないものである。此の間も或る人の伝を読みましたが、九十才になる其の人は、八十才の時からグリーキ語を始めたと言ひます。

[発展の全盛期]

私の言ふのは、つまり其の分化発展して行く時がどれだけ続くかと云ふ事と、其の発展の度合を意味するのであります。私の経験から言ひますと、予科から大学部に入らうと云ふ時、即ち一年生の時である。年の頃なら十七、八頃の時が一番発展力の盛んな頂点であります。

其処で問題は、卒業致してから直ぐ進歩がとまらない様に、九十迄も、百迄も生きて居る間は進歩、発展して止まないと云ふ様な人格は、男子には出来るけれども女子には出来ないと云ふ説もあり、停滞する婦人も多いのである。そこで私が Self-examination と云ふ事を申し、自我の発展と云ふ事を申すのは其の為であります。のみならず私自身も、絶えず研究して居るのであります。其の結果、女子は数千年の遺伝により習慣によってそうなつて居ると言ふ人もあります。成る程、遺伝の力は強いものであるけれども、教育とか修養とか云ふものは尚一層強いものである。夫れが十分の効果を挙げにくいのは教育の仕方が悪いと言はねばならぬ。

[来学年の考へ]

私の実践倫理の時間が漸く二時間だけありますが、夫れだけではあなたの態度を変へる迄にする事もむづかしい。其の以上に徹底しやうとする事は尚むづかしい。故に来学年から

は、もう少し改善しやうと思ふ。あなた方が態度を改めて徹底しやうと努めるならば、さ程むづかしい事ではないと思ふ。夫れにはどうするかと云ふと、今日迄の仕方ですとあなた方が講義の Note をおとりになって、何か問題が起ると夫れを調べて見ると云ふ必要が起りますが、さもなければ唯だ筆記するだけに止まって、猶深く考へて見る、も一つ研究して見ると云ふ事が足らぬ。つまり他から受ける事が多くて、自分で構成して見ると云ふ働きが足らぬと思ふ。そこで今度は其の方法を全く転倒して見やうと思ふ。あなた方が研究して、思想を構成するに必要な刺激を与へると云ふ仕方に見たいのであります。

[大学部新入生の疑ひ]

そこで先づ、予科が大学部におなりなさると云ふ時には、もとからきまっても居るけれども、入学して見ると、さてどの科に入らうかと云ふ問題が起つて来る。夫れからあなた方の研究に対して私は導きを与へるのであるけれども、夫れだけではどうしても受動的になる。故に、もっとあなた方自身でお働きなさる様にしなければならぬ。

[私の努力の実際]

私はどうしても、始めからは人に問はない。十分自分の頭で考へて、研究し尽してからでなければ人に聞かない。私はさうして参りました処が、大抵の事は先生に聞かないでも自分で出来るのであります。私共十二、三位までは珠算でも、開平開立でも、又詩を作る事も皆先生に習ひましたけれども、十三位からは一人で覚えしました。人に習へば時間はかゝらぬが、自分ですと時間が何十倍とかゝる。其の代りに自分でした事は夫れだけの力がついて居るから忘れないのであります。夫れ故に私思ふに、大抵の学問は時間さへあれば自分で出来るものであります。

も一つは、何時も申す外国語である。私は十三の時に、医者 of 学問をしやうと思つて病院へ入りました。其の時、和蘭語の文典を勉強しました。夫れから英語の字引を買つた。其の時は実に鬼の首でも取つたかの様に嬉しかったのであります。十八の時、大坂へ出て女学校を建てました。夫れから後、外国人に話す事も多くなつたけれども、先生にはつかかなかつたのであります。其の時読んだのは、Peep of day と云ふ宗教小説と聖書とを読みしました。其の頃は校長も小使もし、財政の事、教授の事、何もかもして居りましたから、毎晩一時頃まで忙しかつたけれども、一日として勉強は廢しなかつたのであります。

も一つむづかしいのは発音であります。我流で自分で出来るだけの事をしてもわからぬ所だけ人に聞く。斯う云ふ仕方で今日迄続けて参りました。斯う言ふと、夫れはあなたであるから出来るけれども誰れにもは出来ないと云ふ。けれども本当の学力は、此の仕方によつて出来るのである。故にあなた方も斯う云ふ仕方をお取りになるのが根本の仕方であると思ひます。

[実践倫理研究室]

そこで問題が起れば、あなた方自分で先づ研究し、討論をして、其の上で私が意見を申すと云ふ風に致したい。今度、

彼処に実践倫理の研究室を設けましたが、彼処で銘々に研究をなさる事が大切である。故に之れからは、論文に重きを置きたいと思ふ。今迄も卒業論文と云ふものはありましたが、夫れよりも前に、其の時、其の時の論文が出来ねばならぬ。

[進級するに當つての問題]

そこで今、問題を上げ様と思ひます。

大学教育に就きて、

- (1) 大学教育の目的
- (2) 学科の選択
- (3) 大学生活
- (4) 進級の決心

大学教育には University と College との二つがある。其の関係から調べねばならぬ。さうして二階の研究室には母校の歴史に関するものが集めてあります。夫れから世界各国の大学の Catalogue もありますから、英語の読める人はお読みになるとよい。明後日から開けますから、明後日からお始めなさつて、本を読みながら考へが起ると其の意見を書きとめて置くのである。夫れから書物の中にある思想を引用する時には、書名と頁の名とを書いて証明し、最後に自分の意見を纏めて書く。斯う云ふ風になさると宜しい。独り書物のみならず、あなたのもとの校長の説とか先生の意見とか云ふものも、明記しておけば用いてよいのである。故にどうしても、あなたの考へを練り、考へを正しくすると云ふ事が必要である。

大学教育の目的は考へる力を養ふ事であり。故に先づあなた方が考へを作つて、自分の考へを生み出して、然る後に私が講義をすると云ふ風に致したいのであります。之れによつて始終知識を構成して進むところの生活が出来るのであります。此の考へる力を養ふと云ふ事が進歩、発展の土台になるのであるから、どうしても大学生活に於て之れをしなければならぬ。力の本から開拓しなければ進歩は出来ないであります。之れが出来ると、行きつまって四苦八苦すると云ふ事なく、限りなく進んで行かゝるのであります。

[研究の方法の三つ]

其の研究の方法につき又考へる道とは、象徴的にすると科学的にするのと、大きく分ければ二つあります。併し細かく分けると三つになる。夫れは、

- (1) Common knowledge
- (2) Professional knowledge
- (3) Spiritual or religious knowledge

之れを平たく言へば、考へる事と、考へる道筋と、考へる練習とが出来なければならぬ。之れがあなた方の日常生活に出来て居る筈であるけれども、未だ十分でないから根本的に改善しやうと云ふのであります。

そこで実践倫理の研究室には、一方から云へば修養の目的を以て、一方から云へば研究の目的を以てでなければならぬと云ふ事に致したい。此の態度と云ふものが誠に大切であります。故に研究室に入るには、先づ衣紋を正し、顔や手なども物がついて居れば洗つて行く、靴もごみのかゝつたのでは行かぬと云ふ様に、さうして静肅にする。斯う云ふ事を

最初から守って貰ひたい。さうして何時でも入られるが、何時も態度を正しくして行く。さうして其処は何処も Comfortable にしてあつて、感化多き所である様に致したいのであります。

[中表紙]

大正四年三月十日
第二、三学年にて

大正四年三月十日 第二、三学年にて

真理を知る、真理がわかると云ふことの要素を分けると、凡そ三つ位になります。其の第一は Consciousness で、知識の問題である。知識が客観的になることを意識と申しますが、今日では一層深いものとなつて居つて、之れは第一の大問題であります。

此の知識を メーテルリンク は三つの階段に分けて居ります。其の要点は、第一を常識的知識、第二を理性の知識、或は科学的知識、第三を超越的知識と言うて居ります。近來此の分け方に知識を分けて居る学者が段々あります。超越的知識とは宗教的知識とか宗教的経験などを言ふのであります。

之れは我々の知識の文化で、之れが人間の欲望、又は目的を遂ぐるに欠く可からざるものである。先づ、知識、知ると云ふことがなくては、行ふ、又は実現することが出来ない。知識自身が既に實在である。故に知識と云ふものが架設的のものではなく、實在的の価値が存して居るのであります。そこで我々の欲望、論議、目的、或は情熱と云ふ様な我々の内に存して居る最も熱烈なる要求、真理を追求する力の中には強いものがある。之れをさして好奇心、つまり知識欲と言ふのであります。之れは知識の階段を昇って行くところの強い欲であります。其の要求、其の欲望の原因は何処から来て居るものであるかと云ふことも大切な事である。其処には又、無数、無限の根を持って居るので、之れが人間の向上して止まない性を持って居る所以である。之れをさして向上心と言ふのであります。

過去に人間が経験したところの宝が非常に複雑となつて居る。此の根をさして、今日では心理学者が Subconsciousness と名をつけて居りますが、其処に非常なる力が蓄積されて居つて、夫れが段々と実現せられ、発展して行くのである。つまり向上心と云ふものは無限の性がある。私共の意識は知識と共に発達して、益々醒めて行く、益々発展して行くこと云ふことが私共の生涯の要求であります。併しながら、之れは何処から来て居るかと言ふと、やはり之れは宇宙の實在と言はうか、或は神と言はうか、何と言はうか、無限の根底と共に働いて進んで居り、或は進化して居るものである。其の私と云ふ自分の深い経験と、宇宙に残つて居る経験と、其の本質に於ては必ず一致して居るものであります。

Hegel は、宇宙の本質は岩の（物質と言ってもよい）中には眠つて居り、猿（動物の中で最も進化したもの）の中には夢を見て居る。夫れがアダム（人間）に於て、も一つ其の意識が醒める様になった、と言つて居ります。

さう云ふ具合に宇宙の意識が發展する。夫れと同じ様に、人間の意識も發展するのである。Eternity's height から見ると、宇宙の意識が段々と發展して居るのであります。段々と東の空が白みかゝつて夜が明けて来る様に、我々の意識と云ふものが目醒めて、物が見えて来るのである。そこで我々の意識は神を見やう、知らうとするのである。さうして神様の見方、神様の光りを以てする様に我々が物を見ることが出来たならば、此の宇宙の实体、神の太洋を唯だ一目見ただけで橋をかけることが出来る。一瞥を以て見渡すことが出来る。我々が生れて死ぬるのも一階段である。つまり我々は永久の経験、過去と未来と現在との経験を永久無限に含蓄して、夫れ等の多くの糸を一つの大きな織物の中に織り込んで、さうして始終向ふに希望を持って、目的を持って益々發展して、今は夜明けであるが日中の如き程度に迄達することが、我々の言ふ可からざる願望であり、傾向であるのであります。メーテルリンク は知識の階段をさう云ふ様に分けて居ました。

又、或る人は知識の階段を常識的知識、専門的知識、超越的知識と三つに分けたのであります。科学的知識も必要であります。猶ほ夫れよりも大切なものは、メーテルリンク の言ふ超越的知識であります。つまり私共は其の深い知識の籠つて居る所の本、之れは神のエマネンスである。此の自分をほんとうに見る様になる、ほんとうにわかる様になる、之れを自覚と言ふのであります。

自覚とは何であるかと云ふと、自分は無限なるものである、宝の山が眠つて居るものである、其れに由つて段々新しい物が生れて来る、夫れを知るのが自覚であります。

今日の学生は余り毎日のことに忙しうて、唯だ外界の事実にばかり目をつけて、自分の内を深く顧みる暇がない余りに、自分の心の中を空虚にして居るのであります。故にど一しても醒ますことが必要であります。自分以外の知識は沢山持つて居るけれども、自分と云ふことを深く考へて居ない。ど一しても自分と云ふものが根底である。メーテルリンク は其のことを言つて居るのであります。我々は Self-consciousness から God consciousness にまで達しなければならぬ。此の意識が眠つて居るのであるが、之れを醒ますに就いて、あなた方にど一も未だ足らないと思ふものは思考力である。思考力が醒めねば、ど一してもも一つ根本に突き入ることが出来ないであります。今日の教育は根本から間違つて居るのである。之れをするのが教育の根底であるのであります。

私は此の間、あなた方の答案を見て直ぐと決心を致しました。ど一しても之れではいけない。根底から改めねばならぬと考へました。あなた方も、ど一しても今度はほんとに目を醒まして貰ひたいのであります。今日のあなた方の生活は、寧ろ知識に捕はれて居る。知識を捕へて行かねばならぬ、學問を使はねばならぬのに、あなた方は學問に使はれて居るの

であります。私共は盲人では到底ほんとの仕事をする事は出来ない。ほんとの目的地に歩を進めて行くことは出来ないのである。

あなた方は、ほんとに考へを練ると云ふ事が不十分であると思ふ。あなた方はほんとに天から与へられて居る力の力を用いることが少ない。夫れは Dream である。夢見る力、之れは想像の力であるが、ほんとに宇宙の意識を意識すると云ふことは、Vision を見ると云ふ力によるのであります。

モーゼスはイスラエルの民を率いて行く時に Vision を見た。夫れは昼は雲の柱、夜は火の柱である。夫れを見て進んで行くと、遂に目的地に達することが出来たのであります。我々にも此の力がある。我々は宇宙の Vision を見る事が出来なくとも、少くとも今日の世界の大勢を見ることが出来ねばならぬ。パーサイトとインサイトとが見えねばならぬ。明日からど一発展する、自分はど一発展する、又国家はど一ならねばならぬ、我々の預言 Utopia は将来ど一実現すべきかと云ふことの計画であらねばならぬ。其の過去、現在、未来の経験が皆統一されて、将来を意識し、其処に努力して行かねばならぬ。故に我々の Vision は将来にある。未来にある。其の材料を用いて原理を見出だし、哲学を編み出すことが出来ねばならぬ。目的とか理想とかのある人は必ず進歩する人である。目的、理想、預言は将来に対する Vision である。我々の人格は先づ想像的技術となり、夫れが生活に実現せられねばなりませぬ。

そこで私は象徴主義は我々の寓感情である。夫れを Art に写すならば、その感情は人にうつるのであります。

第二に、象徴主義は寓意義である。

第三は、我々の意義である。

そこで此の象徴によって人に感化をあたへることが出来、我が人格を人の人格に伝へることが出来、此に大なる力を生み出すことが出来る。之れは一つの Art である。我々はど一しても此の Art を知って居なければ生活をする事が出来ぬ。我々は此の力に由って、生活の深い意義に到達することが出来るのであります。

そこで象徴と云ふことは、最もよく Art に表はるゝものである。故に古代の Art は悉く宗教的の意味を表はしたものであります。之れに就いてトルストイの言ったことに、

芸術は人と人との交通を計る手段の一である。あらゆる芸術上の作品は、夫れを鑑賞する人と作り出だしたる芸術家との間のみならず、過去、現在、未来を通して同じ印象を受くる人との間に一種の連合を作るのである。

言語は人の思想、経験を伝達するもので、人と人との思想を連合する手段の一種であるが、芸術も亦夫れと同一の働きをするのである。

唯だ此の芸術が言語の交通による手段と異なる点は、言語は意志を伝ふるけれども、芸術は感情を伝ふるのである。つまり芸術家の感情が見る人の感情になることである。つまり芸術家が他に伝ふる感情は種々様々あつて、或は強く、或は弱く、或は重要なもの、或は価値なきもの、或は極めて善きもの、或は悪きもの、或は郷里に対する愛情、献身的熱誠、

運命、若くは神に対する柔順、犠牲、劇又は小説に描きたる相愛の間柄の恍惚たる情、絵画に表れたる肉欲の感情、或は新聞に表はれたる勇氣、舞蹈によりて喚び起されたる愉快、又は夕暮の寂寞の感、洒落、滑稽なる御話に由って起るおかしき感、美麗なる彫刻に由って起る讚美の情等、様々あるが、夫れ等は要するに芸術である。芸術の崇高なる働きは人類に高尚なる情緒の伝播するものである。此の意味の芸術は、真の誠意より湧出するものであることを意味するのであつて、芸術家自身の生活し來つた結果として生るゝものである。芸術が完成すべき事業は、世界人類に対する同胞の愛を

(編者注：この前後で1ページ分のページ番号が跳んでいる)

普及して、之れ迄は單に社会の優等なる人々にのみ与へて居つたものを一般民衆の感情とするにある。今日芸術の達すべき使命は、理知の世界から直覺の世界にうつることである。人類の幸福は一致団結、現在行はれて居る権力の支配を脱して、之れに代るべき神の王国、即ち愛の王国を建設するのである。夫れで芸術と云ふものは其の刹那の感じを描いたものである。即ち其人に伝達することが出来るのである。

つまり象徴の第二の階段は、第一の要求を情緒的に言へば愛と云ふことになるのであります。愛の王国、理想の国を此に実現することにある。此に人格と人格との融合、感情の融和、相互の尊敬、或は全体に捧ぐる犠牲の熱誠と云ふ様なもので、つまり愛を交換する人格と人格との融合、其の間に起る共鳴で、我々のも一一つ発展しやうと思ふのは即ち愛であります。之れは第一の要素と分けることも出来ねば、はなして考へることも出来ない。つまり相關連したものであります。

終り

[中表紙]

大正四年三月十五日

大学部一年及予科にて

大正四年三月十五日

大学部第一年級及び予科にて

今度一年は二年に、予科は愈々大学部に進む事になりますので、大学生活、殊に高等教育、或は大学教育と申します普通の十七、八迄で出来る処の學問の仕方と少し面目を異にして居る。又、勉強の方法を改めてかゝらねばなりませんで、其の準備を整へる為に先日問題を出しておきましたが、夫れが土曜日迄に出来ましたならあなた方の力の程度と銘々の傾き及び問題がわかりますから、其の問題に対して答へをして集注しておきたいと思ひましたが、も一一週間延ばして貰ひたいと云ふ組が多かったのでありますから延ばす事に致しました。如何となれば、其の時機にする事を怠つたのではなく、其の問題が随分むづかしいのであります。故に夫れについて

調べた事を纏めるにしても、時日を要するからであります。のみならず、其の問題の意味がむつかしかったのであります。
[学科の選択]

例へば、学科の選択と云ふ様な事はど一云ふ事でもありますかと云ふ御尋ねも随分聞きましたから、今日は初めに質問があるならお聞きになる事に致したい。又、調べる書物が手に入らぬと云ふ様な事があるならば、材料を探して行く範囲なり方法なりに就いて申しておいた方が便宜であらうと思ひます。

学科の選択の意義

個性と云ふ事に二つの意味がある。其の一つは通有性で、之れは誰れにも備はつて居る。之れは人格と人格とが互に融合する事の出来る、自分で了解し又人を了解する事の出来るもの。之れを人格の根底、或は本質、つまり神性とも言ふて、神の性を知り、神と交通する事の出来る性で、之れは必ず現れて、発展して行く力である。其の発展する時には一つの特色を現すもので、其の特殊の中に絶対を包含するもので、之れを天才と言ふのであります。つまり遺伝的に持つて居るもので、自分を現して行くものである。之れが人格の根底であります。

[発展]

其の真髓は、内に非常に自発する力がある。之れが即ち向上心である。ど一しても発展しなければ止まぬと云ふ力を以て進む。之れが活動に現はれた時に意志と言ふ。此の力は何かに発現して行かなくてはならぬ。之れを現すには、現す処の様式がある。銘々が丁度自分に適当した活動をとらうとする。之れを発展と言ふ。

[意識界の発展]

此の発展が教育の眼目であります。殊に高等な学問をしようと思ふのは、主に意識の方面を云ふのである。其の意識をさして知識と言ふのであります。或は大悟したと云ふのも皆意識の力である。此の意識が段々醒めて意識の世界が発展すると云ふ事と、人格が大きくなると云ふ事とは必ず一致するのであります。男でも女でも本当の学問をして意識の世界が発展するにつれて、我々の人格が展びて行くのであります。

[明晰]

其の意識と云ふものに二つの方面がある。其の一方は、明晰である。此の間も言った様に、「神は岩に眠り、猿に夢み、人間に醒めた」と云ふ。故に意識と云へば、はっきりとすると云ふ事が大切になる。之れはつまり物がはっきりと分つて来る事であります。故に意識と云ふものは確に大切である。

[絶対]

も一つは、神と融合して絶対になる。絶対と云ふ事を経験する。之れを精神的の知識と云ふのであります。

[意識と絶対との一致]

故に私共の意識を開拓するに、此の二つの方面がある。即ち一つは其の意識をはっきりとする。第二は客観的方面と主観的方面とを一致して無限絶対を明らかにする事であります。
[自己を明かにする事]

そこで意識を明らかにすると云ふ事は、益々無限絶対を

明らかにすると云ふ事である。故に、学科の選択と云ふ事は意識をはっきりする事で、所謂自分を明らかにする事であります。

[観察を一点に集める]

そこで選択と云ふ事は力を集注する事で、自分の観察を或る一点に集める事である。例へば、今皆さんが此の堂に居りまして、ど一云ふものが目に入るかと云ふと、何も彼も目に入って来る。併し何もを見て居ると何物も見えないのであります。けれども何某を見やうと思ふならば、他のものを見ない様にして、其の一人に注意を集めねばなりません。

[専門の学科]

そこで私共が意識を明らかにしようと思ふならば、私は有限の身であるから、自分の意識の働く範囲、観察の範囲を限つて了はねばならぬ。ど一しても深く行かう、専門の学問に進まうと思ふならば、ど一しても選択して、範囲をきめて知識を一点に集中しなければなりません。之れが一つの学科を選ぶと云ふ意義であります。学科を選ぶと云ふ事は意識を明らかにして、明確なる知識を得ると云ふ事であります。

[職業]

常識ですと云ふ事は、何も彼も知つて居るけれども何も彼も本当には知らない、明確なる知識を欠いて居ると云ふ事になる。故に専門と云へば、其の事に就いては人よりもよく分つて居る其の知識を応用して、職業となるのであります。

今日では、其の専門の知識を持つて居る者が最も有効に働く事が出来るから、社会から言つても大変有益な事であります。故に今日では男も女も専門の知識を深くすると云ふ事が必要である。之れは其の人に特殊的な傾きがあるので、其の一点に力を集中しなければ、ど一しても発展は出来ない。其の人が若し誤つたならば、世の中はど一しても其の人から利益を得る事はむつかしいから、ど一しても力を集中する事が大切であります。

[常識の必要]

其の反対に常識が大切である。之れは男子にも必要であるが、女子には余程大切であると云ふ説があります。近來漸う科学的知識と云ふものが進んで参りましたが、其の上も一つ進んで、超越的知識を得る事、之れが最も大切な事であります。

専門の知識が深くなると常識を欠く様になると云ふけれども、夫れは間違ひである。何となれば、夫れは象徴主義によつて説明する事が出来るのであります。若し此の花の一輪を本当によく知つたならば、宇宙を知る事が出来る。神を見る事が出来るのであります。本当に深く学んで、専門の知識が本当に深く養はれたならば、総ての美、愛と云ふものが分つて来るのであります。学科の選択をするに必要な事は、注意力を集中する、明確なる頭を作る、観察力を深くすると云ふ事である。そこで本当に自分の目的に進む注意力を集中すると云ふ事が、学科を選択する事になるのであります。

[選択の自由]

此の選択は自由であるけれども、自分でする事の出来ぬ人もあるから申すのであるが、此の選択を誤ると目的地には達

せられなくなる。故に誠に大切な事です。今日は総ての学問が専門になりました。大学教育と云へば選択の自由がある。其の最も自由なところは Harvard 大学で、夫れを始めた人は Eliot 博士であります。Eliot 博士は、大学にならなくても幼稚園、小学校時代から選択的でなければならぬと云ふ考へである。其の反対は画一主義であります。

[訓育]

画一主義と云ふのは英語で言ふと Discipline で、之れを訓練とか訓育とか言ふのである。訓育とは柔順と云ふ徳を養ふ事、規則に従ふ事、秩序を守り権威に服従する事等を意味して居るのであるが、今日は此の主義と自由主義とが戦つて居るのであります。

[画一主義]

画一主義は科目が多くて其の特色は注目的になるけれども、自由主義は選択を許し、自発的である事を尊ぶ。教育は此の自由主義でなければならぬ。其の極端なるものは Nietzsche など、個性を尊ぶ余りに他を圧迫してもかまはぬと云ふ風に、所謂天才主義である。画一主義で行くと、成る程柔順の徳は養はるゝが、大きな人格は育たないのであります。

そこで我々は孰れを取るかと云ふと、極端になる事は孰れもいけない。私共の力を展ばし、私共の意識を明らかにする為には、選択をしなければならぬ。力を浪費せぬために制限をしなければならぬ。故に選択と云ふ事は、努力奮闘、目的的生活と云ふ事を意味するのであります。衝動のまにまに動く人は、其の時、其の時の衝動によって動いて行くけれども、選択した人は目的がある。其の目的のために飽くまでも貫ぬいて行く人である。さうして要領を得て居るのであります。

然るに此れまでのあなた方の傾向は、何でもする。夫れは多過ぎるのであります。西洋の大学では選択的になつて居るから、ど一しても出なければならぬ時間が一週十二、三時間であるが、あなた方は三十幾時間である。さうして日曜日などには学校以外にもいろんな事を習ひに行く。夫れで何でも知つて居る様であるが、実は何も出来ないのであります。本当に学問の出来る人は専門家である。故に進級する前には、ど一しても学科の選択と云ふ事をせねばなりません。

[中表紙]

大正四年三月十七日
第二、三学年にて

大正四年三月十七日
第二、三学年にて

森村さんの主義は、自治、或は独立自営、人に依らない、己れを恃むと云ふ主義であります。併し同時に信仰の人であります。謙遜なお方であります。殆んど一方には自分の価値を少しも自らお認めにならない様に見えます。一方には非常に意志の強い、自重心の強いお方と見えます。之れはあなた方

の目にも映つて居りますでせう。併し之れは森村さんの行ひによって現はれて居りますが、森村さんは世間に頭はれない仕方をおとりになるから世間に知れて居ないことが沢山あります。私も知らないことが沢山ありますが、或る人から聞きますと、近頃少しも変らない態度を伺つたことがあります。

夫れは、今年の森村組の一年の決算の時に、一年中の利益を自分の弟である豊さん、息子である明六さんの霊に対して、此の御兩人の犠牲により、働きに由つて今年も斯くの如き好結果を挙げることが出来たと云ふ感謝を捧げて、恰も生きて居る人に言ふ如く報告をなさつたと云ふことであります。無論、森村組の今日あるは森村さんの功であり御力であることは誰れも知つて居るところであります。けれども、夫れを弟に歸し、息子に歸して感謝せられたと云ふことであります。

此の同じ精神を以つて、今から十一年前に此の豊さん、明六さんの精神を記念する為にど一しやうかと御考へになりました時、二つの方法があつて、軍艦を造るために捧げやうかと云ふこともあつた時に、軍艦とは全く違ふやうに見えるところの女子教育のために捧げなかつたのであります。女子教育を広く考へれば国家のためである。けれども国家のため、女子教育のために出してやらうと云ふ様な御考へではなくて、誠に感謝する、之れを出すことが出来て誠に有難いと云ふ意味の御手紙を戴きました。

又、此の時に村井保固さんのおよこしになつた手紙の中に、此の宝は唯だ金ではなく、血と汗とを以て作つたものであると云ふことが記されました。其の結果、此の煉瓦造りの大講堂、教育館が出来たのであります。然るに其の頃世間では、此の宝を受けた私はやまこである、赤い煉瓦の建物は人民の膏血を絞つたものであると言はれました。けれども之れは森村組の方、殊に豊さん、明六さんが一命を犠牲に供して、血と汗とを以て作られたものであります。我々は、さう云ふ尊い捧げ物を受ける価値なき者でありますけれども、私自身も無一物である。けれども無一物の私でも、此の祭壇に或る物を捧げて居るのであります。卒業生も名誉とか富とか云ふことは眼中になく、誠に薄給で縁の下の力持ちをして喜んで働いて居る。之れは私の為ではない。捧げて居るのであります。

我々は誠に力なき者であるけれども、大いなる物から選ばれて尊い使命を受けて、一身を捧ぐることに由つて立つて居るのである。斯くの如き精神に由つて、多くの心と心と相合うて立つて居る処の団体に対して責任を負うて居るのであります。此の団体は、大きな軍艦に代はるべき国防を荷うて国家を護るものであると云ふ責任、及び義務を自覚しなければなりません。

此の頃アメリカの或る大学の総長の演説の中に、アメリカの国防を荷うて居るものは大学である。身を犠牲にして戦うて居るものもアメリカの大学の青年である。家庭を高め、社会を清めて居るものは大学教育を受けた婦人である。我々一人が九十九人を高めて行かぬばならぬ、と言って居られます。

我が国はど一であるかと云ふと、我が校の卒業生と女子高

等師範の卒業生とを集めて考へて見ると、あなた方が我が国婦人を導き、家庭を高めるために眠れる婦人を醒ますには、一人が一万人に対して働かんければ、我が国を内に覚醒することは出来ぬ。私共は斯くの如く重い使命を与へられて居るが、我々は自分を顧みれば実に無力であり、無価値であり、誠に小さい者である。

併し之れを選んだ者は実に無理なるものである。我々は唯だ肉眼に見、理解力に訴へることの出来ないものである。此の力は、白耳義の如き小さい国を選んで獨逸の如き大きな兄弟国に当らしめ勝利を与へつゝあるのである。我々が此の使命を感じ得るならば如何なることも出来ぬ筈はなく、如何なる敵も恐るゝには足らぬのであります。私共は実に力なきことを感じますけれども、私共の選んだものは決して小さいものではない。我々は夫れを信じて戦ふのでありますが、之れは決して我々一個人の戦ひではないことを信ずるのであります。

森村組の精神も其処にあるので、我々は斯くの如き信仰をもつものである。其処に限りなき力があり、人格があり、此に大学の使命があり、我々は皆お互に学生である。此に信仰をおいて、限りなき勇気を持って戦ふことが出来るのであります。此に無限なる力があり、天の力があり、全く自分を捧げることが出来る。此の信仰が我々の大学を成立せしめて居るのであります。其の信仰、希望を以て、私はあなた方が此の卒業期に当って、も一つ深い責任を自覺して戴きたいと思ひます。

今後あなた方の指針となるべき適切なる教訓を、森村翁の肺肝から吐露して戴きました。生涯忘る可からざる印象となるであらうと思ひます。夫れであなた方の答辞ともなるべき題を出しますから、其の中からどれでも選んで御答へなさい。

(1) 時局に対する所感

(1) 我等の使命 [(1) 我が邦婦人の責任 (2) 高等教育を受けし婦人の使命 (3) 桜楓会の使命]

(1) 瞑想中に聴きし声

終り

[中表紙]

大正四年三月二十四日

大学部第二、三学年にて

大正四年三月二十四日

大学部第二、三学年にて

[昨年来の修養の題目]

Inspiration とは、神の道と自分の道とが一つに合うて来る、交通が出来る事によって初めて出来るもので、両方相離るべからざるものである。此の詩の表はす本当の意味は何であるか。此の中に、

神は岩に眠り、動物に夢見、アダムにサム

之れは如何なる意味を象徴して居るか。之れを極簡単に言ふと、昨年から修養の問題にとつた其処に生活を実現しやうとしたもので、夫れを象徴で真意を取る様に残したものに過ぎない。其の題目は日本語では自我発展と言うたのである。Self-development と言ふ Self と云ふものは、不思議なものである。此の自我発展に両方面あり。一方を意識の方面と云ふ To know と云ふ事である。To know と云ふ事は To do、To be と云ふ事である。知ると云ふ事は、意識の範囲が広がる事である。其の意識の広がる所の欲求と云ふものは無限で、窮極は God consciousness、即ち神の目を以て物を見様とする。之れが知識欲である。実体まで見度い、知り度いと云ふ強い欲を持って居る。之れが一つの方面である。

To know と云ふ事は先づ自分を知る事、之れは或る意識の階段である。意識には階段がある。動植物には自分を知る意識がない。人間に至って自己を知る意識の程度がある。人間の発展し様とする事は、意識の階段を昇らうとするにある。永久から永久迄も意識したい、実在界を見通して見たいと云ふ欲求がある。知ると云ふ事は、何か自分が行ふと云ふ事である。行ふと云ふ事には自分が何か成らう、何者かを創造しやうとする行ひがある。

Ways と云ふ事は Ways of things、Ways of living、我々が人となる所の道である。Way と云ふと、その中には Will と発展とがある。道は歩行し進むものである。一方は God consciousness に迄行く努力、一方は人世を発展する実体夫れ自身を発展させると云ふ事である。然し此処に問題がある。霊眼を開いて大実在界に橋渡しをするが如き God consciousness が出来たならば、必ず其処に神の業を行ひ、神の道を踏んで、我が Will は神の Will であると云ふ事が言へる様になって来る。

[欲求]

我々の欲求は To know にあり、Higher consciousness を求めて居るのである。其処で、如何にしても物質界の意識丈では足らぬ。も一つ深い God consciousness を得たいとして居る。此れが時々 Inspiration を受けたい、之れが若し我々に実験し得たならば、非常に我々は力が出て物をしとげ、物を Create し、非常に自分に勇気が出て力が動いて来るものである。

徳と云ふ事は知ると云ふ事である。不徳と云ふ事は無知であると Socrates は言うた。併し今日は To live、即ち To know である。其の知識、其の才が我々に大いに入用なものである。併し我々の生活の意識は、如何にして知るか。も一つは、意識と云ふものは何であるか。即ち意識の原因は何であるか。其の故を知らねばならぬ。其の本は何であるか。即ち之れを我々の Nature と云ふ。其の知識の欲求がある。夫れが意識となる。其の意識の階段を昇らうとして居る。

意志とは何。之れ即ち、私共の捕へ様として居たるもの、即ち、此れを本能と言ふ。本能とは何。欲求である。憧憬である。向上心である。何を欲求するか。力を欲求する、徳を欲求する、愛を憧憬する、発展を欲求するのである。故に欲求、憧憬、向上の意志は発展し様として居る。何かを追求

し様として居る。宇宙夫れ自身の意識が向上して居る我々は益々此の意識を發展して居る、研究して居る、学んで居る。人間は飽き足る事を知らないものである。意識の階段を向上して行くと云ふ事の意味をかけたのである。

我々の原動力は欲求であり、憧憬であり、向上である。夫れが意識となり、我々の行為の道程となり、其の結果が人格となって来るのである。之れが生の發展、人生の發展である。其の意味をとらへ様としたのである。（之れが即ち過日來の問題）憧憬して發展して行くと云ふ事は、つまり理想と云ふ事を言はうとしたのである。理想は實在である。理想は唯一の真理である。理想が唯一の Life である。理想は常に在るのである。

命は何時、捕へたらよいか。未来に、将来に、To think、To know、To do、To live、To be happy、To love、To create、未来に行く事である。未来に突進する事である。前に行く事である。其の突進するために、其の道を見出だすために、過去を考へるのである。これから何をするかと云ふ事を見出だすためである。

此処に Blue birds がある。Blue birds は常に探し求めて行くものである。理想である。何故悔ゆるか。此度はより宜しい事をし様、夫れより Better なものをし様。今日学ぶもの、今日考へるものは未来を見て居るのである。其処に喜びがあり幸福があるので、之れが生活の本質である。

Only true、真理、唯一の實在は此の理想である。常に常に将来に行かうとして居るもの、之れが即ち自我發展、社会的自我の發展である。其処の生命を見出だし、其の真理を見出だし初めて我々は幸福である、安心である、満足であると云ふ事が言へる。其処を見出ださずとし、捕へさせずとしたのであるが、夫れが今迄に種々研究した目的である。

人生の意義、生活の意義は其処にある。生れて行くのである。死ぬるのも生れて行くのである。我々は死ぬるために生きるのではない。生きるために死ぬるのである。

今一つの言ひ表はし方として、如何なる道をとって發展して行くべきかが、行はうとするに当って是非とも問題となるものである。夫れは、哲学的に其の原理を見出だす所の方法もあり、象徴により直観する方法もある。

今日は十二回生と別れる日であるから、夫れについて具体的な方法を申して見度いと思ふ。

[中表紙]

大正四年三月二十五日

終業式にて

大正四年三月二十五日

終業式にて

英國人は自重心が強く、殊に国民性とか国の歴史、国柄、国の理想などについて自重心を持った国である。文明に於て

も最高に達しやうとする、強き信仰を有する国民である。其他、文明国と言はるゝ国民は自重心の強い国民で、愛国の強い人民である。愛校心がある故に、之れを完全に充実させやうとする熱誠を充たして居るものである。自分の力を確信して居るところの人民である。

私は此の学年、我が校風に学制に進歩を見るかと云ふに、先生より聞いて見ると、小学校及び女学校も幼稚園もよいと云ふことである。その答へのうち最も喜ぶところは、先生方の自重心である。此の精神は盛んであったが、愛校心に於ては欠けて居るところがあると思つて居つたが、内容を充実しやうとする自重心は高まつたと思ふのであります。信念が高まつたと云ふことである。之れは確かに何か先生の御働きにより、学生自身に於て確實なる力を見出だし、協同の力の上に見出だして、かゝる感じが起つたものと思ふ。之れは偶然ではないのである。此の学校の階級を高めなければならぬ。大学の教育程度をもう一層高めやうとする。学問は拓がることに於ては進んで居たが、真に人格をたかめ、自由に發展し、深みを増すことが出来ぬ様であったが、これでは人間の教育にならぬ。ど一しても根本より高め、実質を高めねばならぬとて工夫し改善し、職員、学生、幼稚園、小学校等も、是非にたかめやうと協力したので、今日の結果を得たのである。努力に対する結果は当然のことであると思ふ。

しかし此の結果では満足は出来ない。もう一層充実せんければならぬので、本当は高め深めなければならぬ責任がある。希望が出来て来たのである。之れは如何なる道によりて、又如何なる働きにより、かゝる結果になりしか。今後は如何なる方法で向上して行くかが大切な問題である。

教育の価値をたかめることは外界の知識、学問を多く学ぶ学問の程度、大学と云へば益々むつかしい学問をする、即ち知識の程度を高めることも其の一部分であるが、価値を高め校風をたかめると云ふことにはならぬ。生活、生命、人格である。人格の間に出来る精神によるのである。高めるには先生の修養を高めなければならぬ。人格の感化力である。指導者の感化力が諸子を高めるのである。私共も共に学問し修養して居るが、猶ほ一層理想を高め、生活をたかめなければならぬのである。人格の融合よりなる校風は、水源を高めて初めて向上力を高めるのである。火事の時に屋根まで水がとどかなかつたのは、水源が涸れたからである。水源となるものは先生、指導者である。研究室を作ると云ふのも、諸子を高めるために指導者が高まらうとするからである。皆が修養せんければならぬ。我々日本國を高めやうとするならば諸子をたかめなければならぬのである。高等女学校が自重することが出来るのは、先生方及び生徒の勉強によるのである。穂積先生は女学校の先生方のなかで一番お年寄りであるが、学校で一週四十時間も費され、なほ英語の勉強をして居られるのである。老年で此の様にせらるゝと云ふのは何故でせうか。平野先生も四十時間の時間をとって研究して居られるのである。其他の先生方も一生懸命に捧げて居らるゝのである。卒業生、桜楓会員が高まらなければ國家をたかめることは出来ぬのである。名譽のためでない。主義の爲、國の爲、

人道の為に、自分の生活の程度を高めなければならぬ。之れが諸子の生活の向上した第一原因である。

第二には、方法を変へたことである。個別研究の如きものにした。之れは各自の力を以て研究に着手したからである。程度の高まることは物を多く知ったわけでもなく、又は書物、器械の多きことでもない。これを用ひて何かを構成する力が高まったと云ふことである。高等女学校の人までも夜遅くまで勉強して成績をよくしたとて、偉いものではない。工夫せなければならぬ。我が国婦人の勉強することや努力には感心するが、工夫すると云ふことがないのである。徒勞が多いのである。考へると云ふことが、諸子の力であることを忘れてはならぬ。今日、強国と弱国との差は国民の発明力である。学問は生活を改善するところの力を發揮するにあるのである。実力の高まると云ふのも、こゝにあるのである。

幼稚園の教育に於ても、彼のフレイベルは恩物を与へて、工夫せしめた。我が幼稚園でも煉瓦の模型を教具として、工夫、構成せしむる様に居るのである。ニューヨークには五十幾階の家がある。之れは煉瓦一片を結びつけて出来上つたのである。今日学問と名づけて居る考へは、煉瓦の一片である。材料である。されば煉瓦を以て組み立てるのに工夫がいり、茲に力が必要なのである。之れを組み立てゝ、空中船も飛行機も出来るのである。学問を分類するは、用ふるための便宜である。組み立てるのは諸子の能力で、此の力が進みてこそ初めて程度が高まったと言はるゝのである。個別研究や個人面会のために諸子の勉強も有効になつて来たのである。しかし満足は出来ぬ。実質が高まり、我が附属高等女学校、大学部の生徒は、国民を高めると云ふ大責任のあることを思ひて進まなければならぬのである。それには諸子が高まらなければ、我が帝国及び世界は高まらないのである。故に、来らんとする学年に於て一段の進歩、向上せんことを希望するのである。

終り

[中表紙]

大正四年三月二十七日

宣誓式に於て

大正四年三月二十七日

宣誓式に於て

私は送別に臨みまして、唯だ一言、皆さんが此の一年間お尽しになった事を感賞しておきたいと思ひます。此の間も申した様に、高等女学校が幾分か自信が出来たと云ふことも、やはり大学部が出来たから、水源がたかまつたから、其の流れを汲むものも充実したのである。併し我々の理想は限りなきものであるから何時迄もはてがたい。けれども幾分かづつ内に育つて来たものと云ふことを自信するのである。之れには、目に見えない処の力があることを知らねばなりま

せん。

実は指導者の方、寮監の方が余り忙しいので、私は皆さんの時を尋ねたのであります。其の中でいろいろ人によつて違ひますけれども、総ての御方に一番時のかゝるのは個人面会である。指導者が個人面会をして銘々の生活を充実させ様とか、欠点を改めさせ様とかするには、非常なる力を要するのであります。大抵の方が言はるるに、先生と云ふものは一時間教へると、何の学科にしても非常に疲れると云ふことである。のみならず人に会ふと云ふ事は非常に疲るゝものである。

又あなた方にしても、一人の友を善くしやうとか、悔い改めさせ様とか云ふことは、非常な力を要する。故に、今日の空気を作るにはどれだけ見えない処に努力したかわからない。之れをするには、非常なる力と、知恵と、人格とがなければならぬ。さうして人の為に尽すと云ふことは往々誤解せらるゝことはあつても、感謝せらるゝことは少ないのである。けれども、此校の人は之れを土台と信じて、自分の生命にかへてもとらねばならぬ、此に集中しなければならぬと云ふことは、此の校の人にはわかつて居るのであります。

併し之れは誰れのためでもなく、誰れから礼を言うて貰はうと思はない。実は自分の為であり、自分の捧げて居る所である。故に其の働きをやめたら、も一価値はなくなるのである。故にお互に人の働きを認め、人に感謝することが大切であります。夫れで実は学校で認めて居る処は教授の時間に対してばかりで、個人面会をするとか寮舎を導くとか云ふことに対しては何等の報酬をも上げてはない。けれども之れはなくてはならぬ役目である。併し私は、今後も此の指導について報酬を上げるとか、教授と云ふ名称を与へるとか云ふことはしないつもりである。何とならば、之れは自分から捧げるところの働きであります。

あなた方もさうである。あなたの人格なり感化力なりは、之れから教育家としてお立ちになるにも、家庭の主婦とおなりになるにも、誠に大切な目に見えない処の大きな賜物を得ておいでになるのである。併し世間からは認められない。当世風の考へから云へば、つまらぬことの様であるけれども、あなた方はよく此の精神を以てお働きになったことを感謝致します。故に私はお別れに臨んで、指導者、寮監方が一文の報いをも得ずして非常にお働きになったこと、及びあなた方が其の立派な動機と精神とを以て、目に見えない処にお尽しになった事に対して、深き感謝の情を禁ずることが出来ませんから、一言、其の意を表しておきたいのであります。

此の精神をお失ひなさらないならば、あなた方の将来は必ず開けて来るのである。ほんと一幸福が授けらるるのであるから、ど一しても此の主義をお忘れなさらない様に祈ります。

も一一つ、今年の卒業式は之れから大学の仕事を始める開校式と致したいと思ふ。即ち大学に入るところの宣誓式と致したい。之れは私が強ひるのではなく、自由教育であります。今朝、各学部から代表者がおいでになつて、其の式は先生を通して何かに誓ふのであらうか、又は私共が直接何か

に対して誓ふのでありますかと云ふ御話でありましたが、此にキリストがおいでになります。此方は不動様であります。又此に孔子も、マホメットもおいでになります。其の他、誰れ誰れもあって、之れ等はChancellorである。も一つ、之れ等の人の教へを受けたところのPresidentがある。其の総長に向つて、私共は誓ひを立てるのである。夫れが今日の宣誓式であります。

私共は之れからど一云ふ生活をするのであるかと云ふと、私共は先づ其の師弟の関係を結んで、其の先生に従ふと云ふことが大切であります。此に私はあなた方の御参考にと思つて埃及の絵をかけておきました。此の絵は即ちイブラエルの民が埃及の奴隷となつて使はれて居る。故に其の時の大きな建築は皆、奴隷を使うたのである。パレスティンに帰る前にイブラエルの民は奴隷となり、其の後沙漠をさまようて漸うパレスティンに来て、夫れから自由教育を受けたのであります。あのイブラエルが奴隷となつて働いて、其の後、彼れ等に由つて産み出だされた文明の跡を御覧になると、神は如何に人類を教育なさつたかと云ふことがわかります。故に我々の総長は天にあるのであります。

神は人類を導くに、厳父の如く、慈母の如き愛を以て、非常なる苦しみを与へて後に非常なる発展を遂げしめられたのである。あなた方、日本の女子は今、奴隷の如く使はれて余儀なくされて居る。故にあなた方は之れから非常なる困苦に戦はねばならぬと覚悟して戴きたい。其の時に此の絵を覚えて居つて欲しい。之れはクリストとポーロとであります。クリストが、ポーロの将に海に沈まんとするところを救うておいでになる。困難は海である。此の時ポーロは、義人は信仰に由りて生くと申しました。若し信仰を失ふならば、其の時から海に溺れるのであります。此方は不動様である。之れ等の方のお一人でもよい、お二人でもよい、もっと沢山でもよい。あなた方が御相談になれば、皆何か教訓を与へて下さるのであります。

も一つはペスタロッチ先生である。之れから先生になつても、家庭に入つても子どもにならねばならぬ。私共が人を導かうと思ふならば、其の人と共に働かねばならぬ。ペスタロッチ先生は子どもの中に入つて、子供と共に働かれた。けれども生涯失敗ばかりせられたのである。私共も何時も失敗するけれども、ど一もやめられない。あなた方も失敗するであらうけれども、ペスタロッチ先生の価値は死んでからわかつたのである。あなた方、困つた時にはペスタロッチ先生に相談をして下さい。

夫れからあなた方の中には、身体の弱い人もある。目のわるい人もあるけれども、彼処にヘレン ケラーが居ります。ヘレン ケラーは目も見えず、耳も聞えず、口もきけない。五官の中で触覚一つしかないけれども、大学を卒業して、どんな著述をしました。私は此の人に面会をして、其の要領を得るに敏捷な事に驚きました。

セント フランシスは、生涯人のために尽して、最後には土の上で喜んで死にました。

西洋の大学では初めには語学を教へますが、卒業の頃には

哲学をやらせます。ど一しても哲学をしなければならぬ。夫れにはエマーソンが居ります。又、デモスセニスがある。デモスセニスは海岸に立つて、浪の音と競争して声の訓練をして居ります。斯う云ふ大哲学者、又能弁の大先生について、も一つ深く研究をしておかねば困るのであります。

それから、も一つは大学は職業教育であり、選択的である。私共はど一しても何かの専門に深くならねばならぬ。夫れにはコパルニカスが居ります。我が国の婦人の欠点は、原因を研究することをせぬ。之れが大なる欠点である。教育を受けた人は此処が違ふ。御婦人たつところは無論のことであるけれども、其の上に何かあなたと云ふ色が出ねばならぬ。故に私共はさう云ふ教授を組織して、之れから大学の教育をしようと思ふのである。其の上には大きな総長が居るのである。それであなた方、卒業なさつた御方も残る人も一緒になつて結合してやるならば、出来ぬことはない。其の大学の入門をし、宣誓式をしようと思ふのである。之れがあなた方の卒業式である。此のことに対して、私はあなた方からの答辭を聞きたいのであります。

終り

[中表紙]

大正四年三月二十九日

卒業式告辭

大正四年三月二十九日

卒業式告辭

本校創立以来、十四年間一日の如く、此の女子教育の根底を育てんが為に深い同情を以て培ひ、水注いで下さいました評議員の方々、殊に既に古希の峠をお越えになつて猶ほ青年の元気に満ちて、日夜国家の爲めにおつくしになつて居ります此の三翁がお揃ひ下さりました。此の式場におきまして、又あなた方を日夜薫陶された教職員、寮監、指導者、又本校に深く同情を寄せられました方々、並に父兄、保証人、來賓諸君の御面前で、此の喜ばしい卒業式を挙げることの出来ますのは、我々一同の深く感謝致すところであります。

[宣誓式につきて]

今日の式は、既にあなた方が決心をなさつた通りに、今後のあなた方の大学にお進みになる入学宣誓式であります。又過日來あなた方の間に心と心とうちつけて殆んど一心同体となつて、今後の使命の為に互に心をつにして、今日此の式に於て猶ほ其の決心を固うする処を十分に神明に誓うて、覚悟をおきめになる最も意味深い卒業式であります。

一昨夜、既に其の決心を互に交換なさつた会は十分に徹底致したのであります。今日は其の要点を此に挙げまして、今日の來賓、紳士淑女の前に御披露致し、更に宣誓式とも言ふべき神聖なる公の式と致したいのであります。

其の前に十分に其の意義は相了解して居ることと思ひます

から、此に改めて告辞として私から申す必要はないのであります。故に今日はその要点のみを挙げて、皆さんの心に、又私共の深く信ずる使命に対して誓ひたいと考へます。そこで卒業生諸子は今起立して、其の意を表することに致したい。

〔宣誓せし要点〕

- 1、我れ等は使命のために奉仕するの決心を致します。
- 1、我れ等は家庭の神聖を保つことを覚悟します。
- 1、我れ等は確信する主義、信仰は何物にも曲げず、或は売るが如き行為は決して致しませぬ。又、我れ等の子孫をして必ず正義に与し、如何なる情実にも屈する事なく、君に忠、国に愛なる立憲的国民たらしむることに勤めます。
- 1、我れ等は教育を受けたる責任を全うせんがためには如何なる犠牲をも敢てし、一步も退かず覚悟を定めます。
- 1、我れ等は時と、処と、各種の事情、習慣とを超越して、只管、心と心とを以て相敬愛し、相共同して人間最高の目的のために尽瘁致します。
- 1、我れ等は己のために、人の為に、御国のために、世界の為に煩悶に勝ち、障害に勝ち、偏見に勝ち、劣情に勝ち、勇氣と、犠牲と、希望と、喜びと、自由と、克己とを以て努力せんことを祈り、今後の世界の大勢を王道に進ましめ、益々世界の良心、宇宙の心霊の体现せんことを日夜祈ることに致します。
- 1、我が国婦人の使命を全うするために、我れらは今後の欧米婦人の進歩に遅れを取らず、歩調を揃へて共に人類の安寧、幸福を進むことの出来る様に、常に常識を養ひ、研究を積み、修養を進め、一日も各自の発展を怠らぬことを誓ひます。

右、七ヶ条の誓言を深く心に刻み、茲に敬虔の態度を以て必ず為す、必ず成るの決心と確信とを以て神明に誓ひを致します。

終り

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

大正三年度ノ部

2021 年 3 月 15 日発行

編集・制作

加藤きよみ・宮内量子・山本文子
(日本女子大学成瀬記念館)

発行

日本女子大学成瀬記念館

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

印刷

開成出版株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-26-14

